

# リアホナ



総大会特集号

二人の新しい使徒、  
支持される

## 十二使徒定員会

前列左から、ボイド・K・ハッカー会長代理, ラッセル・M・ネルソン長老, ダリン・H・オーフス長老, M・ラッセル・バラード長老, ジョセフ・B・ワースリンク長老。  
後列左から、リチャード・G・スコット長老, ロバート・D・ヘイルズ長老, ジェフリー・B・アーリング長老, ハンリー・R・ホランド長老, ディーター・F・ウーグドルフ長老, テビッド・A・ベドナー長老。



# リアホナ

## 2 第174回半期総大会大会概要

## ●土曜午前の部会

## 4 教会の状態

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

## 6 預言者、聖見者、啓示者

十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド

## 9 神の愛の力

七十人会長会 ジョン・H・グローバーグ

## 12 魂に平安と癒しをもたらす

七十人 デール・E・ミラー

## 15 良心の安らぎと心の安らぎ

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット

## 18 主の側に立つ

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

## ●土曜午後の部会

## 22 教会役員の支持

第一副管長 トマス・S・モンソン

## 23 「定員会とは何ですか」

十二使徒定員会 L・トム・ペリー

## 26 信仰と鍵

十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング

## 30 「わたしの羊を養いなさい」

七十人 ネッド・B・ローシェイ

## 32 「わたしは戸の外に立って、たたいている」

七十人 ロナルド・T・ハリバーソン

## 34 扶助協会は、皆さんの生活をどのように

祝福してきたでしょうか

中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン

## 37 確固とした証をはぐくむ

七十人 ドナルド・L・ステーリー

## 40 純粋な証

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード

## ●神権部会

## 43 欺かれてはならない

十二使徒定員会 ダリン・H・オーカス

## 47 適切な断食から得られる祝福

七十人 カール・B・プラット

## 49 苦難の時代

七十人 セシル・O・サミュエルソン・ジュニア

## 52 神の知識の鍵

第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

## 56 热心に携わる

第一副管長 トマス・S・モンソン

## 59 悲劇をもたらす悪

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

## ●日曜午前の部会

## 67 きょう、選びなさい

第一副管長 トマス・S・モンソン

## 70 主イエス・キリストへの信仰を見いだす

十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ

## 74 証の機会

十二使徒定員会

ディーター・F・ウクドルフ

## 76 主の強さの内に

十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー

## 79 夫婦宣教師と福音

十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン

## 82 人生で出会う女性たち

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

## 64 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

## 117 家庭・家族・個人を豊かにする集会

## 117 中央補助組織会長会

118 指導者の言葉——  
大会の教えを生活に取り入れるために120 わたしたちの時代のための教え  
アロン神権者および若い女性用  
リソースガイド

## 124 チャーチ・ニュース

## ●日曜午後の部会

## 86 これらの最も小さい者

十二使徒定員会会長代理

ボイド・K・パッカー

89 わたしたちはあなたのために行つたのです  
おこな  
中央若い女性第二副会長

イレイン・S・ダルトン

## 92 聖約を守る

七十人 リチャード・J・メインズ

## 95 父の教えを忘れず

七十人 H・ブライアン・リチャーズ

## 98 さらに聖くなお努めん

きよ  
管理監督 H・デビッド・バートン

## 101 進み続ける

十二使徒定員会

ジョセフ・B・ワースリン

## 104 結びの言葉

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

## ●中央扶助協会集会

## 106 帰属意識は神聖な生得権です

中央扶助協会会長

ボニー・D・パーキン

## 109 小さなことから

中央扶助協会第一副会長

キャスリーン・H・ヒューズ

## 111 主の愛の光に向かって歩む

中央扶助協会第二副会長

アン・C・ビングリー

## 113 備えていれば恐れることはない

第一副管長 トマス・S・モンソン



# 第174回半期総大会大会概要

## 2004年10月2日土曜午前、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——キース・クロケット長老。閉会の祈り——D・レックス・ジェレット長老。音楽——モルモンタバナカル合唱団；指揮——クレーグ・ジェソップ、マック・ウィルバー；オルガニスト——クレー・クリスチャンセン、リチャード・エリオット。「神に栄え」『贊美歌』33番；「飼い主はわれを」『贊美歌』65番、ウィルバーグ編曲、未刊；「愛の言葉」『子供の歌集』102-103；「イスラエルの救い主」『贊美歌』4番；“Still, Still with Thee”, ストウ、シェリー；「来たりてうたえ」『贊美歌』51番、ウィルバーグ編曲、未刊；“Each Life That Touches Ours for Good”『贊美歌』〔英文〕293番、カンディック編曲、ジャックマン刊——；「感謝を神に捧げん」『贊美歌』11番；「世はよく働く人を求む」『贊美歌』161番、ウィルバーグ編曲、未刊；「来たれ、旅と共に続けん」『贊美歌』135番、ウィルバーグ編曲、未刊

## 2004年10月2日土曜午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——ステイブン・A・ウェスト長老。閉会の祈り——ゴードン・T・ワツ長老。音楽——ユタ州ウェスト・ジョーダン地区ステークの初等協会合同聖歌隊；指揮——ジェーン・クースセン・ポールセン；オルガニスト——リンダ・マーゲツ。"Beautiful Savior"『子供の歌集』〔英文〕62-63；メドレー、マーゲツ編曲、未刊（「イエス様も子供でした」『子供の歌集』34；「イエス様のお話を読む時」『子供の歌集』35；「救い主の愛」『子供の歌集』42-43）「恐れず来たれ、聖徒」『贊美歌』17番；メドレー、マーゲツ編曲、未刊（「天のお父様の愛」『子供の歌集』16-17；「主の計画にしたがう」『子供の歌集』86-87）

## 2004年10月2日土曜夜、神権部会

管理・司会——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。開会の祈り——キース・B・マクマリン監督。閉会の祈り——メリル・C・オーラス長老。音楽——タバナカル合唱団の男性隊員、テンブルスクウェア管弦楽団；指揮——クレーグ・ジェソップ、マック・ウィルバー；オルガニスト——リチャード・エリオット、ジョン・ロングハースト。「導きたまえよ」『贊美歌』41番、ウィルバーグ編曲、未刊；「絶えず頼り主求む」『贊美歌』53番、ウィルバーグ編曲、未刊；「たたえよ、主の召したまいし」『贊美歌』16番；「主のみたまは火のごと燃え」『贊美歌』3番、ウィルバーグ編曲、未刊

## 2004年10月3日日曜午前、一般部会

管理・司会——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。開会の祈り——E・レイ・ベイトマン長老。閉会の祈り——スペンサー・V・ジョーンズ長老。

音楽——モルモンタバナカル合唱団；指揮——クレーグ・ジェソップ、マック・ウィルバー；オルガニスト——クレー・クリスチャンセン、リチャード・エリオット。「神に栄え」『贊美歌』33番；「飼い主はわれを」『贊美歌』65番、ウィルバーグ編曲、未刊；「愛の言葉」『子供の歌集』102-103；「イスラエルの救い主」『贊美歌』4番；“Still, Still with Thee”, ストウ、シェリー；「来たりてうたえ」『贊美歌』51番、ウィルバーグ編曲、未刊

## 2004年10月3日日曜午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——バル・R・クリステンセン長老。閉会の祈り——クエンティン・L・クック長老。音楽——モルモンタバナカル合唱団；指揮——クレーグ・ジェソップ、マック・ウィルバー；オルガニスト——ボニー・グッドリッフェ、リンダ・マーゲツ。「山の上に」『贊美歌』2番、ウィルバーグ編曲、未刊；“Adam-ondi-Ahman”『贊美歌』〔英文〕49番、ウィルバーグ編曲、未刊（フルート——



ジェニー・ゴーケリッツ；オーボエ——マイカ・ブランソン；ハープ——タマラ・オズワルド）；「いざ救いの日を楽しまん」『贊美歌』5番；「神よ、また逢うまで」『贊美歌』85番、ウィルバーグ編曲、未刊

## 2004年9月25日土曜夜、中央扶助協会集会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー。司会——ボニー・D・パーキン。開会の祈り——ハイディ・S・スウィントン。閉会の祈り——コニー・D・キャノン。音楽——タバナカル合唱団の女性隊員とその娘たち、テンブルスクウェア管弦楽団、タバナカル合唱団の元団員から成る聖歌隊；指揮——レベッカ・ウィルバー；オルガニスト——ボニー・グッドリッフェ、リンダ・マーゲツ。“Let Zion in Her Beauty Rise”『贊美歌』〔英文〕41番、ウィルバーグ編曲、未刊；「心に光あり」『贊美歌』139番、ウィルバーグ編曲、未刊；“Consider the Lilies”, ホフマン、リオン編曲、ジャックマン刊；「シオンの娘」『贊美歌』195番；“Sing Praise to Him”『贊美歌』〔英文〕70番、ウィルバーグ編曲、未刊

## 総大会の収録物の入手

総大会の各部会を収録したテープ類は、通常、教会管理本部配達センターから大会後2か月以内に多くの言語で入手できるようになっています。

## インターネット上の大会説教

インターネットにより、多くの言語で総大会説教にアクセスすることができます。アドレスは次のとおりです。—— [www.lds.org](http://www.lds.org)。“Gospel Library”, “General Conference”的順にクリックし、言語を選択してください。

## ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとしては、訪問する会員の必要性に最も適した総大会説教を一つ選んでください。

## 表紙の説明

表紙——写真／ウェルデン・C・アンダーセン。裏表紙——写真／マシュー・ライア

## 大会の写真

ソルトレーク・シティーで行われた総大会の模様の写真撮影者は以下のとおりです。——クレーグ・ダイモンド、ウェルデン・C・アンダーセン、ジョン・ルーク、マシュー・ライア、クリスティーナ・スミス、ケリー・ラーセン、タムラ・H・ラティエタ、スコット・デービス、マリオ・ルイズ、エイミー・フイスラー、ドン・エル・サール、オリ・ハンニネン（フィンランド）、李珉姬（韓国）、ケン・ハパイライ（タヒチ）、王為祥、顧春義（台湾）

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーカス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング、ディーター・F・ウーグドルフ、デビッド・A・ベドナー

編集長:シェイ・E・ジェンセン

顧問:E・レイ・ペイトマン、モンティ・J・ラフ、スティーブン・A・ウェスト

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

企画編集ディレクター:ピーター・D・ケーブ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーグ

機関誌編集ディレクター:リチャード・M・ロムニー

編集主幹:マービン・K・ガードナー

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース、スザン・バレット、シャナ・パトラー、ライアン・カーラ、リンダ・ステール・クーパー、ラリーン・ポーター、ガートン、ジェニファー・L・グリーンウッド、R・パリ・ジョンソン、キャリー・カステン、メルビン・リービット、サリー・J・オデカーカ、アダム・C・オーソン、ジュディス・M・パラー、ビビアン・ポールセン、ドン・L・サール、レベッカ・M・テーラー、ロジャー・テリー、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーグ、ジュリー・ワーテル、キンバリー・ウェップ、モニカ・ウイクス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バーン・カンベン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:ケリー・アレン・プラット、ハワード・G・ブラウン、トマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリスティンセン、キャスリーン・ハワード、デニーズ・カービー、タッド・R・ピーターソン、ランドール・J・ピクストン、カリ・A・トッド、クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレーベン・K・セジウィック

配達ディレクター:クリス・T・クリスティンセン

定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名:末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへお送りいただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配達についてのお問い合わせ:〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 2,400円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿をおびきご質問は、下記の連絡先にお送りください。  
Room 2420, 50 East North Temple Street,  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール:cur-liahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)でてくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カナボア語、キリスチ語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブラン語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミル語、中国語、ヂェゴ語、テルク語、デンマーク語、ドイツ語、日本語、ノルウェー語、ハイチ語、ハンガリ語、フイジー語、フィンラーデン語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラビア語、リトニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2004 Intellectual Reserve, Inc. 版権所有。印刷:日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール—cor-intellectualproperty@ldschurch.orgにご連絡ください。

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines November 2004.

Japanese. 24991 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

## For Readers in the United States and Canada:

November 2004 no. 11 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



## 話者リスト(50音順)

アイリング, ヘンリー・B ..... 26  
ウーグドルフ, ディーター・F ..... 74  
オーカス, ダリン・H ..... 43  
グローバーグ, ジョン・H ..... 9  
サミュエルソン, セシル・O ..... 49  
ジュニア ..... 49  
スコット, リチャード・G ..... 15  
ステーリー, ドナルド・L ..... 37  
ダルトン, イレイン・S ..... 89  
ネルソン, ラッセル・M ..... 79  
パーキン, ボニー・D ..... 34, 106  
バートン, H・デビッド ..... 98  
パッカー, ボイド・K ..... 86  
バラード, M・ラッセル ..... 40  
ハルバーソン, ロナルド・T ..... 32  
ヒューズ, キャスリーン・H ..... 109  
ピングリー, アン・C ..... 111  
ヒンクレー, ゴードン・B ..... 4, 59, 82, 104  
ファウスト, ジェームズ・E ..... 18, 52  
プラット, カール・B ..... 47  
ヘイルズ, ロバート・D ..... 70  
ベドナー, デビッド・A ..... 76  
ペリー, L・トム ..... 23  
ホランド, ジェフリー・R ..... 6  
ミラー, デール・E ..... 12  
メインズ, リチャード・J ..... 92  
モンソン, トマス・S ..... 22, 56, 67, 113  
リチャーズ, H・ブライアン ..... 95  
ローシェイ, ネッド・B ..... 30  
ワースリン, ジョセフ・B ..... 101

## テーマ別索引

あ 愛 ..... 9, 56, 82  
証 ..... 32, 37, 40, 47, 49, 70, 74, 76, 95, 101, 111  
あがな 賢い ..... 12, 76  
イエス・キリスト ..... 9, 30, 32, 40, 49, 67, 70, 79  
祈り ..... 37, 47, 70, 109  
戒め ..... 92  
癒し ..... 12  
永代教育基金 ..... 4  
教えること ..... 113  
親の務め ..... 95, 98  
か 改宗, 改心 ..... 12  
回復 ..... 6, 26, 40  
家族 ..... 34, 109  
家族歴史 ..... 89  
活発化 ..... 30, 56  
犠牲 ..... 89  
欺瞞 ..... 43  
逆境 ..... 18  
教会の発展 ..... 4  
清さ ..... 59  
キリストの光 ..... 15  
悔い改め ..... 15, 43, 59, 101, 104  
敬虔 ..... 92  
啓示 ..... 6  
結婚 ..... 82  
謙遜 ..... 74, 76, 101  
高慢 ..... 101  
さ 慈愛 ..... 9, 34, 98  
識字能力 ..... 113  
使徒職 ..... 6, 23, 26, 74, 76  
姉妹のきずな ..... 106  
従順 ..... 92  
常用癖 ..... 15, 43, 59  
ま 恵み ..... 76  
物の見方 ..... 18  
モルモン書 ..... 95  
や 勇気 ..... 104  
赦し ..... 15, 30  
預言者 ..... 6, 49, 70  
さ 異婚 ..... 82

# 教会の状態

大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー

教会は今、教会史上のどの時代よりも良い状態にあると、わたしは確信しています。



すばらしい大会が始まろうとしています。しかし、お気づきのように、十二使徒定員会のデビッド・B・ヘイト長老とニール・A・マックスウェル長老がこの場にいません。二人とも長い間、すばらしい働きをしてくれました。二人が亡くなつたことを悲しんでいます。とても寂しく思います。ご家族にわたしたちの愛をお伝えします。二人は幕の向こう側でも、この偉大な業を引き続き推し進めていることでしょう。そう確信しています。

相次いで二人の使徒が世を去ったことにより、十二使徒定員会に空席が生じました。この空席は、同定員会が組織された本来の形となるように埋めなければなりません。

断食と祈りを通して、わたしたちはディーター・フリードリック・ウークトドルフ長老とデビッド・アラン・ベドナー長老を、十二使徒定員会の空席を埋めるために召しました。今朝、この二人の名前を指さ

んに提示します。皆さんは彼らを知らないかもしれません、すぐによく知るようになるでしょう。二人をこの神聖な召しに支持できると感じる方は挙手をもってその意を表してください。反対の方がいましたら同様にお願いします。

二人の名前は、今大会で後ほど全中央役員の支持の中に含まれることになります。それでは、この二人の中央幹部は、十二使徒定員会会員とともに壇上の席に着いてください。両長老は、日曜午前の部会で皆さんに話をしますので、彼らのことをもっとよく知ることができます。

さて、この大会を開会するに当たり、教会の状態について簡単に述べさせていただきます。教会は発展し続けています。毎年ますます多くの人の生活に影響を与えています。教会は全地にあまねく広がっています。

この発展に対応するためには、必然的に、礼拝の家を次々と建設していくなければなりません。現在世界各地で、様々な規模の451に及ぶ集会所が建設中です。わたしの知る限りでは、このような大規模な建設プログラムは、ほかに類のない、驚異的なものです。そしてわたしたちが建てる建築物は美しく、周辺地域の美観をさらに引き立てるものとなっています。よく手入れされています。わたしたちは礼拝の家の建築に関しては経験豊かです。そしてその豊富な経験から、教会でこれまで建設してきた建物よりもさらに良い建物を建てています。美しさと使い勝手のよさを併せ持った建物となっています。現在建築中の建物同士は似通った外観になっていますが、それは意図的に



そうしているのです。有効性が証明済みのデザインと方式に倣って建てることで、多額の経費を削減しながらも、教会員の必要を満たしていくことができるのです。

神殿も引き続き建設しています。最近カリフォルニア州サクラメントで神殿の鍵入れ式を行いました。カリフォルニア州で7番目の神殿となります。カリフォルニア州は合衆国で2番目に教会員の多い州となっています。

ソルトレーク・シティー地域にある神殿は多忙を極めており、時には処理能力を超えてしまっています。そのため、わたしたちはソルトレーク盆地に新しい神殿を建てることを決定しました。建設地については間もなく発表します。わたしたちがこの地域に過度に思い入れがあるよう



教会本部ビル(左), ソルトレーク神殿(右), そしてソルトレーク・シティー中心部のビル群がカンファレンスセンターから一望できる

に感じられるかもしれません。しかし、神殿参入者はこのように多いので、参入希望者のために便宜を図らなければなりません。さらに発展が続くなら、恐らく別の新たな神殿が必要になるでしょう。

また、アイダホ州にもう一つの神殿を建設することを、この場で喜んでお伝えします。アイダホは、合衆国で3番目に会員数の多い州です。計画では、レックスバーグに建てる予定です。さらに、アイダホ州ツインフォールズにも新たな神殿を建てようと計画しています。この神殿はアイダホツインフォールズとボイシにまたがる地域に住む多くの会員たちが利用します。

現在、ナイジェリアのアバ、フィンランドのヘルシンキ、カリフォルニア州のニューポートビーチとサクラメント、テキサス州のサンアントニオで神殿が建設中です。またサモアでは、火災で失った神殿を再建しています。

発表からかなり時間のたったこれらの神殿が奉獻されると、130の儀式執行可能な神殿が存在することになります。そして教会が発展するにつれ、さらに新しい神殿が建設されるでしょう。

現在、ソルトレーク・シティーでは大事業が行われています。テンプルスクウェア付近の環境を守ることは、わたしたちにと

って非常に大切なことです。そのためには大規模な建設プロジェクトが必要なのです。この建設のために、什分の一基金が用いられることはありません。教会運営の事業、教会所有地の賃貸料などを財源とする収入で賄われています。

ソルトレークのタバナクルの耐震性を強化するには、広範囲にわたる工事が必要です。このすばらしい建築物は、使用を始めて今月で137年になります。存続させるために、修繕しなければならない時期が訪れたのです。この建物は、世界的にも類を見ない最高傑作の一つであり、歴史的にも計り知れない重要性があります。歴

史的な価値を入念に保護しつつ、実用性、快適さ、安全性を強化していきます。このカンファレンスセンターがあり、今大会のような集会が開けることに感謝しています。このごろは、こう自問しています。「この建物がなかったらどうなっていただろうか。」

永代教育基金も引き続き増大していく、同様にこのすばらしい事業の恩恵を受けた人の数も増えているということを皆さんにお伝えできるので、うれしく思っています。

また宣教師プログラムも強化しています。非常に大勢の宣教師による伝道の業がいっそう靈的なものとなるよう、わたしたちは努めています。

教育プログラムも発展を続け、教会が設立されているあらゆる所でその影響が及ぶようになっています。

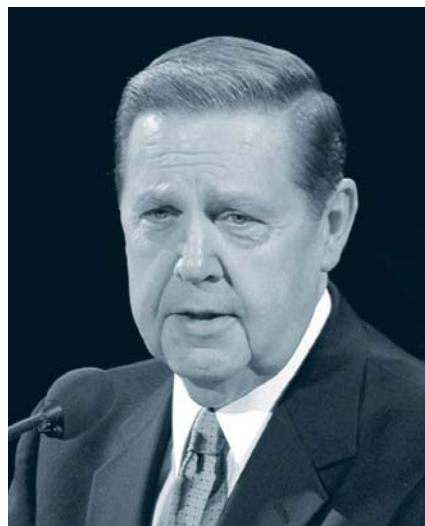
モルモン書は最近、アメリカで出版された書籍のうち、最も影響力のある本の上位20位に入りました。現在、ある出版社と協力し、この聖なる書物、主イエス・キリストについてのもう一つの証の配給範囲を拡大しようとしています。

兄弟姉妹の皆さん、これからもわたしは歩み続けていきます。教会は今、教会史上のどの時代よりも良い状態にあると、わたしは確信しています。そう言えば十分お分かりいただけるのではないでしょうか。わたしはこれまでその歴史のうちの95年近くを生きてきて、そのほとんどを直接見てきました。そして現在の、より強い信仰、より幅広い奉仕、そして一段と誠実な青少年に満足しています。御業のあらゆる分野において、これまで以上の活力が見られます。主の業におけるこのすばらしい時代を喜びましょう。しかし、高慢または尊大にはならないようにしましょう。謙遜に感謝しましょう。そして全能者のこのすばらしい業をますます輝かしいものにしようと決心しましょう。世界中の人が見上げることのできる、強さと徳のかがり火のような存在となって全地を照らそうと、一人一人が心の中で決心しようではありませんか。わたしたちがそうなれるよう、イエス・キリストの御名により、へりくだって祈ります。アーメン。

# 預言者、聖見者、啓示者

## 十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド

**大管長会と十二使徒定員会は「預言者、聖見者、啓示者」の責任を神から授かり、皆さんから支持されています。**



二使徒定員会を代表して、新たに使徒の召しを受けたディーター・ウークトドルフ長老とデビッド・ベドナー長老を歓迎します。二人をわたしたちの親しい輪の中に迎えることができうれしいです。この神権時代に最初に召された十二使徒たちは「互いに、死よりも強い愛情をはぐくむこと」<sup>1</sup> がその務めであると告げられました。わたしたちは、この二人とそれぞれの伴侶と家族に対して、すでにそのような愛情を抱いています。心と声を合わせて言います。「愛する友よ、ようこそ。」

ピンクレー大管長の思いやり深い言葉に表されていたのと同じ気持ちで、わたしも「愛情——死よりも強い愛情」と喪失感を述べます。皆さんを感じているよう

に、わたしも愛するデビッド・B・ヘイト長老、ニール・A・マックスウェル長老を失って深い悲しみを感じています。この二人の兄弟とその最愛のルビー姉妹、コリーン姉妹に、愛をお伝えします。この4人の奉仕を尊敬し、生涯にわたる模範をたたえます。彼らを知り、ともに奉仕できることはこの上ない特権です。わたしたちにとって、彼らは永遠の宝です。

教会が発展している中で生じたこの重大な変化を考慮し、今朝わたしは、使徒職について、またイエス・キリストの眞の教会において使徒職が継続することの意義について話します。しかし、この職を持つ人についてではなく、職そのもの、すなわち聖なるメルキゼデク神権の召しの一つであり、民を見守り、主の御名を証するため主御自身が定められた、この職そのものについて話したいのです。

イエスは、御自身が昇天された後にも御自身の指示の下に存続する教会を設立する目的で、「祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られました。

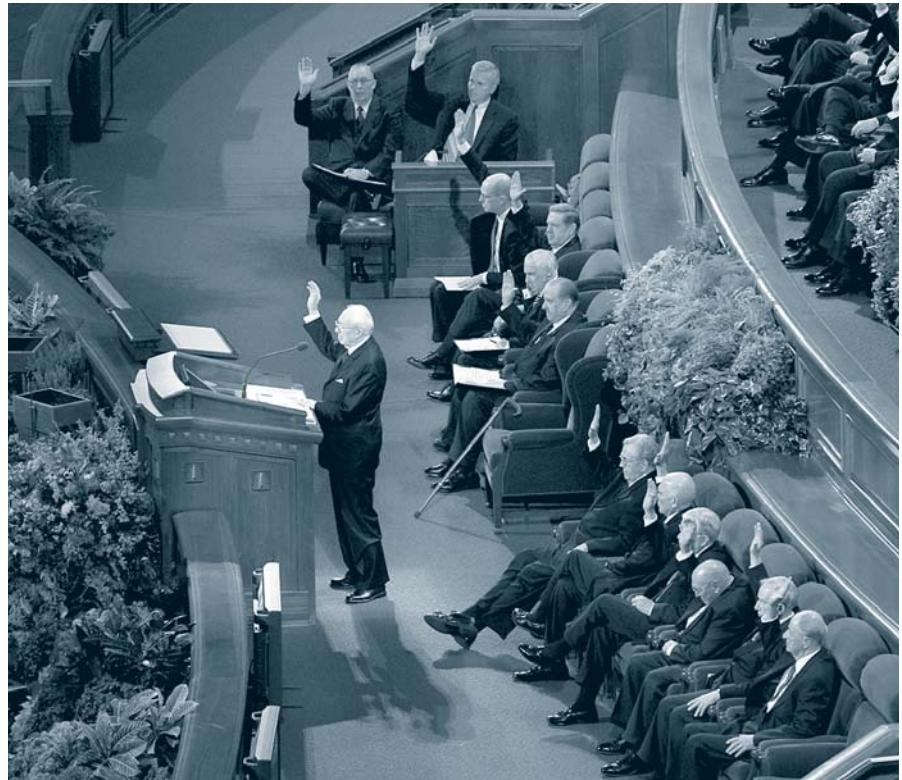
そして「夜が明けると、弟子たちを呼び寄せ、その中から12人を選び出し、これに使徒という名をお与えにな」<sup>2</sup>りました。

後にパウロは、救い主は御自身の命を捨てるなどを御存じであり、そのために、教会に「使徒たちや預言者たちという土台」<sup>3</sup>を据えられたのであると教えました。これら幹部や教会の他の役員は、復活されたキリストの指示の下で奉仕しました。

なぜでしょう。その最たる理由は、これからは「わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたり」<sup>4</sup> しないようにするためにでした。

そのようなわけで、あらゆるときに、特に逆境や危険のときに、子供のように当惑し、方向を見失い、幾分恐れを感じるときに、人間のよこしまな行いや悪魔の策略により、足もとをすぐわれ、道をそれそになるときに、教会の使徒と預言者という土台が祝福となります。現代のような時代のために、大管長会と十二使徒定員会は「預言者、聖見者、啓示者」の責任を神から授かり、皆さんから支持されています。特に、大管長は最高位の預言者、聖見者、啓示者であり、先任使徒であり、教会に対する啓示と管理の鍵をすべて行使する権能を授けられた唯一の人として支持されています。新約聖書の時代も、モルモン書の時代も、現代も、これらの役員は教会の土台となって隅のかしら石の周りに立ち、隅のかしら石から力を受けます。かしら石とは「神の御子でありキリストである貢い主の岩」<sup>5</sup>のことです。パウロはそのかしら石のことを偉大な「使徒であり、わたしたちが告白する大祭司」<sup>6</sup>と言いました。キリストを土台とするなら、いつも、「悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の雹と大嵐があなたたちを打つときにも」守りが得られます。今体験している、またこの先ほとんどいつも体験するであろう危険の中にあっても、この世の嵐はわたしたちを滅ぼすことはできません。「なぜならば、[わたし]たちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人がその上に基を築くならば、倒れることなどあり得ないから」<sup>7</sup>です。

3週間前にアリゾナ州プレスコットを訪れ、山あいの美しい小さな町で開かれたステーク大会に出席しました。週末の楽しい行事が終わり、何人かと握手をし、あいさつをしていると、その中にいた一人の姉妹がそっとメモをくれました。多少ためらいはありますが、その一部を紹



十二使徒定員会の新しい二人の会員の支持を取るゴードン・B・ヒンクリー大管長

介します。中に述べられている人物ではなく、姉妹が教えている教義に注目しながら聞いてください。

「愛するホランド長老、大会の中で救い主とその愛について証してください感謝しています。41年前、わたしは主に熱心に祈りました。その中でわたしは『使徒が歩き、眞の教会が存在し、キリストの御声を耳にすることのできた時代に生きたかったです』と申し上げました。それから1年としないうちに、天の御父はわたしのもとに末日聖徒の宣教師を二人送ってください、祈りは実現しました。ホランド長老、疲れたり悩んだりするときには、このメモを読んで、わたしやわたしのような何百万もの人にとって、あなたの声を聞き、あなたと握手することが、なぜそれほど大切なことを思い出してください。愛と感謝を込めて、グロリア・クレメンツ。」

クレメンツ姉妹、思いやりに満ちたこのメモのおかげで、あなたと同じように望み、語った、わたし自身の先祖のことを思い出しました。アメリカ入植初期の混沌たる時代を生きた、10代前の先祖ロ

ジャー・ウイリアムズは、快活で信念の強い人でした。マサチューセッツ沿岸から、現在のロードアイランドに当たる土地に移ることを余儀なくされたロジャーは、新天地を「神の摂理」を意味する「プロビデンス」と名付けました。その名は、神の介在と天の現れを追い求めた彼の生涯を物語っています。残念ながら、彼は新約聖書時代に設立されたものと同じと思える眞の教会を見いだすことはできませんでした。この失意の求道者について、かのコットン・マザーはこう記しています。「ウイリアムズ氏は……〔信徒たちに向けて、最後に〕こう語った。『わたし自身、道を誤り、〔あなたたちにも誤らせ〕た。わたしは今この地上にバプテスマ〔あるいは何であれ福音の儀式〕を執行できる教会は存在しないと確信した。……〔だから〕すべてを捨て……新たな使徒が現れるのを待ちなさい。』<sup>8</sup> ロジャー・ウイリアムズは新たな使徒の出現を待ち望みましたが、生きて会うことはできませんでした。将来、彼に会って「あなたの子孫は、確かに使徒に会いましたよ」と言いたいです。



天の導きを切望し期待するという考えは、福音の回復の舞台作りを行った宗教改革者の間では珍しいことではありませんでした。ニューイングランドで最も有名な伝道師の一人であったジョナサン・エドワーズはこう語っています。「[わたしたちに]深い関心を持っておられる神が……決して口を開かれず……一言も言葉を発せられないと考えるのは、理にかなうとは思えない。」<sup>9</sup>

後に、あの比類なきラルフ・ウォルド・エマソンはニューイングランドで正統とされた教義を根底から覆しました。ハーバード大学神学部大学院でこう語ったのです。「わたしには、現在ほど新たな啓示が必要な時代はない」と述べる義務があります。」「靈感の教義は失われ、……奇跡、預言、……聖い生活は古代史の中[だけ]にしか存在しません。……あたかも神が死んでしまわれたかのように、人は啓示を遠い昔のものとして語ります。」そして、こう警告しました。「神が『存在された』ではなく『存在しておられる』こと、神が『語られた』ではなく『語っておられる』ことを示すことこそ真の教師の務めなのです。」<sup>10</sup>つまり、エマソンは「パンを求めて来る客に石を渡し続けるならば、客はついに来なくなる」<sup>11</sup>と言っているも同然なのです。

グロリア・クレメンツのような人々の祈りについて、さらに、アメリカ史に名を残した偉人の強烈な批判について深く考えるなら、末日聖徒イエス・キリスト

教会の声明が、特に宣教師と出会う人々にとってどれほど力強いものかよく理解できるでしょう。預言者？聖見者？啓示者ですか？1820年と1830年に起きた出来事が、そしてその後2世紀近くの間に起きたことが、啓示そのものも、それを受ける人の存在も「遠い昔のもの」とはないと語っています。

エマソン氏が神学部大学院で使徒の必要性を暗に説いたその年に、若いイギリス移民であったジョン・テラー長老は、主イエス・キリストの使徒、預言者、聖見者、啓示者に召されました。その召しにあってテラー長老は真理を純粹に求める人に共感を示し、次のように語っています。「これまで神と交信することなく眞の宗教について学べた人がはたしていだでしょうか。神との交信を信じない人がいますが、わたしから見れば、人が思いつく思想の中でこれほどばかげた思想はありません。人々が一様に、生ける啓示の原則を拒むならば、当然のごとく、猛烈な勢いで懷疑論と不信仰が蔓延します。多くの人が宗教を軽視し、注意を向ける価値がないと考えるのは当然です。なぜなら、啓示がなければ、宗教は茶番にしかすぎないからです。……生ける啓示の原則、……これこそわたしたちの宗教の土台なのです。」<sup>12</sup>

わたしたちの宗教の土台である、生ける啓示の原則とは一体何でしょう。土台が築かれた時代から目を転じて、この21世紀を眺めてみましょう。聖職者、歴史家、

一般信徒の別なく、すべての人にとって、問題は共通しています。「天は開いていますか。」「昔のように、神は今も、預言者と使徒に御心を示されますか。」この問い合わせに対し、末日聖徒イエス・キリスト教会は、全世界に向けてためらうことなく「はい」と宣言しています。そしてその宣言の中に、200年近く前の預言者であるジョセフ・スミスの偉大さがあるのです。

「神が人に語られると信じますか。」ジョセフの人生の中にその答えがあります。38年半の短い生涯で成し遂げた多くの偉業の中で、ジョセフの残した最大の偉業は、変わることのない啓示の遺産です。1度限りの、証拠も結果も見えないような啓示ではありません。「あらゆる善良な人の心にゆっくりと浸透する穏やかな靈感」でもありません。神からの、具体的で、文書に残された、絶えることのない指示なのです。忠実な末日聖徒の学者である友人が簡潔に述べたように、「古い価値観を打ち破ろうとした啓蒙思想家の合理的な考え方によって、キリスト教の土台が攻撃されたときには、ジョセフ・スミスは〔完全に、独りで〕近代のキリスト教を啓示によって本来あるべき姿に戻したのです。」<sup>13</sup>

末日に導きを与えてくれる預言者を下さった神に心から感謝しています。<sup>14</sup>なぜなら、末日には至る所で風や嵐が吹き荒れるからです。御父と御子が14歳の少年に栄光のうちに御姿を現された1820年の春の朝に感謝しています。ペテロ、ヤコブ、ヨハネが、聖なる神権と、神権に付随するあらゆる職の鍵を回復するために訪れたあの朝に感謝しています。またわたしたちの世代にあっては、43年前の1961年9月30日の朝に感謝しています。その日、時満ちる神権時代の75人目の使徒として、ゴードン・B・ヒンクレー長老（当時）が使徒の職に召されたからです。そしてまた今日、同様の出来事が繰り返され、さらに救い主が再臨されるまで連続と続くのです。

不安と恐怖、政治の混乱と道徳の逸脱が蔓延する世にあって、わたしは証します。イエスはキリストです。イエスは生

きたパン、生ける水です。過去、現在、未来にわたって生活に安定をもたらす盾、イスラエルの岩、生ける教会の錨です。教会の土台である主の預言者、聖見者、啓示者について証します。そのような神権の職、そのような神の啓示が、全人類の救い主の導きの下、まさしく啓示が必要とされるこの時代にあって、この時代のために、今もなお機能していると証します。これらが真実であり、この業が神の業であることを証します。わたしはその証人です。イエス・キリストの御名により、アーメン。

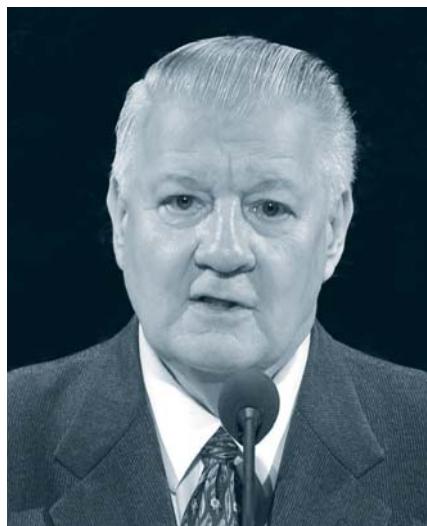
#### 注

1. *History of the Church*, 第2巻, 197
2. ルカ6:12-13
3. エペソ2:19-20参照
4. エペソ4:14
5. ヒラマン5:12
6. 欽定訳ヘブル3:1から和訳
7. ヒラマン5:12
8. *Magnalia Christi Americana* (1853年) 第2巻, 498
9. *The Works of Jonathan Edwards*, 第18巻, *The "Miscellanies"* 501-832, アバ・チェンバリン編(2000年), 89-90
10. *The Complete Essays and Other Writings of Ralph Waldo Emerson*, ブルックス・アトキンソン編 (1940年), 75, 71, 80
11. ルイス・キャセルズ、ハワード・W・ハンターによる引用 "Spiritual Famine" *Ensign*, 1973年1月号, 64
12. "Discourse by John Taylor" *Deseret News*, 1874年3月4日付, 68, 強調付加
13. リチャード・L・ブッシュマンの評論, "A Joseph Smith for the Twenty-First Century" *Believing History* (2004年) 参照。これは274ページからの引用であるが、この評論全体を読むべきである。
14. 「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番

# 神の愛の力

七十人会長会  
ジョン・H・グローバーグ

**神の愛に満たされているとき、わたしたちは痛みに耐え、恐れを鎮め、惜しみなく赦し、争いを避け、新たに力を得て、……人々を祝福し助けることができるのです。**



の本性です。わたしたちには生来、前世にいたときに感じた愛を地上でも得たいという望みがあります。神の愛を感じ、神の愛で心を満たすときだけ、わたしたちは真に幸福を得られるのです。

神の愛は広大な宇宙を満たしています。したがって、宇宙において、愛が不足しているということはありません。不足しているのは、愛を感じさせてくれる事柄を進んで行おうとするわたしたちの意志です。そのような事柄を行うためにわたしたちは、「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛」さなければならぬ、とイエスは説かれました(ルカ10:27)。

す べての人の心に触れる真の愛  
とはどのようなものでしょうか。  
「愛しています」という簡単な言葉が、これほど普遍的な喜びを呼び起こすのはなぜでしょうか。

人は様々な理由を挙げるでしょう。しかし、ほんとうの理由は、地上に来るすべての人が、神の靈の息子であり娘であるからです。すべての愛は神から来るものですから、わたしたちには、愛し、愛される能力と望みが生まれつき備わっています。御父とイエスがわたしたちをどれほど愛してくださったか、またわたしたちが御二人をどれほど愛したか、その事実は、わたしたちと前世を結ぶ最も強いきずなの一つとなっています。忘却の幕によって記憶は隠されいても、眞の愛を感じる度に、打ち消すことのできない郷愁の念が呼び覚まされるのです。

眞の愛にこたえるのは、わたしたち人間

に従えば従うほど、人々を助けたいという望みが増します。人々を助ければ助けるほど、さらに神を愛するようになります。そして、それが繰り返されていくのです。それとは反対に、神に背き自分本位になればなるほど、愛を感じることが少なくなります。

神に従うことなしに永続する愛を見いだそうとすることは、まるで、のどの渴きをいややすために空のコップから飲もうとするようなものです。幾ら飲む動作はできても、渴きはいやされません。それと同様に、人々を助け、犠牲を払うことなしに愛を見いだそうとするのは、何も食べずに生き延びようとするようなものです。それは自然の法則に反しており、うまくいきません。わたしたちは愛のあるふりをすることはできません。愛はわたしたちの一部とならなければなりません。預言者モルモンはこのように説いています。

「慈愛はキリストの純粹な愛であって、とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。

したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたたちは、……この愛で満たされるように、……熱意を込めて御父に祈りなさい。」  
(モロナイ7:47-48)

神はわたしたちがどこにいようと、神の愛を感じられるよう助けたいと切望しておられます。一つの例を紹介しましょう。

若い宣教師だったころ、わたしは南太平洋に浮かぶ、人口わずか700人ほどの小さな島に召されました。うだるような暑さと蚊に悩まされ、どこもかしこも泥だらけ、言語を覚えるのは不可能に思えましたし、食べ物も口に合いませんでした。

数か月後、猛烈なハリケーンが島を襲いました。被害は甚大でした。穀物は壊滅的な被害を受け、人も動物も命を失い、家々は吹き飛ばされ、そして唯一外界と島とを結ぶ電報局が破壊されました。普段は政府の小さな船が1,2か月に1度来ることになっていました。そこで、わたしたちは船が来ることを願いながら、4,5週間もつように食料を控えめに使っていきました。しかし、船は一向に姿を見せず、わたしたちは次第に弱っていました。人々の親切と善意に支えられながらも、6,7週間が過ぎ、食料が底を突き始めると、わたしたちの体力はめっきり衰えていました。地元出身の同僚、フェキ長老は、できる限りの方法でわたしを助けてくれました。しかし、8週目に入り、わたしは力尽きてしました。木陰に座って祈り、聖文を読み、永遠に関する事柄に何時間も何時間も思いをはせました。

9週目、外面向的な変化は何もありませんでしたが、わたしの中では大きな変化がありました。それまでも増して、主の愛を深く感じ、神の愛は「どんなものよりも好まし〔く〕……人にとって最も喜ばしいものである」(1ニーファイ11:22-23)ことを身をもって学んだのです。

そのとき、わたしはまさに骨と皮ばかりで、心臓が鼓動し、肺が呼吸するのを実際に敬虔な気持ちでじっと見ていたのを覚え

ています。神はすばらしい靈を住まわせるために、何というすばらしい肉体を創造してくださったことか、と思いました。救い主の愛と贍いの犠牲、そして復活のおかげで、この靈と肉体という二つの要素が永遠に結び合わされることが可能になったのだと考えたとき、わたしの靈は鼓舞され、心は満たされ、肉体のつらさはすっかり消えうせてしまいました。

神がどのような御方であり、わたしたちが何者で、神がわたしたちをどれほど愛しておられ、どのような計画を立ててくださったかを理解するとき、恐れは消えてなくなります。これらの真理をほんの少しでもかいま見るとき、この世的な事柄についての不安は姿を消します。権力や名声、富が重要だというサタンの偽りを実際に信じ込んでいるような状況を考えると、それは悲しいというよりはむしろこっけいなことです。

ロケットが轟音を立てて宇宙に飛び立つには、引力に打ち勝たなければなりません。同様にわたしたちもまた、理解と愛という永遠の領域に高く舞い上がるには、世の引力に打ち勝たなければならないのです。わたしはこの世の人生がそこで終わらうとも、何も慌てふためく必要はないことがよく理解できました。人生はこれからも続き、それがこの世であろうと次の世であろうと問題ではないと分かったのです。ほんとうに重要なのは、自分が心にどれだけ愛を抱いているかということでした。自分にはもっと愛を抱くことが必要だと分かりました。現世から永遠にわたる喜びは、愛する能力と密接に関係していることを知りました。

このような思いに満たされ、心が高められていくのを感じていると、興奮した叫び声が耳に入ってきた。同僚のフェキ長老が目を輝かせて言いました。「コリポキ(訳注——グローバーグ長老はトンガの人たちにこう呼ばれていた)、船が着いた。食料をたくさん積んでいる。助かったんだよ。うれしくないのかい。」複雑な気持ちでしたが、船が到着したのは神からの答えに違ないので、うれしかったのは確かです。フェキ長老が食べ物を差し出し「ほら、食べて」と言いました。わたしはためらい

ました。食べ物を見て、フェキ長老を見、空を見上げ、そして目を閉じました。

心の奥底から、ある感情が沸き起こりました。以前と同じようにこの世での人生を続けられることに深く感謝しました。しかし同時に、残念に思う気持ちもありました。それはまるで、美しく輝く夕日が暗闇の中に沈むとき、その美しさをまた味わうのに一日待たなければならぬと気づいたときの、何か、お預けを命じられたような気持ちでした。

目を開けたいと思ったか定かではありません。しかし目を開けたとき、神の愛がすべてを変えたことに気づきました。暑さや泥、蚊、人々、言葉、食べ物などあらゆるものが、今はもう問題ではなくなっていました。わたしを傷つけようとした人々は、今や敵ではありませんでした。すべての人はわたしの兄弟姉妹でした。神の愛に満たされることは、あらゆることの中で最も大きな喜びであり、どんな代価を払っても、味わう価値があります。

このようなすばらしい時間と、神の愛を思い出させてくれる多くのものが与えられたことを、わたしは神に感謝しました。つまり、太陽、月、星、地球、子供の誕生、友人の笑顔に感謝したのです。わたしは聖文と、祈る特権に、そして、主の愛を思い起こさせる最も驚嘆すべき機会である聖餐に感謝しました。

賛美歌を心を込めて歌う度に、「高きに満ちたる 知恵と愛よ」「おお、主の愛深し、救いの血を思い 主を愛し、み業をなさん」などといった歌詞が、わたしたちの心を愛と感謝で満たしてくれることを知りました(「高きに満ちたる」『賛美歌』112番、「街を離れたる青き丘に」『賛美歌』110番)。そして、聖餐の祈りの中の「いつも御子を覚え」や「御子が与えてくださった戒めを守る」、また、「御子の御靈を受けられるように」という言葉に意識を集中する度に、もっと善い人になりたいという圧倒されるような願いで胸がいっぱいになります(教義と聖約20:77, 79参照)。そして、打ち砕かれた心と悔いる靈をもって聖餐のパンと水にあずかるとき、「わたしはあなたを愛しています。わたしはあなたを愛し



十二使徒定員会会員として支持されたデビッド・A・ベドナー長老(左)とディーター・F・ウクトドルフ長老

ています」という最もすばらしい言葉を感じ、聞くことができるのです。

このような気持ちを決して忘れないようにしようと思いました。しかし、この世の引力は強く、わたしたちは過ちを犯しがちです。それでも神は愛し続けてくださいます。体力が回復して数か月たったとき、再び猛烈な嵐に見舞われました。そのときわたしは海にいました。波は非常に高くなり、小さなボートは転覆し、わたしたち3人は荒れ狂う海に放り出されました。猛り狂う海のただ中で、わたしは驚き、恐れ、そして少し気が動転していました。「どうしてこんなことが起ったのだろう。わたしは宣教師だというのに、守られるはずじゃなかつたのか。宣教師は泳いではいけないことになっているというのに。」

しかし、生き延びるために泳がなければなりません。不平を言う度に水に沈むことが分かり、すぐに言うのをやめました。幾ら不平を言ったところで、事態は変化しません。岸までたどり着くために、全力を振り絞って頭を水の上に出し続けました。イーグルスカウト章を獲得していたわたしは、泳ぎにはかなり自信がありました。しかし、やがて波と風に力を奪われ始めました。決してあきらめようとは思いませんでしたが、もうこれ以上筋肉が動かないという時がついに来ました。

もう一度心の中で祈りましたが、それでも沈み始めました。これが最後になるかもしれないと思いながら、沈んでいくとき、主はわたしの思いと心に、ある特別な人に対する深い愛情を沸き起こしてくださいました。

さいました。まるで彼女の姿が見え、声が聞こえるかのようでした。1万3千キロも離れた所にいるというのに、その愛の力は時空を超えてわたしのもとに届き、暗闇と絶望と死の淵からわたしを引き上げ、光と命と希望に導いてくれたのです。急に力を得たわたしは、何とか岸までたどり着き、そこで一緒に海に投げ出された二人を見つけました。決して、真の愛の力を過小評価しないでください。真の愛の前には、どんな障壁も消え去るのです。

神の愛に満たされているとき、それまでは不可能だったことを行い、見て、理解することができます。神の愛に満たされているとき、わたしたちは痛みに耐え、恐れを鎮め、惜しみなく赦し、争いを避け、新たに力を得て、自分でも驚くような方法で人々を祝福し助けることができるのです。

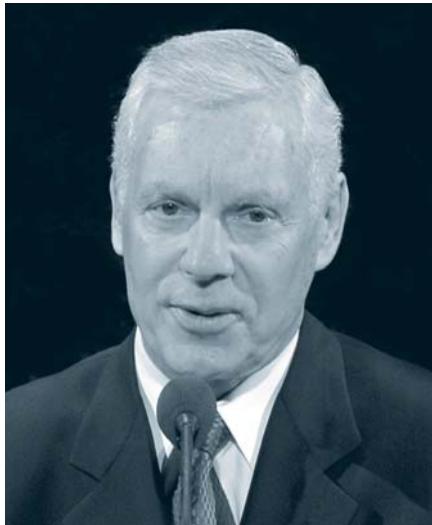
イエス・キリストは計り知れない愛に満ち、理解し難いほどの苦痛と残虐と不正を、わたしたちのために堪え忍ばれました。わたしたちへの愛を通して、ほかの方法では乗り越えることのできないあらゆる障壁を乗り越えてくださいました。どんな障壁も主の愛を妨げることはできません。主はわたしたちに、主に従い、主の限りない愛を味わうように招いておられます。それによって、わたしたちもこの世の苦痛と残虐と不正を乗り越えて、人々を助け、赦し、祝福することができるようになるのです。

わたしは主が生きておられ、わたしたちを愛しておられることを知っています。今この場所で主の愛を感じることができます。主の御声は柔軟そのものであり、心の底までも貫きます。主はほほえみをたたえ、思いやりと愛に満ちておられます。限りなく温厚で、親切と憐れみに、そして助けたいという願いに満ちあふれておられます。わたしは心を尽くして主を愛しています。わたしたちの備えができるときに、主の純粋な愛は時空を瞬時に超えてわたしたちに注がれ、罪や悲しみ、死や絶望といったいかなる暗い荒れ狂う海の深みからも引き上げてくださいます。そして、永遠の光と命と愛の中に導いてくださることを証いたします。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

# 魂に平安と癒しを もたらす

七十人  
デール・E・ミラー

十分に改心し、聖靈の働きによって支えられると、魂に平安と癒しがもたらされるのです。



わ たしたちはここ教会本部で多くの委員会集会を開きます。今年の初め、そのような集会の一つに出席したニール・A・マックスウェル長老は、地方の指導者の強化に関するプレゼンテーションを注意深く聞いていました。集会も終わりに近づいたころマックスウェル長老は、「監督たちが聖徒に平安と癒しをもたらすことができるよう、わたしたちにできることはもっとありませんか」と尋ねました。わたしは彼の考えをもう少しそく知りたいと思っていました。するとマックスウェル長老は、亡くなるほんの少し前、長老の部屋で個人的に話をした際、平安と癒しを得ることに関する教えを詳しく説いてくれました。そして、その考えを教会の会員にも伝えてほしいと言いました。

マックスウェル長老は、心にいつまでも残る無私の愛のすばらしい模範を示してくれました。人々への長老の思いやり、特に肉体や心に痛みを抱えた人への思いやりは深く誠実なものでした。長老の部屋から出て来る人はだれでも、もっとキリストのようになろうという決意を強めていました。マックスウェル長老は、皆が従うべき標準を定めてくれました。救い主を愛していました。ほんとうの使徒であり、弟子でした。亡くなつて、寂しい限りです。

マックスウェル長老は、完全な平安と癒しが完全な改心によってのみ得られることについて、すばらしい洞察を分かち合ってくれました。その際、完全な改心に至る段階についてマリオン・G・ロムニー副管長からかつて学んだことに触れました。ロムニー副管長は1963年の総大会で、救い主がペテロに語られた言葉を引用しました。マックスウェル長老は、その説教を紹介してくれたのです。「しかし、わたしはあなたの信仰がなくなるないように、あなたのために祈った。それで、あなたが改心したときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(欽定訳ルカ22:32から和訳)ロムニー副管長はこう言いました。「教会の会員であることと改心することとは、必ずしも同じではないようです。また、ここで言う『改心した』ということと、証を持っていいることも、必ずしも同じではありません。証は、熱心に求める人に対して聖靈が真理の確証をお与えになるときにもたらされ

ます。行動を促す強い証は、信仰を生きたものとします。つまり、そのような証が悔い改めに導き、戒めに対する従順さを招くのです。一方、改心とは、悔い改めと従順の実であり、報酬です。」(Conference Report, 1963年10月, 24)

聖典には劇的な改心に関する記述もありますが、通常、改心は一度には成し遂げられません。それは、段階を経て実現していきます。こうして人は、心の底まで新たなる人となるのです。このことが、聖典には「新しく生まれる」と表現されています。それは、考え方と感じ方、両方の変化を意味しています(Conference Report, 1963年10月, 23-24参照)。

モルモン書には、靈に飢えを感じ、永遠の命に関する父親の教えを知りたいと願ったエノスのことが書かれています。昼夜祈り続けたエノスに「エノスよ、あなたの罪は赦された。あなたは祝福を受けるであろう」という御声が聞こえました。エノスはこう記しています。「わたしエノスは、神は偽りを言われるはずがないので、わたしの罪がすでにぬぐい去られたのを知った。」(エノス1:5-6)

預言者だった息子アルマが、自分の改心の経験を息子のヒラマンに語っている記述があります。神に背いていたことを告白し、過去の罪と誤りを劇的に認識するようになったことを話しました。罪を認識するようになったときにアルマが思い出したのは、神の御子イエス・キリストという人が来られる、と語った父アルマの預言でした。イエスが世の罪を贖うために来られる、というのです。その聖句を引用しましょう。「心にこの思いがはっきりと浮かんできたとき、わたしは心の中で、『おお、神の御子イエスよ、苦汁の中におり、永遠の死の鎖に縛られているわたしを憐れんでください』と叫んだ。」アルマは永遠の苦痛と罪の意識にさいなまれましたが、贖いによってその苦しみから逃れられることも知りました。続けてアルマは言っています。「さて見よ、このことを思ったとき、わたしはもはや苦痛を忘れることができた。まことに、わたしは二度と罪を思い出して苦しむことがなくなった。おお、何という喜びであったことか。」

何という驚くべき光をわたしは見たことか。まことに、わたしは前に感じた苦痛に勝るほどの喜びに満たされたのである。」(アルマ36:12-20参照。強調付加)

アルマは、イエスが来られてすべての罪を取り去ってくださるという知識を通して自分の魂が癒されたことを知りました。魂が癒されると心に平安が得られました。改心がもたらした心の変化にすっかり感動したアルマは、そのときの興奮をヒラマンに繰り返し伝えています。「わが子よ、まことに、あなたに言うが、わたしはほかにあり得ないほど激しく、またつらい苦痛を味わった。また息子よ、わたしは言う。それとは反対に、わたしはほかにあり得ないほど麗しく、また快い喜びを味わった。」(アルマ36:21, 強調付加)アルマはエノスの父親がしたと同じように、息子に平安と喜びを永続させる一つの法則を教えていました。ここに、贖いと永遠の命について子供たちに教える父親に共通する規範があります。今日のすべての父親のための規範です。

アルマの改心には、考えるべき幾つかの教訓があります。

1. エノスのようにアルマも、神の不興を買った過去の罪をはっきりと認識し、悲しみました。

2. エノスのようにアルマも、イエス・キリストによる罪の贖いが約束されていると説いた父の教えを思い出しました。

3. エノスのようにアルマも自らの魂の救いのために心から懇願しました。

4. エノスのようにアルマも、罪に対する苦しみを思い出すことも、罪悪感にさいなまれることもなくなるほどの贖いの奇跡を経験しました。彼の魂は完全に癒されました。それは、心も思いも両方が清められる経験でした。喜びが苦しみに取って代わりました。御靈によって再び生まれたアルマは新しい人になったのです。エノスのように、すぐさま主と同胞に仕えることに心を向きました。

主は、エノスやアルマになさったことを、わたしたちにもしてくださいましょうか。

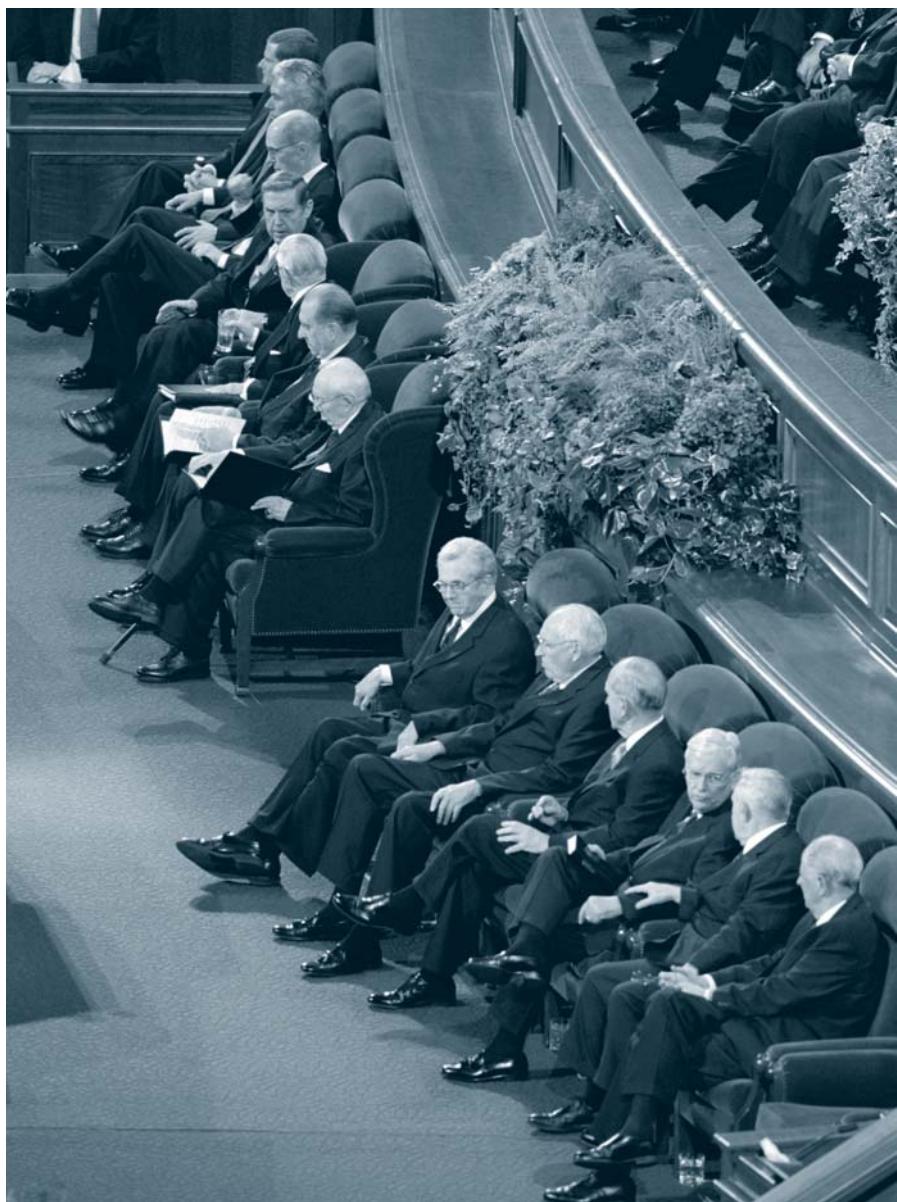
C・S・ルイスはこのように言っています。「〔神は〕一人一人に限りない関心を寄せ

ておられます。神はわたしたちを一まとめにして対応する必要などありません。あなたは神にとって、神が創造された唯一の人のような存在なのです。キリストは亡くなられたとき、あなたが世界でただ一人の男性〔あるいは女性〕であるかのように、あなたのため亡くなられました。」(Mere Christianity[1943年], 131)

聖徒たちの間に起きたこのような改心の記録が、聖典にはほかにもあるでしょうか。たくさんあります。ベニヤミン王時代の聖徒たちの記述が良い例です。王や預

言者が戒めとイエス・キリストの贖いについて教えるのを聞いた聖徒たちはこう答えました。

「すると民は皆、声を合わせて叫んだ。『そのとおり、わたしたちは、王がわたしたちに語ってくださった言葉をすべて信じています。また、全能の主の御靈のおかげで、わたしたちは王の言葉が確かに真実であることを知っています。御靈は、わたしたちが悪を行は性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行はる望みを持つように、わたしたちの中に、すなわちわた



大管長会(中央)と十二使徒定員会会員



したちの心の中に大きな変化を生じさせてくださいました。……

そしてわたしたちは、残りの全生涯、神の御心を行ひ、神から命じられるすべてのことについて神の戒めに従うという聖約を交わします。そして、天使によって告げられたような、決して終わることのない苦痛を自分自身に招くことのないように、また神の激しい怒りの杯から飲まないようにします。』』(モーサヤ5:2, 5。強調付加)

このように、彼らの言葉は、皆さんのがバプテスマの聖約の際に立てた決意と、とてもよく似ていることが分かります(教義と聖約20:37参照)。

バプテスマと確認、また、すべての神殿と神権の儀式を通して聖約を交わすことにより、改心に伴う祝福と約束が得られます。その後も悔い改め、従順に歩み、聖約を忠実に守り続けることにより、改心の実は日々の暮らしの中で生長していきます。十分に改心し、聖靈の働きによって支えられると、魂に平安と癒しがもたらされるのです。

ロムニー副管長に、改心したことを知るにはどうすればよいか尋ねた人がいました。彼はこう答えました。「聖なる御靈の力によって心が癒されたときに、その人は改心したことを確認できるでしょう。このことが起きると、彼は自分の感じ方でそれを認識します。ちょうどベニヤミン王の民が罪の赦しを受けたときに感じたように、改

心したことを心で感じて分かるのです。聖文にはこう書かれています。『……主の御靈が彼らに降られた。そして彼らは、罪の赦しを受け、良心の安らぎを得たので、喜びに満たされた。……』(モーサヤ4:3)』(Conference Report, 1963年10月, 25)

ペテロは完全な改心を遂げたときに何が起きるか説明しています。「神の性質にあずかる者となる」のです(2ペテロ1:4。1-3, 5-9節も参照)。

この完全な改心を経験して初めて、神の特質と偉大さをほんとうに知り、感じるようになります。これは主の僕となるためだけではなく、主の友となるための方法でもあります。教会が回復された初期の聖徒たちに対して、主は次のように言って、聖徒たちとの関係を説明なさいました。「さらにまた、わたしは、友であるあなたがたに言う。今から後、わたしはあなたがたを友と呼ぶ。」(教義と聖約84:77)

昨年10月の総大会でジェフリー・R・ホランド長老は、神の偉大さと特質について教え、自分の気持ちを話しました(「偉大な神の性質」『リアホナ』2003年11月号, 70-73参照)。そして父なる神と御子イエス・キリストを知ることが永遠にわたって重要であると述べ、救い主の執り成しの祈りからなじみ深い聖句を引用しました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でありますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。』(ヨハネ17:3)

また、預言者ジョセフ・スミスのあまり知られていない声明も引用しました。「神の属性を確実に知ることは福音の第一の『原則』です。」「皆さんすべてが神を知り、神と親しい関係を築くことを、わたしは望んでいます。」(History of the Church, 第6巻, 305)

神を知り、神の友となることは、改心のプロセスが進むに伴って実現します。エノスにはそれが分かりました。ベニヤミン王の民にもそれが分かりました。アルマにもそれが分かりました。それは悔い改めて戒めを守るすべての人に起こります。この改心は神と人との両者間だけの、まったく個人的な経験です。つまり、神とどのような関係を築くかということです。改心は、すべての男女の内にあるキリストの御靈を目覚めさせます(教義と聖約84:45-46; 88:11参照)。聖靈の影響による感情をわたしたちの内に目覚めさせ、真理の証へと導きます。バプテスマの聖約を交わした後に聖靈を受けることも改心のプロセスの一部です。聖靈の賜物は、弟子となつたわたしたちを導き、慰め、救い主のみもとへ連れて行ってくれます。そうすると今度は救い主が御父に対する弁護者となり、わたしたちの忠実さによって、キリストと共に相続人となるように御父のみもとへ連れて行ってくださるので(ヨハネ14:6; ローマ8:17; 教義と聖約45:3-5参照)。

わたしたちには、聖なる預言者たちが残してくれたすばらしい教えと思想という豊かな宝があります。彼らは、神の子供たちを救いと永遠の命に導く、神のまことの使いです。

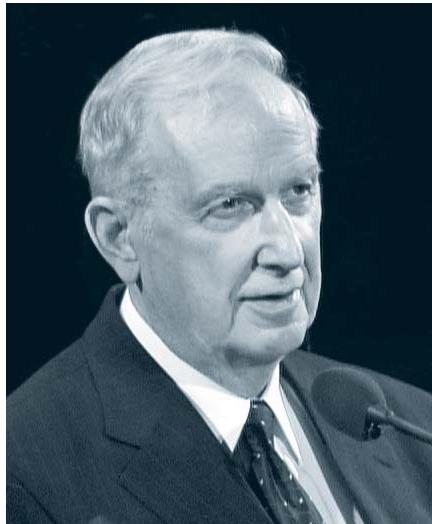
彼らの証は信仰を強めてくれます。彼らの言葉と証に耳を傾けてください。皆さんのが魂の平安と癒しへと導かれる助けとなります。

主の御靈は確かに存在し、間違いなく認識できるという証をわたしは持っています。皆さんは御父と御子を知ることができます。御二方は皆さんを愛しておられます。わたしは御二方の愛を御靈の力を通して感じています。これが真実であることをイエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。

# 良心の安らぎと 心の安らぎ

十二使徒定員会  
リチャード・G・スコット

**良心の安らぎと心の安らぎの関係を理解(する)ことで、多くの人々が苦しみから解放され幸福を得ることができます。**



この不穏な時代にあって、真理を理解し実践することで避けられる心の痛みや苦しみ、苦悩が世界の至る所にあふれています。しかし、良心の安らぎと心の安らぎの関係を理解し、これらの祝福の土台となっている原則に従うことで、多くの人々が苦しみから解放され幸福を得ることができます。

神はその子供たち一人一人に良心の安らぎという至高の祝福を享受してほしいと願っておられます。<sup>1</sup> 穏やかな良心は、苦しみ、悲しみ、罪悪感、恥辱、および自責の念からの解放をもたらします。そして、幸福の基を与えてくれます。穏やかな良心には計り知れないほどの価値があるにもかかわらず、地上でそれを享受している人はごくわずかです。なぜでしょうか。ほ

とんどの場合、その理由は良心の安らぎの土台となっている原則を理解していないか、あるいはそれらに十分に従っていないかのいずれかです。わたしの人生は良心の安らぎによって非常に豊かな恵みを受けてきましたので、どうすればそれを得られるか、皆さんにお話しします。

良心の安らぎは、心の安らぎを得るのに不可欠な要素です。良心の安らぎがなければ、真の心の安らぎを得ることはできません。良心の安らぎは内なる自分と関係しており、自分の行いに左右されます。良心の安らぎは義にかなった従順な生活によって神からのみもたらされます。それ以外の方法でもたらされることはありません。一方、心の安らぎは多くの場合、わがままな子供への心配や経済的な苦難、不愉快な行為を受けたり不愉快に感じたりすること、悪化する世の中、あるいは時間内に達成できないほどなすべきことがある状況など、外的な力の影響を受けます。不安定な心は一時的な、一過性のものです。心の安らぎはそれを妨げている外的な力を除くことで回復します。しかし良心の不安はそうはいきません。なぜならそれは過去の間違いを正し、人に対する間違った行いを解決し、背きを悔い改める必要性を、執拗に、休むことなく、絶えず思い起こさせるものだからです。そして、良心の乱れは心と体に物理的な刺激を与えることで少しの間だけは隠すことができます。アルコールや薬物、ポルノグラフィー、

およびさらに劣悪なものの誘惑に屈する場合がそうです。これらにはすべて、間違った方向に努力を傾けるという代償が伴います。それは、弱まるることのない中毒に陥る危険を冒すことで、良心の痛みを鎮めようとする努力です。しかし、良心の安らぎを回復するには、もっと良い方法があります。

良心に不安を覚えるという能力は、この死すべき世での成功を助けてくれる神の賜物です。それはおもに皆さんの思いと心に働きかけるキリストの光によって生じます。キリストの光はイエス・キリストを介して神から発せられる神聖な力または影響力です。<sup>2</sup> キリストの光は万物に光と命を与えます。地上のあらゆる所にいるすべての分別ある人に、真理と偽り、正しいことと誤ったことを識別するよう促します。また、皆さんの良心を活発に働かせます。<sup>3</sup> その影響力は背きや悪癖によって弱まり、ふさわしい悔い改めによって回復します。キリストの光は人ではありません。それは神から来る力および影響力であり、それに従う人を聖霊の導きと靈感を受ける資格のある者とします。<sup>4</sup>

良心が安らかでも、心の安らぎが外的な心配事によって一時的に妨げられるときがあることを覚えておきましょう。その原因を理解することによって、そこから生じる圧力の多くを軽減することができます。皆さん個人が主の教えに従って生活しているとき、心を悩ます問題を解決するために主の助けを求めるできます。こうして皆さんは主とその教えを信じる信仰によって心の安らぎを得ることになるのです。御靈に導かれて解決法を見いだすとき、皆さんの努力はさらに大きな個人の成長への踏み石となるでしょう。さらに、皆さんの心の乱れがほかの人の困難な状況に起因している場合には、そのようなチャレンジが解決するときに彼らも祝福を受けることがあります。

要約すると、良心の安らぎは、内なる動搖を引き起こしている個人の背きを悔い改めることによって取り戻すことができます。そして心の安らぎは一時的な不安、心配、悩みを引き起こしている外的な圧力

を解決することによって手に入れることができます。しかしいかに努力しようと、自分が破った律法の要求を悔い改めによって自ら満たし、悩める良心に安らぎを回復するまでは、永続する幸福を見いだすことはできないのです。

悔い改めの必要性を認めていながらもそれが難しいと感じている人にとっても、あるいは自分は完全な赦しを得られるだけの悔い改めをしてきたのだろうかと思つ

ている人にとっても、良心の安らぎの土台となっている幾つかの基本原則について復習するには有益なことです。

罪や背きによって律法を破ると、傷ついた良心が思いと心を苦しめます。独り子であるイエス・キリストを除いてすべての靈の子供たちが故意または無意識に律法を犯すことを御存じであった永遠の御父は、そのような行いの結果を修正する手段を用意されました。その罪が大きくても小

さくても解決法は同じです。それは、イエス・キリストとその贖罪を信じる信仰に基づいて完全に悔い改め、主の戒めに従つて生きることです。

必要に応じて、完全な悔い改めには皆さんの行いが求められます。もし罪を告白して捨てる、償う、従順になる、赦しを求めるといった悔い改めの標準的な段階を知らない場合は、監督と話したり、スペンサー・W・キンボール大管長の名著『赦しの奇跡』などの資料を研究したりしてください。それらの条件を満たすことに加えて、時々認識されていないもう一つの段階に注意を向けることで良心の安らぎの回復を早めることができます。救い主は、赦しを受けるにはほかの人の自分に対する不愉快な行いを赦さなければならないことを明確にしておられます。

「主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。

あなたがたは心の中で言うべきである。すなわち、『神がわたしとあなたの間を裁き、あなたの行いに応じてあなたに報いてくださるように』と。」<sup>5</sup>

「また立って祈るとき、だれかに対して、何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい。そうすれば、天にいますあなたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださるであろう。

〔もしゆるさないならば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちを、ゆるしてくださらないであろう。〕」<sup>6</sup>

もしいわれのないひどい扱いを受けたことがある場合、不当だと思われることに対して憎しみや怒りの感情を抱き続けてはなりません。自分に何の罪もないときでも、自分を傷つけた相手を赦してください。大変な努力が求められるかもしれません。そのような赦しは最も難しいのですが、安らぎと癒しへの確かな道なのです。もし皆さんが被った深刻な罪に対して罰が求められる場合には、教会および国家の権威者に任せてください。報復しようなどと考えて自らの人生に重荷を負わせてはいけません。主の正義が行われる過程は、ひきうすで粉をひくように、ゆっくりと、しか



しきわめて着実に進められます。律法に背き、未解決のままであるならば、その結果を免れる人は主の計画においてだれもいません。悔い改めていない邪悪な行いに対しては、主の時に主の方法で、完全な報いが求められるでしょう。

悔い改めに必要なあらゆる段階の中でもっと重要なのは、赦しはイエス・キリストによって、またキリストを通じてもたらされるという確信を持つことです。そのことを証します。主の条件に従うときにのみ赦されると知っておくことはきわめて重要です。キリストを信じる信仰を行使するとき、皆さんは助けを得るでしょう。<sup>7</sup> キリストを信じる信仰を行使するとは、主とその教えを信頼するということです。サタンは皆さんに、重大な背きは完全に克服することはできないと信じさせようとします。しかし、救い主はその命をささげて、罪のない者の血を流すことと聖靈を否定することを除くあらゆる背きの影響が悔い改めによって取り去られるようにしてくださいました。これらのことを見ます。<sup>8</sup>

真の悔い改めの実は神の赦しであり、それはこの地上に用意されているすべての聖約と儀式を受け、またその結果としてもたらされる祝福を享受するための扉を開きます。十分に悔い改めて清められるとき、人は人生とその栄えある可能性についての新たなビジョンを得ます。主の次の約束は何と驚くべきものでしょうか。「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」<sup>9</sup> 主は、御自身の言葉に忠実な御方であり、いつまでも忠実であられます。

もし律法を破ったことで良心に悩みを抱えているなら、どうぞ、戻って来てください。個人の清さという冷たくてさわやかな水に戻って来てください。天の御父の愛という温かくて安心できるところに戻って来てください。神の戒めに従うことによってもたらされる良心の安らぎと落ち着きのある場所に戻って来てください。

戻る道を提案させてください。一人で始めて、自分のペースで進むことができます。モルモン書を注意深く研究するようお勧めします。人々が悔い改めを妨げる



台湾で総大会の衛星放送に出席する陳家族

障害をどのように克服したかを教えている聖句がたくさんあります。例えば、アルマはシブロンに次のように語っています。

「わたしは3日3晩、激烈な苦痛と苦悩にさいなまれ、主イエス・キリストに憐れみを叫び求めるまでは、決して罪の赦しを受けなかった。しかし……主に叫び求めたところ、自分の靈に安息を得た。」

また人が救われるのにはただキリストにより、キリストを通じてだけであり、決してほかの方法や手段はないことを……学ぶるようにするためである。見よ、キリストは世の命であり光であられる。」<sup>10</sup>

この聖句から、苦しみは赦しをもたらさないことが分かります。赦しはキリストを信じる信仰と主の教えへの従順によって受けられるのであり、それによって主の贖いの賜物は奇跡を生むことができるのです。主は次のように招いておられます。

「見よ、わたしは、世に贖いをもたらし、世の人々を罪から救うために……来た。

それゆえ、悔い改めて幼子のようになわたしのものに来る者を、わたしはだれでも受け入れよう。……それゆえ……悔い改め、わたしのものに来て救われなさい。」<sup>11</sup>

モルモン書が教えていることを実践してください。救い主のことを語っている節について深く考えてください。主を知ろうと、祈りの気持ちで努力してください。御子を信じる信仰を強め、主の戒めに従う力を

与えてくださるよう天の御父に求めてください。準備ができたときに、思いやりにあふれた監督の援助を求め、悔い改めの過程を完成する助けを得てください。そのときに皆さんは良心の安らぎと、主が皆さんを赦してくださったという確信を得ることができます。

どうか戻って来てください。すべての用意が整うまで待たないでください。わたしたちは皆さんとともに歩きます。皆さんを愛しています。どうか戻って来てください。

もし過去の重大な背きのために自分自身を赦せずにいるならば、また、イスラエルの判士から確かにふさわしい悔い改めを行ったと言われているにもかかわらず、絶えず自分自身を非難せずににはおられず、頻繁に過去の誤りを細かく思い出して苦しんでいるならば、救い主の次の御言葉を深く考えるよう心からお願いします。

「自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」

人が罪を悔い改めたかどうかは、これによって分かる。すなわち……彼はそれを告白し、そしてそれを捨てる。」<sup>12</sup>

すでにふさわしい悔い改めがなされているときに苦しみ続けることは、救い主の促しによるものではなく、皆さんを縛り奴隸にすることを目指している偽りの主の促しによるものです。サタンは、皆さんが過去の間違いを事細かに思い出し続けるよ

# 主の側に立つ

第二副管長  
ジェームズ・E・ファウスト

**幸せや喜びを見いだすには、何が起ころうとも確固として主の側に立っていなければなりません。**



**愛**する兄弟姉妹と友人の皆さん、  
ヒンクレー大管長は、年を取る  
と喜びも多いが苦しみも多いこ  
とを思い起こさせてくれました。今日皆さ  
んに話すに当たり座っているのはそのた  
めです。背中に痛みが走る椎間板ヘルニ  
アから回復しているところです。医者から  
はやがて完治すると言われました。

先ごろ亡くなった二人の長老が、その  
すばらしい奉仕の業で世界中にもたらして  
くれた祝福に心から感謝します。十二使  
徒定員会のニール・A・マックスウェル長老  
とデビッド・B・ヘイト長老、二人は偉大な  
指導者でした。また、強さと信仰を持った  
ウークドルフ長老とベドナー長老を、十  
二使徒定員会のすばらしい評議会に歓迎  
します。

今朝ここで話すことが誤解なく伝わるよ  
う、へりくだり祈ります。世にはますます不  
法がはびこり、生きること、まして幸せや喜

びを見いだすことはさらに難しくなってい  
ます。しかし、何が起ころうとも確固として  
主の側に立っていなければなりません。  
いついかなるときでも忠実であるよう努め  
る必要があります。主への信頼という基を  
決して揺るがせてはならないからです。わ  
たしのメッセージは、不当とも思えるこの  
世の痛みや苦しみ、災難、心痛に対して  
困惑している人に希望と助言を与えるも  
のです。このような疑問を持つことはない  
でしょうか。

「どうしてわたしは身体的また精神的な  
弱点を持って生まれたのだろう。」

「どうしてこんなに苦しまなければなら  
ないのでだろう。」

「なぜ父は脳卒中でみんなに苦しまな  
ければならなかつたのだろう。義にかなつた  
人で、主と教会にいつも忠実だったのに。」

「なぜ母を2度も失わなければなら  
ないのでだろう。アルツハイマー病で母の人格を  
失い、次に死によって母自身を失つたのだ。  
天使のように優しい人だったのに。」

「なぜ主は幼い娘の命を助けてくださら  
なかつたのだろう。大切な娘で、こんなに  
愛していたのに。」

「主はなぜ、わたしたちが望むとおりに  
祈りにこたえてくださらないのだろう。」

「理不尽な世の中だ。悪い行いをして  
いながら、欲しいものや必要なものをすべ  
て手に入れているように思える人もいるの  
だから。」

悪人だけでなく善人にも災難が降りか  
かる理由について、アーサー・ウェントワー  
ス・ヒーウィット博士は次のように述べてい  
ます。「第1に、分かりません。第2に、わた

うに駆り立てます。そのような思いによつ  
て赦しが実現不可能なものに思えてくるこ  
とを知っているのです。こうしてサタンは  
心と体に糸を結びつけて皆さんを人形の  
ように操ろうと試みます。

わたしは証します。監督やステーク会長  
から皆さんの悔い改めは十分であると確  
認を受けているなら、皆さんが破った律  
法に対する正義の要求は、皆さんのがんば  
さのためにイエス・キリストの贖罪によって  
満たされているのです。ですから皆さん  
はもう自由なのです。どうぞ、そのことを信  
じてください。十分な悔い改めの後に罪  
の重苦しい影響に苦しみ続けることは、意  
図的ではなくても、自分のための救い主の  
贖罪の効力を否定することなのです。

過去の過ちの記憶が心に入り込んでき  
たとき、アンモンは思いをイエス・キリスト  
と赦しの奇跡に向けました。すると彼の  
苦しみは救い主の愛と赦しに対する喜び  
と感謝に変わりました。<sup>13</sup> どうぞ、行って同  
じようにしてください。良心の安らぎと心  
の安らぎを、それらに伴うすべての祝福と  
ともに享受できるように、今すぐそうしてく  
ださい。イエス・キリストの御名によって、  
アーメン。

## 注

- モーセ4:2-3参照
- 『聖句ガイド』「光:キリストの光」の項、  
212参照
- モロナイ7:16参照
- ヨハネ1:9; 教義と聖約84:46-47
- 教義と聖約64:10-11
- マルコ11:25-26
- 2ニーファイ9:22-24; アルマ11:  
40参照
- 「赦されない」(Unpardonable)——ヘ  
ブル6:4-8; アルマ39:6; 教義と聖  
約76:31-38; 132:27参照。「赦し  
を得られない」(Unforgivable)——教義  
と聖約42:18参照
- 教義と聖約58:42
- アルマ38:8-9
- 3ニーファイ9:21-22
- 教義と聖約58:42-43
- アルマ26:17-20

したちは自分で思っているほど善良ではないからです。しかし第3に、……主にとっては、わたしたちの幸福よりもわたしたち自身の方がずっと大事だからという理由が挙げられます。なぜでしょうか。では、行いに応じて個人に必ず報いが与えられるとします。善人はすべて常に幸福で、悪人はすべて災難に見舞われるのです。(現実には正反対のことがよく起りますが。) 人格を破壊する方法として、これほど巧妙なものが考えられるでしょうか。」<sup>1</sup>

またキンボール大管長は次のような洞察力のある言葉を残しています。

「悪を行った場合に、苦痛や悲しみ、徹底的な罰が直ちに与えられるとしたら、悪事を繰り返す人などいないでしょう。善を行えば直ちに喜びや平安、報いが得られるとしたら、悪人はいなくなります。すべての人が善を行いますが、正しいことをしたいという望みからではありません。この場

合、人を強くする試練もなければ、人格形成も才能を伸ばす機会も選択の自由もありません。……そこにはまた、喜びも成功も、復活も永遠の命もなく、神となることもないのです。」<sup>2</sup>

神への愛は、利己的なもろみのない純粹なものでなければなりません。キリストの純粹な愛が、わたしたちの献身する動機でなければならぬのです。

さて、すべてが死をもって終わるとしたら、こうした苦難は実に理不尽だと言わざるを得ません。しかし、実際は違います。人生は1幕の劇ではなく、3幕あるのです。前世にいたときの過去の幕、今経験している現世の幕、そして神のみもとに戻る未来の幕の3幕です。<sup>3</sup> イエスはこう約束なさいました。「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。」<sup>4</sup> わたしたちがこの世に来たのは、試練を受け、試されるためです。主がアブラハムに説明されたように、「これ

によって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見」<sup>5</sup> るのです。

パウロが言ったように、過去の苦労、現在の苦しみは、永遠の世で「わたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足り」<sup>6</sup> ません。「多くの難難の後に祝福は来る。それゆえ、あなたがたが大いなる栄光を冠として与えられる日が来る」<sup>7</sup> からです。このように難難は、わたしたちが日の栄えの王国に入るにふさわしい者となるうえで役立ちます。

中には、信仰や永遠の計画に関する知識が欠けているためにかたくななり、望みを失う人もいます。このような人の一人に、ある19世紀の作家がいます。機知に富んだ軽快な筆致で名をはせ、財を成した人です。信仰深い家庭で育った妻を持つこの作家は宗教を求めていましたが、神が実在するという確信がありませんでした。





た。そして、大きな試練が続けざまに訪れます。國中が経済危機に陥った1893年、大きな負債を抱え込みます。講演旅行中に長女を亡くし、体を壊した妻も1904年に世を去ります。1909年には末娘も亡くなり、彼自身も体調を崩してしまいます。かつては輝きに満ちていた作品にも、実生活の苦難が映し出されるようになっていきます。次第にふさぎ込み、偏屈になり、世をはかなむようになった彼は1910年、失意のうちに亡くなります。才能に恵まれていたにもかかわらず、逆境に立ち向かう内面的な強さが欠けていたため、悲運に屈してしまったのです。

何が起こるかよりも、起こったことにどう対処するかが大切です。アルマ書の一節を思い出します。戦争が長期に及んだため「多くの者がかたくなにな[りました]」が、「苦難を受けたために柔軟になった者も多く」<sup>8</sup>いました。同じ状況に対して、まったく反対の反応があったのです。多くのものを失った作家は、信仰の泉から水をくみ上げることができませんでした。この試しの世の一部である苦難を克服できるよう、わたしたちは皆、信仰を蓄える必要があります。

1844年に教会に入ったウェールズ人の改宗者トマス・ジャイルズも、人生で多く

の苦難に遭いました。鉱山労働者だったジャイルズ兄弟は、炭鉱で石炭を掘っているときに大きな石炭の塊が頭上に落下し、23センチもの傷を負ったのです。けがを診た医師からは、良くて24時間の命と宣告されました。ところがその後やがて来た長老たちから癒しの儀式を受けると、癒されると約束されました。そして「二度と光を見ることがなくても、生きて教会の中で多くの善き業を行うであろう」と言われたのです。ジャイルズ兄弟はそのとおり一命を取り留めましたが、生涯盲目でした。しかし、そのけがから1か月もたたないうちに、「彼は國中を巡って神の業を果たすようになっていました。」

1856年に、ジャイルズ兄弟は家族とともにユタに移住しました。祖国を去る前にウェールズの聖徒たちから豊かな豊饒の儀式をプレゼントされると、練習の末、見事に弾きこなせるようになりました。カウンシルプラッフスで手車隊に加わり、西に向かいました。「盲目にもかかわらず、カウンシルプラッフスからソルトレーク・シティまで手車を引いたのです。」平原を横断する途中に妻と二人の子供を失い、「深い悲しみで心が張り裂けんばかりでした。しかし、信仰を失うことはなく、この悲しみのさなかにあって、いにしえのヨブと同じ言葉を語ったので

す。『主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな。』」<sup>9</sup> ソルトレーク・シティに着いたとき、話を聞いていたブリガム・ヤング大管長は、本人の豊饒の儀式をウエールズから届くまで、ジャイルズ兄弟に高価な豊饒の儀式を貸しました。ジャイルズ兄弟は「ユタの入植地を次々に回って……豊饒の儀式を奏で、人々の心を喜ばせました。」

主から与えられた道徳的な選択の自由をどう用いるかによって、人生で起こる幾つかのことの理由が分かれます。わたしたちが行う選択の中には、良い結果を生むかどうか予測できないものもありますが、たいていの場合、有害もしくは致命的な結果をもたらす選択については事前に分かるものです。わたしはこれを「承知のうえでの選択」と呼びます。破滅的な結果を招くことを知っているからです。このような選択には、不適切な性的関係、薬物やアルコール、たばこの摂取などがあります。不幸なことに、こうした選択をすることで伝道に出る機会や神殿結婚の祝福を失うことがあります。悪い結果を承知のうえで選択するのは、世の誘惑に惑わされて現実を見失い、誘惑に屈してしまうからです。異性との交際においては、最初に誤った選択をすると、後で取り返しのつかないことになる場合があります。

それでは、わたしたちはどうあるべきでしょうか。日々の義にかなった行いによって神への心からの愛を示すなら、神はわたしたちが御自身の側にいることを認めてくださいます。すべての人にとってこの人生は試しの時であり、清めの時期です。試練はだれにでもあります。ジャイルズ兄弟のように、持ち物をすべて荷車や手車に積んでアメリカ大陸を横断するかどうか決断を迫られたとき、初期の教会員たちはやり通す信仰があるかどうか試され、清められました。やり通すだけの信仰がない人もいました。信仰のある人々は、「信仰を込めて一歩ずつ」旅を続けたのです。今日、わたしたちは試練と清めを受けるに当たって、ますます困難な時代に生きています。善悪の境界が不明瞭になっている現代では、試練はもっと巧妙になっています。メディアで神聖な事柄が語られることは、ほとんどないと言っていいでしょう。このような状況の中で、わたしたちは常に永遠の真理と聖約を守るという決意を貫き通す必要があるのです。

苦難に対処する方法については、「ウツの地〔の〕ヨブという名の人」から多くを学ぶことができます。「そのひととなりは全く、かつ正しく、神を恐れ、悪に遠ざかって」<sup>11</sup>いました。サタンは主の御前から出て行くことを許され、ヨブを誘惑し、試しました。裕福な人で7人の息子と3人の娘があったヨブは、その財産も子供もすべて滅ぼされました。その結果、ヨブはどうなったでしょうか。ヨブは、主についてこう語っています。「見よ、彼はわたしを殺すであろう。それでもわたしは主を信頼しよう。」<sup>12</sup>「これこそわたしの救となる。」<sup>13</sup>ヨブはこう宣言します。「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後のために彼は必ず地の上に立たれる。わたしの皮がこのように滅ぼされたのち、わたしは肉にあって神を見るであろう。」<sup>14</sup>ヨブは完全に主を信頼し、すべてを神にゆだねていました。

人生で喜びを見いだす方法は、ヨブのように、神と神の業のためにすべてを堪え忍ぶと決意することです。そうすることで、救い主とともに永遠に生きるという究極の計り知れない喜びが与えられるのです。

よく知られた賛美歌にあるとおりです。

主、われに頼るもの  
敵の手には渡し得ず  
地獄、彼に迫るとも  
われその靈を見捨てはせず  
必ずわれは見捨てず<sup>15</sup>

ハワード・W・ハンター大管長はかつて言いました。「神は人の知らないことを御存じであり、人の見ないものを御覧になる。」<sup>16</sup>主の知恵を測り知ることのできる人はいません。主がどうやってわたしたちを現状から望ましい状態に引き上げてくださるのか、前もって正確に知ることはできません。しかし主は、祝福師の祝福の中で大まかな道筋を示してくださいます。永遠の命へと続く人生の旅路には山や谷、分かれ道がたくさんあります。旅の途中には、学んだり、改めたりすることがたくさん出でます。主はおっしゃいました。「懲らしめに耐えない者は、わたしの王国にふさわしくないのである。」<sup>17</sup>「主は愛する者を訓練」<sup>18</sup>されるからです。

地上にいる間、わたしたちは疑わずに信仰によって歩まなければなりません。人生の旅がつらくて堪え難く思えるときには、主の次の言葉に慰めを見いだしてください。「わたしはあなたの祈りを聞き、あなたの涙を見た。見よ、わたしはあなたをいやす。」<sup>19</sup>癒しの中には、次の世で与えられるものもあります。この世にいる間は決して理解できないこともあります。苦しみの中には、主にしかその理由がお分かりにならないものもあるのです。

ブリガム・ヤング大管長は、わたしたちが経験する苦難の少なくとも幾つかには目的があるという、深い洞察に満ちた言葉を語っています。

「栄光、不死不滅と永遠の命という冠を受けるすべての英知ある存在は、彼らが栄光と昇栄を得るために経験しなければならないすべての試練をくぐり抜けなければなりません。死すべき人間にもたらされるすべての災いは、主の前に行く人々がその準備をするために与えられます。……あなたがこれまでに堪え忍んできた試し

と経験の一つ一つがあなたの救いに必要なのです。」<sup>20</sup>

大いに希望を持ちましょう。進んで主にすべてをささげれば、喜びが得られるのです。そうすれば、この世の問題をすべて克服できるという無限の計り知れない可能性が与えられます。わたしたちは救い主とともに永遠に生きることができ、ブリガム・ヤング大管長が言ったとおり、「忠実な者に神が用意しておられる栄光、卓越、昇栄を喜びとともに手にするという望みを持つことができる」<sup>21</sup>のです。神は生きておられ、イエスはキリストです。ゴードン・B・ヒンクリー大管長はわたしたちの預言者です。現世はわたしたちが皆、神にお会いする用意をする時期です。イエス・キリストのみなみの御名によって証します。アーメン。

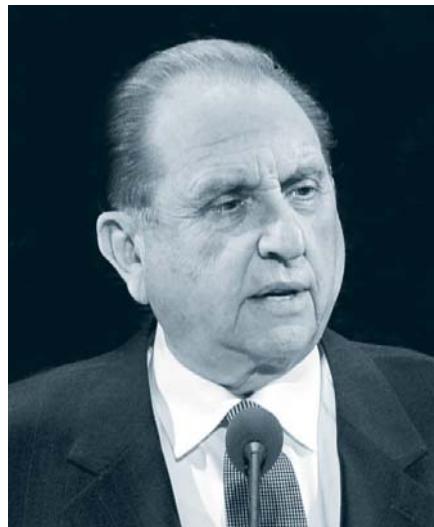
## 注

1. 手紙からの抜粋
2. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編 (1982年), 77
3. 伝道12:7参照
4. ヨハネ14:2
5. アブラハム3:25
6. ローマ8:18
7. 教義と聖約58:4
8. アルマ62:41
9. ヨブ1:21参照
10. アンドリュー・ジェンソン, *Latter-day Saint Biographical Encyclopedia*, 全4巻, (1901-1936年) 第2巻, 507-508参照
11. ヨブ1:1
12. 欽定訳ヨブ13:15から和訳
13. ヨブ13:16
14. 欽定訳ヨブ19:25-26から和訳
15. 「主のみ言葉は」『賛美歌』46番
16. 『聖徒の道』1988年1月号, 63参照
17. 教義と聖約136:31
18. ヘブル12:6
19. 列王下20:5
20. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』287-288
21. "Remarks," *Deseret News*, 1871年5月31日付, 197

# 教会役員の支持

第一副管長

トーマス・S・モンソン



**兄弟姉妹の皆さん、** ヒンクレー大管長の依頼により、これから、教会の中央幹部、地域幹部七十人、ならびに中央補助組織会長会の名前を提議しますので、賛意の表明をしていただきたいと思います。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持してください。また、第一副管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、第二副管長としてジェームズ・エスド拉斯・ファウストを支持してください。提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。  
反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・パッカーを、また十二使徒定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーラス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリーン、リチャード・G・スコット、ロバート・

D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング、ディーター・フリー・ドリック・ウークトドルフ、デビッド・アラン・ベドナーを支持してください。提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。  
反対の方。

副管長と十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持してください。提議いたします。

賛成の方は皆、その意を表してください。  
反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

ディーター・F・ウークトドルフ長老が十二使徒定員会に召されたため、七十人定員会の会長会、および七十人第一定員会から解任する提議いたします。賛成の方は皆、その意を表してください。

七十人第二定員会会員としての働きに感謝を示し、E・レイ・ペイトマン、バル・R・クリステンセン、キース・クロケット、メリル・C・オーラス、ゴードン・T・ワット、スティーブン・A・ウェストの各長老を栄誉をもって解任いたします。

賛成の方は皆、その意を表してください。  
以下の人々の忠実な働きに感謝を表し、地域幹部七十人から解任いたします。

ホアン・A・アルバラデホ  
フリオ・E・アルバラド  
モデスト・M・アミスタッド・ジュニア  
ホラシオ・P・アラヤ  
デビッド・A・ベドナー  
ロバート・K・ビルズ  
ハロルド・C・ブラウン  
V・フランシスコ・チン・チエイ  
アルマンド・ガオナ  
エドワルド・A・ラマルティネ  
ゲーリー・S・松田  
フリオ・E・オタイ

カルロス・L・ペドロハ

ホルヘ・A・ペドレロ

ホアン・R・C・マーティンズ・シルバ

イラハ・B・ソアレス

ヘクトール・M・ベルデューゴ

ホルヘ・F・ゼバロス

感謝の意を表明してくださる方は、手を挙げてその意を表してください。

七十人定員会会長会の会員としてロバート・C・オーラス長老を支持してください。提議いたします。

賛成の方は皆、その意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

地域幹部七十人としてアンドリュー・M・フォードを支持してください。提議いたします。

賛成の方は皆、その意を表してください。

反対の方。

そのほかの中央幹部、地域幹部七十人、中央補助組織会長会を現状のまま支持してください。提議いたします。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

全員一致で賛成の支持が得られたようです。

兄弟姉妹の皆さん、の信仰と祈りに感謝いたします。



# 「定員会とは何ですか」

十二使徒定員会

レ・トム・ペリー

神権者であることにより受けることのできる最大の祝福の一つ……は、神権定員会に属するということです。



あなたは、教会の基を据えて、最も聖なる信仰のためにこれを築き上げるように、聖靈による靈感を受けた。

この教会は、あなたがたの主の1830年、第4の月、4月と呼ばれる月の第6日に組織、設立された。」(教義と聖約21:2-3)

この日、ニューヨーク州セネカ郡フェイエットにあるピーター・ホイットマー・シニアの家で、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリ、および、スミス家とホイットマー家の人々が集まりました。ふさわしい歌と祈りの後、教会の組織に関する啓示が、集まった人々に読み上げられました。この啓示により、神権の方式と教会役員の義務とが定めされました。今日、教会の全組織はその方式どおりに構成されています。

「……前に受けた戒めに従って、預言者ジョセフは、出席した兄弟たちに尋ね

た。ジョセフとオリバー・カウドリを神の王国に関する事柄の教師として受け入れるかどうか、さらに、兄弟たちが主の戒めに従って教会の組織化を積極的に推進していく意志があるかどうかを知るために、それに対し、彼らは全員一致で賛成した。」(B・H・ロバーツ, *A Comprehensive History of The Church*, 第1巻, 196)

こうして、きわめて初期の段階で方式が定められました。「すべてのことは、大いなる祈りと信仰によって、教員の同意を得て行わなければならない。すべてのことを、あなたがたは信仰によって受け入れなければならないからである。」(教義と聖約26:2)

この教会の指導者を支持する直角に挙げた手を見る度に、わたしは体中が特別な感動に包まれます。今日、二人の新しい十二使徒定員会の会員が、このカンファレンスセンターで、また、テレビやインターネット、衛星放送を通じて世界中あらゆる地域に住む教員の支持を受けました。

ウクトドルフ長老、そして、ベドナー長老、お二人はデビッド・B・ヘイト長老とニール・A・マックスウェル長老が亡くなつたことに伴つて、その空席を埋めるために支持されました。わたしは十二使徒定員会の会員として、わたしたちに与えられたこの神聖な召しの一翼を担うこととなつたお二人を心から歓迎します。もちろん、ヘイト長老とマックスウェル長老との交わりがないのは寂しいことです。ヘイト長老はこれまでの28年間、大会で

はいつもわたしの隣に座っていました。その隣に長年座っていたのがマックスウェル長老でした。ヘイト長老ほどの熱意もなく、マックスウェル長老のような豊かな表現力のないわたしに、この二人の偉大な兄弟たちと長きにわたつて深めてきた親交をどのように感じていたか十分に言葉にできないのが残念です。二人のおかげでわたしの人生はよりいっそう豊かになりました。この長きにわたる親交が懐かしい限りです。

世界を巡つてイエス・キリストの福音を宣言する十二使徒の業には豊かな伝統があります。例えば、1837年6月4日、日曜日のことです。預言者ジョセフ・スミスは、カートランド神殿でヒーバー・C・キンボール長老に近づき小声で言いました。「ヒーバー兄弟、わたしに主の御靈がささやきました。『わたしの僕ヒーバーをイギリスに行かせてわたしの福音を宣べ伝え、その国民の救いの扉を開けさせなさい。』」(オーソン・F・ホイットニー, *Life of Heber C. Kimball* [1945年], 104で引用)

ヒーバー・C・キンボールとブリガム・ヤングが家族を置いてイギリスに旅立つた記述は、まさに、受けた召しのために二人が進んで払つた犠牲を示すものです。こう記録されています。

「[1839年]9月14日、ブリガム・ヤング長老はイギリスでの伝道に向かうためモントローズの家を出発した。体調は非常に悪く、人の助けがなければ150メートル離れたミシシッピ川までも行けない状態だった。川を渡り、イスラエル・バーローとともに馬で、わたし[ヒーバー・C・キンボール]の家に着いたものの、18日まで体調は回復しなかった。彼は、生後わずか3週間の赤ん坊を抱えた病気の妻を残して来ていた。ほかの子供たちも皆病気で、互いの面倒を見ることはできなかった。井戸まで行って手おけ1杯の水をくむことのできる者は一人もいなかった。しかも、ミズーリで持っていた物のほとんどを暴徒に奪われたために着替えの服もなかった。17日、妻のメアリー・アン・ヤング姉妹は一人の男の子の助けを借りて幌馬車でわたしの家までやって來た。ブリガム兄弟



の世話をし、慰めるためだった。」(Life of Heber C. Kimball, 265で引用)

ヒーバー・C・キンボールの家族も病気でした。チャールズ・ハバードは自分の息子を幌馬車で二人のもとへ行かせ、二人が旅を始められるようにしました。キンボール長老は次のように記録しています。「死に抱き抱えられているような状態の家族を残して出かけることを思うと、胸が張り裂けそうだった。もう耐えられないと思ったわたしは、御者に馬車を止めてもらい、ブリガム兄弟にこう言った。『ほんとうにつらいですね、体を起こして、皆にエールを送りましょうか。』わたしたちは身を乗り出ると、帽子を頭上で3度振って、『イスラエル、万歳』と叫んだ。」ヤング姉妹とキンボール姉妹は戸口まで出て来て、手を振って別れを告げました。ブリガム兄弟とヒーバー兄弟は安心し、「財布も袋も持たずに」イギリスまでの旅を続けました。(Life of Heber C. Kimball, 265-266参照)

英文の聖書辞典には、使徒とは「遣わされた者」という意味であると説明されています。「……使徒の召しは、世界中でイエス・キリストの御名の特別な証人となるこ

とであり、特に、キリストの神性と、死からの肉体の復活を証<sup>あかし</sup>することである。……この崇高な召しにあずかる12人の男性は、教導の業における管理評議会を構成する。……現在、同じ神聖な召しと聖任を受けた12人の男性が末日聖徒イエス・キリスト教会における十二使徒定員会を構成している。」("Apostle"の項, 612)

十二使徒は今でも引き続き「遣わされた者」です。わたしたちが割り当てを果たすために旅をするときと、教会初期の使徒たちが旅をしたときとでは、状況が異なっています。現在、世界中を旅する方法は初期の使徒たちの時代とは随分違うのです。しかし、わたしたちの責任は、かつて救い主がお与えになったのと同じです。主は御自分が召した使徒にこう指示を出されました。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ28:19-20)

新しく召された二人の兄弟たち、わたし

は、お二人が定員会に属する意味を新たに理解するようになることを約束できます。わたしたちが自分の評議会を大事にし尊重する気持ちを、教会のすべての定員会が持てるよう願っています。執事、教師、祭司、長老、そして、大祭司定員会の皆さん、神権者であることにより受けることのできる最大の祝福の一つであるとわたしが信じていることについて、少しの間耳を傾けてください。この特別な祝福とは、神権定員会に属するということです。

何年も前になりますが、ステイブン・L・リチャーズ副管長は、教会の管理体制に関するすばらしい勧告を与えました。彼の話は次のようなものです。

「教会管理の真髄は、評議会によって管理するところにある。……神の王国を治めるために評議会が設けられたのは、神の知恵によるのである。……わたしたちが御業に携わる際、共通した精神というものがある。人々は一見異なった見解と実に様々な背景をもって集まり、その共通した精神の下に、ともに評議することによって、一致に到達することができるのである。……わたしは何のためらいもなく、確信をもって言うことができる。皆さんが、

期待されているとおりに評議会で話し合うなら、神は皆さんに抱えている様々な問題を解決できるようにしてください。」(Conference Report, 1953年10月, 86)

では、定員会に属することでどんなすばらしい恩恵が受けられるのでしょうか。もう一度スティーブン・L・リチャーズ副管長の言葉を読みます。「定員会とは次の3つを指します。第1にクラス、第2に兄弟愛、第3に奉仕を行う組織です。」(Conference Report, 1938年10月, 118)

わたしはこの真髄を十二使徒定員会の働きにはっきり見ることができます。王国の教義をともに勉強するとき、わたしたちはクラスです。それがどんなに特別な経験となるか想像できるでしょうか。定員会の集会で、エズラ・タフト・ベンソン長老、マーク・E・ピーターセン長老、リグランド・リチャーズ長老、ハワード・W・ハンター長老、ブルース・R・マッコンキー長老、デビッド・B・ヘイト長老、ニール・A・マックスウェル長老たちから福音の教義を教わるのです。わたしが地上での働きを終えた兄弟たちだけを挙げたのは、健在の使徒の一部をひいきしないためだということは分かりますね。皆さんは、この同じ祝福

を皆さん定員会の中で得ることができます。過去、そして現在の使徒たちの言葉が、聖文や大会の説教の中に、教会機関誌やディボーショナルの記録などに収められています。それらが利用できるようになっているのは、皆さんの定員会のクラスに王国の教義の力をもたらすためです。皆さんの定員会を、わたしたちの主である救い主の福音の知識を増すクラスとしてください。

わたしたちの定員会には特別な兄弟愛があります。この召しに伴う御靈を受けて、わたしたちは互いに高め合い、感化し合い、祝福し合います。苦しむ者があれば、11人がその重荷と一緒に背負って、分け合おうとします。時には、達成感に満たされてともに喜びます。悲しいときにはともに泣きます。一人で問題を抱えているかのように思うことは決してありません。定員会の会員からいつも勧告や援助、助け、励ましがあるのです。

『神権と教会管理体制』(Priesthood and Church Government)という本には、すべての神権定員会にあるべき兄弟愛について次のように書かれています。「神権とは偉大な兄弟愛であり、福音の骨格を

構成している永遠不变の律法によって結ばれています。すべての定員会にその兄弟愛が浸透していかなければなりません。定員会が第一に考えるべきことは、物質的、精神的、靈的な助けを必要とするあらゆる人々を援助することです。定員会のすべての計画と活動は、兄弟愛の精神がその推進力となっていかなければなりません。賢明に、根気強くこの精神を高めていくなら、神権者にとって、定員会は最も魅力的な組織となることでしょう。」(ラジャー・クローソン, *A Guide for Quorums of the Melchizedek Priesthood* の序文[1930年], 3。ジョン・A・ウイツォー編, *Priesthood and Church Government*, [1939年], 135で引用)教会の各神権定員会でこのような兄弟愛をはぐくんでください。

最後に、定員会の目的はただ一つ、奉仕です。恐らくこの責任に対するわたしたちの深い気持ちは、当時十二使徒定員会の会長を務めていたウィルフォード・ウッドラフによる1886年10月26日付けの公式の手紙によく表されています。「わたしは使徒たちに申し上げます。わたしたちの責任は非常に重要です。……わたした



ちはどのような人物であるべきでしょうか。全地の罪悪は熟しつつあり、神のシオンは花婿の来るときに備えなければなりません。わたしたちは主の御前に謙遜になり、召しにかかる御靈、聖靈、そして、イエス・キリストの啓示で満たされるような状態でいなければなりません。それは、神のわたしたちに対する御心を知るためであり、この召しを尊んで大いなるものとする備えをなし、義をもたらし、最後までイエス・キリストの証に雄々しくなるためです。……今ほど、使徒や長老たちの信仰深い証と働きが神の業に求められる時代はかつてありませんでした。」（“An Epistle” Deseret News, 1886年11月24日付, 712）定員会の会員すべてが恩恵を受けられるよう、皆さんの定員会を偉大な奉仕の組織にしてください。

ここで、聖文に記された警告の声を聞いてください。

「それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。

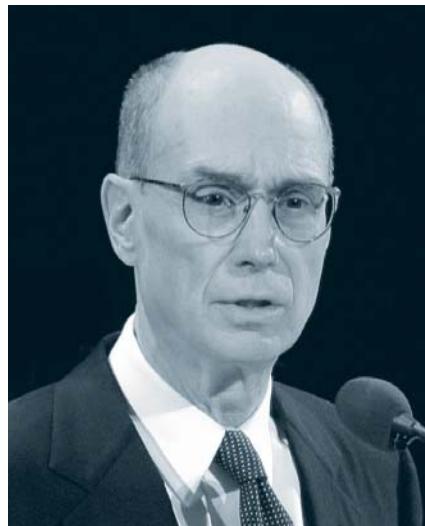
怠惰な者は、その職にいるにふさわしい者と見なされない。また、自分の義務を学ばず、認められるに足る者であることを示さない者は、その職にいるにふさわしい者と見なされない。」（教義と聖約107:99-100）

十二使徒定員会に加わった二人の兄弟たち、それに、神の神権に属する兄弟の皆さんに申し上げます。奉仕の召しに携わるわたしたち一人一人を神が祝福してくださいますように。義にかなった心で奉仕をし、忠実に戒めを守り続けるとき、信仰が強められますように。永遠の真理の泉を探し求めるときに、証がさらに強くなりますように。この現世の生涯を送る間、定員会にある兄弟愛が慰めとなり、力となり、守りとなりますように。また、天の御父の王国の僕として、わたしたちが義務と責任を果たすために前進するとき、福音の奉仕を通して得られる喜びが胸に十分に満たされますように。イエス・キリストの御名により、へりくだり祈ります。アーメン。

# 信仰と鍵

十二使徒定員会  
ヘンリー・B・アイリング

**わたしたちを導き、わたしたちのために動いている指導者が鍵を保持していることを、靈感によって知る必要があります。そのためには、御靈の証を受けなくてはなりません。**



ソルトレーク・シティーから離れた、十二使徒定員会の会員がほとんど訪れる事のない地域にある教会を訪れたとき、一人の父親が小さな息子の手を引いて近づいて来ました。わたしの前に来ると、父親は息子の方を見て、息子の名を呼び、わたしに会釈しながら「この方は使徒だよ」と言いました。声の調子で、この父親が、息子の目の前にいるのが大切な訪問者以上の者であることを、息子に感じとってほしいと願っているのが分かりました。神権の鍵が主の教会に存在しているという事実を確信できるように望んだのです。この男の子には、そのような確信がこれから幾度となく必要となることでしょう。将来、一度も会ったことのない預言者から送られてくる伝道の召しの手紙を開くとき、子供、妻、あるいは親を墓に横たえるとき、

奉仕の指示に従うために勇気が必要なとき、永遠につなぐ結び固めの力を信頼し、慰めを得る必要のあるときに、そのような確信が必要となるのです。

宣教師も同じ願いをもって、福音を教えている人を監督や支部長に会わせることでしょう。宣教師は、福音を学んでいる人が、監督や支部長に会ったときに、単に善い人、あるいははすばらしい人ではなく、それ以上の者であると感じられるようにと願っています。一見普通のこの男性が主の教会における神権の鍵を保持していることを、彼らが確信できるようにと、宣教師は祈ることになるでしょう。福音を学ぶ人は、バプテスマの水に入るときに、そのような確信を必要とします。自分の一を納めるとき、監督に下った靈感によって召しを受けるとき、監督が聖餐会を管理するのを目にすると、そして監督から福音の教えを聞き、養いを受けるときにも、そのような確信が必要となるのです。

主の教会の中で奉仕する主の僕が神権の鍵を保持しているという確固とした証——その証を、愛する人が得られるように、宣教師や父親、さらに教会で奉仕する人々は皆、願っています。わたしは今日、その証を徐々に教え、強めようと努めているすべての人を励ますために話します。

次のことが納得できるよう助けたいのです。まず、偉大な神は、神権の力による祝福を御自身の子供たちに惜しみなく与えたいと絶えず願っておられること。第2に、神の子供たちはその祝福を受ける資格を得、祝福を受けることを自ら選択しな

ければならないこと。第3に、義の敵であるサタンは初めから、神権の力によって可能となる祝福を受けるのに必要な信仰を弱めようとしていること。この3つです。

25年ほど前に、わたしはこれらが事実であることを偉大な教師から学びました。わたしはエペソの古代劇場で話をしていました。使徒パウロがかつて立って説教した場所を、明るい日の光が照らしていました。話のテーマは、神から召された使徒パウロでした。

何百人の末日聖徒が聞いていました。皆、1,000年以上も昔のエペソ人が座った石のベンチに整然と座っていました。その中に、二人の生ける使徒、マーク・E・ピーターセン長老とジェームズ・E・ファウスト長老もいました。

想像に足るでしょうが、わたしは入念に準備をしました。使徒行伝と使徒の手紙を読みました。パウロの手紙とほかの使徒が書いた手紙の両方を読みました。エペソ人へあてたパウロの手紙を読み、瞑想しました。

パウロとその働きをたたえるために、最大の努力をしました。話が終わると、多くの人が親切な言葉をかけてくれました。生ける使徒は二人とも思いやりのある感想を述べてくれました。しかし、後でファウスト長老はわたしをわきに連れて行き、笑みを浮かべ、穏やかな声でこう言いました。「良いお話をしたが、最も大切なことが欠けていました。」

ファウスト長老に、それはどんなことか尋ねました。ファウスト長老は、何週間もたってから教えてくれました。それ以来ずっと、常にその教えを大切にしています。

ファウスト長老はわたしにこう言いました。「もしもパウロの話を聞いた聖徒たちがパウロの保持する鍵の価値と力について証を持っていれば、恐らく地上から使徒たちが取り去られることはなかったであろうと教えてもよかったです。」

その言葉を聞いて、わたしはエペソ人の手紙を読み返しました。そして、パウロがエペソの人々に望んでいたことが理解できました。つまり、神権の鍵が主から使徒を通して主の教会の会員に至るよ



うに、鎖のように連なっていることの大切さを感じてほしかったのです。パウロはエペソの人々がこの鍵に対する証を築けるように助けていました。

パウロはエペソの人々に、主の教会の頭はキリストであられる証しました。そしてパウロは、救い主が神権のすべての鍵を保持する預言者と使徒の土台の上に御自身の教会を建てられたことを教えました。

パウロは、自分の教えと模範がどれほど明瞭で力強いものであっても、やがて背教の時代が訪れる事を知っていました。使徒と預言者が地上から取り去られることを知っていました。そして、使徒と預言者が、遠い将来回復されることを知っていました。エペソ人への手紙の中で、回復の時代に主がなされることについて以下のように書き記しています。「それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にはかならない。それによって、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリ

ストにあって一つに帰せしめようとしたのである。」<sup>1</sup>

パウロは、ジョセフ・スミスが預言者となり、天が再び開かれる日を待ち望んでいました。そして、それは実際に起こりました。バプテスマのヨハネが地を訪れ、アロン神権を死すべき人に授け、天使の働きと、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を授けました。

古代の使徒と預言者たちが地を訪れ、彼らが地上にあったときに保持していた鍵をジョセフに授けました。1835年2月、死すべき人が聖なる使徒の職に聖任されました。1844年3月の後半に、十二使徒に神権の鍵が授けられました。

預言者ジョセフ・スミスは自分の死が差し迫っていることを知っていました。また、神権の鍵と使徒の職が再び失われることはあるはずはないし、またあり得ないことも知っていました。

使徒の一人であるウィルフォード・ウッドラフは、ノーブーで預言者が十二使徒

に語ったときのことを記しています。

「その場で預言者ジョセフは立ち上がり、わたしたちにこう言いました。『兄弟たち、わたしはこの神殿が完成するのをこの目で見たいと望んでいました。わたしはこの目でそれを見ることはないでしょう。しかし、あなたがたは見るのです。わたしは、あなたがたの頭に神の王国のすべての鍵を結び固めました。天の神がわたしに啓示されたすべての鍵、力、原則をあなたがたに結び固めたのです。今や、わたしがどこへ行こうと何をしようと、王国はあなたがたのうえにあるのです。』<sup>2</sup>」

ブリガム・ヤングからヒンクレー大管長に至るまで、ジョセフの後に続いた預言者は皆、この鍵を保有し、行使し、聖なる十二使徒の職を保持してきました。

しかし、パウロの時代と同様に、この神権の鍵の力から利益を得るには、信仰が必要です。わたしたちを導き、わたしたちのために働いている指導者が鍵を保持していることを、靈感によって知る必要があります。そのためには、御靈の証を受けなくてはなりません。

イエスがキリストであり、生きて御自身の教会を導いておられるという証も必要です。さらに、主が預言者ジョセフ・スミスを通して御自身の教会と神権の鍵を回復されたことを知る必要があります。そして、この鍵が途切れることなく生ける預言者に継承されたことについて、聖靈による確信を得て、その確信を度々新たにする必要があります。どこにいようと、たとえどれほど預言者や使徒たちから遠く離れていようと、ステーク会長や地方部長、監督や支部長を通じてつながる神権の鍵の系統を通して、主が御自身の民を祝福し、導いておられることがわかる必要があります。

今日その確信を得るのは容易ではありません。パウロの時代にもそうでした。誤りを犯す人間を神の権能を持つ僕だと認めるのは、いつの時代にも難しいことです。ジョセフ・スミスの陽気な気質は、ある人にとって、神の預言者に期待する性質に添わないものでした。

サタンは、神権の鍵に対する信仰を弱めようと常に神の聖徒を誘惑します。例

えば、サタンは神権の鍵を保持する人の不完全さを指摘します。このようにして、サタンは信仰を弱め、主と人とをつなぐ鍵の系統からわたしたちを切り離し、家族とともに主と天の御父のみもとへ帰るのを妨げようとします。

サタンは、ジョセフ・スミスとともに天が開くのを見たり、天使の声を聞いたりした人々の信仰でさえ弱めてしまいました。神権の鍵がジョセフとともにあると感じられなくなった人にとって、かつて自分の目で見、自分の耳で聞いた出来事でさえ、ないに等しいものとなったのです。

肝に命じておくべきことは単純な事柄です。それは、人の中に人間的な弱さを探そうと思えば必ず見つかるということです。神権の鍵を保持する人の弱点を探してばかりいると、自らを危険にさらすことになります。その弱点をだれかに話したり、書き送ったりすれば、聞く人たちをも危険にさらすことになります。

わたしたちが生きるこの世では、まるで残酷なスポーツでも見るかのように、多くの人があら探しを好んでいます。長い歴史を通じて、あら探しは選挙を戦うときの基礎となっていました。世界中の多くのテレビ番組にも、あら探しがテーマとして使われています。人の弱点を書けば新聞もよく売れます。人に会うとき、わたしたちは無意識のうちに、相手の不完全さを探しています。

主の教会にしっかり根付くためには、主から召された人の行いの中に、主の力を見いだす必要があります。聖靈を伴侶とするに足るふさわしさを身に付けなければなりません。そして、自分の指導者が神権の鍵の力を保持していることを理解できるよう、聖靈の助けを求めて祈る必要があります。わたしの場合、そのような祈りは、主の業に熱心に携わっているときに最もよくこたえられました。

ある大きな災害が起きた後に次のようなことがありました。6月のある日、アイダホ州のダムが決壊しました。水が壁のようになって、下流の町を襲いました。何千人の人が家を捨て、安全を求めて避難しました。その大半が末日聖徒でした。

人々が過酷な復旧作業を行っている現場に、わたしもいました。ステーク会長が監督を集め、人々に指示を与える様子を見ました。最初の数日間、外部からは一切指示を受けられませんでした。連邦災害対策局長が到着し、地元の指導者と会合を持ったとき、わたしもその会合に出席していました。

対策局長は、会合の主導権を握ろうとしていました。彼は命令口調で、行う必要のある事柄を一つ一つ読み上げました。対策局長がリストから読み上げる度に、近くに座っていたステーク会長が静かに答えました。「それはすでに終えました。」5分か10分間それを繰り返した後、この連邦政府の役人は口をつぐみ、腰を下ろしました。彼は、ステーク会長が監督から報告を受け、指示を出すのを静かに見守りました。

翌日の会合では、その役人は早めに到着して、後列に座りました。ステーク会長が会合を始めました。さらに報告を受け、指示を与えました。数分後、連邦災害対策局のすべての権限と資源を動かす権威を持つこの役人は、このように言いました。「リックス会長、わたしたちは何をしたらよろしいでしょうか。」

彼は力を認めました。しかしわたしには力以上のものが見えました。わたしには鍵と、その力を聞く信仰とがはっきりと見えたのです。

再び同じような出来事を目りました。このダムが決壊した直後に、ある夫婦が町へ戻って来たのですが、この二人は自分の家には行きませんでした。まず監督を探しに行つたのです。監督は泥まみれになって、ある会員の家の掃除を指揮していました。この夫婦は監督に、自分たちのすべきことを尋ねました。

二人は指示された場所へ行って働きました。かなりの時間働いた後、二人は数分間現場を離れ、自分の家の様子を見に行きました。家は跡形もなくなっていました。それからまた、監督の指示に従つて働くために戻つて行きました。この夫婦は、主の教会の中で主が望んでおられる場所で働くためには、まずどこへ行けばよい

かを知っていました。

わたしはそのとき初めて、シオンのステークがいかに避け所となるかを学びました。そしてそれ以来、同じことを何度も見ています。ステークは一つの大家族になります、一致して互いに世話をします。それは、純粋な信仰が土台となります。

信仰により、民はバプテスマを受け、聖靈を受けます。そして戒めを守り続けるならば、聖靈の賜物は常に導きとなります。そうすると、靈的な事柄が見えてきます。人に仕え、人を導くために神から召された普通の人間を通して、神の力が働いているのが容易に理解できるようになります。民の心は和らげられます。そのようにして、異国人は主の王国の中で同じ国籍の者となり、愛のきずなで結ばれるのです。

この幸福な状態を保つには、常に信仰を新たにしなければなりません。愛する監督はいつか解任され、ステーク会長の任期もやがて終了します。わたしたちが信仰をもって従った使徒たちは、彼らを

召された神のみもとに連れ戻されます。

しかしこのような変化を経験するときに、すばらしい機会も訪れます。ふさわしく行動するならば、前任者から後任者へと神によって鍵が継承されるのを啓示によって知ることができます。そのような経験は何度も求めることができます。いいえ、求めなければなりません。そうしなければ、神がわたしたちのために用意され、人に分かち合うよう望んでおられるその祝福を得ることはできないでしょう。

祈りの答えは、ブリガム・ヤングが説教をしているときに、その外見が殉教した預言者ジョセフのように見えた人々に比べれば、劇的なものではないかもしれません。しかし、同じくらい強い確信を得ることができます。その靈的な確信から平安と力が生じてきます。そのとき皆さんは再び、この教会が主のまことの生ける教会であり、主が御自分の聖任された僕を通して教会を導いておられ、主がわたしたちを気にかけておられることが分かるでしょう。

わたしたちの多くがこのような信仰を行使して確信を得るならば、神は指導者たちを高め、わたしたちの生活と家族を豊かに祝福してくださることでしょう。そしてわたしたちは、パウロが昔、自分の仕えた民に強く願っていた状態に至ることでしょう。「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられ……キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。」<sup>3</sup>

わたしは証します。イエス・キリストがわたしたちの救い主であり、生きておられるることを知っています。わたしは、主御自身が、主の眞実の教会であるこの教会を支える岩であられることを知っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

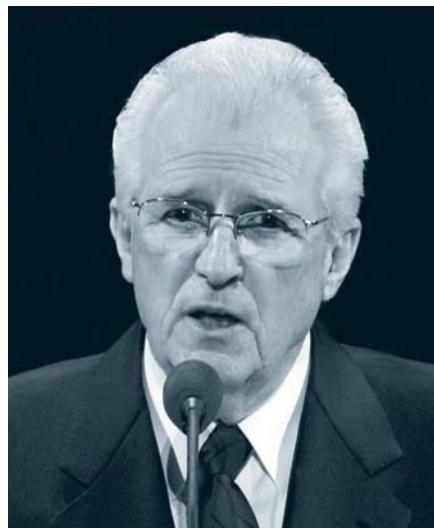
1. エペソ1:10
2. 「王国の鍵」『リアホナ』2004年4月号、42
3. エペソ2:20



# 「わたしの羊を養いなさい」

七十人  
ネット・B・ローシェイ

わたしたちには皆、……大きな責任があります。〔これ〕には教会から離れている人々を探し出し、愛と友情の手を差し伸べることが含まれます。



若い宣教師としてメキシコで働いていたころ、ペラカルス州の小さな町で支部長に召されました。この小さな支部の会員記録を同僚と調べていると、ある兄弟の記録が見つかりました。この兄弟は執事に聖任されていましたが、教会の集会には出席していませんでした。

わたしたちはこの兄弟を訪問することにしました。そして家を訪ね、教会の集会に出席して、神権の責任を果たすよう勧めました。次の日曜日、彼は教会に来ましたが、ふさわしい服装をしておらず、ひげも剃っていました。そのため、聖餐のパスなどの神聖な神権の務めを果たすときには、清潔にして身なりを整えなければならないことを教えました。忠実に奉仕するにつれて、この男性の生活は大きく変わりました。この支部はわたしにとって伝道から帰還する前の最後の任地

でした。支部を離れる準備ができると、この兄弟がやってきました。そしてわたしを抱き上げ、力いっぱい抱き締めました。頬から涙が滴り落ちました。彼はこう言ったのです。「わたしを助けに来てくれてありがとう。」

わたしたちは時として、目標を見失い、道をそれことがあります。また、感情を傷つけられたり、何か問題が起きたりすることがあります。結末はすべて同じです。自分のものとなるはずの祝福を求められなくなるのです。高慢、不信、欺瞞、落胆、そして様々な種類の罪は、心の中に変化が生じ、救い主が示された道に従うときに取り除くことができます。主はこうおっしゃっています。「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御靈の柔軟な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。」(教義と聖約19:23) 主はわたしたちの罪の代価を支払ってくださいました。主はわたしたち一人一人を愛しておられ、みもとに来て主に従うすべての人に助けの手を差し伸べてくださいます。

各人の心の奥底には、善を求める願望の炎があります。その炎は、福音の永遠の真理と御靈の証によって絶えず燃やし続けるならば、さらに燃え盛り、よりいつも強く明るい光を放ち、完全な真理へと人を導きます。この炎は愛と優しい思いやりによって燃え立たせ、絶え間なく燃料を補給しなければなりません。それは美しい花を育てる庭師と似ています。常に優しく世話し、長い間養うならば、その結果として美しい花が咲き、見る人を楽

しませるのです。

赦しも御父の国に戻って喜びを得るために重要な鍵となります。傷つけられたり不当な扱いを受けたりして、それがつまずきの石となることがあります。そして天の御父のみもとに戻るという永遠の目標からそれてしまうのです。救い主は、主の祈りの中で赦しの方式を教え、こうおっしゃいました。「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください。」(マタイ6:12) この祈りから、赦されるには、周りの人を赦さなければならぬことがあります。けれども、受けた傷が深く苦しみが長期にわたる場合、人を救すことは困難を伴うことがあります。

しかし末日に、救い主は次のような言葉でより明確にこの原則を教えられました。「昔のわたしの弟子たちは、互いに機をうかがい合い、またその心の中で互いを救さなかった。そして、この悪のゆえに彼らは苦しめられ、ひどく懲らしめられた。

それゆえ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは互いに赦し合うべきである。自分の兄弟の過ちを赦さない者は、主の前に罪があるとされ、彼の中にもっと大きな罪が残るからである。

主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を救す。しかし、あなたがたには、すべての人を救すことが求められる。」(教義と聖約64:8-10) この勧告に従うなら、最も困難な試練さえも克服できるようになります。

人を赦し、わたしたちを道からそらした、心に重くのしかかる思いを捨て去るとき、大きな重荷が心から取り除かれ、わたしたちは自由になります。自由に前進し、イエス・キリストの福音を求めて進歩し、心の中に愛がふくらんでいくのです。人生に対する熱意は増し、心は軽くなります。また靈的な力が高まることで、喜びと幸せを感じながら前進することができます。そして過去の問題を着古した洋服のように捨て去ります。「さて、わたしはあなたがたに言う。良い羊飼いは今、あなたがたを呼んでおられる。あなたがたがその声を聴くならば、良い羊飼いはあな

たがたを御自分の羊の群れに導き入れ、あなたがたは良い羊飼いの羊になる。」(アルマ5:60)

救い主の道から離れてしまってからその道に戻るには勇気が要ります。しかし、勇気を奮い、必要な段階を踏むならば、あふれんばかりの愛を味わうことができると約束します。多くの人がともに喜び、友情の手が差し伸べられるでしょう。そして靈の糧を得て、心は喜びで満たされるのです。

「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。

見よ、主なるあなたがたの贖い主は、肉体において死を受けた。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるように、主はすべての人の苦を引き受けた。……

人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:10-11, 13)

わたしたちは皆兄弟姉妹であり、天の御父の子供です。ですから、何らかの理由で道を見失った人に助けの手を差し伸べなければなりません。わたしたちは皆さんを愛しています。ともに食卓に座り、主が皆さんの喜びと幸福のために用意してくれた靈的な晩餐にあずかるようにお勧めします。進んで従う心を持ち、分かち合い、仕える準備のできた人は、主のみもとに来て、天の御父の愛を知ることでしょう。天の御父は皆さんを御存じです。また皆さんが必要と、将来直面する事柄を御存じです。一人一人の思い、苦しみ、試練を完全に理解しておられます。だからこそ、また御子イエス・キリストの無限の贖いがあるからこそ、この現世での限られた時間の中で経験するあらゆる問題に立ち向かうことができるのです。

わたしたちには皆、救い主から課せられた大きな責任があります。主は「わたしの羊を養いなさい」(ヨハネ21:17)とおっしゃいました。この言葉には、教会から離れている人々を探し出し、愛と友情の手を差し伸べることが含まれます。彼らは第一の位でわたしたちとともに立っていました。そしてバプテスマを通して聖



約を交わしたのです。神殿で聖約を交わした人もいるでしょう。でも今は助けを必要としています。

わたしたち一人一人が、福音の完全な祝福を享受していない自分の家族、友人、知人について考えるよう祈っています。管理するよう求められている人について考えてください。そして自分には何ができるか自問するのです。助けを求めるなら、天の御父は導いてくださいます。それから出て行って、彼らを探し出し、教会に戻って十分な友情と回復されたイエス・キリストの福音のすばらしいメッセージを

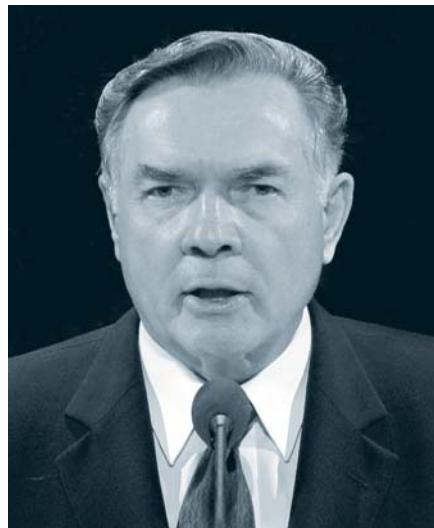
受けよう勧めてください。そして皆さんの愛と証を伝えてください。かつて経験した、永遠の真理から得られる気持ちを思い出せるよう助けてください。永遠の真理は生活を喜びと幸福で満たしてくれるでしょう。

迷い出た羊を集め、闇の中でも安全に暮らせるよう助ける業に熱心に励むことができますように。「人を救う力を備えておられる」(2ニーファイ31:19) 主は良い羊飼いであり、主は御自身の羊を愛しておられます。イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

# 「わたしは 戸の外に立って, たたいている」

七十人  
ロナルド・T・ハルバーソン

どうか……真理を熱心に求め、永遠の父なる神とその御子イエス・キリストを知るために求められることは何でも行ってください。



週間前、わたしは古くからの友人とともに、ある社交の場にいました。定年になったばかりのその友人は、高い教育を受け、立派に成功していました。祖国では、その分野において第一人者と認められている人です。隣り合って夕食を取っていたとき、友人は教会のことを尋ねてきました。これには少し驚きました。今日の多くの人と同様に、彼も神はいないと決めつけていたことを知っていたからです。問いかければ真剣で、どうやら以前からあれこれ考えていたようです。それまでの会話に端を発したものではなかったからです。

わたしは質問に答えて、回復について

話しました。永遠の父なる神と御子イエス・キリストがジョセフ・スミスに御姿を現されたこと、またジョセフを通して神権と神の権能が地上に回復されたことを話しました。そして、話した事柄が真実であることを確かに知っていると証しました。友人は長い間何も言わず、今聞いたことを深く考えているようでした。真摯に受け止めようとしているのが見て取れました。わたしは身を乗り出して言いました。「あなたもわたしと同じように、今証したことが真実かどうかをはっきりと知ることができます。『永遠の父なる神に……キリストを信じながら、〔真心から〕問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなた……に明らかにしてください』……そして聖霊の力によって、あなた……はすべてのことの真実を知る』<sup>1</sup> ことができると約束しますよ。」

友人はそれからも深く考えていました。残念ながら、ほかの人たちが話しかけてきたため、その貴重な時間は終わりましたが、彼が引き続き心の中で、自分が聞き、感じたことを会得しようとしているのが分かりました。そのような機会が再び訪れる事を願っています。伝えたいことがもっとあるからです。この友人も含めて、この世の無数の人々が、今の生活に満足していることを知っています。ニーファイが述べたように、彼らはなだめられ、欺か

れ、「現世での安全を確信させ」られるのです。<sup>2</sup> 自分たちの考え方にはどっぷりと浸り、人の訓戒によって教えを受けています。

そのときのことを思い出しながら、わたしは次のように自問しました。「人の哲学に従って得られる報いとは何だろうか。」答えは明白だと思われます。哲学はその時代の文明とともに滅び、永遠の報いを得られる希望もないまま、過去のちりにまみれて廃れます。主の御靈が友人の心に触れただと感じました。天の御父は決してわたしたちをお見捨てにはなりません。救い主は言われました。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」<sup>3</sup>

しかし、扉を開ける望みを持たなければなりません。たとえそれがこれまでの信条や生き方の土台を振り動かすことになつてもです。これは、あまり活発でない会員や、まだ教員ではない人についても同じです。ある賛美歌の歌詞が思い浮かびます。

「人生で何を選び、どう生きるか  
すべての魂は自由であることを覚えなさい  
神は天への道を強いられることはない  
それは永遠の真理である

神は呼び、勧め、正義に導き  
知恵と愛と光をもって祝福される  
あらゆる善と思いやりとに満ち  
強いことは決してなさらない」<sup>4</sup>

天の御父が選択の自由を取り去られることはありません。わたしたちは御父と御子を求め、御二方のことを知りたいと望まなければならないのです。イエス・キリストの教えが真実かどうかを知る方法がすべての人に与えられています。イエスは仮庵の祭りのとき、疑う者たちに答えて次のように言われました。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たもの

か、わかるであろう。」<sup>5</sup>

デビッド・O・マッケイ大管長はこのように言っています。「[これは、]人が考える中で最も簡単な見分け方です。自分自身で行って、自分のものとするとき、それが良いものかどうか、確信が得られます。生活の中で実際に行つたうえで知つたというのでなければ、だれもわたしを納得させることはできません。」<sup>6</sup>

御父の御心とは何でしょうか。「末日聖徒イエス・キリスト教会は、この神権時代に神の『御心』が明らかにされたことを世に証しています。すなわち、人生の根幹となる福音の原則が啓示され、それは時の中間にキリストが教えられた原則と一致したものであること」<sup>7</sup>、そして「キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得る」<sup>8</sup>ことを証しています。

わたしたちは物事を理屈的に考える時代に生きています。人々は靈的な経験を軽んじ、啓示を拒みます。真理と知識を求める人の探求心、偏見のない心、尋ね求める心はどこに行ってしまったのでしょうか。わたしたちは自分の理性に頼る傾向があります。主はわたしたちが靈的な事柄に敏感になるように願い、従うべき規範をお与えになりました。

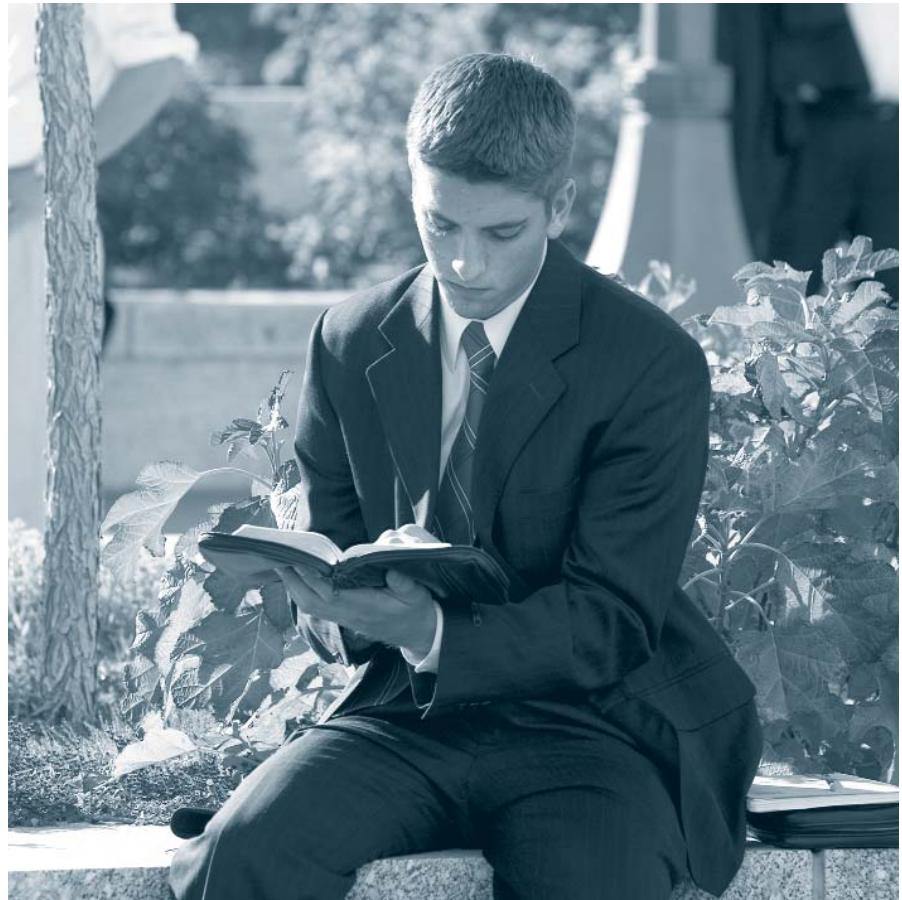
「さらにまた、あなたがたが欺かれないために、わたしはすべてのことに関して規範を与えよう。サタンは地の方々におり、出て行つてもろもろの国民を惑わすからである。

祈り、また悔いる靈を持っている者は、わたしの定めに従うならば、わたしに受け入れられる。

語り、悔いる靈を持ち、その言葉が柔和で人を教化する者は、わたしの定めに従うならば、神から出ているのである。」<sup>9</sup>

真理を知るために探し求めることはなぜ大切なのでしょうか。

贈り、主イエスは、ケデロンの谷を通りユダの裏切りを受ける直前、栄光に満ちた執り成しの祈りをささげられました。主はわたしたちのために御父に祈つて言われました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたが



つかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」<sup>10</sup>

永遠の命とは、神とその御子を知ることです。主を求めず、主の御心を行おうとしないで、どのように神を知ることができるでしょうか。永遠の命は、わたしたちがこの世のいかなるものにも勝つて願い求めるべきものです。

イエス・キリストとその教えを学びながら、その影響を受けて良い変化を遂げない人などいません。救い主への証を持つとき、わたしたちは主のようになり、主に従いたいと望みます。そしてバプテスマの水に入り、主と神聖な聖約を交わすのです。

救い主はわたしたち一人一人を心にかけておられます。

「人の価値が神の目に大きいものであることを覚えておきなさい。

見よ、主なるあなたがたの贖い主は、肉体において死を受けた。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるよう、主はすべての人の苦を引き受けた。

そして、悔い改めを条件として、すべて

の人を自分のもとに導くことができるよう、主は再び死者の中からよみがえったのである。

人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいことか。」<sup>11</sup>

主はその大いなる神の愛によって、御自身が経験されたと同じ喜びをわたしたちにも味わってほしいと願つておられます。主はおっしゃいました。「わたしがこれらのこと話をしたのは、わたしの喜びがあながたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。」<sup>12</sup> 主は、精神的、情緒的、肉体的、靈的、また経済的にも、眞の平安をわたしたちに与えてくださいます。それは「世が与えるようなものとは異なる」<sup>13</sup>、「人知ではとうてい測り知ることのできない……平安」<sup>14</sup>です。

天の御父の御心に従うとき、人は靈的にも、知的にも、情緒的にも成長し、約束の聖なる御靈を通して確信を得ます。その確信と喜びはやがて、完全な知識となります。救い主は言われました。「あなたは求めれば、啓示の上に啓示を、知識の

上に知識を受けて、数々の奥義と平和をもたらす事柄、すなわち喜びをもたらし永遠の命をもたらすものを知ることができるようになるであろう。」<sup>15</sup>

教会から気持ちが遠のいている人たち、正直な人たち、またわたしの友人とこの世のすばらしい人たちにお願いします。どうか、独り善がりな自己満足から目覚め、キリストのみもとに来てください。真理を熱心に求め、永遠の父なる神とその御子イエス・キリストを知るために求められることは何でも行ってください。なぜなら「これが道であ[り]……このほかには人を神の王国に救う道も名も天下に与えられていない」からです。<sup>16</sup>

神の御心を行なうなら、神を身边に感じ、永遠の喜びがどのようなものかが分かるようになると証します。そして永遠の命が手の届くものであることを理解するようになるでしょう。また神が確かに生きていて、わたしたちの父なる神であられること、深い愛をもって、贖いや復活、そしてこの偉大な業が神の業であることを示してくださることを知るでしょう。イエス・キリストの御名によってへりくだり証します。アーメン。

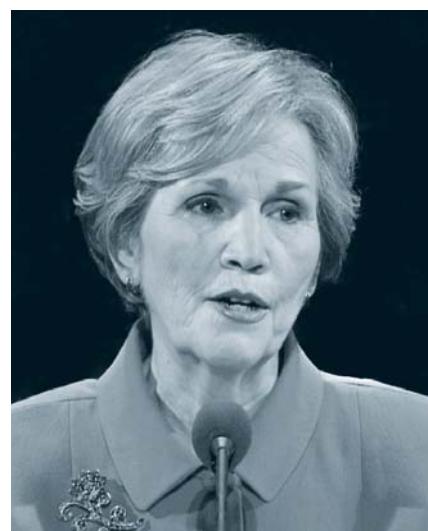
#### 注

- モロナイ10: 4, 5
- 2ニーファイ28: 21
- 黙示3: 20
- “Know This, That Every Soul is Free,”『賛美歌』(英文) 240番
- ヨハネ7: 17
- “What is Eternal Life,” *Instructor*, 1968年3月号, 97
- デビッド・O・マッケイ, *Instructor*, 1968年3月号, 98
- 信仰箇条1: 3
- 教義と聖約52: 14–16
- ヨハネ17: 3
- 教義と聖約18: 10–13
- ヨハネ15: 11
- ヨハネ14: 27
- ピリピ4: 7
- 教義と聖約42: 61
- 2ニーファイ31: 21

# 扶助協会は、皆さんの生活をどのように祝福してきたでしょうか

中央扶助協会会長  
ボニー・D・パーキン

**扶助協会は神が計画されたものなので、女性だけでなく、家族と教会にも祝福をもたらしてくれます。**



**最近** 近ある男性が人生を振り返り、次のような感動的な話をしてく  
れました。「わたしが子供のころ、父は教会を休みがちでした。酒癖が悪く、特に機嫌の悪いときは、粗暴で人につらく当たることもありました。普段は母がワードで奉仕することに反対はしませんでした。母は38年間、初等協会で働き、その間の多くは若い女性でも奉仕していました。随分重い責任を背負っていたのです。今から考えると、結婚生活を続けるのは大変で、時々落胆することがあったと思うのですが、当時のわたしには分かりませんでした。

後になって、ワードの姉妹たちが母の

力になってくれていたことが分かりました。扶助協会で指導者として働いていたわけではありませんでしたが、母は扶助協会の集会に欠かさず出席し、姉妹たちを愛していました。わたし自身、母の友人たちが扶助協会の女性だとは思いませんでした。母のほんとうの姉妹と同じでした。姉妹たちは母を気にかけ、愛してくれました。母には男の兄弟だけで、子供も男の子しかいませんでした。母は、ワードの中に、自分が望み、必要としていた姉や妹を見つけていました。だれにも話せない思いを姉妹たちに打ち明けていたのをわたしは知っています。当時のわたしには、それが『扶助協会』だとは分かりませんでしたが、今でははっきりと分かります。」<sup>1</sup>

扶助協会に関するこの男性の思い出にわたしは感動しました。確かに扶助協会の会員は女性ですが、扶助協会から祝福を受けるのは女性たちだけではありません。皆、その祝福を受けているのです。

扶助協会は、皆さんの生活をどのように祝福してきたでしょうか。

ヒンクレー大管長に同じ質問をしてみました。すると、次のように答えてくれました。「扶助協会は、わたしの家族と愛する妻の家族を7世代にわたって祝福してきました。教会のごく初期のころから、母親も娘も、皆、困った人を助ける義務に



ついて教わりました。上手な家の仕方を教わり、靈的成長を図るように励まされ、女性として最大の可能性を実現するよう導かれました。姉妹たちはこうしたことを持つほとんど扶助協会で経験し、家庭に持ち帰り、わたしの家族一人一人を祝福してきたのです。」<sup>2</sup>

わたし自身にも、祖母が扶助協会の姉妹たちとキルトを作っているときに、キルト台の下で遊んだ懐かしい思い出があります。幼いながらも、それが人の生活を祝福する扶助協会の一部であることを知っていました。母と祖母から扶助協会への愛を教わりました。わたしは扶助協会が大好きですし、これまでいつもそうでした。扶助協会は、救い主を知る助けとなり、主と天の御父への愛を強めてくれました。扶助協会の会員であることで、聖約を守り、慈愛を実践し、家族を強めるよう努力するとき、学び、愛し、奉仕し、生活が主の愛で満たされる機会に数多く恵まれてきたのです。

ここでもう一度お尋ねします。扶助協会は皆さんの生活をどのように祝福してきたでしょうか。

ブラジルの宣教師訓練センターを訪問

した際、「扶助協会について知っていることを教えてください」と宣教師たちに尋ねました。ある長老は「手料理です」と言いました。別の宣教師は「母と姉が所属しているところです」と答えました。ようやく、もう一人の宣教師が「女性のための主の組織です」と断言してくれました。そのとおりです。しかし、それ以上のものです。扶助協会は「福音の根幹」<sup>3</sup>なのです。

1842年は、預言者ジョセフ・スミスにとって非常に困難な年でした。友人に裏切られ、敵は彼をノーブーから拉致して教会の発展を妨げようと画策していました。同年彼は貧しい人、困っている人を養い、「魂を救う」<sup>4</sup>ために、扶助協会を組織したのです。J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は「[ジョセフ・スミスは]このような試練のさなかにあって、必要としていた慰めと励ましを姉妹たちに求めた」<sup>5</sup>と言っています。感動的で謙遜にさせられる見解です。神の預言者が、「慈愛はいつまでも絶えることがない」<sup>6</sup>という責任を託された姉妹たちに慰めを求めるのです。わたしにとってこのことは、ゴルゴタの丘で救い主とともに悲しんだあの女性たちを思い起こさせてくれます。

扶助協会は預言者たちの生活を祝福してきました。では、扶助協会は皆さんの生活をどのように祝福してきたでしょうか。

ボイド・K・パッカー長老は「家庭や家族の守りは、妻や母親、娘が扶助協会に所属するときに、大いに強化されます」<sup>7</sup>と述べました。なぜでしょうか。それは、女性は家の中心だからです。

扶助協会の一員となることにより、わたしは、より良い妻、母親、そして神の娘となるために更新され、強められ、決意を深めきました。心は福音への理解で満たされ、救い主と救い主がわたしのためにしてくださったことへの愛で満たされてきました。ですから姉妹の皆さん、扶助協会に集ってください。扶助協会は皆さんのお家庭を愛と慈愛で満たし、皆さんと家族を養い、強めることでしょう。皆さんの家庭は、皆さんの義にかなった心を必要としているのです。

最近ペルーを訪問中に、モラーレス兄弟姉妹の家を訪れました。その夫婦は改宗して4年になり、3人の子供がいます。家は質素ながら、愛にあふれています。モラーレス姉妹は扶助協会で多くのことを学んでいました。家族を養い、伝道に出ていたり、息子を支援するために、洗濯とアイロンかけの内職をしていました。それに加えて、働きに出なければならない隣人のために、二人の子供の面倒も見ていました。また、腎臓の病気と闘いながらも長老定員会で奉仕する夫を助けていました。夫がヒーバー・J・グラント大管長のレッスンを準備するときには、その内容についてともに話し合っていました。

わたしは姉妹に、「あなたは訪問教師ですか」と尋ねました。すると、ほほえみながらこう答えてくれました。「もちろんです、パーキン姉妹。4人の姉妹を訪問しています。うち二人は活発に教会に集っていないのですが、彼女たちが活発に集えるよう愛を示していくつもりです。」

帰るとき、紙に手書きの文字でこう書いてあるのをドアの上に見つけました。「今日聖文を読みましたか。」扶助協会はこの家庭を、このワードを、そしてこの地域を祝福しています。扶助協会は皆さん



をどのように祝福してきたでしょうか。

扶助協会に所属することは、バプテスマを受けたばかりの姉妹にとって、ひいてはその家族にとって非常に重要なことです。夫がイギリス・ロンドン南伝道部の部長を務めていたときのことです。独りで子供を育てているグローリアのような多くの新会員に会いました。グローリアは教員になると扶助協会に入りました。扶助協会は新しい信仰について何でも質問できる、安全な場所でした。グローリアは姉妹たちが自分の経験を率直に語るのを聞き、神の御言葉を試してみようという気持ちになりました。<sup>8</sup> 彼女は祝福師の祝福を受け、神殿に入り、教会で奉仕しています。わたしはヒンクレー大管長に「[女性には]ともに集い、信仰を強めえる環境が必要だ」<sup>9</sup>と勧告されたことを思い出します。扶助協会はそのような環境を与えてくれるのであります。

ある扶助協会の姉妹の息子さんが次のように言うのを聞き、ヒラマンの若い兵士たちを思い出しました。「わたしは母の信仰と模範によって祝福を受けてきました。

神権を受けるころには、父の模範と同様、母が家庭訪問をする姿から、ホームティーチングについて多くのことを学びました。……わたしの信仰は神権に対する母の信仰に感化され、立派な長老になりたいと強く望むようになりました。」<sup>10</sup>

兄弟姉妹の皆さん、扶助協会のおかげで、わたしは変わり、祝福され、向上しています。皆さんもそうであると信じています。

扶助協会に母と娘がいっそう活発に集うことができるよう祈っています。夫が妻を助けるとともに、母親と父親の二人が娘たちを扶助協会に集うよう備えることができるよう祈っています。扶助協会は、福音の回復の多くの奇跡の一つに数えられます。そのような扶助協会に、神権指導者の皆さん方が、神の娘たちを、老いも若きも招いてくださるようお願いします。こうした取り組み方をするとき、この神聖な組織に対する感謝で胸がいっぱいになるでしょう。

扶助協会は神が計画されたものなので、女性だけでなく、家族と教会にも祝福

をもたらしてくれます。主の純粹な愛である慈愛に基づいたこの組織は、主の回復された福音の根幹であると証します。<sup>11</sup> これらのこととイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

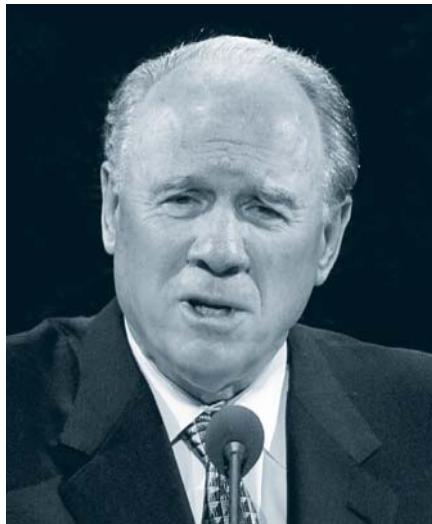
#### 注

1. 個人的な手紙
2. 個人的な手紙
3. ジョセフ・フィールディング・スミス、"The Relief Society Organized by Revelation" *Relief Society Magazine*, 1965年1月号, 4, 強調付加
4. *History of the Church*, 第5巻, 25参考
5. "The Prophet's Sailing Orders to Relief Society" *Relief Society Magazine*, 1949年12月号, 797
6. モロナイ7:46
7. 『聖徒の道』1998年7月号, 78
8. アルマ32:27参照
9. 個個人的な談話
10. 個個人的な手紙

# 確固とした証をはぐくむ あかし

七十人  
ドナルド・L・ステーリー

祈りに加えて、頻繁に聖文を読み、瞑想し、聖文の教えを当てはめましょう。それは、力強く、魂を揺さぶる証を獲得し、保持するための非常に大切な習慣となるでしょう。



最近、伝道について考えているある若い男性と深く話し合いました。話し合ううちに、伝道に出るべきかどうか迷っていることが分かりました。イエス・キリストの福音に対する証が十分かどうか不安だと言うのです。祈りや聖文学習をしても、あまり明確な答えが得られないのはなぜかを知りたがっていました。

この若い男性を、仮にジムと呼ぶことにしましょう。愛情に満ちたジムの両親は、伝道の機会の多い地域で、子供に福音の原則を教えるために最善を尽くしていました。

ジムは運動神経が抜群で、学校の人気者です。しかし、ジムの通う大きな高校には、末日聖徒がほんのわずかしかおらず、ジムはその中の一人にすぎませんでした。

同じような環境で子供を育てた経験か

ら、ジムが直面している問題についてすぐに理解できました。ジムは福音の原則に忠実でありたいと望む一方で、価値観や信条が基本的に違う友達にも受け入れてもらおうとしていたのです。

ジムは、イエス・キリストへの証、福音の回復への証をさらに確固としたものにしたいと願っていました。

今日はジムと、世界中にいるジムのような若い男性と女性に話します。今のところ自分の証に自信がないけれども、強く、活力に満ちた証を築いて、人生に待ち受けている問題に対処していきたいと強く望んでいる人たちです。

また、生活の中で福音の御靈をまだ深く感じたことのない大人の方にも話します。行動に駆り立ててくれる強い証を得ることができないまま、日々の思いと行いがあまりにもこの世的なものになってしまい、福音の光から得られるはずの影響を、毎日の生活の中ではほとんど受けずに過ごしている人がいます。

また、ニール・A・マックスウェル長老が的確に表現した、「よい弟子であろうと努力せずに見せかけの弟子であることに甘んじ、『熱心に……携わ』」のではなく、適当に携わっている『高潔な』会員（教義と聖約76:75; 58:27）に対しても話します（「心に決めなさい」『聖徒の道』1993年1月号、72参照）。

ニール・A・マックスウェル長老とデビッド・B・ヘイト長老の葬儀に出席し、両長老への賛辞を聞き、二人の偉大な兄弟の模範が示したすばらしい証と、弟子と

しての生き方を心に深く刻みました。二人の模範によって、わたしはどれほど証を深め、どれほどキリストに近づく決意を深めることができたか、しばらくの間思い巡らしました。

キリストの優れた弟子である二人は、ヒンクレー大管長がわたしたち全員に与えた勧告を具現化しています。「『できる限りのことを行う』というわたしの言葉が引用されましたが、それは、持てる力のすべてを出し切るという意味です。そのことを強調します。わたしたちは、月並みな行いで満足してしまう傾向があります。しかしあなたたちには、はるかに優れたことを行う力があるのです。」（「力強く確固として立つ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日、21参照）

確かに、ヒンクレー大管長の勧告と激励は、イエス・キリストについての証を強めていくために、非常によく当てはまっています。

真の証を得ていれば、わたしたちは皆、日々、回復されたイエス・キリストの福音の光を受け、天の御父のみもとに帰るという共通の目標に思いを集中するでしょう。しかし、個人の証は、人生の様々な段階で、様々な経験を通して得られるものなのです。

ジムのように、わたしも若いころ「善い両親」に恵まれ（1ニーファイ1:1）、訓戒と模範によって福音の原則とその価値を教わりました。子供のころ、自分には証があると思っていました。そう信じていました！ その後、信仰、祈り、聖文学習、そして特に家庭での父親の祝福を通して、幾つかの個人的で靈的な経験をし、それまで学び信じてきた原則をさらに深く考えるようになりました。しかし、それよりもっと深く考えていたのは、そのころ抱き始めた感情についてでした。多くの貴重で靈的な経験を与えて導いてくれた両親への感謝は永遠に消えません。両親がわたし自身とわたしの証に与えた影響は永遠に続きます。

真理への証をどのように得るべきかをゾーラム人に説いたアルマは、わたしたちのことも思い描いていたことでしょう。

「しかし見よ、もしあなたがたが目を覚まし、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働くかせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。わたしの言葉の一部分でも受け入れることができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ。」(アルマ32:27)

そしてアルマは「御言葉を一つの種にたとえ」て、心が開かれると「種[が]……心の中でふくらみ始める」ことを説明し(アルマ32:28)、さらに、証を育てる秘訣を教えました。

「しかし、あなたがたが御言葉に養いを与えようとすれば、つまり、その木が生長を始めるときに、非常な熱意と、忍耐を伴う信仰を働くかせてその実を期待しながら養いを与えようとすれば、それは根付

くであろう。そして見よ、それは生長して永遠の命をもたらす木になるであろう。」(アルマ32:41)

そしてあの約束が続きます!

「それで、わたしの同胞よ、<sup>はらから</sup>そのときにあなたがたは、その木があなたがたのために実を結ぶのを待ちながら示した、あなたがたの信仰と熱意と忍耐と寛容の報いを刈り入れるのである。」(アルマ32:43)

兄弟姉妹の皆さん、少しの間、アルマの教えについて一緒に考えましょう。

まず、信じたいと望む必要があります。「目を覚ます」「能力を尽くす」「試す」「わずかな信仰でも働くかす」は、行動を表す言葉であり、個人の努力を続けることを暗示しています。

心の中でふくらむという言葉は、聖なる

御靈の感覚を表しています。そしてモロナイは「聖靈の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう」と約束しています(モロナイ10:5)。

アルマは、そのような御靈をはぐくみ続けるには「非常な熱意と、忍耐を伴う信仰を働くかせて」養いを与える必要があると言っています。そして、信仰と熱意と忍耐と寛容の報いとして、永遠の命を刈り入れることができると約束しているのです(アルマ32:41; 43節も参照)。

アルマのように、末日の預言者も、証をはぐくみ強めるために必要なことについてはっきりと説いています。

人は皆、日々の試しや問題を通して自分の救いを全うするために、地上に送られてきました。しかしその目的は、ほかの人の証の光に頼りすぎていては成し遂げ



られません。預言者、指導者、会員の証を聞くと鼓舞されますが、その感動を基にして、確信を強めようという望みをさらに大きくする必要があります。

若い友人の皆さん、そして様々な世代の皆さん、決して主を信じることをやめないでください。祈りの答えが期待したほど明瞭でなく、即座に得られないこともあるでしょうが、祈り続けてください。主は聞いておられます！ 祈るときに、聖霊のささやきを理解できるよう求めてください。そして、そのようなささやきを受けられるよう最善を尽くしてください。御霊からの印象やささやきが分かったとき、あるいは感じたときには、それに従って行動してください。

ゆる 救いや特別な助け、導きを求めて日々熱烈に祈ることは、生活中に必要不可欠で、証を育ててくれます。慌しい祈りや判で押したような祈り、またうわべだけで祈ったり、祈りを怠ったりすると、日々の問題に賢明に対処できるよう導きを与える御霊との、非常に大切な、親しい交わりを失うことになりますかねません。毎朝毎晩家族で祈るなら、個人の祈りとわたしたちの証にさらなる祝福と力が増し加えられます。

個人の聖文学習を誠実に行うと、信仰と希望が増し、日々の問題を解決する手立てが得られます。祈りに加えて、頻繁に聖文を読み、瞑想し、聖文の教えを当てはめましょう。それは、力強く、魂を揺さぶる証を獲得し、保持するための非常に大切な習慣となるでしょう。

スペンサー・W・キンボール大管長は次のような言葉で、絶えず聖文を読むことの大切さを思い起こさせてくれました。「わたしは自分が神と密接な関係ではなくなつたと感じるとき、また神の声が聞こえないように思われるとき、……一生懸命に聖文を読むと、その距離は縮まり、靈性が回復してくる。」(The Teachings of Spencer W. Kimball, エドワード・L・キンボール編[1982年], 135)

救い主は教えられました。「聖文を調べなさい。あなたがたは、聖文の中に永遠の命があると思っているが、聖文は、わたしについてあかしをするものである。」



(欽定訳ヨハネ5:39から和訳)

すばらしい忠実な教員である皆さんの多くが抱いている、力強く確固とした証は、祈りを込めて聖文の勧告に従うことによって得たものです。この尊い祝福を得る機会は、熱心に求めるならわたしたち一人一人に与えられます。

若い友であるジムと、自分の証に不安を抱くことのある皆さんすべてに言います。皆さんは天の御父から愛され、毎日見守られています。御父は戒めを守ろうと努力し、御父の愛の腕にすがろうとする人々にこたえてくださいます。

主が預言者ジョセフ・スミスに与えられた次の約束はわたしたち全員に対する約束でもあります。「わたしに近づきなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに近づこう。熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを見いだすであろう。求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。」(教義と聖約88:63)

預言者は、一人一人に、そして家族に

「持てる力のすべてを出し切る」よう激励しています。個人の生活をよく吟味し、自分には確固とした証があるとさらに実感できるように、変わる決意をしてください。

堅固な証は「はるかに優れたこと」を行うよう、一人一人を促してくれます。わたしたちの証は破られることのない砦となり、その証により、この世のものによる絶え間ない誘惑から守られるようになるのです。

愛に満ちた優しい御父が天におられるることを証します。御父と、御父が愛しておられる御子イエス・キリストが、この最後の神権時代に福音の回復をもたらすために、ジョセフ・スミスに御姿を現されたことを証します。

イエス・キリストはこの教会の頭です。ゴードン・B・ピンクレー大管長は主がお選びになった預言者です。

預言者の勧告に従う勇気と確信を持つことができますよう、また、その過程においてわたしたちの個人的な証が確固としたものとなりますように、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

# あかし 純粹な証

十二使徒定員会  
M・ラッセル・バラード

証、つまりほんとうの証は、御靈から生じ、聖靈によって確認され、人の生活を  
変えるものです。



わたしは最近、アジアでの任務を終えて帰国しました。任地では多くの忠実な聖徒と宣教師に会いました。ある集会は大都市圏で開かれました。2,100万人近い人口を抱えるその都市に、約1万4,000人の教会員が住んでいます。その比率をこの集会に当てはめてみると、このカンファレンスセンターに集っている2万人を超える聴衆の中に、教会員がたったの13人しかいないことがあります。

この経験は、わたしたちがどれほど感謝しなければならないかを教えてくれました。暗黒と背教時代を経て、ジョセフ・スミスが聖なる森で御父と御子の驚くべき示現を受けたのです。天の御父である神が生きておられ、その御子イエス・キリストがわたしたちの救い主、贖い主であり、イエス・キリストの福音を管理する神の権能が地上に再び回復されたという

証を持つことは、現代の世にあって明らかにまれであり、貴重なことです。これらの真理に対する証を得ることは、計り知れないほど大いなる祝福です。決しておろそかにすべきではありません。

個人の証は信仰の土台です。それは世のほかの宗教と比較したときに、会員の生活の中に末日聖徒イエス・キリスト教会を特異なものとする力です。回復の教義はそれ自体がすばらしいのですが、その教義を力強く、意義深いものとするのは、回復された福音を受け入れ、日々その教えに従って生活しようと努める世界中の教会員の証なのです。

証とは、聖靈によって個人の心と靈に焼きつけられる永遠の真理を確認または確認することです。聖靈の第1の働きは、真理、特に御父と御子についての真理を証することです。人が神の定められた過程を経て真理の証を受けると、直ちにその人の生活に影響が表れます。息子アルマの言葉を借りると「その種はあなたがたの心の中でふくらみ始めるであろう。そして、あなたがたは種がふくらみつつあるのを感じると、心の中で次のように思うであろう。『……御言葉は良いもの〔である。〕これはわたしの心を広げ、わたしの理解力に光を注ぎ、まことに、それはわたしに良い気持ちを与え始めている。』」(アルマ32: 28)

簡単に言えば、証、つまりほんとうの証は、御靈から生じ、聖靈によって確認され、人の生活を変えるものです。証によって考え方や行動、語る言葉が変わります。また、すべての優先順位とすべての選択に影響

が及びます。イエス・キリストの福音に対する真の、そして不变の証を持つということは、「靈的に神から生まれる」ことであり、「自分」の顔に神の面影を受け「る」こと、「心の中に……大きな変化」を経験することなのです(アルマ5: 14)。

人生のあらゆることがそうであるように、証は経験と奉仕を通してはぐくまれます。会員、とりわけ子供たちが証するときに、家族や教会、教師、友達への愛など、感謝する事柄を次々と挙げるのを聞くことがあります。福音によって幸福と安らぎを感じるので、彼らにとって福音は感謝の対象となるのです。初期の段階としてはこれでよいのですが、証とはそれ以上のものでなくてはなりません。早い段階から福音の第一の原則にしっかりと根付かせる必要があります。

天の御父の愛の本質、イエス・キリストの生涯と務め、神のすべての息子娘に及ぼされる主の贖いの効力に対する証があれば、悔い改めて、聖靈を伴侶とするのにふさわしい生活を送りたいという望みを持つようになります。またその証によって、末日における福音の回復に対する確証を心で感じるようになります。これらの貴い真理に対する真の証は、家族を教えることや、祈り、聖文研究、人々への奉仕、天の御父の戒めに従順になることなど、誠実かつ懸命に努力した後に聖靈によって与えられます。福音の真理に対する証を得て、それを永遠に持ち続けることは、靈的な備えという点で求められるいかなる代価を払ってでも、手に入れるべきものなのです。

教会での経験を通じて気がかりなことがあります。ほとんどの会員の証が「感謝します」「愛しています」という段階にとどまっており、「知っています」と謙遜ながらも心からはっきりと言える人があまりにも少ないのです。その結果、教会の集会では、聞く人の生活に意義深く肯定的な影響を与えるような、靈的な証に満ちあふれる土台が欠けることがあります。

証会では、救い主、福音の教義、回復の祝福、聖文の教えにもっと焦点を当てるべきです。家族の話や旅行談、講話を、

純粋な証に取って代える必要があります。教会の集会で話す責任や教える責任を受けた人は、耳と心に響き、靈を高め、会員を教化する教義の力をもってその責任を果たさなければなりません。ベニヤミン王が民に向けた力強い説教の中心が、当時まだ降誕しておられなかった救い主に対する個人的な証であったことを思い出してください。

説教の中で王が民に証を述べたとき、「主の御靈が彼らに降られ〔まし〕た。そして彼らは……喜びに満たされ〔まし〕た。それは、彼らが……将来来られるイエス・キリストを深く信じたためで〔す。〕」(モーサヤ4:3)

キリストに対する純粋な証が述べられているときに、御靈を制止することはできません。そのため、ベニヤミン王の証に深く感銘を受けた民の生活は、まさにその場で変化し、彼らは新たな民となったのです。

また、アビナダイとアルマを思い出してください。アビナダイは主イエス・キリストに対する証を勇敢に述べたので、邪悪なノア王の怒りを買いました。そしてこの偉大な宣教師は、自身の証と信仰のために究極の犠牲を払いました。しかしその前に、アビナダイの純粋な証は一人の信じる者的心に響きました。ノア王の祭司だったアルマは「自分の罪……を悔い改め、〔イエスをキリストとして受け入れ〕、人々の中をひそかに巡って、アビナダイの言葉を教え始めた」のです(モーサヤ18:1)。アビナダイの救い主に対する力強い証と、ただ一人それを信じたアルマによって、多くの人がイエス・キリストの福音に改宗しました。

使徒パウロもキリストに対する証を熱心に述べ、伝道活動を通して多くの人を改宗しました。そしてアグリッパ王の前でひるむことなく証を述べました。パウロの言葉があまりにも力強かったので、このローマ帝国の有力な代表者ですらこのように叫びました。「おまえは少し説いただけで、わたしをクリスチャンにしようとしている。」(使徒26:28)

このことから明らかのように、証は持つ



十二使徒定員会の会員たちにあいさつをするゴードン・B・ヒンクレー大管長とトーマス・S・モンソン副管長

ているだけでは十分とは言えません。実のところ、ほんとうに改宗していれば、証せすにはいられないはずです。いにしえの使徒や忠実な会員たちがそうであったように、「真実であると知っている事柄を告げ知らせ〔る〕」ことはまた(教義と聖約80:4)、わたしたちの特権であり、務めであり、神聖な義務なのです。

念を押しますが、ここで話しているのは真の証を伝えることであって、感謝している事柄をただ一般的に述べることではありません。愛や感謝を表すことは常にすばらしいことですが、そのような表現が人の生活に信念の火を燃え立たせるような証を築くのではありません。証するとは「聖靈の力によって証言をすること、また自分の知識や信念に基づいて厳肅に真理を宣言すること」です(『聖句ガイド』「証する」の項、7-8)。明確に真理を宣言することで、生活に変化が表れます。それが心を変えるのです。そして聖靈が

神の子供たちの心に確信をお与えになります。

様々な事柄に対して証を持つことができますが、教会の会員として、教会内だけでなく、信仰の異なる人々に対しても絶えず教え、述べるべき一つの基本的な証があります。神がわたしたちの御父であり、イエスがキリストであられることを証してください。救いの計画は救い主の贖いを中心としています。また、ヨセフ・スミスはイエス・キリストの完全な永遠の福音を回復しました。そしてモルモン書は、わたしたちの証が真実であることを証明してくれます。

会員が宣教師とともに教会員でない人に純粋な証を伝えるとき、奇跡的なことが起こります。例えば、アモナイハの地で多くの人がアルマの証に感銘を受けたとき、アミュレクが立ち上がって自分の証を添えると、「人々は……証する証人が一人にとどまらなかったので……驚」きました

(アルマ10:12)。現代でも同じことが起きます。わたしたちがともに立ち上がり、一致して証を述べるなら、主は御自身の声を知る、より多くの羊を見いだせるよう助けてくださいます。

何年も前、ブリガム・ヤングは教会初期のある宣教師について話しました。その宣教師は大勢の人の前で証を述べるよう求められました。しかしヤング大管長によると、その長老は「今までジョセフ〔・スミス〕が預言者であると公言できずにいた」のです。できれば祈るだけにとどめ、

その場を立ち去りたいと思いましたが、許される状況ではありませんでした。彼は口を開くと、「『ジョセフは』と言った途端に、『預言者です』という言葉が続き、その後も彼の舌は緩み、夕暮れまで語り続けたのです。」

ヤング大管長はこの経験を用いてこう教えました。「主のお与えになった言葉を証するとき、主はその人に御靈を注がれます。」(Millennial Star, 補遺, 1853年, 30)

預言者の兄ハイラムはそのことを知っていました。そして弟ジョセフに啓示された

神の真理を雄々しく証し、自身の心に確信を得たのです。ハイラムの証は多くの人の生活を祝福しましたが、パリー・P・プラットもその一人でした。パリーが初めてモルモン書と出会ったとき、ハイラムはパリーを自宅に連れて行き、教え、証しながらその晩を過ごしました。そしてジョセフに課せられた預言者としての召しと、モルモン書が真実であることを証しました。しばらくたってから、ハイラムは自分の用事を後回しにして、……パリーの望みにこたえるためにバプテスマを施しに〔行きました。〕(Autobiography of Parley Parker Pratt, パリー・P・プラット・ジュニア編, [1938年], 35-42参照)

パリー・P・プラットに対するハイラムの証が、どれだけの影響を及ぼしたかを十分に計り知ることはできないでしょう。多くの信仰深い子孫に加えて、パリーの使徒としての証や伝道活動は数え切れないほどの人を神の王国に導きました。興味深いことですが、パリーがカナダで伝道したときに教会に入った人の中に、ジョセフ・フィールディングとその姉妹である、メアリーとマーシーがいました。ハイラムは最初の妻ジェルーシャが亡くなつてから、メアリー・フィールディングと出会い、結婚しました。この二人から、後に大管長となるジョセフ・F・スミスをはじめ、多くの教会員と教会指導者が誕生しました。しかしすべての証が、ハイラムの証のような祝福をもたらすわけではないことも承知しています。

イギリス、サッチャムでの新しい改宗者、ジョセフ・キンバーは、ともに農業に従事する少年に簡潔な証を伝えました。キンバー兄弟のジョセフ・スミスと回復に対する証が、17歳のヘンリー・バラード少年の心に信仰の火をともし、バプテスマを受けたいという気持ちにさせたのでしょう。バラード家は何世代にもわたり、謙虚な証から恩恵を受けています。

今日の会員と宣教師は、最善を尽くして生活し、「いつでも、どのようなことについても、どのような所にいても……神の証人になる」備えをすることで人を改宗する機会にあづかることができます(モーサヤ



18:9)。最近ある友人が、ブラジルで1時間半バスに乗ったときのことを話してくれました。友人はバスの後部座席に行って、若者たちに声をかけるべきだと感じました。その若者たちは、友人たちビジネスマンの一行を案内してくれていました。彼の父親の知人も一緒に後部座席に行き、回復された福音に対する彼の証を聞きました。父親の知人であるこの男性は後にこう言いました。「あなたの証を聞いたとき、それが真実であるというはっきりとした感覚が体中に走りました。」その男性と妻は間もなくバプテスマを受けます。

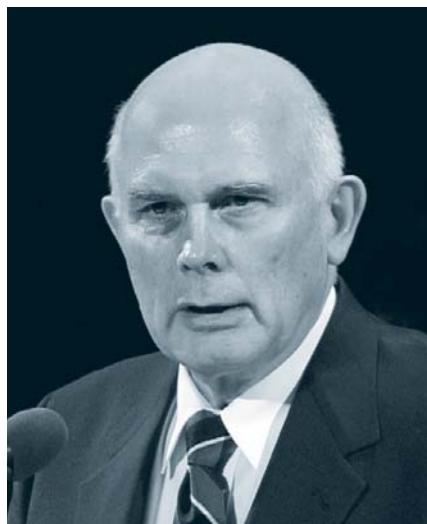
宣教師たちは今、会話文を暗記したり、形式的なレッスンを行ったりはしません。彼らは御靈の導きを求め、福音の真理を靈から靈へ、心から心へ伝えるにはどうしたらよいか考えながら、福音の原則の概要をまとめます。兄弟姉妹の皆さん、宣教師とともに貴重な証を日々分ち合い、あらゆる機会に回復のすばらしいメッセージについて証してください。より多くの御父の子供たちに福音を紹介するうえで必要なのは証の炎だけです。主を信頼してください。そして御靈の力によって述べる証が人の生活に及ぼす影響を、決して過小評価しないでください。疑いと恐れはサタンの道具です。今はどのような恐れをも克服し、あらゆる機会をとらえて福音についての証を大胆に述べる時なのです。

皆さんが祈りや個人の福音学習、奉仕活動を通してこれからも証をはぐくむとき、主の祝福がありますように。わたしは大いなる喜びをもって、神がわたしたちを愛しておられること、イエスがキリストであられ、ジョセフ・スミスが完全な永遠の福音を回復したこと、またモルモン書がこれらの真理を立証してくれることを慎んで証します。今日わたしたちは生ける預言者によって導かれています。愛する兄弟姉妹、皆さんが教え、証するときに、主が祝福してくださいますように。イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

# 欺かれてはならない

十二使徒定員会  
ダリン・H・オーカス

**聖靈は、わたしたちが欺かれないように守ってくださいます。このすばらしい祝福を得るために、御靈がとどまってくれるために必要な事柄をいつも行っていなければなりません。**



世界中の神権者の皆さんに話せることを感謝します。この2年間住んでいるフィリピンでは今、朝の8時です。愛するフィリピンの同僚の皆さん、そしてすべての皆さんにごあいさついたします。

ここには幼い男の子はいないはずです。いるのは、神権を持つ若い男性だけでしょう。使徒パウロは、おさなご幼子であったときには幼子らしく感じていたが、大人となってからは、幼子らしいことを捨ててしまったと書いています(1コリント13:11参照)。ここにいる若い男性の皆さんも同じだと思うので、大人同士の話をすることにしましょう。

## I.

若人の皆さんの中には、天の御父のみもとに帰る道のりがはるかかなたまで続

いています。道すがら、多くの選択に迫られることでしょう。道の傍らには標識や看板がたくさんあって、皆さんの注意を引きつけます。その幾つかはサタンが立てたものです。わたしたちを惑わせ、欺き、悪の道に引きずり込んで永遠の目標を見失わせようとしているのです。

時の初めに、神に逆らったために投げ落とされた力ある靈は「サタン……あらゆる偽りの父である悪魔となって、人々を欺き、惑わし、……すべての者を自分の意のままにとりこにする者とな」りました(モーセ4:4)。サタンとサタンに従う者たちは、今も世の人々を欺いています。現代の啓示で「サタン〔は〕あなたがたを打ち破るために、あなたがたを欺こうと努めてきた」と言われているとおりです(教義と聖約50:2-3参照)。サタンが用いる欺きの手口は、音楽や映画その他のメディア、きらびやかな快楽など、魅惑的なものばかりです。サタンに欺かれた人間は、その力に屈してしまいます。

わたしたちを欺くために使う悪魔の手口を幾つか話しましょう。神の戒めや神の預言者の教えの中には、こうした手口に対する警告の言葉があります。

1. 欺く手口の一つは、従うべき人を見誤らせることです。救い主は末日のことを語って次のように教えておられます。「人に惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、多くの人を惑わすであろう。」(マタイ24:4-5)つまり、自分たち、あるいは自分たちの教えこそ

が人を救うのであって、救い主もその福音も必要ないと言って欺こうとする人がたくさんいるということです。モルモン書には、これを「悪魔の力」であるとして次のように記されています。「民の心を惑わし欺くために……キリストの教義は愚かでむなしいものであると信じさせた。」(3ニーファイ2:2)

2. サタンはまた、善悪についても欺こうとします。罪などというものは存在しないと信じ込ませるので。こうして道を踏み外すよう誘いかけるのですが、これは普通、ほんの小さな一步から始まります。「試しに1回だけやってごらん。ビール一口、たばこ1本、ポルノ映画1回だ。大したことじゃない。」しかし、この小さな一步には、中毒という共通点があります。中毒とは、選択する力を放棄している状態です。そのような状態にあるとき、わたしたちは悪魔に身をゆだねているのです。預言者ニーファイは、その行き着く先を次のように

教えています。悪魔は地獄などないと言、「『悪魔はいないので、わたしは悪魔ではない』と言う。悪魔はこのように彼らの耳にささやいて、決して逃げられない恐ろしい鎖で縛ってしまう。」(2ニーファイ28:22)

道を間違えると、目的地も違ってきます。例として、古い友人の話を紹介しましょう。彼女の夫は高校時代常に「優等生」でした。彼はあるとき、悩みを紛らわそうと、酒を何杯か飲みました。ところが、気がついたときには彼はアルコール依存症になっていたのです。今では家族を養うこともできず、何をしようとしてもうまくいきません。アルコールに生活を支配され、その束縛から逃れることができないでいるのです。

3. 預言者ニーファイは、もう一つのタイプの欺きについても警告しています。「また、悪魔はほかの人々をなだめ、彼らを欺いて現世での安全を確信させるので、

彼らは、『シオンの中では、すべてが良い。まことに、シオンは栄えており、すべてが良い』と言う。悪魔はこのようにして人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とすのである。」(2ニーファイ28:21)

この種の欺きに陥る人々は、口では神を信じていると言いながら、神の戒めや神の正義を真剣に受け止めていません。成功を確信し、自分の選んだ道は神に受け入れられているはずだと決めつけています。

「また、次のように言う者も大勢いる。『明日は死ぬ身なのだから、飲み食いし、楽しみなさい。そうすれば、わたしたちは幸せだ。』

次のように言う者もまた大勢いる。『飲み食いし、楽しみなさい。しかし同時に神を畏れなさい。神は少しの罪を犯すことは許してください。……これは少しも悪いことではない。わたしたちは明日は死ぬ身なのだから、これらのことすべて行いなさい。たとえわたしたちに罪があるとしても、神はわたしたちをほんの少し鞭打たれるだけで、結局わたしたちは神の王国に救われる。』」(2ニーファイ28:7-8)

兄弟の皆さん、このような主張を見聞きしたことがあるはずです。授業で語られ、廊下での会話から聞こえ、雑誌やテレビの人気番組などでも目にするからです。救い主など必要ないと言う人が世の中にはたくさんいます。善も悪もないと言って、罪や悪魔といった概念をあざ笑う人もいます。一方、神の憐れみに頼りながらも、神の正義を受け入れない人もいます。預言者はこう言っています。「偽りの、むなしい、愚かな教義を教え……ようとする者が大勢いる。」(2ニーファイ28:9)

使徒パウロは、末日に訪れる「苦難の時代」について実に的を射た警告を発しています。「人々は自分を愛する者、……親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、無情な者、……善を好まない者、……神よりも快樂を愛する者……となるであろう。」(2テモテ3:1-5) パウロはまた、「悪人と詐欺師とは人を惑わし人に惑わ



されて、悪から悪へと落ちていく」とも語っています(13節)。ここで、この罪悪を避ける方法についてパウロが若いテモテに語ったことについて考えてみましょう。

使徒パウロは、悪魔とその手下に欺かれないと、もう一つ警告を与えています。

「それとも、正しくない者が神の国をつぐことはないのを、知らないのか。欺かれてはならない。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、

盜む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者は、いずれも神の国をつぐことはないのである。」(欽定訳1コリント6:9-10から和訳)

兄弟の皆さん、欺かれてはなりません。古代の預言者も現代の預言者も盜みや飲酒、あらゆる性的な罪に対して警告しています。これを心に留めてください。欺く者は、あらゆる手口で皆さんの靈性を滅ぼそうとしています。パウロは「だまし惑わす策略〔や〕人の悪巧みによって」だまそうと、てぐすねひいて待っている人々について警告を与えています(エペソ4:14)。しゃれた外観やきらびやかな快樂に注意してください。悪魔が魅力的に見せているものには、靈的に命取りになるものがあるからです。

## II.

実際、周囲を見渡すと欺く者は大勢います。犯した罪を認めない著名な官僚、自分の試合の勝ち負けをかけ事の対象にしたり、勝つために薬物を使用したりしながらその事実を否定する有名なスポーツ選手。有名人でなくとも、決して表面に出ないところで悪事を行っている人もいます。だれにも分からぬと思っているのです。しかし、神はすべて御存じです。神は、「彼らの罪悪が屋根の上で語られ、彼らの隠れた行いが暴かれる」時が来るとして繰り返し警告してこられました(教義と聖約1:3。モルモン5:8; 教義と聖約38:7も参照)。

使徒パウロは教えました。「欺かれてはならない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取

ることになる。すなわち、自分の肉にまく者は、肉から滅びを刈り取り、靈にまく者は、靈から永遠のいのちを刈り取るであろう。」(欽定訳ガラテヤ6:7-8から和訳)

言い換えると、麻薬やポルノグラフィーなど、パウロが言う「肉にまく」邪悪な行いをやめなければ、永遠の律法に従って滅びを刈り取ることになり、永遠の命は得られないということです。これが神の正義です。憐れみは正義から何も奪うことはできません。永遠の律法を破るならば、その律法が定める罰が下されます。罰の中には救い主の贖いによって取り除かれるものもありますが、罪人が憐れみによる清めを受けるためには、悔い改める以外に方法はありません(アルマ42:22-25参照)。罪によっては、悔い改めの過程が長く、つらいものになることもあります。しかし、「悔い改めを生じる信仰を少しも働かせない人は、正義を要求するすべての律法にこたえなければなりません。」したがって、偉大な永遠の贖いの計画は、悔い改めを生じる信仰のある人のためにだけ備えられているのです(アルマ34:16)。

幸いなことに、悔い改めは可能です。ただし、重大な罪については、多くの場合、監督に告白し、愛に満ちた助けを求める必要があります。そのほかの罪については、主と傷つけた相手に告白するだけで十分です。ほとんどのうそはこの部類に入ります。人を欺いたことのある人は、今すぐ重荷を下ろす決心をしてください。誤りを正し、人生を立派に歩み続けるのです。

## III.

ではここで、永遠にわたる重要性を持つ事柄について欺かれないようにする方法をお話しいたします。二つの聖句を挙げます。まず、先に引用したパウロの警告に続く部分です。パウロは、自分が学んで確信しているところにとどまっているよう、テモテに教えました。「それをだれから学んだか知って」いるからです(2テモテ3:14)。つまり、義について学び、それが真実だと確信しているならば、信じ



ているところに従いなさいということです。続いてパウロは、若い友人テモテに次の言葉を送っています。「幼い時から、聖書に親しみ、それが、〔救い主〕に対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与えうる書物であることを知っている。」(15節)聖文の教えをしっかりと守ってください。それによって悪から守られるからです。

10人のおとめのたとえは、主が栄光のうちに来られるときに婚宴の席に着くことができるの、招かれた人の半数にすぎないと教えています。招かれたのは全員、キリストに従う者たちです。このたとえの靈感に満ちた解き明かしから、欺かれないよう守ってくださる第2の御方が明らかになります。

「賢くて、真理を受け入れ、自分の導き手として聖なる御靈を受け、そして欺かれなかった者、すなわち、まことにわたしはあなたがたに言うが、彼らは切り倒されて火の中に投げ込まれることなく、その日に堪えるであろう。」(教義と聖約45:57)

ほかの半分のおとめたちは、備えができていなかったために、中に入ることができませんでした。真理を受けるだけでは不十分です。わたしたちは「自分の導き手として聖なる御靈を受け、そして欺かれ」ないようにしなければならないのです。

どうすれば「自分の導き手として聖なる御靈を受け」ことができるのでしょうか

か。戒めにあるとおりに毎週自分の罪を悔い改めて聖餐を受け、聖約を新たにすることです。清い手と純粹な心をもってこれを行うのです(教義と聖約59:8-9, 12参照)。こうすることによってのみ、「いつも御子の御靈を受け」るという神の約束が成就します(教義と聖約20:77)。御靈とは、わたしたちを教え、真理に導き、御父と御子を証する使命を持っていらっしゃる聖靈のことです(ヨハネ14:26, 15:26, 16:13; 3ニーファイ11:32, 36参照)。

欺かれないためには、御靈のささやきに従うこと必要です。主は教義と聖約第46章でこの原則を教えておられます。

「あなたがたがまったく聖い心をもつて、わたしの前をまっすぐに歩み、あなた

がたの救いの結末について考え、祈りと感謝をもってすべてのことを行なながら、御靈があなたがたに証する事柄を行うようにと、わたしは望んでいる。それは、あなたがたが邪惡な靈、あるいは惡靈の教義、または人間の戒めに打ち負かされないためである。……

それゆえ、欺かれないように気をつけなさい。そして、欺かれないために熱心に最善の賜物を求め、それらが何のために与えられているのかを常に覚えておきなさい。」(教義と聖約46:7-8)

聖靈は、わたしたちが欺かれないように守ってくださいます。このすばらしい祝福を得るために、御靈がとどまってくれるために必要な事柄をいつも行ってい

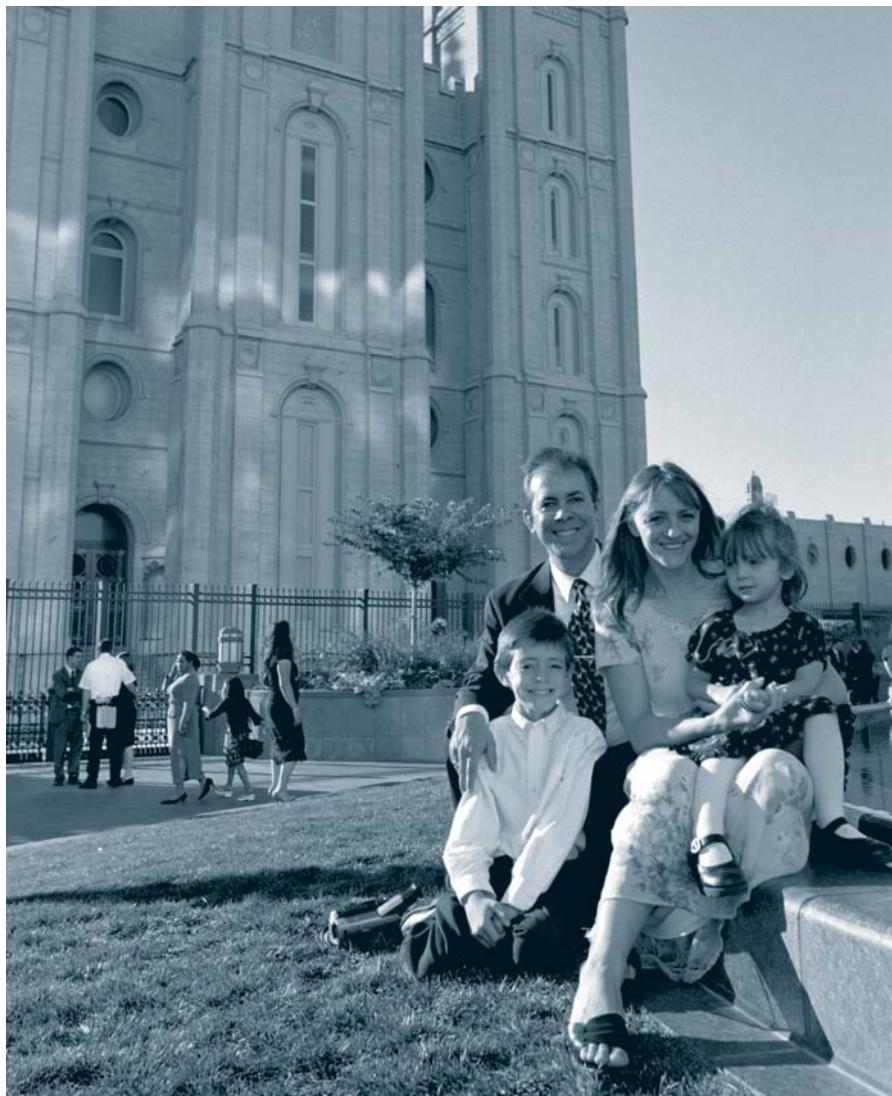
なければなりません。戒めを守り、導きを求めて祈り、毎週教会に出席して聖餐にあずかるのです。御靈を遠ざけるようなことは決してしてはなりません。具体的にはポルノグラフィーや酒、たばこ、薬物を遠ざけ、常に純潔の律法を守ることです。主の御靈を遠ざけるようなものを身体に取り入れたり、禁じられていることを行ったりすると、靈は欺かれやすくなってしまうのです。このようなことを決してしてはなりません。

4. 最後に、巧妙な欺き方について話します。聞いて信じるだけで十分であり、行う必要はないという考え方です。この欺きについては、多くの預言者が教えてきました。使徒ヤコブはこう記しています。「御言を行なう人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけない。」(ヤコブの手紙1:22)ベニヤミン王はこう教えました。「これらのことすべて信じるならば、必ずそれを実行しなさい。」(モーサヤ4:10)また、現代の啓示の中で、主は次のように宣言されました。

「あなたがたは、わたしから日の栄えの世界で一つの場所を与えられることを望むならば、わたしがあなたがたに命じ、あなたがたに求めてきたことを行うことによって、自らを備えなければなりません。」(教義と聖約78:7)

神が生きておられ、イエス・キリストがわたしたちの救い主であられ、福音が真実であることを知っているだけでは不十分です。その知識を実践することにより、高い標準に従った生き方をしなければなりません。ゴードン・B・ヒンクレー大管長が預言者だと知っているだけでは不十分です。その教えを生活に生かさなければなりません。召しを受けているだけでは不十分です。責任を果たさなければなりません。この大会で、教えを聞いて満足するだけでは不十分です。その教えが動機づけとなり、行動の指針とならなければなりません。

これらのがことが真実であると証します。サタンの欺きを避けるため、必要なことをすべて行えるよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

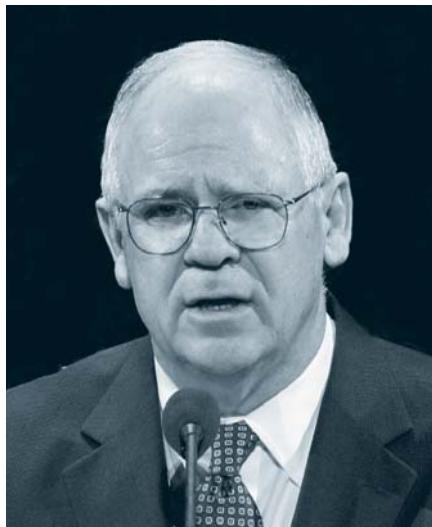


# 適切な断食から 得られる祝福

七十人

カール・B・プラット

**わたしは心配しています。あまりにも多くの人が、断食日に断食していません。  
あるいは、心を込めずにしています。**



**兄** 弟の皆さん、気づいたと思いますが、今朝ヒンクレー大管長が新しい二人の使徒の名前を発表するに当たって、主の御心を知るために断食と祈りをしたと話しました。

神の民は断食することをいつも習わしていました。現代では、断食は主がすべての教会員に与えられた戒めとなっています。わたしたちは個人や家族の事柄に関連して時折特別な断食をするほかに、月に1度、第一日曜日に断食することを期待されています。断食日を適切に過ごすには3つの側面があると教えられています。第1に、続けて2食、すなわち24時間、飲食を断つこと、第2に、断食証会に出席すること、そして第3に、惜しみなく断食献金を納めることです。

プラット家では、通常の断食を土曜日の昼食から日曜日の昼食まで行っています。こうすると、2食、すなわち土曜日の夕食と日曜日の朝食を断つことになります。断食に関する教会の標準は、24時間、2食を断つということだけですが、わたしたちは断食の終わり近くに断食証会に出席することの中に靈的な利点を見いだしています。

肉体的に可能な人にとって、断食は一つの戒めです。ジョセフ・F・スミス大管長は、毎月の断食日についてこう述べています。「主は道理にかない、知性に基づいて、断食を定められた。……可能な人はこの律法に従うよう求められている。……これは逃れることのできない義務である。……良心の問題として、知恵と分別を用いて行うよう人にゆだねられている。……しかし、できる人は断食しなければならない。……この戒めが免除される者はだれもいない。老若を問わず、あらゆる地に住む聖徒にこのことが要求されている。」(Gospel Doctrine, 第5版[1939年], 244)

兄弟の皆さん、わたしは心配しています。あまりにも多くの人が、断食日に断食していません。あるいは、心を込めずにしています。断食日を軽視したり、完全に2食つまり24時間飲食を断たないで断食日曜日の朝にしか断食しなかったりすれば、自分自身と家族から、眞の断食によって得られるすばらしい靈的な経験

と祝福を奪うことになります。

24時間飲食を断ち、断食献金を納めていても、それだけでは、靈的成長のすばらしい機会を逃していることになります。一方、特別な目的を持って断食するなら、断食ははるかに大きな意義を持つようになります。断食を始める前に家族で時間を取って、断食を通して達成したい事柄について話し合うとよいでしょう。断食日曜日の前の週に、家庭の夕べや、家族の祈りのときに話し合うことができます。目的を持って断食するなら、空腹感に気を取られる代わりに、その目的に心を集中することができます。

断食の目的はきわめて個人的なものであるかもしれません。断食は、個人の弱点や罪を克服する助けになります。自分の弱さを強さに変える助けにもなります。断食から力を得て、もっと謙遜になり、高慢を抑え、利己心をなくし、人が何を必要としているのかについて関心を持てるようになります。自分の過ちや弱さをよく知り、その結果、あまり人を批判しなくなります。家族の問題に焦点を当てて断食することもできます。家族で断食すると、家族の愛と理解を深め、争いをなくすのに役立ちます。きずなを強めるために夫婦で断食することもできます。神権者はヒンクレー大管長の今朝の模範に倣い、召しに関する主の導きを求めるために断食することができます。あるいは、ホームティーチングの担当家族を助ける方法を知るために、同僚とともに断食することができます。

聖文では、「断食」という言葉は通常、祈りと結びついています。「あなたがたはこれから先、祈りと断食を続けなければならない」(教義と聖約88:76)という主の勧告があります。祈りを伴わない断食は24時間空腹でいるだけです。しかし、祈りを伴う断食は靈的な力を増してくれます。

悪霊につかれた子供を癒せなかつた弟子たちは、救い主に尋ねました。「わたしたちは、どうして靈を追い出せなかつたのですか。」イエスは答えられました。「このたぐいは、祈りと断食とによらなけ



れば、追い出すことはできない。」（マタイ17：19、21）

祈りで断食を始めましょう。食事が終わって断食を始めると、食卓の横にひざまずくとよいでしょう。断食の目的について天の御父に自然に語りかけ、断食の目的を達成できるように助けを願い求めます。同じように、祈りで断食を終わりましょう。断食を終える前、つまり食事の席に着く前に、食卓の横にひざまずくとよいでしょう。断食の間主が助けてくださったことと、断食から感じたことや学んだことについて主に感謝します。

始めの祈りと終わりの祈りのほかに、断食中もしばしば個人的に祈って主を求めます。

幼い子供たちには、大人に奨励されている2食の断食を求めてはなりません。しかし、祈りの原則は教えましょう。断食することについて家族で話し合い、計画するならば、小さな子供たちは、両親や兄姉たちが断食していることを知り、やがて断食の目的を理解します。断食の始めと終わりに彼らを家族の祈りに参加させます。こうすれば、ふさわしい年齢になると、彼らはぜひとも家族と一緒に断食したいと思うようになります。我が家では子供たちが8歳から12歳までの間は1食の断食をするように励ましてきました。子供が12歳になり、アロン神権を受け、また若い女性になると、完全に2食の断食をするように励ました。

適切に断食をしなかった古代イスラエルの民を懲らしめた後、主は預言者イザヤを通じて、美しい詩的な言葉で適切な断食について語っておられます。

「わたしが選ぶところの断食は、悪のなわをほどき、くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを折るなどの事ではないか。」（イザヤ58：6）

罪を悔い改め、弱さを克服する目的を持って断食し、祈るなら、確かに自分の人生における「悪のなわをほど〔く〕」ことになるのです。もっと効果的に福音を教えるため、また教会の召しにあって人に仕える力を増すために断食するならば、確かに人の「くびきのひもを解〔こ

う]」としていることになります。伝道活動に主の助けがあるように断食し、祈るならば、わたしたちは「しえたげられる者を放ち去らせ〔る〕」ことを願っているのではないかでしょうか。同胞への愛を増し、利己心、高慢、この世の事柄への執着を克服するために断食するなら、確かに「すべてのくびきを折る」ように努めていることになるのです。

主は適切な断食についてさらに述べておられます。

「また飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これに着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。」(イザヤ58:7)

まことにすばらしいことに、断食献金によって、今日、飢えた者に食事を、家のない者に宿る場所を、裸の者に衣服を与えることができるのです。

適切に断食する人に、主は約束しておられます。

「そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、……

あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。……

飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼のようになる。

主は常にあなたを尊き、良き物をもつてあなたの願いを満ち足らせ、……あなたは潤った園のように、水の絶えない泉のようになる。」(イザヤ58:8-11)

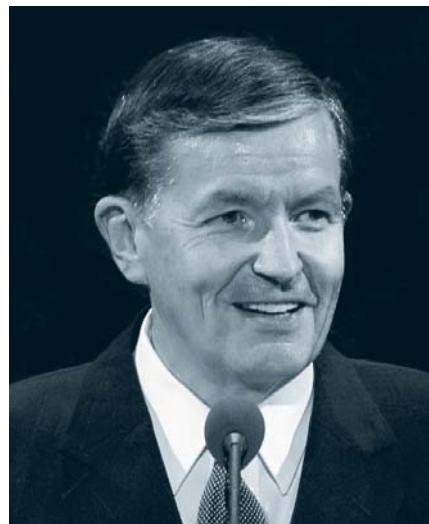
断食をよりよいものにし、約束されている麗しい祝福にあずかれるよう願っています。断食と祈りによって主に「近づく」なら、主が「近づいて」くださることを証します(教義と聖約88:63)。主が生きておられ、わたしたちを愛し、わたしたちに近づきたいと望んでおられることを証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

# 苦難の時代

七十人

セシル・ロ・サミュエルソン・ジュニア

この苦難の時代にあって、イエス・キリストが今日生きておられるという神聖な確信により、守りと導きが与えられていることを心から感謝しています。



わたしたちは、希望や靈的な支えなしに放置されているわけではありません。わたしたちは一人一人異なった状況にいます。文字どおり地の四方に分かれて住んでいますし、家族、環境、問題、チャンス、経験、成功、失望なども、大きく違っています。

反対に、すべての人類家族に共通しているものもあります。皆、愛情深い天の御父の子供であり、非常に似通ったDNA、あるいは遺伝子構造を持っています。また、どの人も受けることが可能であると約束された祝福と特質があります。その約束そのものが、わたしたちが神から生まれた者であり、靈的な可能性を秘めた者であることを示しています。わたしたちの個性と人格は、今述べたように、共通の祖先から受け継いだ共通の特徴と、それぞれが持つ個人的な特質や経験や問題などが独特に混ざり合ってできているのです。個人個人の苦難の中身は違っていても、わたしたちは皆「苦難の時代」と呼ぶにふさわしい状況の多くのを共有しています。

現在の「苦難の時代」を描写したパウロは、状況は必ず緩和されるとか、必ず良くなるとは約束しませんでした。しかしパウロは、今日の悪化する状況にあって安らぎと確信を求める人たちに勧告を与えています。ちょうどパウロの預言と予告がまったく正確だったように、現代のわたしたちに対する彼の教えも驚くほど確です。パウロは言いました。「自分が学んで確信しているところに、いつ

兄弟の皆さん、わたしたちの生きている現代は、過去の神権時代の預言者たちが予見し、大きな関心を寄せ、熱望した時代です。それを知っていることは慰めであるとともに、不安の種にもなり得ます。使徒パウロは「終りの時には、苦難の時代が来る」と言い(2テモテ3:1)、現今メディアや娯楽の宣伝で、そして世界のあらゆる所で毎日目にするものを、驚くほど正確に列挙し、その様子を描写しています。わたしたちをすっかり覆っているように見えるこの危険を完全に回避することは、どんなに注意深く生きていても、難しいくらいならまだましで、たいていは避けることが不可能です。

幸いなことに、この試しの生涯を通して、個人的に、また家族で、現世における神聖な目的を果たそうと努力している



もとどまつていなさい。あなたは、それをだれから学んだか知つて〔いる。〕」(2テモテ3:14)

今回の総大会においても、教会歴史を通して常に存在してきたパターンに従つて、わたしたちは以下の事柄について学んでいます。つまり、わたしたちの時代に福音が回復されたことについて、モルモン書が主イエス・キリストについて驚くほど明瞭に述べ、証していることについて、預言者ジョセフ・スミスと歴代の大管長、とりわけ、力強く、靈的かつ明瞭に教え、証するゴードン・B・ヒンクリー大管長の使命と貢献について、また、わたしたちの時代のただ中に生ける使徒と預言者が存在することから来る力と安らぎ、祝福について学びます。わたしたちは、以上のことをただ学んでいるだけはでなく、それらが真実であるという確信も得ています。なぜなら、パウロの言葉にあるように「それをだれから学んだ

か知つて」いるからです。

アルマも自分が教え導く人々に確信を得させる権能を授かった人でした。ギデオンの民に教え、証する特権にあづかった喜びを語ったアルマは、将来地上に来て務めを果たされる主イエス・キリストについて、率直かつ明瞭に、はっきり証しました。アルマはこの善良な民全体に見られる信仰と忠実さを喜び、「将来多くのことが」あり(アルマ7:7)、それによって彼らが恵みを受けると約束しました。アルマは将来の出来事について説教しながらこう言いました。「それらのどれよりも重要なことが一つある。……  
あがな  
贖い主が命を得て、御自分の民の中に来られる時は遠くない。」(アルマ7:7)

アルマが当時の人々に強調したのは、救い主が肉体を持ってお生まれになってから数十年後の出来事でした。何世紀もの時が流れ、現在、アルマの預言はほとんど成就しています。しかし、アルマが

何よりも重要なことと考えた事柄は、今でも絶対的な真理であり、現代を生きるわたしたちにもまったく当てはまり、絶対に欠かせない事柄です。それはすなわち「贖い主が命を得て」おられるという事実です。

アルマと「世界が始まって以来、預言を述べてきたすべての預言者たち」は(モーサヤ13:33)、メシヤの来臨と、民を贖うというその使命について教え、証しました。そしてわたしたちも、主と「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」神聖な主の業について証しているのです(モーセ1:39)。主が個人に対し、また人類全体に対して払ってくださった犠牲と奉仕の業の意義を理解するようになると、それ以上に大切なもの、また、主の存在以上に大切な意義を持つものがこの人生にあるとは思えなくなります。

ほとんどの人は、これを一度に理解することはできません。また、この地上で

の生涯の間に完全に理解することもできないでしょう。しかし、教えに教えを加えられるように少しづつ着実に学ぶなら、救い主の業に対する理解は深まり、主の業が真実であるという知識と確信が増すことを、わたしたちは知っています。

使徒パウロは、いつも力強く率直に教え、宣べ伝えました。よく耳にするパウロの次の言葉を聞いてください。多くの人にとって、実際に今努力していることやその成果について述べているだけかもしれません、それでも、これは皆が非常に必要とする勧告と励まし、そして証なのです。

「わたしたちが幼な子であった時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な子らしく考えていた。しかし、おとなとなった今は、幼な子らしいことを捨ててしまった。

わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。」(1コリント13:11-12)

何年も前、ジェームズ・E・ファウスト副管長は、イエス・キリストと主の神聖な使命と約束について完全に、確固とした証を持つことのできない人たちに向け、勧告を与えました。

「純粹な疑問を抱いている人に、ナザレのイエスを目撃した人々の言葉を紹介しましょう。古代の使徒たちはその場について、一部始終を見ていました。また実際に経験を共にしました。ですから、彼らの言葉以上に信じる価値のあるものはありません。ペテロは言っています。『わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを、あなたがたに知らせた時、わたしたちは、巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだからである。』(2ペテロ1:16) ヨハネはこう言っています。『自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかつたからである。』(ヨハネ4:42) 近代の

証人ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンはこう宣言しています。『わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、「彼は御父の独り子であ〔られる。〕』』(教義と聖約76:23) (『救い主との個人的な関係』『聖徒の道』1977年2月号、89参照)

わたしたちの時代に、主は「〔御自身〕を愛して〔御自身〕のすべての戒めを守る者たちと、そうしようと努める者たち」のために、多くの賜物を用意していると約束しておられます(教義と聖約46:9)。すべての人があらゆる賜物を約束されているわけではありませんが、「各人に神の御靈によって一つの賜物が与えられる」ことが保証されています(教義と聖約46:11)。

何にも増して大切な賜物について教えている教義と聖約第46章の中から、次の御言葉を聞いてください。

「ある人には、イエス・キリストが神の子であり、世の罪のために十字架につけられたことを知ることが、聖靈によって許される。

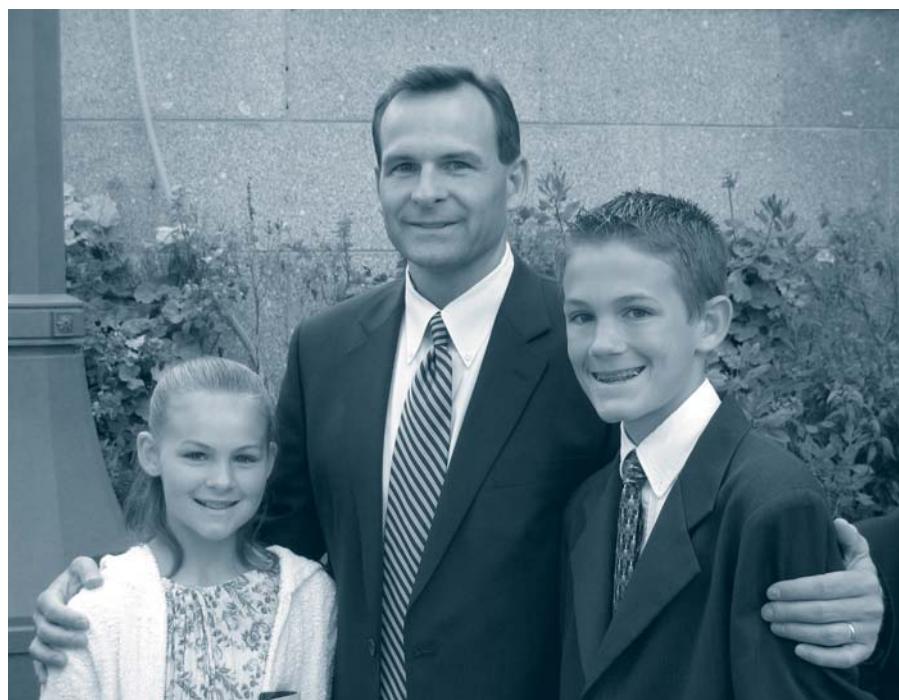
ほかの人には、続けて忠実であれば自分もまた永遠の命が得られるように、彼

らの言葉を信じることが許される。」(13-14節)

生けるキリストを知り、生けるキリストについての証があればこそ、ペテロの次の勧告に常に従うことができるのです。「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。」(1ペテロ3:15)

主はわたしたちを愛し、また特に、御父を愛しておられるので、この望みは現実のものとなり、またイエスにとって実際に最も大切なものです。そのことを実感できるようになると、一人一人が「主イエスの愛に ただ驚く」という愛すべき賛美歌の歌詞をそのまま、感謝を込めて宣言することができるようになります(「主イエスの愛に」『賛美歌』109番)。さらにわたしたちの理解が広がると「声あげ、賛美うたわん わが主よ、わが神」と叫ばずにいられなくなります(「わが主よ、わが神」『賛美歌』44番)。

この苦難の時代にあって、イエス・キリストが今日生きておられるという神聖な確信により、守りと導きが与えられていることを心から感謝しています。イエス・キリストの御名により、アーメン。



# 神の知識の鍵

第二副管長  
ジェームズ・E・ファウスト

メルキゼデク神権の誓詞と聖約を守る人によってつかさどられる神の知識の鍵は、わたしたちが勝利者になるのを可能にしてくれるでしょう。



神の神権を持つ兄弟の皆さん、  
今晚再びわたしは座って皆さんに話します。お気づきのように、わたしは一時的な腰痛を患っています。腰痛を経験したことのある人なら、それがどのようなものか理解できるでしょう。まだ経験のない方は——じきに経験するでしょう。わたしの体調に関するそれ以外の説明は真実ではありません。

今晚わたしは、皆さんに御靈の力によってわたしの話を理解できるように心から祈りつつ、へりくだって話します。わたしたち神権者が学ぶべきことで、神の知識の鍵よりも大切なことは思い浮かびません。今晚わたしは、その鍵について話しましょう。

大神権は福音をつかさどり、「王国の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵」<sup>1</sup>を有しています。神の知識の鍵とは何でしょうか。だれがそれを得られるのでしょうか。

うか。神権がなければ、神の完全な知識はあり得ません。預言者ジョセフ・スミスはこう言いました。「メルキゼデク神権……を通して、すべての知識と教義、救いの計画、あらゆる重要な事項が天から示されます。」<sup>2</sup> ジョセフ・F・スミス大管長は次のように述べています。「ジョセフ・スミスが神の預言者であり、イエスが救い主であられることを心から断言できる人は、計り知れないほど貴重な宝を持っている。このことを知るとき、神を知り、あらゆる知識の鍵を手にするのである。」<sup>3</sup>

父祖アブラハムは、自分の経験を詳しく話したときに、この偉大な鍵の価値を認めています。「……わたしは先祖の祝福と、わたしが聖任されるべきそれらの祝福をつかさどる権利とを得ようと努めた。わたしは自分自身が義に従う者であったので、また、多くの知識を持つ者となり、義に従うさらに大いなる者となることを望み、もっと多くの知識を持ち、……また数々の指示を受け、神の戒めを守ることを望んだので、先祖に属する権利を持つ正当な相続人、大祭司となった。」<sup>4</sup>

義にかなった者であって、もっと多くの知識を持ち「義に従うさらに大いなる者」となることを望む人であればだれでも、神権の権能の下で、神の偉大な知識を得ることができます。教義と聖約に記されているように、主はそれを行うための一つの明確な方法を告げておられます。「あなたは求めれば、啓示の上に啓示を、知識の上に知識を受けて、……喜びをもたらし永遠の命をもたらすものを知

ることができるようになるであろう。」<sup>5</sup>

次のように尋ねる人がいるかもしれません。「どうすれば『義に従うさらに大いなる者』になれるのですか。」義人とは、福音の聖約を交わして守る人です。この神聖な契約<sup>6</sup>は通常、個人と主との間に交わされます。時には伴侶のように、人が加わることもあります。バプテスマや神権の授与、神殿の祝福、結婚、親になることなど、最も神聖な約束と決意にかかるものです。父祖アブラハムの祝福の多くは、すべての民に聖靈が注がれるときにもたらされます。<sup>7</sup> 聖靈を受けているふさわしい男女は、実際に「新たな創造物」<sup>8</sup>となることができます。

この天の祝福を余すところなく受け、神の完全な知識に至るには、神権の誓詞と聖約<sup>9</sup>に入って、それを守らなければなりません。マリオン・G・ロムニ一副管長は、洞察に満ちた指摘をしています。

「人が永遠の命に向かって最大の進歩を遂げる唯一の道は——そのためにこの世は計画されたのですが——メルキゼデク神権を受けて、尊んで大いなるものとすることです。……神権における召しを尊んで大いなるものとするために要求される事柄をはっきりと心に留めておくことが、非常に大切になります。……少なくとも次の3つのことを行う必要があります。

1. 福音の知識を得る。
2. 福音の標準に従って生活する。
3. 献身的に奉仕する。」<sup>10</sup>

神権者は各々、二つの聖約を交わします。第1の聖約は、忠実であってアロン神権とメルキゼデク神権を得ることです。<sup>11</sup> アロン神権は、メルキゼデク神権のより大きな義務を受け、神権の誓詞と聖約の祝福を受けるために神権者を訓練し、備えます。アロン神権とメルキゼデク神権の両方を受けることは、主が忠実な息子たちのために備えられた完全な祝福を受けるのに不可欠です。この神聖な権能を持つ主の儀として交わす第2の聖約は、神への完全な信仰を抱き、忠実であって自分の召しを尊んで大いなるものとすることです。<sup>12</sup>

神権の誓詞と聖約の一部として、主は



忠実な息子たちに約束をなさいました。「父がこれを破られることはあり得〔ない〕」<sup>13</sup> 約束です。第1に、神権者は「御靈により聖められてその体が更新されます」<sup>14</sup> ヒンクレー大管長は、この偉大な模範であると思います。非常に驚くべき方法で体と心と靈が更新されてきました。第2に、彼らは「モーセの息子たち、またアロンの息子たちとなり、アブラハムの子孫となります」<sup>15</sup> 第3に、「神の選民」となります。<sup>16</sup> 主の僕として、今日の地上においてこの聖なる業を推し進めるのです。第4に、「この神権を受けるすべての者」は、〔主を〕受け入れます。<sup>17</sup> 第5に、主の僕を受け入れる者は、主を受け入れます。<sup>18</sup> 第6に、救い主を受け入れる者は、父なる神を受け入れます。<sup>19</sup> 第7に、彼らはまた、父の王国を受けます。<sup>20</sup> 第8に、「父が持つておられるすべてが……与えられ」ます。<sup>21</sup> 「父が持つ

ておられるすべて」を受ける者は、あらゆるものを受けるのである。

アロン神権者の若い男性の皆さんは、大いなる権威と責任を与えられています。監督の指示の下に、アロン神権者は、少なくとも二つの、贖罪に直接かかわる儀式を行います。その一つは聖餐です。すなわち、わたしたちの罪のために流された救い主の血と、贖いとして与えられた主の体を記念するものです。<sup>22</sup> もう一つはバプテスマです。祭司は罪の赦しのためのバプテスマを執行する権能を持っています。アロン神権は実在する力です。ある若い男性が、この力を行使したときの経験について次のように書いています。

「わたしはメルキゼデク神権者がほとんどいないワードに出席していました。でも、靈的な面で少しも劣っていませんでした。むしろ会員の多くは、これまで最も力強く神権の力が現れるのを目にしていました。

その力の中心は祭司でした。彼らは生まれて初めて、祭司のすべての義務を果たし、ワードの会員の必要に応じて助けを与えていました。また、ほんとうの意味でホームティーチングを行うために、すなわち社交目的で訪問する長老に黙つてついて行くのではなく、兄弟姉妹に祝福を与えるために訪問していたのです。

この中の4人の祭司は、以前はまったく異なる生活をしていました。……彼らはセミナリーの教師をすべて2、3か月で解任に追い込みました。またスカウト活動では、美しい自然を台なしにしました。しかし、必要とされたとき、信頼されて重要な使命が与えられたとき、神権の奉仕の業において最も輝きを放つ存在になったのです。

その秘密は、監督がアロン神権者たちに、天使の現れを受けるような人物に成



長してほしいと要求したことでした。彼らはその期待にこたえて、助けを必要とする人に援助の手を差し伸べ、励ましを必要とする人を力づけました。こうしてワードの会員たちが力づけられただけでなく、祭司定員会の会員自身も成長したのです。ワード全体に一致の精神が宿り、会員一人一人が、心と思いを一つにする民が受ける祝福を味わい始めました。不可解なことは何一つありません。アロン神権を正しく行使ただけなのです。」<sup>23</sup>

ゴードン・B・ヒンクレー大管長が最近、アロン神権者の皆さんに話したように、皆さんはふさわしく生活するならば「仕える天使の守り」によって祝福されることが可能であり、また、神権にふさわしく生活するという大きな責任も受けています。<sup>24</sup>

アブラハムの子孫になるとは、どういう意味でしょうか。聖文では、文字どおりの子孫であることよりも深い意味があります。偉大な族長アブラハムと聖約を

交わされた主は、すべての国民がアブラハムを通して祝福を受けると告げられました。<sup>25</sup> すべての男女がアブラハムの祝福を求めるすることができます。福音を受け入れてバプテスマを受け、神殿結婚をして聖約を忠実に守り、地上のすべての国に福音を宣べ伝える業を支える人々は、アブラハムの子孫になって、約束された祝福を受け継ぐのです。

「すべての国民にこの務めと神権を携えて行く」<sup>24</sup> ための権能を得るには、メルキゼデク神権とその祝福を受けなければなりません。そして、忠実さを通して、完全な永遠の命を受け継ぐ者になるのです。なぜなら、パウロが「もしキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである」<sup>27</sup> と述べたとおりだからです。

アブラハムの子孫として、わたしたちには幾つかの義務があります。「アブラハムのわざ」<sup>28</sup> を行うことによって、キリストのみもとに来るよう命じられています。この「わざ」には次のことが含まれます。神に従順であること、神権や神殿の儀式と聖約を受けて守ること、福音を宣べ伝えること、家族を築き、子供たちを教えること、最後まで忠実であること、などです。

主がアブラハムに与えた約束の中で子孫を表すのに“seed”という言葉を使われたのは興味深いことです〔訳注——英語の“seed”は「子孫」と「種」の両方の意味を持つ〕。“seed”には“posternity”〔訳注——英語で「子孫」を表す一般的な単語〕よりも深い意味があります。なぜならアブラハムの聖約の祝福が、種が増えるような勢いで「すべての国民に」<sup>29</sup> もたらされることを意味するからです。主はアブラハムに、子孫が「海辺の砂」や「星のよう」に数限りなく続くと約束されました。<sup>30</sup>

義にかなうアブラハムの子孫は、イエス・キリストの永遠の家族に養子縁組される特権に浴します。これには、神殿で永遠の聖約を受け、もしふさわしければ、キリストの永遠の家族の一員となり昇栄するという権利が含まれています。<sup>31</sup> その特権にはまた、「救いの祝福すなわち

永遠の命の祝福」<sup>32</sup> も含まれています。

族長の位はアブラハムからイサクへ、そしてヤコブへと引き継がれています。神権の系譜を通して、わたしたちの時代にまで続いています。世代を通じて、祝福と約束が父親から忠実な息子へと伝えられてきたのです。現代における同様の例として、七十人のジョン・B・ディクソン長老の経験を採り上げましょう。彼らは次のように思い出を語っています。

「わたしは伝道に出る時期になったとき、主に仕えるのがうれしくてたまりませんでした。ところが出かける直前になって、骨の癌にかかっていることが分かりました。伝道に出るまで命がもつかどうかさえ分かりませんでした。わたしは、主がわたしに伝道に出ることを望んでおられるなら道を備えてくださる、と信じていました。父は祝福を授けてくれました。その中で、わたしはメキシコで伝道し、生涯教会で奉仕し、家族を持つと言われました。右腕はひじの上で切断しなければなりませんでしたが、命は助かりました。そして与えられた約束はすべて成就しました。

腕を失うのは大変な苦しみだと思う人がいるかもしれません、わたしの人生では最も大きな祝福の一つになりました。問題があっても立ち向かっていくことが、とても大切であることを学びました。」

ディクソン長老は右利きでしたが、何でも左手でしなければならなくなりました。ネクタイを結べるようになるのにも苦労しました。こう話しています。「ある日曜日の朝、自分の部屋でネクタイを手にしたとき、どうやって結べばいいんだろう、と悩みました。クリップで留めるだけのネクタイにしようかと考えました。また、母に助けを求めるようかと思いました。しかし、ネクタイを結んでもらうためだけに、母を伝道に連れて行くことはできません。自分で結べるようになるしかないと決心しました。そしてついに、歯を使うことで問題を解決しました。今でも、何千回と結んできたその方法で結んでいます。」<sup>33</sup>

この先の不確実な時代において、わた

したちは神の聖徒の人間性に求められるものをすべて詳しく知っているわけではありません。日々の義にかなった生活はますます難しくなるでしょう。それに加えて、神権者は家族を守り養ううえで、特別な試練に遭遇するに違いありません。ある世界的な指導者が最近指摘したように「だれもが同じ危険にさらされるでしょう。今日、殺人を脅迫の手段としている凶悪組織や国籍のない過激派集団は、文明国が大切にする原則や人命の尊厳を軽蔑することしか知らないのです。」<sup>34</sup>

すべての人が試練に直面すると予想されます。しかし、偉大な永遠の約束は、義に踏みとどまる人々に及びます。主は次のように約束しておられます。「あらゆる点で引き続き忠実である者は、心が疲れることも暗くなることもなく、体や手足や関節が疲れることもない。……また、これらの者は飢えることも、渴くこともない。」<sup>35</sup> わたしは主の教会とその会員の将来について楽観的ですが、わたしたちは義に踏みとどまり「あらゆる点で忠実で」なければなりません。<sup>36</sup> メルキゼデク神権の誓詞と聖約を守る人によってつかさどられる神の知識の鍵は、わたしたちが神の息子になるのを可能にしてくれるでしょう。そのように行えるよう、へりくだり、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

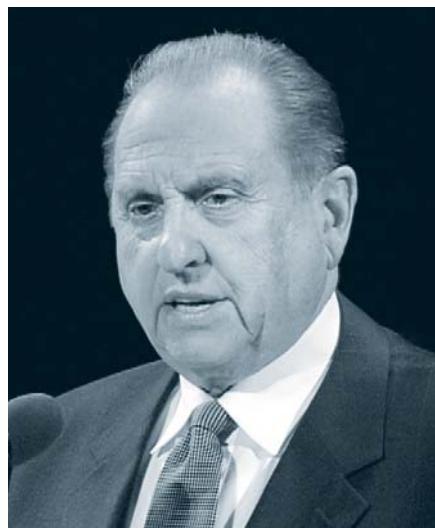
#### 注

1. 教義と聖約84:19
2. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選(1976年), 166-167
3. ブライアン・H・スタイル編, *Collected Discourses Delivered by President Wilford Woodruff, His Two Counselors, the Twelve Apostles, and Others*, 全5巻(1987-1992年), 第2巻, 355-356
4. アブラハム1:2
5. 教義と聖約42:61
6. カーロス・E・エイシー「神権の誓詞と誓約」『聖徒の道』1986年1月号, 45-47参照
7. 3ニーファイ20:25-29参照
8. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 149-150参照
9. 教義と聖約84:33-42参照
10. "The Oath and Covenant Which Belongeth to the Priesthood," *Improvement Era*, 1962年6月号, 416
11. 教義と聖約84:33参照
12. 教義と聖約84:33参照
13. 教義と聖約84:40
14. 教義と聖約84:33
15. 教義と聖約84:34
16. 教義と聖約84:34
17. 教義と聖約84:35
18. 教義と聖約84:36参照
19. 教義と聖約84:37参照
20. 教義と聖約84:38参照
21. 教義と聖約84:38参照
22. マタイ26:26-28参照; ジョセフ・スミス訳マタイ26:22-24
23. ビクター・L・ブラウン「アロン神権を展望して」『聖徒の道』1976年11月号, 98-99で引用
24. ジェーソン・スウェンセン, "Priesthood Restored Directly from Heaven," *Church News*, 2004年5月22日付, 3で引用
25. 創世18:18; ガラテヤ3:8; 3ニーファイ20:25, 29参照
26. アブラハム2:9
27. ガラテヤ3:29
28. ヨハネ8:39。ヨハネ8:32-50も参照
29. アブラハム2:9
30. 教義と聖約132:30
31. ガラテヤ3:29参照
32. アブラハム2:11
33. 「小さなお友だちへ」『せいとのみち』1996年6月号, 6-7
34. Colin Powell, "Of Memory and Our Democracy," *USA Weekend*, 2004年5月2日付, インターネット, <http://www.usaweekend.com>
35. 教義と聖約84:80
36. 教義と聖約84:80

# 熱心に携わる

第一副管長  
トーマス・S・モンソン

**定員会の会員がいます。また、定員会の会員になるべき人たちがいて、彼らはわたしたちの助けを求めています。**



**愛**する兄弟たち、今晚わたしは、皆さんの前に立ち、わたしたちに与えられている神の神権という神聖な特権について教え、証するように言われました。その要請にこたえるのは、厳肅で、また、幾分おそれ多いことです。皆さんのが信仰を持ち、わたしのために祈ってくださるよう祈っています。

今晚、この美しいカンファレンスセンターや世界中の会場でこの会に参加しているアロン神権者とメルキゼデク神権者のほかに、様々な理由で義務を放棄して違う道を歩むことを選択した神権者が非常に大勢います。

主はわたしたちに、そのような人たちに手を差し伸べて救助し、家族とともに彼らを主の食卓に連れて来なさいと、大変簡潔に述べておられます。「それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行する

ようにしなさい」<sup>1</sup>と宣言された主の神聖な教えに、わたしたちは耳を傾ける必要があります。主はまた、さらに付け加えて言われました。

「見よ、わたしがすべてのことを命じるのは適切ではない。すべてのことを強いられて行う者は怠惰であって、賢い僕ではない。したがって、彼は報いを受けない。

まことに、わたしは言う。人は熱心に善いことに携わり、多くのことをその自由意志によって行い、義にかなう多くのことを成し遂げなければならぬ。

人は自らの内に力があり、それによって自ら選択し行動する者だからである。そして、人は善を行うならば、決してその報いを失うことはない。」<sup>2</sup>

神聖な聖文は次の聖句で、皆さんやわたしに、従うべき規範を与えてくれています。「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛され〔ました。〕」<sup>3</sup> また、「イエスは、神が共におられるので、よい働きをしながら、……巡回されました。」<sup>4</sup>

主の生涯を研究していて気づいたのですが、主のいつまでも残る教えと驚くべき奇跡は、いつも主が御父の業に携わっておられたときに起こっています。主はエマオに行く途中、骨肉の体をもって御姿を現されました。そして食物を食べ、御自分の神性を証されました。これはすべて主が墓を出られてから起こったことです。

それより前、主が目の見えない人を見るようになさったのは、エリコに行く途中でした。

救い主はいつも人を教え、証し、救う

ことに熱心であられました。それが現在、神権定員会の会員であるわたしたち個人の義務です。

1980年4月6日、大管長会と十二使徒定員会は、証と真理について次のような宣言を出しました。

「わたしたちは、末日聖徒イエス・キリスト教会が回復された教会であり、神の御子がこの地上でその業を行っておられたときに設立された教会が、そのまま回復されたものであることを厳肅に断言するものであります。この教会は聖なるイエス・キリストの御名を冠し、イエスを隅のかしら石として使徒と預言者のうえに建てられています。また、アロン神権とメルキゼデク神権の位をもって構成される神権が、古代においてそれを所有した人々の手を通して回復されました。アロン神権はバプテスマのヨハネを、メルキゼデク神権はペテロ、ヤコブ、ヨハネを通して回復されたのです。」<sup>5</sup>

1889年10月6日には、ジョージ・Q・キャノン副管長が次のように嘆願しています。

「わたしは、神権の力が強められるのを見たいのです。……この強さと力が、教会の大管長から最も若くて謙遜な執事に至るまで、神権者全体に満ち渡るのを見たいのです。すべての男性は、神の啓示を求め、享受すべきです。その天からの光は、わたしたちの心と靈を輝かせ、各自の義務、つまり、神の業の中で神権者に与えられている責任に関して知識を与えるものなのです。」<sup>6</sup>

今夜、わたしはこれまでの人生で経験したことを二つ話します。一つはわたしの子供時代の話で、もう一つは、夫であり、子供を持つ父親だった友人に関するものです。

わたしがアロン神権の教師に聖任されて間もなく、定員会の会長に召されました。アドバイザーのハロルドはわたしたちに関心を持ってくれていて、わたしたちもそれを知っていました。ある日、彼が言いました。「トム、君は、ハトを飼っているんだって。」

わたしは愛想よく「ええ」と答えました。

すると彼は「純血種のバーミンガム・ローラーのつがいを、君にプレゼントさせ

てもらえないだろうか」と言ったのです。

今度は「はい、ぜひお願ひします!」と答えました。実は、わたしが飼っていたのは、グラント小学校の屋根の上にわなを仕掛けて捕まえたどこにでもいるハトだったのです。

翌日の夕方、彼の家へ招かれました。幼いころのわたしには、その日は最も長く感じられる一日でした。わたしはアドバイザーの帰宅を1時間ほど待ちました。仕事から帰って来た彼は、わたしを裏庭の小さな納屋にあるハト小屋へ連れて行ってくれました。そこにはそれまでに見たこともなかったほど美しいハトがいました。「どれか雄を1羽選びなさい。それから世界中どこを探してもいよいよ変わった雌バトを上げよう。」わたしは雄バトを1羽選びました。すると彼はわたしの手に小さな雌バトを乗せてくれました。この雌バトのどこがそんなに変わっているのかと尋ねると、彼は「注意してよく見てごらん。目が片方しかないから」と言うのです。確かにそのとおりで、この雌バトには片目がありませんでした。ネコの仕業でした。「家へ連れて行って、君のハト小屋の中に入れておきなさい。そして10日ほど小屋の中で飼ったら、外に出てみて君の小屋に戻って来るかどうか試してみるといい」と彼は言葉を添えました。

わたしは言われたとおりにしました。雄バトを離すと、小屋の屋根の上を偉そうに歩き回り、それからえさを食べに小屋に戻って来ました。ところが、片目の雌バトの方は、すぐにどこかに飛んで行ってしまったのです。わたしはハロルドに電話をして尋ねました。「あの片目のハトがあなたの小屋に戻っていませんか。」

「来てごらん、一緒に調べてみよう」と彼は答えました。

台所の戸を開けてハト小屋まで歩いて行く途中、アドバイザーはこう言いました。「トム、君は教師定員会の会長だね。」わたしはそんなことは言われなくとも分かっています。すると彼は続けてこう言ったのです。「ボブに教会へ戻ってもらうためにどんなことをするつもりだい。定員会の会員なんだけど。」

わたしは、「今週の定員会集会には連れて来ます」と答えました。

やがて彼は、特別な巣に手を伸ばし、片目のハトを取り出して渡してくれました。「もう2,3日巣の中で飼ってみてから、また試してみるといい。」わたしは言われたとおりにしてみましたが、またいなくなってしまいました。そして同じことが繰り返されました。「来てごらん、戻っているかどうか調べてみよう。」ハト小屋に行く途中で、彼が言いました。「おめでとう。ボブを神権会に連れて来たね。じゃ今度は、君とボブで、ビルを呼び戻すために、どんなことをしたらいいだろうか。」

「来週、二人で彼を連れて来ます」と答えました。

その後このような経験が何度も繰り返されたのです。わたしは大人になって初めて、アドバイザーのハロルドが特別なハトをプレゼントしてくれたほんとうの意味をはっきりと知ることができました。ハロルドはそのハトが必ずハロルドのハト小屋に戻って来ることを知っていたのです。このような靈感を受けた方法によりハロルドは、2週間ごとに教師定員会の会長と理想的な神権個人面接を行ったのです。わたしは今日あるのも、あの片目のハトのおかげです。そして、それ以上に、あの定員会アドバイザーに感謝しています。ハ

ロルドの辛抱強い方法のおかげで、将来待ち受ける責任に対して備えることができたのです。

父親、祖父である皆さん、わたしたちは大切な息子や孫を導くという非常に大きな責任があります。彼らはわたしたちの助けを必要としています。わたしたちの励ましと模範を必要としています。「青少年に多くの批評家は要らない。必要なのは、彼らが従うべきもっと多くの手本である」という賢明な言葉があります。

次に、教会への出席や、何であれ教会の活動への参加が習慣、あるいは生活の一部になっていない人たちについて話しましょう。これら長老見込み会員の数は増えています。それは、アロン神権定員会に属する少年たちが、アロン神権者の時代にいなくなっていくためであり、また、バプテスマを受けた成人男性がその後、長老に聖任されるために必要とされる集会や活動への参加がなかったり、信仰を保ち続けることができなかったりするためです。

わたしは、そのような人たちの心や思いについても考えますが、彼らの優しい妻や成長期にある子供たちを思って悲しくなります。この男性たちは助けと励ましの言葉を待っています。愛にあふれ、相手を高め、強めたいとの望みにあふれ





台湾の集会所で神権部会の衛星放送に親子で出席する台湾桃園ステークの会員

た、真理に関する個人的な心からの証を待っています。

友人のシェリーもその一人でした。シェリーの妻と子供たちはすばらしい会員でしたが、シェリー自身にバプテスマを受けて神権者となり、その祝福を味わってもらおうとする努力は、どれも悲しいほどうまくいきませんでした。

しかしあるとき、シェリーの母親が亡くなりました。悲しみのあまり、シェリーは遺体を安置する部屋のそばの別室に引きこもっていました。彼が独りで死を悼み、悲しみの涙を流すのを人に見られずに済むよう、わたしたちは彼の部屋に式場の様子を映せるように準備しました。説教台に向かう前に彼の部屋に立ち寄り、お悔やみの言葉をかけると、彼はわたしを抱き締めました。わたしは彼の心の琴線に何かが触れたのだと悟りました。

時が流れ、シェリーは家族とともに町の別の地区へ引っ越しして行きました。わたしはカナダ伝道部を管理する召しを受け、家族とともにカナダのトロントで3年間を過ごしました。

帰還後十二使徒に召されたわたしに、シェリーから電話がかかってきました。「監督、ソルトレーク神殿で妻と子供とわたしを結び固めてくださいませんか。」

わたしはためらいながら答えました。「でもシェリー、まずバプテスマを受けて教会の会員にならなくては。」

彼は笑って言いました。「ああ、それはもう、監督がカナダにいる間に済ませま

した。あなたを驚かせようと思ったんです。実は、ホームティーチャーがいつも訪ねて来てくれて、教会の真理を教えてくれたんです。彼は通学路の安全指導員で、毎日朝と午後、登下校中の子供たちが道を渡るのを助けていました。わたしは彼から手伝うように頼まれました。彼は、子供たちの集団が途切れる度に、教会についてもっと教えてくれました。」

わたしはこの奇跡をこの目で見、心の底から喜びを感じる特権を得ました。結び固めが執行され、家族が一つとなりました。その後間もなくして、シェリーは亡くなり、彼の葬儀で話をする特権にあづかりました。ひつぎの中で神殿の衣服を身に着けて横たわるわたしの友、シェリーの姿を、いつまでも覚えていることでしょう。そのとき自分が涙を流したことを喜んで認めます。それは感謝の涙でした。いなくなつた者が見つかったのですから。

主の御手を感じた人は、自分の生活に生じた変化をなぜか説明することができません。そこにあるのは、もっと善良な生活をし、忠実に仕え、謙遜に歩み、さらに救い主に似た者となりたいという望みです。靈の目を授けられて永遠の約束をかいま見た人は、イエスに目を癒していただいた人が口にしたことを繰り返します。「ただ一つのことだけ知っています。わたしは盲人であったが、今は見えるということです。」<sup>7</sup>

これらの奇跡をどう説明すればよいのでしょうか。長い間眠っていた人が突然

いきいきとするのはなぜでしょうか。詩人は死を表して、「神の御手が触れると彼は眠った」<sup>8</sup>と言いました。わたしはこの新しい誕生を表して、「神の御手が触れると彼らは目覚めた」と申し上げます。

態度や習慣、行動の変化を引き起こす基本的な要素理由が大きく分けて二つあります。

第1に、永遠の可能性を見せられると、人はその可能性を実現しようと決心します。優秀に手が届くならば、平凡に長く甘んじてはいられないのです。

第2に、救い主の助言に従い、隣人を自分自身のように愛する男性、女性、そしてもちろん若者の存在です。彼らは隣人の夢がない、大望が実現されるよう手伝っているのです。

こうした一連の働きの中で力となるのが愛の原則です。

時が流れても、人の生活を変える頗るい主の力は決して変わりません。死んだラザロに言ったように、主はわたしたちにも「出てきなさい」<sup>9</sup>と呼びかけておられます。わたしはこれに付け加えます。「疑い」という袋小路から出て来なさい。罪の悲しみから出て来なさい。不信心という行き止まりから出て来なさい。新しい命に出て来なさい。」

わたしたちが出て行き、イエスの歩かれた道に添って歩くとき、イエスが与えてくださった証を忘れないようにしましょう。「見よ、わたしはイエス・キリストであり、世に来ると預言者たちが証した者である。……わたしは世の光であり命である。」<sup>10</sup>「わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。」<sup>11</sup>

定員会の会員がいます。また、定員会の会員になるべき人たちがいて、彼らはわたしたちの助けを求めています。「飢えた羊は目を上げても、えさをもらえない」<sup>12</sup>とジョン・ミルトンはその詩「リシダス」に書きました。主御自身も預言者エゼキエルに言われました。「わざわいなるかな……イスラエルの牧者。……あなたがたは……群れを養わない。」<sup>13</sup>

神権者である兄弟の皆さん、これはわたしたちの義務です。しかし、この義務は達成不可能なことではないということを覚え、決して忘れないようにしましょう。神権の召しを尊んで大いなるものとするところでは、どこでも奇跡を見ることがあります。信仰が疑いに取って代わり、無私の奉仕が利己心を取り去るとき、神の力により御自身の目的が果たされます。わたしたちは主の用向きを受けています。主の助けを受ける資格があるのです。しかし、努力しなければなりません。「シェナンドー」という劇の中に心を鼓舞するせりふがあります。「やってみないことには何もできない。何もできないというなら、何でここにいるのだろう?」

皆さん、御言葉を聞くだけでなく、行う者となりましょう。<sup>みことは</sup>14 主の預言者、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の模範に従いましょう。

昔、救い主に従った人々のように、主の招きにこたえましょう。主は招いておられます。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」<sup>15</sup>わたしたちにそれができますように。イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

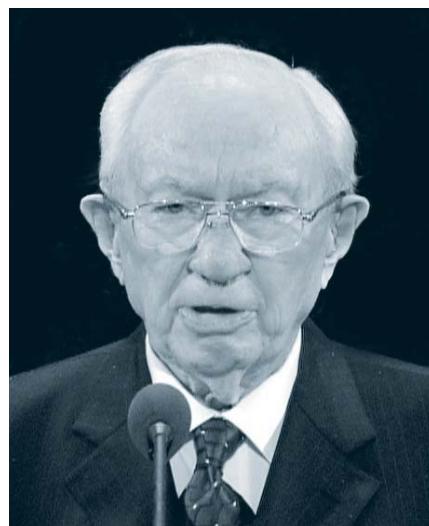
#### 注

1. 教義と聖約107:99
2. 教義と聖約58:26-28
3. ルカ2:52
4. 使徒10:38
5. 「宣言」『聖徒の道』1980年9月号、84-86参照
6. *Deseret Semi-Weekly News*, 1889年10月29日, 5
7. ヨハネ9:25
8. アルフレッド・テニソン卿、*Memoriam A. H. H.*, 第85段、第5節、第4行
9. ヨハネ11:43
10. 3ニーファイ11:10-11
11. 教義と聖約110:4
12. "Lycidas," 第125行
13. エゼキエル34:2-3
14. ヤコブの手紙1:22参照
15. マタイ4:19

# 悲劇をもたらす悪

大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー

〔ポルノグラフィーは〕あたかも荒れ狂う嵐のように、個人と家族を破壊し、かつて健全で美しかったものを徹底的に打ち砕いています。<sup>あらし</sup>



親愛なる兄弟の皆さん、この非常に大きな神権会に皆さんとともに参加でき、うれしく思います。神権者が一堂に会する集会としては、恐らく過去最大のものでしょう。かつて全世界の神権者が預言者ジョセフの教えを受けるべく、オハイオ州カートランドの一室に集まつことがあります。ウィルフォード・ウッドラフが記述したそのときの集会と今日のこの集会とは、あまりに対照的です。

今夜、耳にしたすばらしい助言を、皆さんの生活に取り入れてください。

最後の話をするに当たり、不本意ながら以前に採り上げたテーマで話します。わたしはこの話をアルマの次の言葉に込められている精神で話します。「神の御手に使われる者となって幾人かでも悔い改めに導けること、これがわたしの誇りである。」(アルマ29:9)

そのような思いで、今晚皆さんに話します。新しい事柄ではありません。以前にも採り上げた内容です。『エンサイン』(Ensign)と『リアホナ』9月号には、同じテーマで数年前に話した説教が掲載されています。オークス兄弟も、今夜同じことについて触れました。

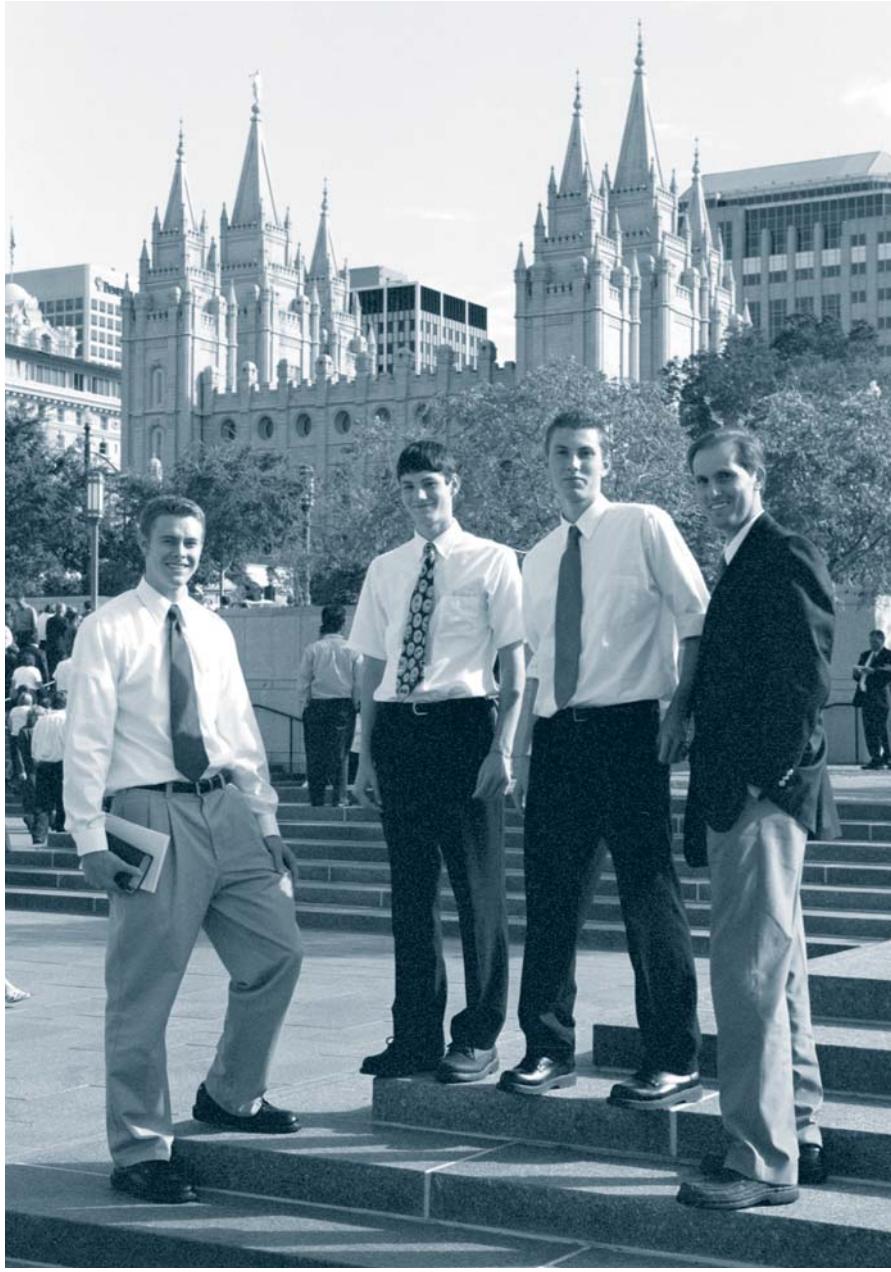
これから話す事柄は過去にも問題でしたが、現在、事態ははるかに深刻です。悪くなる一方です。あたかも荒れ狂う嵐のように、個人と家族を破壊し、かつて健全で美しかったものを徹底的に打ち砕いています。わたしはあらゆる形のポルノグラフィーについて話します。

これについて話すのは、心を痛める妻たちの手紙がわたしのもとに届いているからです。

つい数日前に受け取った手紙の一部を読みましょう。書いた女性から了承を得ています。当事者を明らかにする恐れのある箇所はすべて消去しました。話の流れを分かりやすくするために、最小限の手直しをしています。

では引用します。

「親愛なるヒンクレー大管長、35歳になる夫が最近亡くなりました。……最後の手術の後、夫は病状の許すかぎりすぐに監督と会って話をしました。その日の夜、夫はわたしのもとに来ると、自分はポルノグラフィー中毒だったと告げました。〔亡くなる前に〕わたしから赦しを得たかったのです。『二重生活を送るのはもううんざりだ』とも言いました。夫はこの『別の主人』にとらわれながらも〔同時に〕、教会では〔幾度となく大切な〕召しを



果たしてきました。

わたしはショックを受け、傷つきました。裏切られ、汚されたと感じました。そのときは赦すことを約束できず、時間が欲しいと言いました。……結婚生活を振り返ると、初めからポルノグラフィーが二人の関係をむしばんでいました。結婚数か月後、夫は1冊の〔わいせつな〕雑誌を持ち帰りました。わたしは夫を車から外に閉め出しました。ひどく傷つき、憤慨したからです。……

結婚後、長きにわたり……夫は多くのことを厳しく要求しました。彼を満足させることはできず……わたしはこの上な

く憂うつでした。……今にして思えば、わたしは流行の『ポルノ女優』と比較されていたのです。……

あるとき、わたしたちはカウンセリングを受けました。……夫はわたしへの批判と軽蔑を一気に吐き出し、わたしの心をズタズタに引き裂きました。……

その後、彼と一緒に車に乗ることさえできず、……何時間も何時間も、自殺を考えながら町を歩き回りました。『永遠の伴侶』があんなふうにしかわたしを思っていないのなら、人生に何の意味があるだろう〔と思いました。〕

死ぬのは思いとどりましたが、わたし

は殻に閉じこもりました。夫以外のためには生きました。子供に、そして自分一人だけで何かを達成することに喜びを見いだしたのです。……

『臨終の告白』の後、わたしは〔時間をかけて〕自分の人生を徹底的に吟味してから、夫に〔言いました〕。『自分がしたことが分かっているの！』……わたしは結婚生活を清い心で始め、ずっとその心を保ち、いつまでも清く保つつもりだったと言いました。どうして夫は同じようにできなかったのでしょうか。わたしが求めていたのは、物として扱われるのではなく、ただ大切にされ、ちょっとした優しい言葉をかけてもらうことだけだったのです。

今、わたしは一人になり、夫を亡くしたことだけでなく、〔美しいものとすることができたのに、できなかった〕夫婦関係を思つて悲しんでいます。……

どうぞ、兄弟〔姉妹〕たちに警告してください。ポルノグラフィーは、一時的に興奮をもたらす、心地よい目の保養ではないのです。〔むしろ〕心と魂を奥底まで傷つけ、神聖であるはずの関係を壊し、ほんとうに愛すべき人の心を奥の奥まで傷つけてしまうものなのです。」

そして署名して手紙を結んでいます。

何と痛ましく、悲劇的な話でしょうか。詳細は一部割愛しましたが、彼女の深い悲しみは感じ取れるでしょう。夫はどうなったのでしょうか。一生罪に縛られていたことを最後に告白し、癌の苦しみのうちに亡くなりました。

ポルノグラフィーを見ることは罪です。悪魔の喜ぶ行為です。それは福音の精神、神にかかる事柄についての個人的な証、聖なる神権に聖任された男性の人生とはまったく矛盾した行為です。

わたしのもとに届いている手紙はこの1通だけではありません。わたしたちの間でさえ、これが非常に深刻な問題となつていると確信してしまうほど多くの手紙が届いているのです。ポルノグラフィーの発信源と表現方法は様々です。今や、その量はインターネットを通して増加しています。このインターネットは大人だけでなく、若人も利用することができます。

報告によると、ポルノグラフィーは今や世界的な広がりを見せ、570億ドル産業となっているそうです。そのうち120億ドルを占めているのがこの合衆国です。背後には「陰謀を企てる人」がいて(教義と聖約89:4参照)、だまされやすい人を犠牲にして富を追い求めています。アメリカのポルノグラフィーの収益は、アメリカンフットボール、野球、バスケットボールのプロチームを合わせた総収益、あるいはABC放送、CBS放送、NBC放送を合わせた総収益を超えてるという報告もあります("Internet Pornography Statistics: 2003," インターネット, <http://www.healthymind.com/5-port-stats.html>)。

ポルノグラフィーは職場から従業員の時間と能力を奪っています。「20パーセントの男性が仕事中にポルノグラフィーにアクセスし、13パーセントの女性も[同様で]、10パーセントの成人がインターネット上で性におぼれていることを認めています。」("Internet Pornography Statistics: 2003")これは自分で認めた人の数値ですから、実際はこれよりはるかに多いかもしれません。

全国子供家族保護連合(NCPCE)は次のように述べています。「合衆国では、およそ4,000万人がインターネットを通じて性的な事柄に関与している。……

10歳から17歳の子供のうち5人に1人が、インターネットを通じて性的勧誘を受けた[ことがある。]……

2000年9月の成人向けホームページ閲覧者のうち300万人は17歳以下である。……

インターネットで検索されるトピックの1位が性に関するものである。」(NCPCE Online, "Current Statistics," インターネット, <http://www.nationalcoalition.org/stat.html>)

統計はまだ続きますが、皆さんもこの問題がどれほど深刻かよく知っているはずです。これにかかる人はだれもが犠牲者だと言えば十分です。子供は性的虐待を受け、彼らの生活は深い傷を負います。若者の心は誤った考え方によりひずみを生じます。ポルノグラフィーを見続け



ると、断ち切ることがほとんど不可能な中毒状態になります。実に多くの男性が、縁を切ることができません。彼らのエネルギーと興味は、この下品で低俗なものの飽くなき追求に消耗されているのです。

お決まりの言い訳は「避け難い」「いとも簡単に見られるので逃げ場がない」というものです。

嵐が荒れ狂い、風がうなりを上げ、猛吹雪があなたを襲っているとします。嵐を静めることはできないでしょう。しかし、きちんと着込み、嵐を避ける避難場所を探すことはできます。

同様に、インターネットに下品なものが

たくさんあっても、見る必要はないのです。福音と、清さ、徳、清い生活という福音の教えに逃げ込めばよいのです。

わたしは今、直接的に、明瞭に話しています。そのような話し方をしているのは、DVD、ビデオ、テレビ、雑誌販売店に加えて、インターネットにより、ポルノグラフィーが以前にも増して入手しやすくなっているからです。ポルノグラフィーは、自尊心を破壊するような空想、不義な関係、しばしば病気、そして犯罪的虐待の引き金となります。

兄弟の皆さん、わたしたちにはもっとすばらしいことができます。救い主は群衆

にこう教えられました。「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。」(マタイ5:8)

これ以上に大いなる祝福を望むことができるでしょうか。年齢に関係なく、神の神権を持つ男性が進むべき道は、品位、自制、健全な生活という高貴な道です。若い男性に次の質問をします。「皆さんが持っている神権を回復したバプテスマのヨハネが、ほんの少しでも、そのような行いをすると想像できますか。」大人の男性に質問します。「主の使徒であるペテロ、ヤコブ、ヨハネがそのような行いをしていくところを想像できますか。」

もちろん、想像できません。さて、兄弟の皆さん、だれであれ、ポルノグラフィーを見ている人は、今こそ、泥沼から抜け出し、この悪から離れ、「神に頼って生きる」時です(アルマ37:47)。情欲をかき立てるような雑誌を見る必要も、卑わいな本を読む必要もありません。不健全な番組を見る必要も、下品なビデオを借りる必要も、コンピューターの前でインターネット上のポルノグラフィーをもてあそぶ必要もないのです。

もう一度言います。わたしたちにはもっとすばらしいことができます。もっとすばらしいことを行う義務があります。わたしたちは神権を授けられています。それはきわめて神聖かつ驚嘆すべき賜物であり、この世の多くのくだらないものに比べると、はるかに価値のあるものです。しかし、だれであれ、ポルノグラフィーを追い求め始めるときに、その人の神権の効力はなくなります。

もしもわたしの声の届くところにそのような人がいたら、自分を縛りついている中毒を取り除いてくださるように、心の奥底から、主に願い求めてください。また、勇気を奮い、監督の愛に満ちた導き、必要ならば、思いやりのある専門家の助言を求めてください。

もしこの悪習にとらわれている人がいたら、一人になれる部屋でひざまずき、この邪悪な怪物から解放されるよう、主に助けを願い求めてください。さもなければ、この醜い染みは生涯にわたって、さ

らには永遠にわたって残ったままになるでしょう。ニーファイの弟のヤコブは、次のように教えています。「そしてすべての人は、この第一の死から命に移行すると、すでに不死となっているので……義にかなった者はそのまま義の状態にあり、汚れている者は、そのまま汚れた状態にある。」(2ニーファイ9:15, 16)

ジョセフ・F・スミス大管長は、死者の靈を救い主が訪れられた示現の中で、「悪人のところへは、御子は行かれなかった。また、神を敬わない者や、肉体にあるときに自らを汚して悔い改めなかつた者の中では、御子の声は発せられ〔なかった〕」を見ました(教義と聖約138:20)。

さて、兄弟の皆さん、わたしは否定的になりたくはありません。根が楽観的ですから。しかし、こういった問題になると、現実的になります。もしこのような行為をしているなら、今こそ変わる時です。今この瞬間に決意してください。向きを変え、より良い生き方をしてください。

主はこう言われました。「絶えず徳であるたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るであろう。

聖靈は常にあなたの伴侶となり、あなたの笏は義と真理の不变の笏となるであろう。そして、あなたの主権は永遠の主権となり、それは強いられることなく、とこしえにいつまでも、あなたに流れ込むことであろう。」(教義と聖約121:45-46)

これ以上の祝福を望めるでしょうか。この無上の祝福が主の御前を、また万人の前を徳高く歩む人に約束されているのです。

主の道は何とすばらしいことでしょう。主の約束は何と栄光に満ちていることでしょう。わたしたちは誘惑に遭ったとき、邪悪な思いの代わりに主や主の教えを考えることができます。主はこう語っておられます。「また、あなたがたがわたしの栄光にひたすら目を向けるならば、あなたがたの全身は光に満たされ、あなたがたの中に暗さがないであろう。そして、光に

満たされるその体はすべてのことを悟る。

それゆえ、あなたがたの思いがひたすら神に向いたものとなるように、自らを聖めなさい。そうすれば、あなたがたが神を見る日が来る。神はあなたがたにその顔を現すからである。」(教義と聖約88:67-68)

今晚、ともに出席している執事、教師、祭司の皆さん、聖餐にかかわる責任を持つすばらしい若人の皆さん、主はこう言っておられます。「バビロンから出なさい。主の器を担う者たちよ、清くありなさい。」(教義と聖約133:5)

すべての神権者にとって、この啓示の言葉は明瞭であり言い逃れることができません。「神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついており、天の力は義の原則に従つてしか制御することも、運用することもできないということである。」(教義と聖約121:36)

さて兄弟の皆さん、わたしは皆さんのほとんどがこの悪に苦しめられていないことを知っています。この問題について長々と話したことを申し訳なく思います。しかし、もし皆さんがステーク会長、あるいは監督、地方部長、支部長であれば、この悪に苦しんでいる人々を助ける必要に迫られるでしょう。皆さんの知恵と導き、靈感、そして愛を必要としている人のために、主が皆さんにそれらを授けてくださるよう祈ります。

年齢にかかわらず、この悪習にとらわれていない皆さん、皆さんを誇りに思い、皆さんにわたしの祝福を残します。罪のない御方の福音の教えに従つて生活するは何とすばらしいことでしょう。そのような生活を送る人は、徳と力の光に照られ、一点の染みもない状態で歩いているのです。

愛する兄弟の皆さん、天の祝福が皆さんとともにありますように。わたしたち皆が、助けの必要なすべての人々に手を差し伸べることができますように、イエス・キリストの聖なる御名によって祈ります。アーメン。



# 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

2004年10月現在  
大管長会



第一副管長  
トーマス・S・モンソン

大管長  
ゴードン・B・ヒンクリー

第二副管長  
ジェームズ・E・ファウスト

## 十二使徒定員会



## 七十人第一定員会

カーロス・H・アーマード	ニール・L・アンセシ	モジーラフ	シェルドン・F・チャイルド	シェルドン・J・L・ハーバート	クラウディオ・R・M・コスタ	クリストフ・K・ゴーリック	ジョン・B・ティック	クエンティン・L・クラック	モジーラフ	ニール・L・アンセシ
フレス・C・ヘーフェン	ドナルド・L・ホーリストロム	ウイリアム・カーラム	ケネス・ジョンソン	フレン・L・ポーダー	フレン・L・ベイス	フランシスコ・エッジリー	ジョン・M・マドセン	ジョン・M・マドセン	ジョン・M・マドセン	ジョン・M・マドセン
フレス・C・ヘーフェン	ドナルド・L・ホーリストロム	ウイリアム・カーラム	ケネス・ジョンソン	フレン・L・ポーダー	フレン・L・ベイス	フランシスコ・エッジリー	ジョン・M・マドセン	ジョン・M・マドセン	ジョン・M・マドセン	ジョン・M・マドセン
フレス・C・ヘーフェン	ドナルド・L・ホーリストロム	ウイリアム・カーラム	ケネス・ジョンソン	フレン・L・ポーダー	フレン・L・ベイス	フランシスコ・エッジリー	ジョン・M・マドセン	ジョン・M・マドセン	ジョン・M・マドセン	ジョン・M・マドセン
フレス・C・ヘーフェン	ドナルド・L・ホーリストロム	ウイリアム・カーラム	ケネス・ジョンソン	フレン・L・ポーダー	フレン・L・ベイス	フランシスコ・エッジリー	ジョン・M・マドセン	ジョン・M・マドセン	ジョン・M・マドセン	ジョン・M・マドセン

## 七十人第二定員会

スペンサー・J・コールマン	スペンサー・J・コーンディー									
マービン・B・アーノルド										
クリスティン・C・クリスティンセン										
ダーヴィン・B・クリスティンセン										
ロナルド・B・ハルバーン										



第一副議長  
管理監督会  
リチャード・C・エッジリー  
H・アーノルド・ハーデン



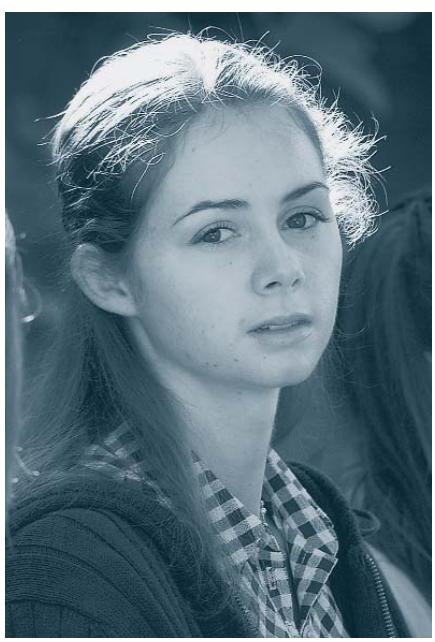
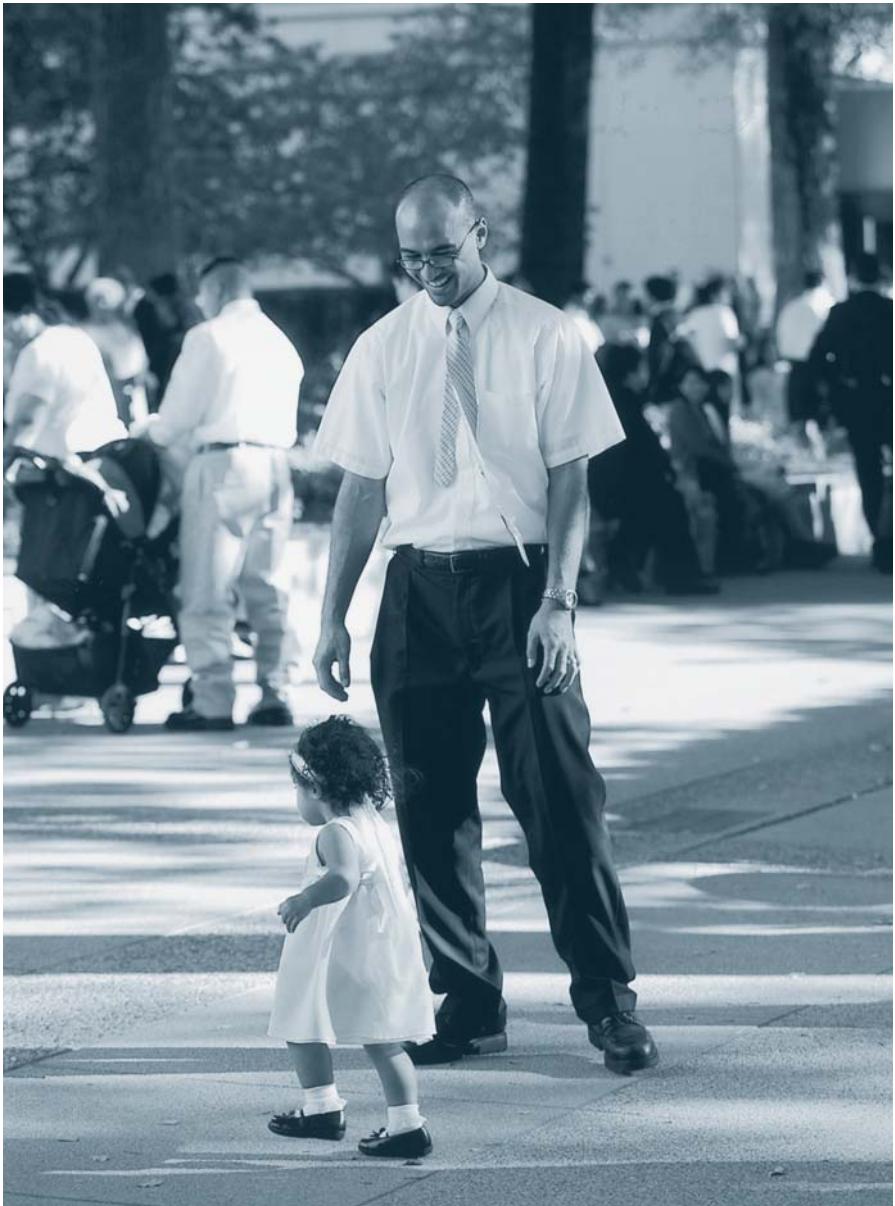
第二副議長  
管理監督会  
チャス・B・マクアリーナ



第三副議長  
管理監督会  
ロバート・F・オーバートン



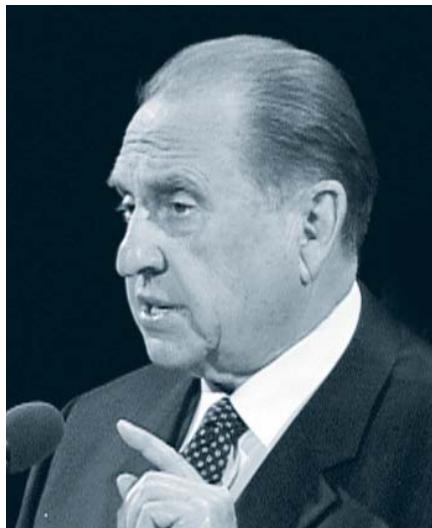
第四副議長  
管理監督会  
H・ブロード・R・ワーカー



# きょう、選びなさい

第一副管長  
トマス・S・モンソン

自分の選択が自分の行く末を決定するのです。



する兄弟姉妹。この会場で、そして世界各地で総大会に耳を傾ける皆さんに話すという、特権とも言うべき召しを果たすうえで、皆さんの信仰と祈りが支えてくれることを願っています。しかします、新たに十二使徒定員会に加わったディーター・ウークトドルフ長老とデビッド・ベドナー長老に心から歓迎の意を表します。

近ごろ、選択とそれがもたらす結果について考えています。「歴史の扉を開くのは小さなちうつがいである」という言葉は、わたしたちの人生にも当てはまります。自分の選択が自分の行く末を決定するのです。

古代のヨシュアは宣言しました。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」<sup>1</sup>

わたしたちは皆、胸躍るすばらしい旅に出ました。つまり靈界を去って、現世と

いう試練に満ちた世界に入ったのです。わたしたちは、神から選択の自由という偉大な賜物を頂いてやって来ました。預言者ウィルフォード・ウッドラフはこのように言いました。「神は一人一人の子供に選択の自由を与えられました。……[わたしたちは]世界が存在する前に天でそれを所有していました。そして主はそれをルシフェルの攻撃から擁護されました。……この選択の自由によって、わたしも皆さんも、すべての人々も、自分の行動と、人生と、行く末に対し責任を持つ者となったのです。」<sup>2</sup>

またブリガム・ヤングは言いました。「[神の]王国で昇栄を得るためににはすべての人が[この選択の自由]を行使しなければなりません。[わたしたちは]選択する力を持っているので、それを行使しなければなりません。」<sup>3</sup>

わたしたちは「永遠の死の道を選ぶことも、永遠の命の道を選ぶことも」<sup>4</sup> ゆだねられており、自由に行動できると聖文に書かれています。

なじみ深い賛美歌が、選択についての導きを与えてくれます。

選べ、正義を選べよ みたまに導かれ  
正義に頼るときには 光、常にあり……

選べ、義をなすところに 平安もたらさる  
常に働くときには 神の義を選べ<sup>5</sup>

正義を選び、危険なわき道を回避するための指針となるものを持っているでしょうか。わたしの執務室には、机の真向かいの壁に、ハインリッヒ・ホフマンが描

いた救い主の美しい絵があります。この絵が大好きで、監督を務めていた22歳のときに手に入れて以来、召しを受けて働く場所が変わる度に、必ず携えて行きました。わたしは主の模範を自分の人生に当てはめるよう努力してきました。困難な決断を迫られたときには必ず、この絵を見て自問してきました。「こんなとき主ならどうされるだろうか。」こうして得た結論に従うのです。救い主に従うことを選んでいれば、決して間違ことはありません。

ある選択がほかの選択よりも重要であると感じることがありますが、軽んじてよい選択など一つもないのです。

数年前、これに従えば必ず正しい選択ができるという1冊のガイドブックを手にしました。そのガイドブックとは、わたしたちがよく「合本」と呼んでいる、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠の3つの聖典を1冊にまとめたものです。この本は愛情深い父親から大切な娘への贈り物でした。父親の助言によく従うこの賢明な娘のために、巻末に、父親は次のような靈感あふれる言葉を自らの手で書きました。

## 「愛するモリーンへ

人の哲学の中にある真実と偽りを見分けるための変わらぬ基準として、また知識を増すと同時に、靈性をはぐくむことができるよう、この神聖な本を贈ろう。この本をよく読み、生涯の宝としなさい。

父より

ハロルド・B・リー」

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちの目標は日の栄えの栄光を得ることです。

ルイス・キャロルの名作『不思議の国のアリス』の主人公のように、優柔不断に陥らないようにならなければ。アリスは分かれ道に迷いました。2本の道が正反対の方向に続いていました。アリスはチエシャ猫に「わたしはどっちの道を行けばいいの」と尋ねました。

猫は答えました。「それはおまえ次第だよ。どっちへ行きたいか分からなければ、どっちの道へ行ったって大した違いはない



韓国では翻訳者の朴 媛洙 兄弟が通訳をし、世界中に放送された

いさ。」<sup>6</sup>

アリスと違って、わたしたちは皆、自分が行きたい所を知っています。ですからどちらの道を行くかが大切なのです。この世で歩む道は、確かに、次の世で歩む道に通じているからです。

わたしたちは皆、神の息子であり娘であること、また信仰と勇気を与えられ、祈りによって導かれることが忘れないでください。永遠の行く末は、わたしたちの前にあります。使徒パウロがテモテに語った言葉は、わたしたちに向けられたものでもあるのです。「あなたに与えられて内に持っている恵みの賜物を、軽視してはならない。」「テモテよ。あなたにゆだねられていることを守りなさい。」<sup>7</sup>

時としてわたしたちは「自滅」という敵に、思うままに操られることがあります。この敵は希望をくじき、夢を閉じ込め、未來像を曇らせ、人生を台なしにするのです。敵は耳もとでこうささやきます。「君にはできないさ。」「まだ若すぎるもの。」「この年ではもうだめさ。」「あなたは取るに足りない存在だ。」こんなとき、自分が神の形に創造されたことを思い出してください。この真実を思い出すことで、強さと力がみなぎるのを感じるでしょう。

大管長会の一員として長年奉仕したJ・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長を親しく知る機会があったことは、わたしにとって特権でした。クラーク副管長の数々

の名著が出版される際、その準備を手伝いながら、副管長から多くの貴重な教えを受けました。ある日、深く考え込んだ様子のクラーク副管長は、本の内容にふさわしい絵の印刷を手配してもらいたいと言いました。破壊された都市の廃墟を守るペルセポリスのライオンを描いた絵が選ばされました。クラーク副管長は豊富な聖文の知識から選んだ好きな聖句を、消滅した文明が残した、朽ちたアーチの間に印刷してほしいと考えたのです。クラーク副管長が選んだ聖句を、皆さんも知りたいことでしょう。伝道の書から2節、そしてヨハネによる福音書から1節の、計3節です。

まずは伝道の書です。「神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。」<sup>8</sup>

次の聖句はこうです。「伝道者は言う、空の空、空の空、いっさいは空である。」<sup>9</sup>

3つ目はヨハネからのものです。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」<sup>10</sup>

古代の預言者モロナイは、現在のモルモン書の一部になっている記録を作っているときに、こう勧告しました。「わたしは、預言者たちと使徒たちが書き記してきたイエスを求めるように、あなたがたに勧めたい。そうすれば、父なる神と主イエス・キリストと、この御二方のことを<sup>あかし</sup>証さ

れる聖霊の恵みが、とこしえにあなたがたの内にとどまるであろう。」<sup>11</sup>

デビッド・O・マッケイ大管長はこう勧告しました。「人生で最も大きな戦いはあなた自身の心という静かな部屋で繰り広げられます。……落ち着いて内なる自分と対話し、自分自身を理解し、その静かなひとときに、家族、教会、祖国、そして……隣人に対する自分の義務をはっきり認識するのは良いことです。」<sup>12</sup>

預言者ジョセフ・スミスは少年時代、天の助けを求めて、後に聖なる場所となる森に入りました。わたしたちも同じような強さを必要としているのでしょうか。だれもが皆、自分自身の「聖なる森」を求める必要があるのでないでしょうか。何にも妨げられず、中断されることもなく、じやまされずに神と人とが交わる場所、それが聖なる森です。

新約聖書は、人に対して利己心のない態度で接することができないなら、キリストに対して正しい態度で接することはできないと教えてています。マタイによる福音書で、イエスはこう教えられました。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」<sup>13</sup>

救い主は信仰篤い人を捜し求める際に、いつも会堂に入り出している大勢の独善的な人々からではなく、カペナウムの漁師の中からお選びになりました。海辺で教えを説いておられた主は、2そうの舟が湖岸に寄せてあるのを御覧になりました。群衆が押し寄せて來たので、主はその1そうに乗り込み、舟の持ち主に岸から少しこぎ出すようお頼みになりました。主は群衆に教えを説いてから、シモンに「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい」と言われました。

シモンは答えて言いました。「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかしお言葉ですから、網をおろしてみましょう。」

そしてそのとおりにしたところ、おびただしい魚の群れがはいっ[た。]

これを見てシモン・ペテロは、イエスのひざもとにひれ伏して言った、『主よ、わ

たしかに離れてください。わたしは罪深い者です。」<sup>14</sup>

主はこう答えられました。「わたしについてなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」<sup>15</sup>

漁師のシモンは主の召しに応じました。疑い深く不信で、教養もなく、訓練も受けておらず、短気なシモンにとって、主の道は、簡単な道でも苦痛のない道でもありませんでした。シモンは次のような叱責を受けることになりました。「信仰の薄い者よ……。」<sup>16</sup>しかし主から「あなたがたはわたしをだれと言うか」と尋ねられたとき、ペテロは「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と答えたのです。<sup>17</sup>

不信だったシモンは、信仰深い使徒ペテロになりました。ペテロ自身がそのような者となる選択をしたのです。

救い主は熱意と力のある宣教師を選ぶときに、御自身の教えに従う者からではなく、敵対者の中からお選びになりました。サウロは、ダマスコへ行く途中の出来事によって変わりました。サウロについて、主はこう言われました。「あの人には、異邦人たち、王たち、またイスラエルの子らにも、わたしの名を伝える器として、わたしを選んだ者である。」<sup>18</sup>

迫害者サウロは、宣教師パウロになりました。パウロ自身がそのような者となる選択をしたのです。

数え切れないほどの教員が、毎日無私の奉仕を行っています。声高に公言することも、<sup>ふいちょう</sup>吹聴することもなく、穏やかな愛と優しい思いやりをもって、多くのものを与えています。人に仕えるという心からの純粋な選択をした一人の人の話を紹介しましょう。

数年前、モンソン姉妹とわたしはトロントを訪れました。そこはかつて伝道部長として奉仕した町です。トロントステークの初代会長を務めた男性の妻であるオリーブ・デービーズは、重い病に伏し、死を迎えるようしていました。必要な看護が受けられるように、住み慣れた家を離れ、入院生活を送っていました。一人娘はすでに嫁ぎ、遠く離れたカナダ西部に住んでいました。

デービーズ姉妹を慰めようと訪問したところ、姉妹はすでに、何よりの慰めを受けていました。頼もしい孫がそばに静かに座っていました。彼は大学の授業を休んで夏中ほとんど祖母のそばで過ごし、世話をしていました。わたしはその青年に言いました。「ショーン、君はこの選

択を決して後悔しないだろう。おばあさんは、祈りの答えとして君が天から送られて来たと感じているんだよ。」

ショーンは答えました。「ここに来ることに決めたのは、祖母を愛しているからです。それに天のお父様がこうすることを望んでおられることを知っていましたから。」

涙があふれそうになりました。デービーズ姉妹は孫の助けがどれほどうれしいか、病院中の職員や患者にショーンを紹介するのがどんなに楽しいか話してくれました。ショーンは姉妹の手を取って廊下を歩き、夜はずっとそばにいました。

オリーブ・デービーズは天国へ旅立ちました。——忠実な夫と再会し、二人で永遠の旅を続けるために。孫の心には次の言葉が永遠に残ることでしょう。「選べ、正義を選べよ みたまに導かれ」<sup>19</sup>

このような選択は、自分の神殿を建設する礎となります。使徒パウロはこう勧告しました。「あなたがたは神の宮であって、神の御靈が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」<sup>20</sup>

今日皆さんに、人生における選択の場面で指針となる、単純ながら深遠な公式をお教えしましょう。



思いを真理で満たす。  
心を愛で満たす。  
生活を奉仕で満たす。

そうすることによって、いつの日かわたしたちの主である救い主から「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ」<sup>21</sup>という言葉を受けることができますように。  
イエス・キリストの御名によって、アーメン。

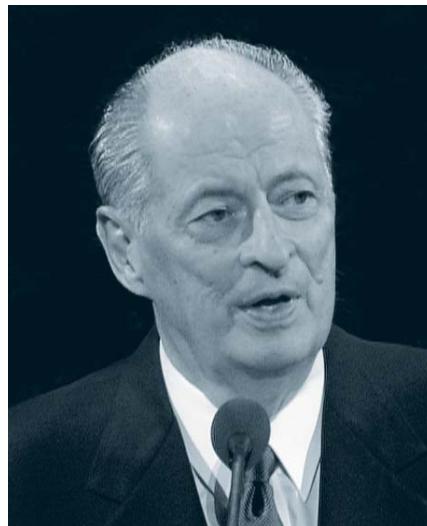
#### 注

1. ヨシュア24:15
2. ブライアン・H・スタイル編, *Collected Discourses Delivered by President Wilford Woodruff, His Two Counselors, the Twelve Apostles, and Others*, 全5巻(1987–1992年), 第1巻, 341
3. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウイツツォー選(1954年), 54
4. 2ニーファイ10:23
5. ジョセフ・L・タウンゼンド(1849–1942年)「選べ、正義を」『贊美歌』152番
6. ルイス・キャロル, *Alice's Adventures in Wonderland*(1992年), 76から翻案
7. 1テモテ4:14; 6:20
8. 伝道12:13
9. 伝道1:2
10. ヨハネ17:3
11. エテル12:41
12. Conference Report, 1967年4月, 84–85; *Improvement Era*, 1967年6月号, 80
13. マタイ25:40
14. ルカ5:4–6, 8
15. マタイ4:19
16. マタイ14:31
17. マタイ16:15, 16
18. 使徒9:15
19. 『贊美歌』152番
20. 1コリント3:16
21. マタイ25:23

# 主イエス・キリストへの 信仰を見いだす

十二使徒定員会  
ロバート・D・ヘイルズ

**平安と希望を与え、理解を助けてくれるのは、主イエス・キリストとその贋いに対する信仰だけです。**



救い主とその使命に対する信仰は、福音の中核を成すものです。「主イエス・キリストを信じる信仰」<sup>1</sup>が福音の第一の原則であるのはこのためです。信仰とは何でしょうか。使徒パウロは、新約聖書にあるヘブル人への手紙の中で、「信仰とは望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである」<sup>2</sup>と教えてています。では、信仰を得るにはどうしたらよいのでしょうか。お会いしたこともないのに、救い主が実在されるという確信を得るには、どうすればよいのでしょうか。聖文はこのように教えています。

「ある人には、イエス・キリストが神の子であり、世の罪のために十字架につけられたことを知ることが、聖靈によって許

される。

ほかの人には、続けて忠実であれば自分もまた永遠の命が得られるように、彼らの言葉を信じることが許される。」<sup>3</sup>

時の初めから、預言者たちはイエスが神の御子であること、使命を持ってこの世に来て、全人類を贖われることを知っていました。聖文を読むと、救い主の生誕だけでなく、確かに訪れる輝かしい再臨についても数千年にわたって預言されてきたことが分かります。

わたしたちが昔の預言者の時代に生きていたとしたら、その言葉を信じたでしょうか。救い主がお生まれになることを信じることができたでしょうか。

古代アメリカではレーマン人サムエルが、救い主がお生まれになる夜は「天に大きい光があるために、……人にはまるで昼のように思われる」<sup>4</sup>と預言しました。

多くの人がサムエルの言葉を信じてニーファイのところへ行き、罪を告白し、悔い改めてバプテスマを受けました。「また、天使たちが〔彼らに〕現れ、胸躍る大いなる喜びのおとずれを……告げ知らせ」<sup>5</sup>ました。

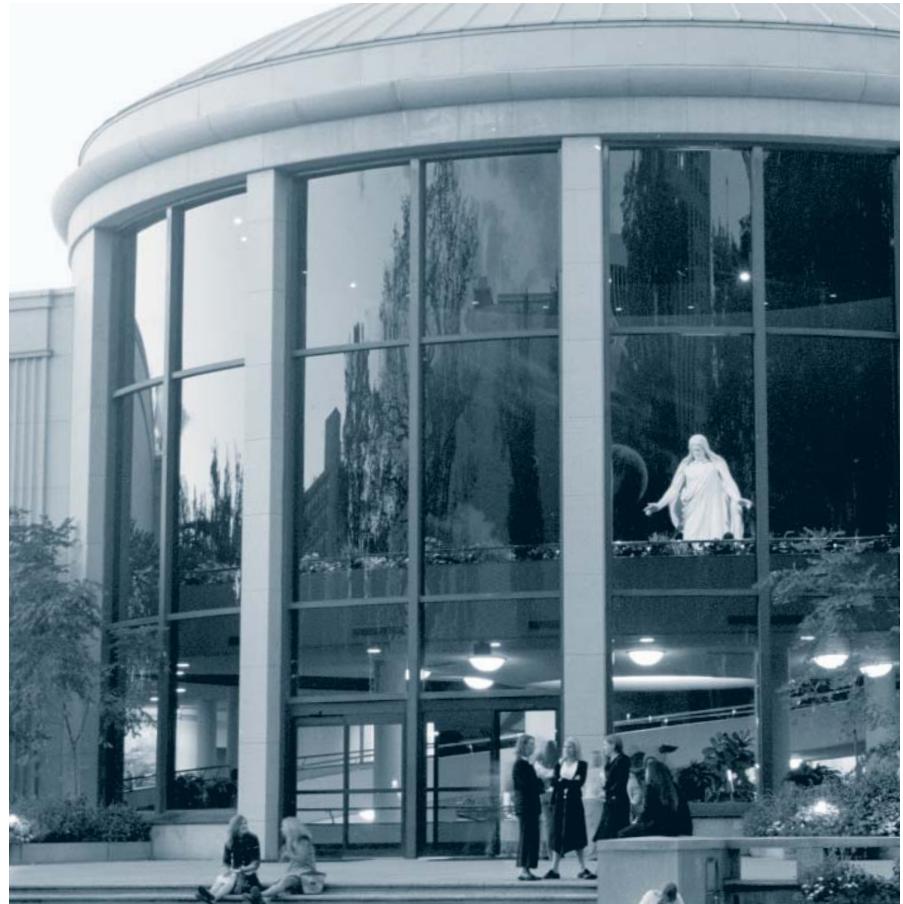
しかし、ニーファイ人の大部分は「心をかたくなにし」<sup>6</sup>、当時見られた「しるしと不思議」を認めようとはしませんでした。これらのしるしが与えられたのは、「キリストが間もなく必ず来されることを民に知らせる」<sup>7</sup>ためでしたが、ニーファイ人たちはそれを心に留めず、「自分自身の……

知恵に頼るようになって、こう言〔いまし〕た。『〔主を信じる者たちが〕うまく言い当てたことも幾らかある。しかし、……キリストのような者が来ることは道理に合わない。』<sup>8</sup>

当時、反キリスト者と呼ばれた、神を信じない人の中には、救い主もその贖いも必要ないと人々に言い聞かせる者もいました。それは現代でも同じです。サムエルの預言がついに成就して「二日一夜がまるで一日のようであ〔る〕」日が訪れました。<sup>9</sup> 預言者の言葉を信じた人々の心は、どんなに大きな喜びで満たされたことでしょう。「預言者の言葉のとおりに、すべてのことがことごとく成就した。そして、一つの新しい星もその言葉のとおりに現れた。」<sup>10</sup>

預言者の言葉を信じた人々は、救い主がお生まれになって教え導いておられる間、主を受け入れて従うことができました。しかし、非常に献身的な信者の信仰ですら試されることがありました。十字架上で亡くなった後、救い主が墓からよみがえられたと兄弟たちが証するのを聞いても、トマスは信じることができずにこう言いました。「わたしは、……見……なければ決して信じない。」<sup>11</sup> 後に救い主の御手の釘跡に触れる機会が与えられますが、この愛すべき弟子は、「わが主よ、わが神よ」と告白します。<sup>12</sup> 救い主は、そんなトマスに、信仰を持つことの意味を優しく説かれました。「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信する者は、さいわいである。」<sup>13</sup> 主はわたしたちすべてにも同様に教えておられます。

アメリカ大陸に住む信者たちも、同じような信仰の試しに遭いました。サムエルが預言したとおりに激しい「雷と稲妻」<sup>14</sup>があり、暗闇が「3日間、全地の面を覆〔い〕」<sup>15</sup>ました。このとき、「預言者たちを受け入れ……預言者たちに石を投げつけなかつた」<sup>16</sup>人々は、恐れたり逃げまどつたりしませんでした。それが「〔イエス・キリストの〕死にかかわるしるし」<sup>17</sup>だということが分かっていたからです。彼らが神殿に集まり、互いに驚いていると、救い主が御姿を現し、こう言われました。



「『見よ、わたしはイエス・キリストであり、世に来ると預言者たちが証した者である。

……わたしは、父がわたしに下さったあの苦い杯から飲み、世の罪を自分に負うことによって父に栄光をささげた。……』さて、イエスがこれらの御言葉を語り終えられると、群衆は全員地に伏した。

彼らは、キリストが天に昇られた後、自分たちに御自身を現されることが預言されていたのを思い出したからである。」<sup>18</sup>

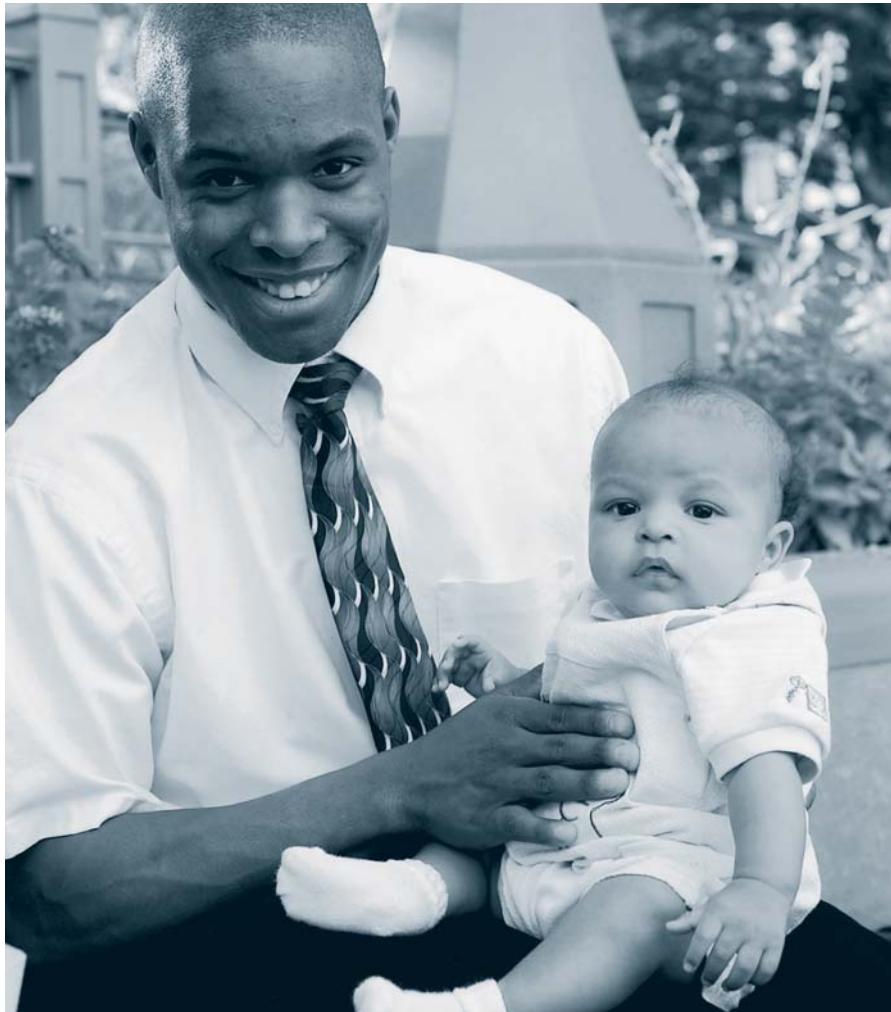
兄弟姉妹の皆さん、キリストが最初に降臨されたときの預言は「ことごとく」成就しました。その結果として、イエス・キリストが時の中間に来られた実在の人物だったと信じる人が世界中にたくさんいます。しかし、預言の中にはまだ成就していないものもたくさんあります。この大会で、生ける預言者たちがキリストの再臨について預言し、証します。ほかの大会でもそうです。現在身の回りで起こっているしと不思議についても彼らは証し、キリストは確かに再臨されると教えてています。その言葉を信じるでしょうか。そ

れとも、こうした証や警告に背を向けて、証拠が示されるのを待つでしょうか。「真昼に暗闇の中を歩いている」<sup>19</sup>のではありませんか。現代の預言に照らして見ることを拒み、世の光が再び来て統治なさることを否定してはいないでしょうか。

わたしはこれまでの人生で、キリスト教の標準を重んじる、善良で寛大な人に数多く出会ってきました。しかし、その中にはキリストが生ける世の救い主であられ、主の教会が地上に回復されているということを信じない人もいます。預言者の言葉を信じるために、この世で福音を学び、救いをもたらす儀式を受けるという喜びにあずかっていないのです。

先日、親しい友人と心置きなく語り合っているとき、このように尋ねられました。「ヘイルズ長老、わたしは信じたいんです。いつもそう願ってきました。でも、そのためにはどうしたらいいのですか。」今朝は、この質問にお答えいたします。

使徒パウロはローマ人への手紙にこう書いています。「したがって、信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの



言葉から來るのである。」<sup>20</sup> 皆さんがこの大会で行われていることを見たり聞いたり読んだりすること自体が、神の御言葉を聞くということです。主イエス・キリストへの信仰を見いだすための第一歩は、主の僕である預言者の口から語られる主の御言葉を心に留めることです。しかし、心に留めるだけでは不十分です。それだけでは何も変わりません。わたしたちにできることを行わなければならぬのです。救い主御自身が言われたように、「耳のある者は聞」<sup>21</sup>かなければなりません。言い換えれば、聞くためには能動的な努力が必要だということです。「行いのない信仰〔は〕死んだものなのである。」<sup>22</sup>つまり、教えを真剣に受け止めてよく考え、心の中で思い計らなければなりません。預言者エノスが経験したように、人から聞いた福音の証を「〔わたしたちの〕心に深くしみ込〔ませる〕」<sup>23</sup>のです。エノスが信仰を築いていった経験には、深い意味があり

ます。その過程から、幾つかの要素を見ていきましょう。

まず、エノスは福音の真理を父親から聞きました。皆さんが家庭や今大会で聞いているのと同じです。次に、「永遠の命と聖徒たちの喜び」<sup>24</sup>に関する父親の教えを心に深くしみ込ませました。第3に、その教えが真実かどうか、自分が造り主の御前に義とされるかどうかを自分自身で知りたいと思い、その願いを胸に満たしました。エノスは、「わたしの靈は飢えを感じた」<sup>25</sup>と言っています。エノスはこのように靈的な飢えを強く感じたため、救い主の次の約束を受けるにふさわしい者となりました。「義に飢え渴いている人々は皆、幸いである。彼らは聖靈に満たされるからである。」<sup>26</sup> 第4に、エノスは神の戒めに従いました。そのことによって、聖靈の導きを受けやすくなりました。第5に、エノスは記録によると、「造り主の前にひざまずき、自分自身のために熱烈な祈り

と懇願をもって造り主に呼び求め……、一日中造り主に呼び求め……、また夜になんでも、声が天に届くように、まだ大きな声を上げて」いました。<sup>27</sup> 簡単なことではありませんでした。すぐに信仰が得られたわけではありません。その証拠に、エノスはこの祈りの経験を「神の前で味わった苦闘」<sup>28</sup>と表現しています。しかし、ついに信仰は得られました。聖靈の力によって、自分自身の証を得たのです。

祈る際にこのような苦闘をしないかぎり、エノスのような信仰を見いだすことはできません。苦闘する価値があると証します。その順番を覚えてください。(1) 主の僕が語った神の御言葉を読んだり聞いたりする。(2) その御言葉を心に深くしみ込ませる。(3) 心から義に飢え渴く。(4) 福音の律法と儀式、聖約に従順に従う。(5) イエス・キリストが救い主であられることが分かるよう、信仰をもって、声を上げて熱烈に祈り、懇願する。これらのこととを真剣にたゆまず行うとき、キリストが弟子たちに語られた次の御言葉が成就することを約束します。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。搜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」<sup>29</sup>

イエスを信じる信仰の第一歩を踏み出すると、天の御父はその信仰を強める機会をお与えになります。これは逆境を経験するなど、様々な形で与えられます。最近知人からこんな手紙を受け取りました。

「2歳半の孫を白血病で亡くしました。……もう7年近く〔になる〕というのに、息子夫婦はまだベビーベッドを片付けることができません。信仰を持つというのは難しいことです。また、友人の一人を69歳で失いました。3か所の癌と10年間闘い、2度快方に向かった末の死でした。腎臓〔にできた〕癌は脳、肺〔へと転移していき、〕ついに力尽きたのです。人間の力でできることはすべてやりました。6年前には神を信じるようになりました。……でも、寿命は伸びませんでした。信じるとは難しいことだと思います。」

信仰についてのこの訴えかけに、わたしは次のように答えました。「お孫さんを

白血病で亡くされた話に、わたしも心を痛めました。願わくは、人生の目的を探し求めるときにあなたの中にも息子さん夫婦の心にも平安が訪れますように。信仰を得るには、神に近づきたいと心から願って祈り、重荷を代わりに負ってくださる神に頼らなければなりません。『わたしたちはどこから来たのか』『死すべき体を持ってこの世にいるのはなぜか』『地上での生活を終えた後、どこへ行くのか』という、人生の目的に関する不可解な疑問に答えてくださる神を信頼し、願い求めなければなりません。亡くなったお孫さんについては何の心配も要りません。責任を負えるようになる8歳という年齢に達する前に亡くなっているからです。お孫さんは今、神のみもとにいます。信仰を求めてください。神の祝福がありますように。』

興味深いことに、苦しんでいる当人はしばしば、苦難を通して信仰を得、「どうか、みこころが行われますように」<sup>30</sup>と主の御心を受け入れている一方で、家族や介護者は痛ましい結果をなかなか受け入れられず、その経験を通して信仰を強められずにいることがあります。「寿命」が延びたかどうかで信仰を測ることはできないのです。

試練はすべてわたしたちのために与えられます、人生で試練に遭うと、信仰を持つのは難しく、信じるのは難しいようと思えるものです。そんなときに平安と希望を与え、理解を助けてくれるのは、主イエス・キリストとその贖いに対する信仰だけです。主がわたしたちに代わって苦しまれたことを信じるようになって初めて、最後まで堪え忍ぶ力が得られるのです。この信仰を得ると、心の中に大きな変化が起ります。そしてエノスのように強くなり、兄弟姉妹の幸福を願うようになります。彼らにも救い主イエス・キリストの贖いを信じる信仰によって高められ、力を得てほしいと願い、祈るようになるのです。

わたしたちの生活に及ぼす贖いの効力について、幾人かの預言者の証から見ていきましょう。これらを心に深くしみ込ませ、皆さん的心の飢えと渴きを満たしてください。

ださい。

「その日、御父と御子のことを証する聖靈がアダムに降り、そして言った。『わたしは初めから、……父の独り子である。あなたは堕落したので、贖いを受けることができる。』」<sup>31</sup>

「主は〔ヤレドの兄弟〕に御自身を現して言われた。『……見よ、わたしは、自分の民を贖うために世の初めから備えられた者である。……わたしによって全人類は命を得る。すなわち、わたしの名を信じる者は永遠に命を得る。』」<sup>32</sup>

アビナダイはこう証しています。「わたしはあなたがたに、神御自身が人の子らの中に降って来て、御自分の民を贖われるということを理解してほしいと思う。……まことにこの御方は連れて行かれて、十字架につけられ、殺され、……人の子らのために執り成しをする力を……授けられ、……彼らを贖い、正義の要求を満たされる。」<sup>33</sup>

そして最後に、ジョセフ・スマスです。ジョセフは、14歳のときに搖るぎない信仰をもって「神に、願い求めるがよい」<sup>34</sup>というヤコブの勧めに従いました。ジョセフは将来預言者になる器であったため、父なる神とその御子イエス・キリストが御姿を現し、指示をお与えになりました。最後の神権時代において最初に召された預言者が見た最初の示現です。何と輝かしい出来事でしょう。16年後、ジョセフはカートランド神殿で救い主の再訪を受けてこう証しました。「わたしたちは、主……を見た。……その声、すなわちエホバの声は大水の奔流のとどろきのようで、このように言われた。『わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。』」<sup>35</sup>

愛する友人と、信仰に飢え渴いているすべての方にお勧めします。「預言者たちと使徒たちが書き記してきたイエスを求めてください。<sup>36</sup> 救い主は皆さんのために命をささげられました。この預言者の証を心に深くしみ込ませてください。これが真実だという証が聖靈を通して得られるように、祈り求めてください。人生の試

練に喜んで立ち向かい、永遠の命を得る備えをするのです。これを行うとき、信仰は強められます。

イエス・キリストは確かにこの地上に来られました。実在されたのです。そして、再び来られます。このことをわたしは知っており、イエスが再臨されるという特別な証をイエス・キリストの聖なる御名によって申し上げます。アーメン。

## 注

1. 信仰箇条1:4
2. ヘブル11:1
3. 教義と聖約46:13-14、強調付加
4. ヒラマン14:3
5. ヒラマン16:14
6. ヒラマン16:15
7. ヒラマン16:4
8. ヒラマン16:15-16, 18
9. ヒラマン14:4
10. 3ニーファイ1:20-21
11. ヨハネ20:25
12. ヨハネ20:28
13. ヨハネ20:29
14. ヒラマン14:21
15. ヒラマン14:27
16. 3ニーファイ10:12
17. 3ニーファイ11:2
18. 3ニーファイ11:10-12
19. 教義と聖約95:6
20. ローマ10:17
21. マタイ11:15
22. ヤコブの手紙2:26
23. エノス1:3
24. エノス1:3
25. エノス1:4
26. 3ニーファイ12:6
27. エノス1:4
28. エノス1:2
29. マタイ7:7
30. マタイ26:42
31. モーセ5:9
32. エテル3:13-14
33. モーサヤ15:1, 7-9
34. ヤコブの手紙 1:5
35. 教義と聖約110:2-4
36. エテル12:41

# あかし 証の機会

十二使徒定員会  
ディーター・F・ウークトドルフ

これまでの人生で影響を与えてくれたすべての人に、愛のこもった感謝の気持ちを抱きつつ、わたしは将来に向けての決意を固めています。



愛する兄弟姉妹の皆さん、ここソルトレーク・シティーや全世界の皆さんとともに集えるのはすばらしいことです。ベドナー長老とロバート・オーパス長老がそれぞれ新しい責任を果たすに当たり、愛と喜びの言葉を伝えます。わたしの心の内を説明するなら、まさにハリケーンのように穏やかか、あるいはそれ以上であると言えるでしょう。わたしは喜びと不安を感じています。一言で言えば、皆さんの祈りと主を必要としています。

召しを受け、人生に完全かつ永遠に影響を及ぼすほどの神聖な信頼を与えられ、感動のあまり度々涙を流しそうになっています。

今週の金曜日の朝以来、わたしは昼夜を問わず自分の無力を強く感じ、心の奥底を省みるときに、しばしば快い痛みを感じています。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長から使徒としての召しを受け、十二使徒定員会の一員となるように言われてから、わたしは忙しい執務室を去り、この思ってもみなかつた話を愛する妻ハリエットにしました。人生におけるこのきわめて重要なときに、わたしたちの家が防御と避難所として神聖な静けさを保っていたことに感謝しました。妻のこれまでの優しい励ましと力強い支持に感謝しています。命というたまもの賜物と回復されたイエス・キリストの福音に次いで、ハリエットは人生で頂いた最大の祝福です。また、子供や孫の祈りと愛に、わたしの深い愛と感謝を表します。けれども最も感謝したいのは、彼らの模範です。わたしたちの子供や孫はドイツに住んでいて、母国で神の王国の建設に携わっています。イエス・キリストの福音の喜びとその永遠の恵みは、数千マイルの距離を一つに結び、人生に幸福と慰めをもたらします。

家族一人一人に感謝と愛を伝えます。また、現在の自分に到達できるまで、教え、仕え、高めてくれた多くの友人や教師に感謝します。

わたしは大管長会と十二使徒定員会の愛と思いやりに心からの愛と感謝を伝えます。また、七十人の7人の会長の一人としての召しを終えるに当たり、七十人に愛と敬意を表します。彼らは確かにキリストの特別な証人です。十二使徒が助けを必要とするときには、ほかのだれでもなく、彼らです。王国の建設のために、時間と才能と靈的な力の大半をささげている彼らに感謝します。10年半の

間、七十人として奉仕した喜びと特権は言葉では言い表せません。七十人定員会会員の模範と友情を永遠に忘れないでしょう。

全世界の教会員が、誘惑を受けながらも忠実であり、愛を示し、回復されたイエス・キリストの福音の原則と教義に対して献身的であり、ワードや支部を発展させるために生ける預言者に進んで従い、時間と活力と情緒的、靈的、物質的な犠牲をささげていることに感謝します。自分の一を正直に納め、貧しい人や孤独な人に心を向けてくれる皆さんに感謝します。わたしは皆さんの顔や行い、その模範的な生活に、キリストの面影を見てきました。皆さんは現代の奇跡です。

教会の中央役員に対する皆さんの挙手と心からの支持に感謝します。昨日、わたしたちは同意の原則により、教会の中央指導者を支持しました。これらの教会指導者には、地位を求める人や召しを断る人は一人もいません。それらが神の啓示により与えられることを知っているからです。

わたしたちは皆さんの祈りに感謝し、皆さんのために祈っています。皆さんを愛し、皆さんの愛を必要としています。そして皆さんを支持し、皆さんがどこにいようと、どのような召しを受けていようと、進んで主に仕える会員となることを求めています。主の教会にあってはすべての召しが重要なことです。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう言いました。「わたしたちは天の御父の業と栄光である『人の不死不滅と永遠の命をもたらす』働きの中で、天の御父の助け手となるために召されているのです(モーセ1:39)。皆さんの受けている責任も、わたしの受けている責任も、その重要性に変わりはありません。」(『主のみ業』『聖徒の道』1995年7月号、76参照)そして人々に手を差し伸べ、周囲の人々の生活を祝福するよう求めました。「人々に真理の知識をもたらす力が一人一人に秘められていることを、すべての会員の心に刻み込んでください。……このことについて大いなる熱意をもって祈るよう励まして



ください。」(「子羊を見いだし、羊を養う」  
『リアホナ』1999年7月号, 122)

わたしの人生は、50年以上前に手を差し伸べてくれたすばらしい会員のおかげで永遠に祝福されました。第二次世界大戦後のある日、祖母が食料を買うために列に並んでいると、身寄りのない高齢の姉妹が東ドイツ・ツビッカウでの聖餐会に誘ってくれました。祖母と両親はその招きを受け入れました。3人は教会へ行き、御靈を感じ、会員の親切に感動し、回復の賛美歌に心を高められました。祖母と両親、それに3人のきょうだいは皆、バプテスマを受けました。わたしはまだ6歳だったので、2年間待たなければなりませんでした。靈的な感受性の強い祖母、心を開いて福音を受け入れた両親、そして賢明な白髪の独身の姉妹に心から感謝しています。この姉妹は勇気をもって手を差し伸べ、「きてごらんなさい。そうしたらわかるだろう」(ヨハネ1:39参照)という救い主の模範に従ったのです。彼女は「エービッヒ姉妹」という人で、英語に訳すと「永遠の姉妹」という意味になります。わたしは彼女の愛と模範に永遠に感謝し続けるでしょう。

これまでの人生で影響を与えてくれたすべての人に、愛のこもった感謝の気持ちを抱きつつ、わたしは将来に向けての決意を固めています。わたしの心と思いは喜びに満ちています。残りの生涯を通じて、「キリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言」する機会にあづかったからです(2ニーファイ25:26)。わたしたちの救い主、あがな頼い主であるイエス・キリストの特別な証人としてそうできるのです(教義と聖約107:23参照)。

自分の弱さを悟りながらも、主から与えられた次の教えに大きな慰めを得ています。教義と聖約にはこうあります。

「わたしの完全な福音が弱い者や純朴な者によって世界の果てまで、また王や統治者の前に宣べられるためである。……

知恵を求めたならば、教えを授けられるため、

……けんそん謙遜であれば、強くされ、高い所

から祝福を受け、また折々知識を与えられるようにするためである。」(教義と聖約1:23, 26, 28)

モルモン書にはこうあります。

「わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それでなくては、主は何の命令も……下されないことを承知しているからです。」(1ニーファイ3:7)

そして旧約聖書からは慰めを受けます。

「『主の靈があなたの上にもはげしく下って、……変って新しい人となるでしょう。』……神は彼に新しい心を与えられた。」(サムエル上10:6, 7, 9)

わたしはこれらのすばらしい約束を信じています。ですから、ふさわしい生活をして主の御心を知り、それに従って行動することを、皆さんとこの場にいる幹部の兄弟たちに約束します。

天の父なる神は、わたしたちを一人一人御存じです。イエス・キリストは生きておられ、メシヤであり、わたしたちを愛しておられます。イエス・キリストの贖いは真実であり、すべての人に不死不滅をもたらし、永遠の命への扉を開くのです。

イエス・キリストの福音は再び地上に回復されました。末日聖徒イエス・キリスト教会は、まことの生ける教会です。

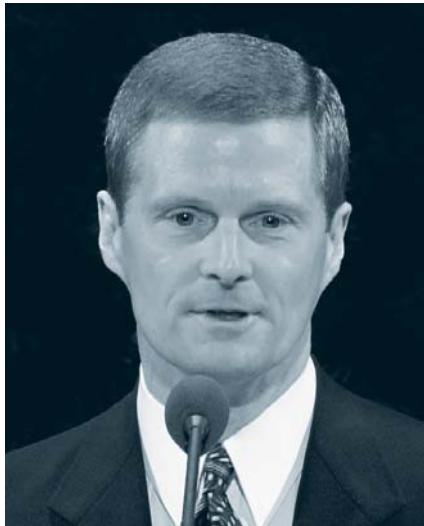
モルモン書は、イエス・キリストについてのもう一つの証<sup>あかし</sup>であり、ジョセフ・スミスがまことの預言者であることを表しています。わたしは預言者ジョセフを愛しています。愛するゴードン・B・ヒンクレー大管長は、神の預言者であり、現代において王国のすべての鍵<sup>かぎ</sup>を有しています。その鍵は、これまでの預言者がジョセフ・スミスから途切れることなく受け継いできたものです。

これらのことを心から知っています。イエス・キリストの御名<sup>みなみ</sup>により証します。アーメン。

# 主の強さの内に

十二使徒定員会  
デビッド・A・ベドナー

**主の強さの内にあれば、すべてを行い、堪え忍び、克服することができるのです。**



**兄** 弟姉妹の皆さん、今わたしは胸<sup>あたま</sup>がいっぱいです。様々な思いが脳裏を駆け巡っています。ひざは震え、皆さんに伝えたい感情と思いを言葉で表そうとすると、どの言葉も物足りない気がします。この安息日の朝に、簡潔に話すに当たり、わたしと皆さんに御靈<sup>みたま</sup>がとどまるよう祈ります。

ヒンクレー大管長にこの新しい召しを告げられてから今に至るまで、これまでにないほどの目的意識をもって「すべての聖文を自分たちに当てはめ」るようにというニーファイの言葉に心を向けています(1ニーファイ19:23)。

わたしはパウロの次の教えを思い巡らしています。「……神は、知者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはずかしめるために、この世の弱い者を選ばれた。」(1コリント1:27)今朝、自分がまさにこの世の弱い者だと承知していることに、大きな慰めを感じます。

モルモン書のヤコブの言葉についても深く考えています。

「それゆえ、わたしたちは預言者の書を調べている。また、わたしたちには多くの啓示があり、また預言の靈がある。このように証するものが数々あるので、わたしたちは希望を抱いており、わたしたちの信仰は搖るぎないものになっている。実際にイエスの名によって命じれば、木々も山々も海の波も従うほどである。

にもかかわらず、主なる神はわたしたちの弱点を示される。それは、このようなことを行う力がわたしたちにあるのは、神の恵みと人の子らに対する神の大いなるへりくだりによるということを、わたしたちに分からせるためである。」(モルモン書ヤコブ4:6-7)

兄弟姉妹の皆さん、今読んだ節に出てくる「恵み」という言葉に特に注目してください。英語の『聖書辞典』(Bible Dictionary)によると、聖文の中で頻繁に用いられている「恵み」という言葉には、基本的に「人を強める力、能力を授ける力」という意味があります。

「恵みとは、イエス・キリストの憐れみと愛によって人に授けられる、様々な形の天からの助けと能力を意味する。

……主の恵みを通して、人はイエス・キリストの贖罪に対する信仰を持ち自らの罪を悔い改めるなら、自分の力だけでは達成不可能な善行でさえ達成することができる。このような恵みを通して、男性も女性も、全力を尽くした後に永遠の命と昇栄を獲得することができるのです。」(697)

つまりわたしたちは、人に能力を授け、



あがな  
強める贖いの力を通して、死すべき人間としての限られた能力では到達することも達成することもできない方法で、理解し、行動することができ、さらに善良になることができるのです。救い主の贖いには、実際に人に能力を授ける力があることを証します。人を強める贖いの力がなかつたならば、わたしは今朝、皆さんの前に立つことはできなかつたことでしょう。

次のアンモンの証の中に、キリストの恵みと人を強める力を感じることができるでしょうか。「まことに、わたしは自分が何の価値もない者であることを知っている。わたしは力の弱い者である。だから、わたしは自分のことを誇るつもりはない。しかし、わたしは神のことを誇ろう。わたしは神の力によって何事でもすることができるからである。まことに見よ、わたしたちはこの地で多くの偉大な奇跡を行つてきた。だから、とこしえに神の御名をほめたたえよう。」(アルマ26:12) 兄弟姉妹の皆さん、まさに、主の強さの内にあれば、

すべてを行い、堪え忍び、克服することができるのです。

金曜日の午後、ヒンクレー大管長との面接を終え、教会執務ビルから出て来たとき、エノクの言葉を思い出しました。

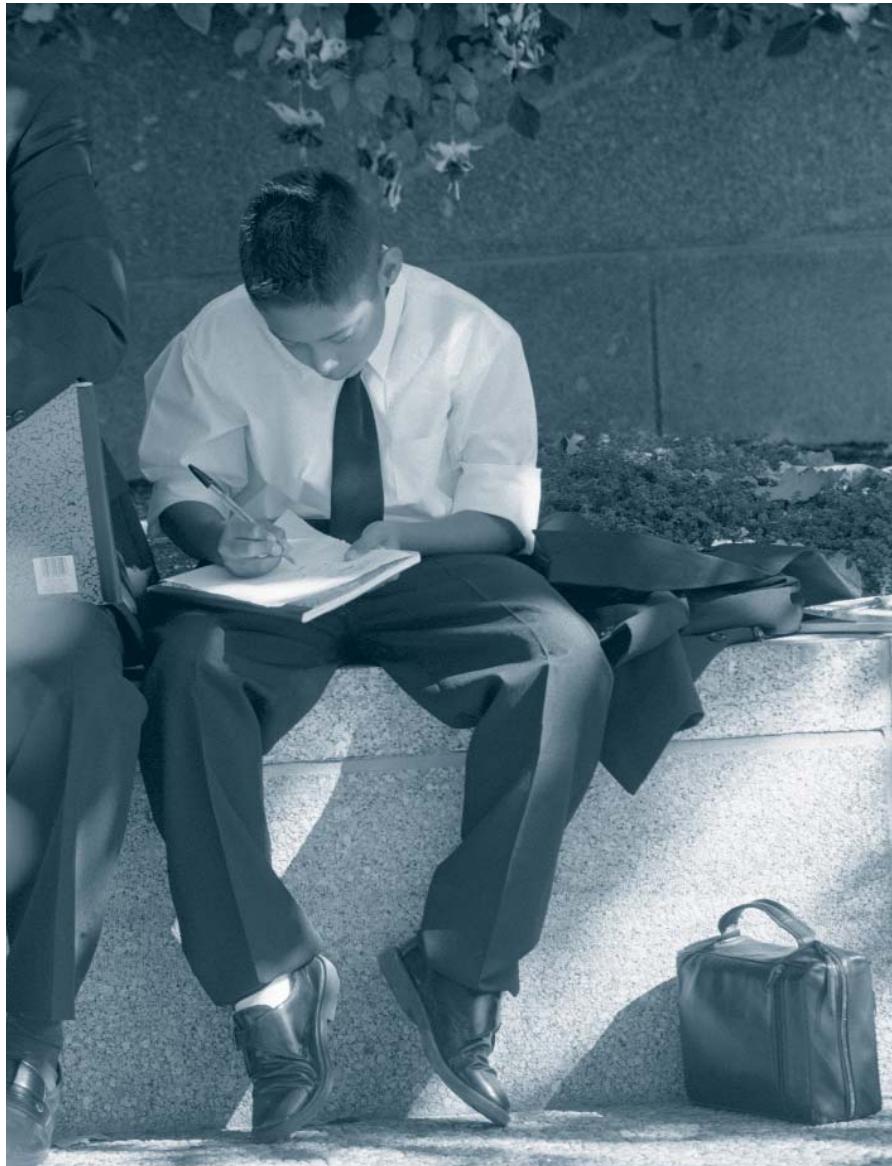
「エノクはこれらの御言葉を聞いたとき、主の前で地に伏し、主の前に語って言った。『わたしがあなたの目にかなったのはなぜでしょうか。わたしは若者にすぎず、すべての人はわたしを憎みます。わたしは口の重い者だからです。どうしてわたしはあなたの僕なのでしょうか。』

主はエノクに言われた。『行って、わたしがあなたに命じたように行いなさい。そうすれば、あなたを刺し貫く者はだれもいないであろう。あなたの口を開きなさい。そうすれば、それは満たされるであろう。わたしはあなたに語る力を与えよう。すべての肉なるものはわたしの手の内にあるからである。そして、わたしは自分がよいと思うままに行おう。』』(モーセ6:31-32)

主がエノクに与えられた約束は、新しい召しや責任を受けて準備不足や至らなさを感じ、圧倒されているすべての人に当てはります。エノクの時代にその約束が真実だったのだから、今でも真実なのです。

2000年6月20日の夜、数人の同僚とともにアイダホ州レックスバーグのリックスカレッジ(当時)の役員室で、夜遅くまで仕事をしていました。思いがけず翌朝大学で開かれることになった歴史的な集会と、ヒンクレー大管長から発表される事柄の最終確認をしていたのです。その発表とはリックスカレッジが学士号を取得できる大学に生まれ変わり、ブリガム・ヤング大学アイダホ校と改名されるというものでした。わたしは大学管理役員であった同僚とともに、自分たちに課せられた責任とチャレンジの歴史的意味を感じ始めました。

その晩、建物を出たときにある同僚が言いました。「学長、恐いですか。」記憶に



間違いがなければ、わたしはだいたい次のように答えました。「この変更の実施に伴う一連の事柄が、完全に自分たち自身の経験と判断にゆだねられていたとしたら、非常に恐れたことでしょう。しかし、わたしたちには天の助けがあります。どなたが見守っておられるか知っており、頼れる御方がいらっしゃるので、恐れる必要はありません。」BYUアイダホ校で働いている者は、声をそろえて次のように証することができます。これまで確かに天の助けを受け、奇跡が起き、啓示が与えられ、門戸は開かれて、個人としても大学としても豊かに祝福されてきました。

ここで、心の内にある感謝を述べさせてください。わたしは自分の先祖に感謝しています。忠実で確固とした男女です。

わたしが尊敬し、たたえる人たちであり、すべてを与えてくれた人たちです。わたしの両親と妻の両親を愛し、感謝しています。彼らの愛と支え、そして教えと力強さに感謝しています。

妻のスーザンは徳高い女性であり、義にかなった母親です。その表情を見れば、妻が清く、善良な女性であることを皆さんもすぐに分かるでしょう。言葉では表現できないほど、彼女を愛し、感謝しています。妻というすばらしい女性に感謝しています。妻が教えてくれた事柄に、お互への愛に感謝しています。

スーザンとわたしは3人の信仰深く雄々しい息子に恵まれました。彼らを愛し、感謝しています。家族は少しずつ増え続け、現在、2人の息子には義にかなった伴

侶がいて、賢く、麗しく、かわいらしい孫娘が3人います。すばらしいことに、皆が集まる度に、永遠に家族が結ばれることの意味が少しだけ分かってきました。

愛する兄弟姉妹の皆さん、皆さんに感謝します。カンファレンスセンターに集う皆さんを実際に見て、世界中の集会所に集う皆さんの姿を思い描くとき、救い主に対する皆さんの忠誠心と献身に喜びを感じます。皆さんは土曜日に手を直角に挙げて支持を表してくれました。そのとき、支持を受けることがどれほど自分に影響を与えるかを身にしみて感じました。わたしのことを知っている人はほとんどいません。しかし、どなたによって召されたかを知っているという理由で、皆さんは進んで支持してくれました。皆さんに感謝し、心と勢力を尽くしてこの聖なる業に献身することを約束します。

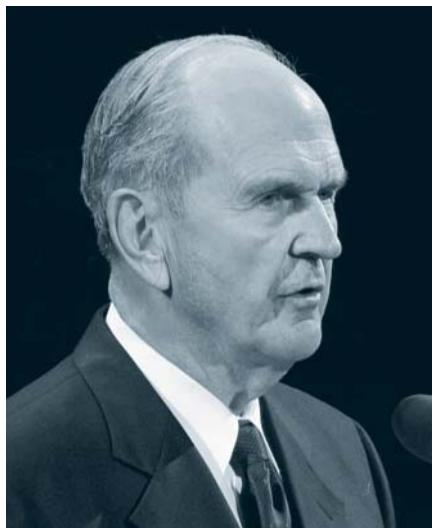
主と主の教会の指導者が言う所ならどこへでも行きます。彼らがしてほしいと望むことなら何でも行います。彼らが教えてほしいと望むことなら何でも教えます。なるべき人物に、そして、ならなければならない人物になります。主の強さと恵みの内にあるなら、皆さんもわたしもすべてのことを成し遂げられると知っています。

最も弱い者の一人として、神が生きておられることを証します。イエスはキリストであられ、わたしたちの贖い主、救い主です。主は生きておられます。預言者ジョセフ・スミスを通して、イエス・キリストの完全な福音と真実の教会がこの末日にあって地上に回復されました。神権の鍵と権能と救いの儀式は、現在、再びこの地上にあります。神権の力により、家族はまことに永遠になることができます。モルモン書は神の御言葉であり、わたしたちの宗教のかなめ石です。兄弟姉妹の皆さん、天は閉じてはいません。神はわたしたち一人一人と、そして末日の地上の王国を指導する者たちと話されます。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、今日の地上における主の預言者です。これらのことを行なうイエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。

# 夫婦宣教師と福音

十二使徒定員会  
ラッセル・M・ナルソン

**夫婦宣教師の皆さんに心から感謝します。彼らの靈は若々しく、賢明で働く意欲にあふれています。**



デイター・F・ウークトドルフ長老とデビッド・A・ベドナー長老を十二使徒定員会に心から歓迎します。わたしたちは祈りと一致の精神で主イエス・キリストに仕えます。

今年は教会の責任を通して世界の様々な国を訪れました。中には教会が設立されて間もない国もありましたが、どの地を訪れても宣教師に出会います。彼らは驚くほど快活で、非常に効果的な働きをしています。目に見える生きた証人として、時満ちる時代にイエス・キリストの教会が回復されたことを証しているのです。主はおっしゃいました。「全世界に出て行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」<sup>1</sup> この戒めは、イエス・キリストを証し、主のメッセージを教えるすべての宣教師の心に息づいています。

宣教師といえば、シャツにネクタイ姿の青年や、つつましく装った若い女性を思

い浮かべますが、熟年のすばらしい宣教師が、若者とともに働いています。彼らはもっと多くの夫婦宣教師が必要であるという預言者や使徒の要請にこたえて、伝道に出たのです。<sup>2</sup>

夫婦宣教師の皆さんに心から感謝します。彼らの靈は若々しく、賢明で働く意欲にあふれています。スペンサー・W・キンボール大管長の「歩幅を広げなさい」という勧告をもじって、「すり足で急ぎなさい」<sup>3</sup> とからかう子供たちにさえ寛容です。愛すべき彼らは喜んで奉仕にいそしみ、人々を力づけます。<sup>4</sup> たとえ現地の言葉を理解できなくても、彼らの働きは偉大であり、犠牲の精神は貴いものです。<sup>5</sup>

## 夫婦宣教師の奉仕の模範

例えば、ロイド・ポールマン長老と妻のキャサリン・ポールマン姉妹には、9人の成人した子供と、20人の孫がいます。彼らは今チリのへき地にある小さな支部で奉仕しています。二人はあまり活発でない会員や改宗して間もない家族のもとに頻繁に足を運びます。こうした訪問はこの夫妻にとって、人々と聖文を読み、神殿の祝福について証を述べる機会となります。また伝道部内の幾つかの支部では、音楽の指揮や、簡略化された賛美歌の伴奏を小さな電子オルガンを使って指導してきました。先日ポールマン長老と姉妹は手紙に次のように書きました。「パブテスマは改心に至るほんの第一歩にすぎません。パブテスマの興奮が冷め、改宗者が生活の糧を得るために長時間働き続けなければならぬ現実に再び直面すると

き、福音の喜びを伝える人が必要です。わたしたちはそのためにいるのです。わたしたちの役割の一つは改宗者に寄り添い、彼らが喜びを失わないようにすることです。めったに教会に来ない会員もまだ証を失ってはおらず、メッセージを喜んで受け入れてくれます。訪問先の人々の生活に変化が表れるのを見ると、この業のうえにいつも主の教えと助けが与えられることを祝福に思います。また同時に、故郷で待つ家族が、わたしたちを通して伝道の経験や特別な祝福を共有していることを知ります。」<sup>6</sup>

このようなすばらしい夫婦が、かつてイエス・キリストの御名を受けるという聖約を交わした人々を再び教化する業に携わっています。

また教会の聖なる神殿で奉仕する夫婦宣教師もいます。ケネス・ウイリツ長老とバーバラ・ウイリツ姉妹はガーナ・アクラ神殿で奉仕しています。彼らは20年以上前にやはり宣教師としてこの地で働き、ガーナの人々への特別な愛をはぐくみました。二人はともに改宗して50年を迎える、活力に満ちた熱心な教会員です。3人の子供と16人の孫、そして12人のひ孫がいます。神殿では昇栄に必要な儀式を施し、ウイリツ兄弟は結び固めの儀式執行者として奉仕します。以前の伝道で知り合った会員と偶然神殿で再会し、喜び合ったことも何度かありました。先日儀式を施した夫婦は、1982年にウイリツ夫妻が教えた人でした。他界した4人の子供たちも結び固められました。ウイリツ長老と姉妹はこう書いています。「家族や家庭を後にして伝道に出たいという気持ちは、神殿で交わした聖約に端を発するものです。わたしたちの心からの願いは永遠の家族になることです。家族は伝道を十分に支えてくれます。そしてわたしたちが受ける数々の祝福を共有しています。人々が神殿の祝福を受ける手助けをする特権にあずかり、へりくだり感謝の気持ちでいっぱいです。」<sup>7</sup>

ウイリツ夫妻のような勇気と思いやりにあふれる夫婦が、世界各地の神殿の業を可能にし、実りあるものにしているので



す。ガーナ・アクラ神殿のように、ほとんどの会員がこれまで神殿参入の機会にあずかっていなかった地域もあります。神殿宣教師として奉仕する経験豊かな夫婦によって、これらの会員のためいっそう多くの儀式が行われます。彼らに対しても心からの感謝を表します。

今年の初めに、ダグラス・L・カリスター長老とウクライナの首都キエフを訪れました。旧ソビエト社会主义共和国連邦内で最初のステークを設立するためです。うれしいことに、ウクライナ・キエフ地方部はステークになる備えが十分にできていました。よく組織され、シオンのステークの一つに数えられる準備ができていたのです。そこで出会った宣教師の中に、忠実な年配の夫婦宣教師が何組かいました。わたしたちは彼らの話に熱心に聞き入りました。

そのとき聞いた、ルディー・ヘゲバルド長老とエバ・ヘゲバルド姉妹の話を思い出します。彼らは旧東ドイツで育ちました。ドイツなまりがかすかに残る二人は、第二次世界大戦とそれに続くソ連占領下の時代の苦しかった日々を振り返り、奪われた多くのものについて話してくれました。主の真の教会に出会い、後にアメリカに移住できたことは二人にとって大きな祝福でした。移住後、5人の健康な子供を

授かり、靈的にも経済的にも成長を遂げました。宣教師として奉仕することは主への感謝を示す良い方法であると考えた二人は、東ヨーロッパで伝道したいという強い希望を表しました。こうして二人はウクライナ・キエフ伝道部への召しを受けたのです。ヘゲバルド夫妻はこう書いています。「かつて敵であった国での伝道も終わろうとしています。ウクライナの人々に福音を教え、彼らを愛する機会に恵まれたことを感謝しています。主に仕えるとき、靈が癒され、家族のきずながさらに強められました。ほんとうに満足できるすばらしい経験をし、たくさんの小さな奇跡を見ました。」<sup>8</sup>

この3組の夫婦が皆、受けた祝福について書いていることに注目してください。別の夫婦は、宣教師として奉仕することにより得られる祝福についてこう書いています。「親切な人たちが、わたしたちのいない間ずっと立派に親の役目を果たしてくれます。……家庭内に祈りや断食でも解決できない問題があるのなら、伝道を考えるべきです。」<sup>9</sup>

夫婦宣教師が家を空けるのは容易ではありません。ジョセフ、ブリガム、ジョン、ウィルフォードとて同じでした。彼らにも子供や孫があり、家族を愛することではだれにも引けを取らなかったのです。し

かし主を愛し、主のために働くことを望みました。いつの日か、この神権時代を確立するために働いたこれらの忠実な人々に会うかもしれません。そのとき、晩年だったとはいえ、預言者から伝道の召しを受けたときに逃げ隠れしなかったことを喜ぶでしょう。

1925年10月の総大会で、ヒーバー・J・グラント大管長は「健全な判断力を有する成人男性で、福音を宣べ伝えたことのある者は、出でていって伝道の業に携わるよう」<sup>10</sup>と、高らかに呼びかけました。

伝道の必要性は今も続いています。世界中の神権指導者を対象とした最近の訓練集会で、ゴードン・B・ヒンクリー大管長は同様の呼びかけを行いました。「もっと多くの夫婦宣教師が絶えず必要とされています。彼らは世界中ですばらしい働きをします。〔指導者の〕皆さんは夫婦が志願するのを待っている必要はありません。全時間を使って主に仕えることに伴う犠牲は、夫婦とその家族、そして彼らが仕える人々に豊かな祝福をもたらします。」<sup>11</sup>

## 伝道の資格

監督も預言者の呼びかけに従い、該当する教会員に奉仕できるか尋ねる必要があります。夫婦宣教師の奉仕の機会は多様で広範です。<sup>12</sup> 彼らの召しは、職歴や言

語経験、個人の能力などを祈りながら考慮した後、正式に決定されます。<sup>13</sup> 様々な伝道の資格の中でも、最も大切なのは仕えたいという望みです。主ははっきりとおっしゃいました。

「おお、神の務めに出で立とうとする人々よ、終わりの日に神の前に罪のない状態で立てるように、あなたがたの心と、勢力と、思いと、力を尽くして神に仕えなさい。

あなたがたは神に仕えたいと望むならば、その業に召されている。」<sup>14</sup>

多くの謙遜な末日聖徒が、自分は伝道の業にふさわしくないのではないかと恐れています。しかし伝道を考えているそのような人に対して、主は次の約束を与えておられます。「神の栄光にひたすら目を向けて、信仰、希望、慈愛、愛を持つ者には、その業に携わる資格がある。」<sup>15</sup>

## 年齢や健康上の制限

夫婦伝道を奨励する中で、伝道に出たいと願いながら、実行できない人が大勢いることに気づきました。年齢や健康上の制限、家族の特別な必要を満たさなければならぬ場合には、現実的な対応が求められます。心の内が燃える一方で、そのような制限が存在するときには、ほかの人を介して奉仕を行うことができます。伝道資金を提供し、だれかが代わりに働くようにするのです。また自宅を離れずに宣教師として時間と才能をささげる方法もあります。<sup>16</sup> 主はそれぞれの働きを喜ばれ、それが主の称賛を受けるでしょう。

## 福音

すべての人が言葉と行いによって福音を伝えることができます。福音とは「良い知らせ」、すなわち主イエス・キリストとの救いのメッセージです。<sup>17</sup> イエスは福音を、御自身がこの世で遂行した使命と務めの両方と見なしておられました。イエスは御自身の使命についてこうおっしゃいました。

「わたしがあなたがたに告げた福音とは、次のとおりである。すなわち、父がわたしを遣わされたので、わたしは父の

御心を行つために世に来た。

父は、わたしが十字架に上げられるようになると、わたしを遣わされた。」<sup>18</sup>  
救い主のこの世での使命は、贖いとして知られています。

そして救い主のこの世での務めは、主が行われたそのほかのすべてのことを含みます。教えを説き、愛を示し、儀式を重んじ、祈りの方法を教え、堪え忍ばれたことなど、ほかにも多くあります。主は生涯を通じて模範を示し、御自身の務めについて語られたときに、その模範を福音に等しいものと見なされました。「以上がわたしの福音である。……わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい。」<sup>19</sup> したがって、信仰、悔い改め、水と火と聖霊によるバプテスマ、選民の集合、最後まで堪え忍ぶことなどは、すべて福音の一部なのです。<sup>20</sup> 年齢、状況、居住地にかかわらず、すべての人が主に倣うことができます。

「全世界におけるキリストの名の特別な証人」<sup>21</sup>の一人として、キリストが生ける神の御子であり、救い主、贖い主であらることを宣言します。この教会は御心を果たすために末日に回復された主の教会です。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は現代の主の預言者です。これらをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

## 注

1. マルコ16:15。マタイ28:19; モルモン9:22; 教義と聖約42:58; 68:8; 80:1; 84:62; 112:28  
も参照
2. 例えば、ゴードン・B・ヒンクレー「伝道」『聖徒の道』1988年3月号、2-6参照。  
L・トム・ペリー「それゆえに、あなたたちは行って、すべての国民を教えよ」『聖徒の道』1984年7月号、131-135;  
M・ラッセル・バラード「夫婦宣教師」『聖徒の道』1990年5月号、17-21; ロバート・D・ヘイルズ「夫婦宣教師——奉仕の時」『リアホナ』2001年7月号、28-31も参照。
3. "Serving as Couple Missionaries"
- Ensign, 1997年9月号、15参照
4. ルカ22:32参照
5. 伝道に関する問題は、次の4つに分類することができます。
  - 1) 財政——普段の生活費以上の費用が必要な場合、子供たちや友人、定員会、また家族のだれかが援助することもできます。
  - 2) 恐れ——熟年の宣教師は、戸別訪問や新しい言語を習得することへの恐れを抱く必要はありません。すでに身に付いた才能を使って多くの貢献ができます。言語に堪能でなくても必要な情報を得られることが知つていてれば、安心して新しい言語環境に身を置くことができます。伝道地の言語を少しづつ学び、新しい表現を口にする喜びを味わうでしょう。
  - 3) 健康——リスクのない環境を保証できないのは自宅でも伝道地でも同じですが、正しい食生活と適度な運動で適切な健康条件が保てるでしょう。伝道地でも医療機関での定期的な検診は可能です。急病などの場合には、勧告に従つて帰還することもあります。
  - 4) 家族——宣教師として奉仕することで子供や孫は祝福を受けるでしょう。主は宣教師にこう約束されました。「見よ、あなたは家族のゆえに多くの苦難に遭つてきました。それにもかかわらず、わたしはあなたとあなたの家族、すなわちあなたの幼い者たちを祝福しよう。彼らが信じて真理を知り、わたしの教会においてあなたと一つになる日が来る。」(教義と聖約31:2)「幼い者たち」が伝道中の親や祖父母のために祈るとき、彼らの心は両親や祖父母、そして主に引き寄せられるのです。
6. 2004年6月29日付けの個人あての手紙
7. 2004年6月28日に受領した個人あての手紙
8. 2004年7月1日に受領した個人あての手紙
9. 2004年6月27日付けで、プレント・ピーターセン博士とキャロル・ピーターセン姉妹がダリン・H・オークス長老にあてた手紙

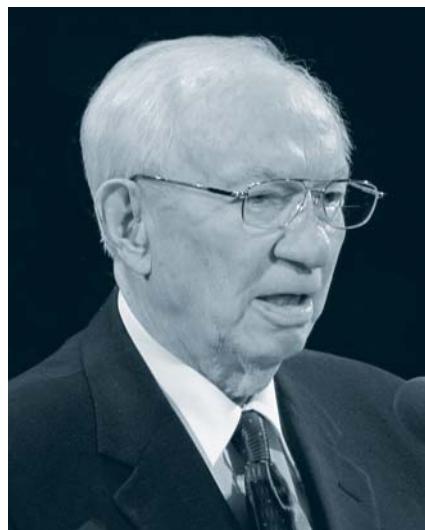
10. *Conference Report*, 1925年10月, 10
11. 「教会の監督たちへ」『世界指導者訓練集会』2004年6月19日, 27。  
"Excerpts from Recent Addresses of President Gordon B. Hinckley" *Ensign*, 1996年4月号, 72も参照
12. 分類としては、指導者や会員としての働き、教会歴史と神殿での奉仕、医療・人道支援・福祉活動、訪問者センター、広報部、地域管理本部や伝道本部での事務スタッフ、財政や記録、施設運営、教会教育システム、永代教育基金、あるいはほかの教育機関の援助などがあります。特殊な才能を持つ宣教師候補者のために、このほかにも活躍の機会が設けられています。ジャイルズ・H・フローレンス・ジュニア "So Many Kinds of Missions" *Ensign*, 1990年2月号, 6–11参照。
13. 夫婦宣教師の資格と備えに関する詳細は、デビッド・B・ヘイト「夫婦宣教師——『教会のかけがえのない働き手』」「聖徒の道」1997年10月号, 26–31; ボーン・J・フェザーストーン, "Couple Missionaries: Too Wonderful for Me" *Ensign*, 1998年9月号, 14–17; "There Is Work for Us to Do" *Ensign*, 1993年10月号, 36–41; "The Impact of Couple Missionaries" *Ensign*, 2003年4月号, 60–63; ジヨン・L・ハート, "Working Miracles in Mission Field" *Church News*, 1990年12月22日付, 3, 7参照。
14. 教義と聖約4:2–3, 強調付加
15. 教義と聖約4:5
16. そのほかの情報は、教会のウェブサイト ([www.lds.org](http://www.lds.org)) の "Service Opportunities for Senior Missionaries" に掲載されています。(教会ホームページで "Other Resources" をクリックし、次に "Church Service Missionary Opportunities" を選択する。)
17. 『聖句ガイド』「福音」の項, 220参照
18. 3ニーファイ27:13–14
19. 3ニーファイ27:21
20. 教義と聖約33:6–12; 39:6参照
21. 教義と聖約107:23

# 人生で出会う女性たち

## 大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

**人生で出会う女性たちに心から感謝します。わたしたちはどんなに感謝しなければならないでしょうか。**



**兄** 弟姉妹の皆さん、話を始めるに当たって、よろしければ個人的な話をさせてください。6か月前の総大会の最後に、67年間連れ添った愛する伴侶の病状が重いと言いました。その2日後、妻は亡くなりました。4月6日という、教会のすべての会員にとって意味深い日でした。妻を最後まで看てくれた献身的な医師とすばらしい看護師の皆さんに感謝します。

子供たちとわたしの傍らで、妻は永遠のかなたへと安らかに旅立って行きました。告白しますが、妻の手を取り、その指から地上での命が消えて行くのを見て、わたしは途方に暮れてしまいました。結婚する前は、当時はやっていた歌の歌詞を借りるなら、彼女は夢の人でした。3分の2世紀以上の間、妻はわたしの愛する伴侶であり、主の御前においては対等でした。でも実際はわたしより優れた人で

した。今また晩年にあって、彼女は夢の人になってしまいました。

妻が亡くなるとすぐに、世界中の人気が計り知れないほど大きな愛を示してくれました。たくさんの美しい花が届きました。妻の名前で何件もの多額の寄付が、永代教育基金と妻を記念したブリガム・ヤング大学の教授職に送られました。文字どおり何百通もの手紙を受け取りました。たくさんの知人や、見ず知らずの大変多くの人たちからの手紙は箱にしまっています。手紙には妻への賛辞と、残されたわたしたち家族への同情と愛の言葉が記されていました。

たくさんの手紙や寄付に対し、個々に返事を出しができなくて申し訳なく思います。それでこの場を借りて、皆さん一人一人がわたしたちに示してくれた親切に感謝します。ほんとうに、ほんとうに、ありがとうございました。返事を出せなかったことをどうか赦してください。わたしたちにはとてもできませんでした。でも、皆さんの厚意は悲しんでいたわたしたちに慰めを与えてくれました。

長い夫婦生活の中で、深刻なけんかをした記憶がないと言えることを感謝しています。もちろん時折、小さな意見の相違はありましたが、深刻なものではありませんでした。わたしたちの結婚はこれ以上ないというほど穏やかで楽しいものだったと思います。

皆さんの多くも同じように祝福されていることが分かります。皆さんに心からの賛辞を送ります。結局、夫と妻の親密な関係以上にすばらしい交わりはなく、ま

た、善きにつけ悪しきにつけ、結婚が永遠にもたらす影響はほどきわめて重要な意味を持つものはありません。

わたしはその結果をいつも見ています。すばらしさと悲劇の両方を見ています。ですから今日、わたしは人生で出会う女性たちについて少し述べることにします。

まず、世界の創造から始めます。

創世記とモーセ書には、あの伟大的な、他に類のない、すばらしい業について書かれています。全能者がその創造の設計者でした。神の指示の下、天使長ミカエルの助けを受けながら、神の愛する御子であり偉大なエホバが創造の業に当たられました。

最初に天と地が造られ、続いて光と闇とが分けられました。次に水が陸から取り去られました。その後に植物、さらに動物が創造されました。そして究極の創造である人間が造られたのです。創世記にはこう記されています。「神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった。」(創世1:31)

しかし、これで完成したのではありません。

「人にはふさわしい助け手が見つからなかった。

そこで主なる神は人を深く眠らせ、眠った時に、そのあばら骨の一つを取って、その所を肉でふさがれた。

主なる神は人から取ったあばら骨でひとりの女を造り、人のところへ連れてこられた。

そのとき、人は言った。『これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。男から取ったものだから、これを女と名づけよう。』(創世2:20-23)

ですからエバは、それまでなされた驚くべき業のすべてを締めくる集大成として、神の最後の創造物となりました。

女性の創造がこれほど重要であったにもかかわらず、長い間、しばしば女性は2番目の位置に退けられてきました。さげすまれ、けなされ、奴隸のように扱われ、虐待されてきました。しかし、聖文に登場する最も偉大な人物の何人かは、高潔で、



目的を貫く、信仰ある女性でした。

旧約聖書にはエステルやナオミ、それにルツがいます。モルモン書にはサライアが出てきます。世の贅い主の母親マリヤもいます。ニーファイはマリヤを神に選ばれた者として、「ほかのどんなおとめにも勝って美しく、また麗しいおとめ」と記しました(ニーファイ11:15)。

幼いイエスをエジプトに連れて行き、ヘロデの怒りから命を救ったのは女性でした。幼年期と青年期のイエスを育てたのは女性でした。カルバリの丘でイエスの苦痛に満ちた体が十字架にかけられた

とき、マリヤはイエスの前に立っていました。苦しみながらもイエスはマリヤに言わされました。「婦人よ、ごらんなさい。これはあなたの子です。」そして、母親を養うように頼んだ弟子に向かって言されました。「ごらんなさい。これはあなたの母です。」(ヨハネ19:26-27)

主の生涯を読むと、マリヤとマルタ、マグダラのマリヤが出てきます。最初の復活祭の朝、墓に行ったのは女性でした。そしてこの女性に、イエスは復活された主として最初に御姿をお見せになりました。イエスが女性を非常に重要な立場に

置かれたとはいえる、主の御名を公言していた多くの男性がその祝福にあずかれたかったのはなぜでしょうか。

神はその偉大な計画の中で最初に人を創造されたとき、二つの対等な性をお造りになりました。その対等性を気高い形で表したのが結婚です。一方が他方を補っています。パウロは言いました。「主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない。」(1コリント11:11)

全能者の神聖な目的を満たす制度はほかにありません。男性と女性は神が創造なさいました。そして対等に造られたのです。互いに補い合って機能する男女の関係は神の目的の基本となるものです。どちらか一方だけでは完全ではありません。

すばらしい女性でありながら、結婚の機会のない人がこの中に大勢いることを知っています。しかし、彼女たちもすばらしい貢献をしています。教会で忠実に優れた奉仕の業を行っています。また組織で教え、指導者として仕えています。

先日、大変興味深いことを目の当たりにしました。中央幹部の集会に、扶助協会の会長会が同席していたときのことです。この優れた女性たちは中央幹部の評議会室で、福祉と苦しむ人々を援助することについて、原則を話してくれました。しかしそのことが、わたしたちの教会指導者としての立場を落とすことはありませんでした。仕える者として、わたしたちの力はさらに増したのです。

男性の中には尊大な気持ちから、自分は女性より勝っていると考える人がいます。そのような人は、産んでくれた母親がいなければ自分は存在しなかったことに気がついていないようです。自分の優位性を主張するとき、母親を卑しめているのです。ある人が言いました。「人が女性を蔑視するとき、必ず自分自身をもおとしめる。反対に、自分自身を高めずして、母親を高めることはできない。」(アレクサンダー・ウォーカー, *Elbert Hubbard's Scrap Book* [1923年], 204)

まったくそのとおりです。人を卑しめることから生じる苦い結果を、日常よく目に

します。離婚はその一つです。この社会の弊害はとどまるところを知りません。これは伴侶に対する敬意を欠いた態度の結果であり、そのような態度は、軽視、批判、虐待、無関心といった形で表れます。わたしたち教員もその影響を免れません。

イエスははっきりとおっしゃいました。「彼らはもはや、ふたりではなく一体である。だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない。」(マタイ19:6)

ここで「人」という言葉は一般的な意味で使われていますが、実際は、離婚に至る状態を引き起こすのはほとんどが男性です。

何年にもわたり何百組という離婚に対応してきて、確信していることがあります。ある原則を実行することで、この深刻な問題に対し、ほかの何にも増して効果的な解決が得られるのです。

すべての夫、すべての妻が、伴侶の心を休め、伴侶を幸せにすることを絶えず実行するならば、離婚などほとんどなくなるでしょう。言い争いはなくなり、非難を浴びせる声も消えるでしょう。怒りを爆発させることもなくなります。そして虐待と辛辣な言動が、愛と思いやりに変わるでしょう。

何年も前にはやったこの歌をよく歌つたものです。

幸せになりたい  
でも、幸せにはなれない  
君を幸せにするまでは  
(アービング・シーザー "I Want to be Happy" [1924年])

ほんとうにそのとおりです。

すべての女性は神の娘です。女性に不快な思いをさせれば、神をも不快にしてしまいます。この教会の男性の皆さんにお願いします。皆さんのお伴の内にある神性を求め、養ってください。家庭がいかに調和と平安に満ち、豊かで、愛がはぐくまれる場所となるかは、夫がいかに妻の神性を養うかに懸かっています。

マッケイ大管長はよく次のことを思い起こさせてくれました。「[人生の]いかなる

成功も、家庭の失敗を償うことはできない。」(J・E・マカロック, *Home: The Savior of Civilization* [1924年], 42から引用; Conference Report, 1935年4月, 116)

同様に、リード大管長は次の真理を思い出させてくれました。「あなたがたが行う最も大切な主の業は、家庭という団体の中にあります。」("Maintain Your Place as a Woman" *Ensign*, 1972年2月号, 51)

結婚に関する多くの問題を離婚で解決することはできません。それは悔い改めと救い、親切と思いやりを示すことで解決できます。黄金律を実践するときに解決できるのです。

若い男性と若い女性が聖壇を前にして手を取り合い、神の御前で互いに尊び、愛するという聖約を交わす光景は大変美しいものです。しかし、数か月あるいは数年後、攻撃的な言葉や辛辣で相手を傷つける言葉、声を荒らげ、厳しい非難が飛び交う光景は何と重苦しいことでしょうか。

愛する兄弟姉妹、そうなる必要などありません。わたしたちはこの無力で貧弱な、もろもろの靈力(ガラテヤ4:9参照)に打ち勝つことができます。天の御父の子供であるわたしたちの内にある神の性質を互いに探し、認め合うことができます。神が定められた結婚の方式の中でともに暮らすことができます。そして伴侶を責めようとせずに、自己を鍛錬するならば、自分の能力にかなうことを達成できます。

人生で出会う女性たちには、特別な資質や神聖な性質が賦与されています。女性が周りの人に親切な愛の手を差し伸べられるのはそのためです。女性の内にある才能や意欲を伸ばす機会を提供するなら、彼女たちが人に手を差し伸べるのを励ますことになります。ある夜、年を取った愛する妻が静かに言いました。「わたしが飛べるように、あなたはいつも翼をくれたわね。うれしかったわ。」

すでに亡くなった知人がいます。妻と子供たちのことについて何でも自分が決めないと気が済まない人でした。家族は彼がいなければ靴一足買えませんでした。

ピアノを習うこともできませんでした。彼の同意なしには教会の奉仕もできなかつたのです。そんな態度の結果をわたしは見てきました。良いものではありませんでした。

わたしの父は母を褒めるのに決して躊躇しませんでした。父の母に対する態度を見て、わたしたち子供は父が母を愛していることを知りました。父は母の意見を尊重していました。父の模範にいつも感謝するでしょう。皆さんの中多くも同じように祝福されています。

もっと続けられますが、必要はないでしょう。わたしはただ、わたしたちは皆神の子供、息子娘であり、兄弟姉妹であるというすばらしい真理を強調したいだけです。

父親として、わたしは娘より息子の方を大事にしているのでしょうか。そうではありません。もしわたしが少しでも均衡を欠いているのなら、それは娘たちをもつとかわいがっているからです。前にも言いましたが、男性は年を取ったら、娘をそばに置くべきです。娘たちはとても親切で善良で思いやりがあります。息子たちは有能で賢明だと言えると思います。娘たちはよく気がつき、親切です。ですから「わたしの杯はあふれます。」(詩篇23:5)

女性は、天の御父がわたしたちのためにしてられた幸福の計画になくてはならない存在です。女性なしにその計画は機能しません。

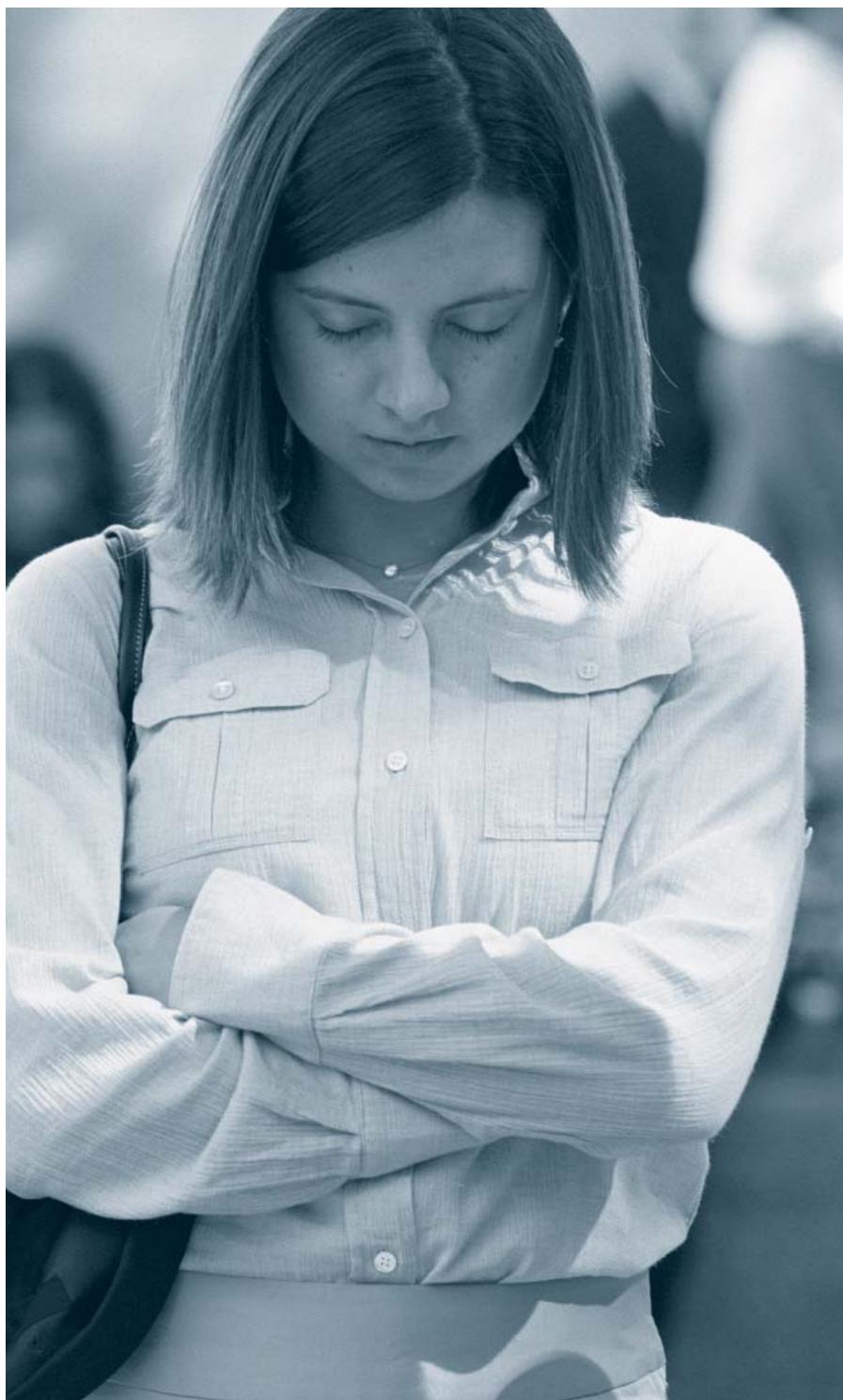
兄弟の皆さん、この世には不幸が多すぎます。悲惨なこと、心痛むこと、悲痛なことが多すぎます。涙を流して悲しむ妻や娘たちが多すぎます。無関心や虐待、不親切が多すぎます。

神はわたしたちに神権をお与えになりました。その神権を働くのは「ただ、説得により、寛容により、温厚と柔軟により、また偽りのない愛により、優しさと純粋な知識による〔のです。〕これらは偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるもので〔す。〕」(教義と聖約121:41-42)

人生で出会う女性たちに心から感謝します。わたしたちはどんなに感謝しなければならないでしょうか。神は女性を祝

福されます。神の大いなる愛が女性に注がれ、栄光と美、恵みと信仰の冠が授けられますように。また、わたしたち男性にも御靈が注がれて導きを受け、女性を尊び、感謝し、励まし、強め、養い、愛する

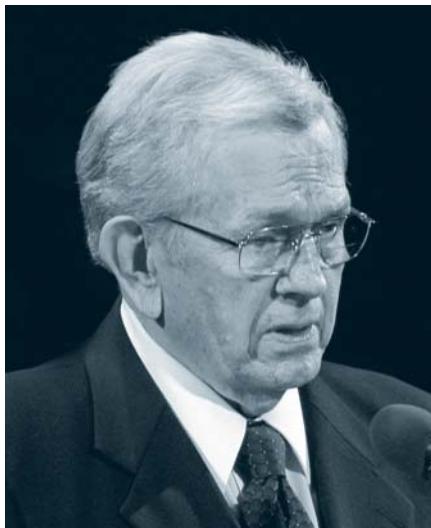
ことができますように。これは贊い主である主の福音のまさに核心を成すものです。イエス・キリストの聖なる御名により、へりくだり祈ります。アーメン。



# これらの最も小さい者

十二使徒定員会会長代理  
ボイド・K・パッカー

だれであっても普通の末日聖徒が示す信仰の力を過少評価しないようにしましょう。



18 38年に預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中に、めったに引用されない末日聖徒へのメッセージがあります。「わたしの僕オリバー・グレインジャーを、わたしは覚えている。見よ、まことに、わたしは彼に言う。彼の名前は代々とこしえにいつまでも、神聖に覚えられるであろう」と主は言う。」(教義と聖約117:12)

オリバー・グレインジャーは、ごく普通の男性でした。しかし「極寒にさらされて視力を失い」(History of the Church, 第4巻, 408), ほとんど目が見えませんでした。大管長会は彼について「最も高潔で、徳が高く、要するに、神の人である」と記しています(History of the Church, 第3巻, 350)。

聖徒たちがオハイオ州カートランドから追放され、同じ光景がインディペンデンス、ファーウェスト、ノーブーで繰り返されたとき、オリバーはたとえわずか

な金額ででも聖徒たちの財産を売却するために後に残りました。うまく事が運ぶ見込みはあまりなく、実際、芳しい成果は得られませんでした。

しかし、主はこう言われました。「彼はわたしの教会の大管長会の負債償却のために熱心に働きなさい」と主は言う。彼は倒れるとき、再び起き上がるであろう。彼の犠牲は彼が増し加えるものよりもわたしにとて神聖だからである」と主は言う。」(教義と聖約117:13)

オリバー・グレインジャーは、名前が神聖に覚えられるために、何をしたでしょうか。成果としては実にわずかです。それは彼の存在と同じように、あまり目立たないものでした。

わたしたちはオリバーに賛辞を送るとき、その多くを、恐らくそのほとんどを、彼の妻、リディア・ディブル・グレインジャーに向けることでしょう。

オリバーとリディアは、ミズーリ州ファーウェストの聖徒たちに合流するため、ようやくカートランドをたちました。しかし、カートランドを出て数マイル行った所で、暴徒によって追い返されてしまいます。彼らが聖徒たちに合流したのは、ずっと後のノーブーでのことでした。

オリバーは47歳で亡くなり、残されたリディアが子供たちの面倒を見ました。

主がオリバーに期待されたのは、完全になることでも、恐らく成功することでもなかったと思います。「彼は倒れるとき、再び起き上がるであろう。彼の犠牲は彼が増し加えるものよりもわたしにとて神聖だからである」と主は言う。」(教義と聖約117:13)

わたしたちは、いつも成功を期待できるとは限りませんが、全力を尽くすべきです。

「主なるわたしは、すべての人をその行いに応じて、またその心の望みに応じて裁くからである。」(教義と聖約137:9)

主は教員に次のように言われました。

「わたしが人の子らのだれかにわたしの名のためにある業を行なうよう命じ、そしてそれら人の子らが勢力を尽くし、彼らの持っているすべてを尽くしてその業を成し遂げるよう努め、かつ熱心であることをやめなければ、彼らの敵が彼らを襲って、彼らがその業を成し遂げるのを妨げるとき、見よ、わたしは当然のこととして、もう人の子らの手にその業を求めることはなく、彼らのささげ物を受け入れる。……

……わたしは、業を行なうよう命じられたながら敵の手によって、また暴虐によってそれを妨げられたすべての者に関して、あなたがたを慰めるために、これをあなたがたへの一つの例とする」と主なるあなたがたの神は言う。」(教義と聖約124:49, 53。モーサヤ4:27も参照)

当時のカートランドにはわずかな人々しかいませんでしたが、今や世界中至る所に何百万もの普通の末日聖徒がいます。話す言語は様々ですが、彼らは、御靈という共通の言語を通して、信仰と理解において一つに結ばれています。

これらの忠実な会員たちは、聖約を交わして守り、神殿に参入するふさわしさを保つように努めています。預言を信じ、ワードや支部の指導者を支持しています。

オリバーのように、彼らは大管長会と十二使徒定員会を支持し、主の次の言葉を受け入れています。「わたしの民が、わたしの声と、わたしの民を導くためにわたしが任命した[これらの人]の声に聞き従うならば、見よ、まことに、わたしは言うが、彼らはその場所から移されることはない。」(教義と聖約124:45)

教義と聖約の「はしがき」として与えられた啓示の中で、主はだれが御自身の業を行なうか説明されました。わたしがその啓示を読みますから、注意深く聞いて、主がわたしたちに寄せておられる信頼に

について考えてみてください。

「主なるわたしは、地に住む者に下る災いを知っているので、わたしの僕ジョセフ・スミス・ジュニアを訪れ、彼に天から語り、戒めを与えた。

また、ほかの者たちにも戒めを与えて、彼らがこれらのこと世に宣言するようにした。これはすべて、預言者たちによって書き記されたことが成就するためである。

すなわち、世の弱い者たちが出て来て、力ある強い者たちを打ち破る。それは、人がその同胞に忠告することや、肉の腕に頼ることのないようにするためである。」

次の節は、ふさわしい普通の男性や少年に授けられる神権についての定めです。

「すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語るため、……

わたしの完全な福音が弱い者や純朴な者によって世界の果てまで、また王や統治者の前に宣べられるためである。

見よ、わたしは神であり、わたしがこれを語った。これらの戒めはわたしから出ており、わたしの僕たちに、彼らの弱さのあるままに、彼らの言葉に倣って与えられた。それは、彼らが理解できるようにするためである。

また、彼らが誤りを犯したならば、それを知らされるため、

知恵を求めたならば、教えを授けられるため、

罪を犯したならば、懲らしめを受けて、悔い改められるようにするため、

謙遜であれば、強くされ、高い所から祝福を受け、また折々知識を与えられるようにするためである。」(教義と聖約1:17-20, 23-28, 強調付加)

今や、新しい世代の青少年が現れています。わたしたちは彼らの中に、今まで目にしたことのない力を見ています。彼らの生活には、アルコールや麻薬、不道徳な行為はありません。彼らは福音の研究や社交活動、奉仕において固く結ばれています。

彼らは完全ではありません。まだ不完全ですが、最善を尽くし、これまでの世代よりも強い力を備えています。



主がオリバー・グレインジャーに告げられたように、「[彼らは倒れる]とき、再び起き上がるであろう。[彼らの]犠牲は[彼ら]が増し加えるものよりもわたしにとて神聖だからである……。」(教義と聖約117:13)

中には、伝道に出られない、結婚生活がうまくいかない、赤ちゃんに恵まれない、迷い出た子供を導けない、夢が実現できない、あるいは年齢制限でしたいことができないといったことで、絶えず思い悩んでいる人がいます。わたしたちが自分の行いや働きが十分でないと考えて思い悩むとき、主はお喜びにならないと思います。

中には、告白と悔い改めを通して取り除くことができるのに、罪という不必要な重荷を負っている人もいます。

主はオリバーに、「[もし]彼が倒れるなら」ではなく、「彼は倒れるとき、再び起き上がるであろう」と言われました(教義と聖約117:13, 強調付加)。

数年前にフィリピンで大会が開かれ、わたしたちは早目に会場に到着しました。道路わきには、日曜日の服を着た両親と4人の小さな子供が座っていました。彼らは数時間バスに揺られてやって来て、その

日初めての食事を取っていました。それぞれが冷たくなったトウモロコシをかじっていました。たぶん、食事代を削って、マニラまでのバス代を捻出したのでしょう。

わたしはその家族を見ながら、胸がいっぱいになりました。彼らこそ、教会そのものであり、教会の力であり、教会の未来です。多くの国々の家族と同じように、彼らは自分の一を納め、指導者を支持し、最善を尽くして奉仕しています。

40年以上にわたり、わたしと妻は世界中を旅してきました。恐らく100の国々の会員を知っています。そして彼らの純粋な信仰に力を感じてきました。彼らの個人的な証しと犠牲から力強い影響を受けてきました。

わたしは褒められるのが苦手です。褒め言葉をかけられると戸惑ってしまいます。福音を推し進める偉大な業は、過去も、現在も、そして未来も、一般会員の肩に懸かっているからです。

妻もわたしも、自分たちの子供や両親が受ける以上の報いを期待してはいません。わたしたちは子供に、世の中において、また教会においてさえ、名声を博して著名な存在になることを人生の目標にするように求めていませんし、願っても

いません。それらは人の価値にほとんど何の影響も与えないからです。子供たちが福音に従って生活し、信仰の中で自分たちの子供を育てるなら、わたしたちの夢は実現するでしょう。

ヨハネのように、「[わたしたちの] 子供たちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない」のです(ヨハネ1:4)。

何年も前に、わたしはニューイングランド伝道部の部長として、カナダ、ニューブランズウィック州のフレデリックトンをたちました。気温は零下40度でした。飛行機が小さなターミナルを離れて動き出したとき、二人の若い長老が外に出て、手を振っているのが見えました。わたしは思いました。「むちゃな若者たちだ。なぜ暖かい室内に入らないんだろう?」

突然、わたしは力強い思いに包まれました。それは啓示でした。これらの若い普通の宣教師が、全能なる神の神権の務めを果たしているのです。カナダのその州全体の伝道活動を安心して彼らの手にゆだねようと思いながら、座席にもたれかかりました。それは、決して忘れるとのない教訓となりました。

8週間前に、七十人のウィリアム・ワーカー長老とわたしは、沖縄の那覇で44人の

宣教師と一緒にゾーン大会を開きました。日本福岡伝道部のミルズ部長は、大型台風が接近したために出席できなくなりました。若い巡回宣教師は、伝道部長がいたらその場に注いだであろう豊かな靈感と威厳をもって集会を進めました。わたしたちは翌朝、強風の中を出発し、宣教師たちを安心してその巡回宣教師にゆだねたのです。

最近、日本の大阪で、わたしは十二使徒のラッセル・バラード長老、ヘンリー・アイリング長老、七十人のデビッド・ソレンセン会長、それにほかの七十人の兄弟たちとともに、21人の伝道部長と26人の地域幹部七十人を迎えて大会を開きました。地域幹部七十人として、インドネシアのジャカルタからスパンドリヨ長老、中国の北京から賈居仁<sup>チャウ・ジン・ヂヤ</sup>長老、フィリピンからレムス・G・ビラレ長老、韓国から高元龍<sup>コ・ウォン・ヨン</sup>長老、そのほか22人の長老が出席しました。アメリカ人は二人だけでした。それは様々な国と言語と民の結集でした。有給の人はいません。全員が御業に召され、自ら進んで喜んで奉仕しています。

また、わたしたちは岡崎、札幌、大阪でステークを再組織しました。新しい3人のステーク会長と数多くの指導者たちは皆、10代で教会に入りました。そしてほとんど

の人が、戦争で父親を亡くしていました。

七十人の菊地良彦長老もその世代の一人です。

主が予見された様々な災いが、悔い改めることのない世界に、今、起こっています。それと同時に、多くの若い世代が次々に現れています。彼らは結婚し、主の宮で交わした聖約を守ります。子供をもうけますが、家族生活が社会によって制限されるのを許しません。

今日、わたしたちは次の預言を成就しています。「[オリバー・グレインジャー]の名前は代々とこしえにいつまでも、神聖に覚えられるであろう……。」(教義と聖約117:12) 彼は世の中から見れば、偉大な人物ではありませんでした。しかし、主はこう言われました。「だれもわたしの僕オリバー・グレインジャーを軽んじることなく、……祝福がいつまでもとこしえに彼のうえにあるようにしなさい。」(教義と聖約117:15)

だれであっても普通の末日聖徒が示す信仰の力を過少評価しないようにしましょう。次の主の言葉を忘れないでください。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ25:40)

主は次のように約束されました。「聖靈は常に[彼ら]の伴侶となり、[彼ら]の笏<sup>はんりょく</sup>は義と真理の不変の笏となるであろう。そして、[彼ら]の主権は永遠の主権となり、それは強いられることなく、とこしえにいつまでも、[彼ら]に流れ込むことであろう。」(教義と聖約121:46)

主の業の発展を止めることのできる力はないのです。ほんとうに何もないのです。

「流水はいつまで濁ったままでいられようか。いかなる力が天をとどめるであろうか。全能者が末日聖徒の頭に天から知識を注ぐのを人が妨げようとするのは、人がそのか弱い腕を伸べて、定められた水路を流れるミズーリ川をとどめようとするようなもの、あるいは逆流させようとするようなものである。」(教義と聖約121:33)

これらのことを使徒として証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。



タヒチ、パペーテでの大会衛星放送に到着したジョン・サンと妻のセリーナ

# わたしたちはあなたの ために行ったのです

中央若い女性第二副会長  
イレイン・S・ダルトン

**神殿の業を行うために、わたしたちは備えてきたのです。またこの業は、あらゆる世代、特に教会の若人のためのものです。**



1年ほど前、夫とともにノーブーを訪れました。開拓者墓地の中を、ザイナ・ベーカー・ハンティントンという名の先祖の墓石を探しながら歩いていると、そこに漂う、穏やかな静けさと雰囲気に感動を覚えました。木々の間を歩き、墓石に刻まれた名前を一つ一つ確認していくと、その多くは子供や家族のものでした。心が先祖へと向かい、涙があふれました。彼らの多くは教会に入り、ノーブーに来たのです。心に数々の疑問が浮かびました。彼らはなぜ、快適な家や家族を後にしたのでしょうか。なぜ迫害や病気、あるいは死をもいとわなかったのでしょうか。この地に来て神殿を建設するために、なぜすべてのものをささげたのでしょうか。住む家も満足にない状態で、神殿建

設に取り組んだのです。彼らはなぜそのようにしたのでしょうか。また神殿の完成を目前にしながら、一体どうしてこの地を去ることができたのでしょうか。腰を下ろして静かに思い巡らしていたとき、力強く、けれども穏やかに、これらの問い合わせに対する答えがわたしの思いと心に浮かびました。「わたしたちはあなたのため<sup>おこな</sup>に行ったのです」と。

「わたしたちはあなたのために行ったのです」という言葉から、わたしたちの先祖をはじめ、数多くの忠実な聖徒がイエス・キリストへの証と信仰のゆえにすべてを犠牲にしたことを思い出しました。彼らは地上に再び福音が回復され、神の預言者が自分たちを導いていることを知っていたのです。また、モルモン書が真実であることを知り、そのメッセージと証を理解していました。神権の鍵が回復され、神殿でのみ執り行える聖なる神権の儀式を通して家族が永遠に結び固められることを知っていました。また、神殿の業は人類家族の救いと昇栄の鍵であることも知っていました。神殿の業の重要性を知り、この神聖な業を行う場として主がお認めになる宮を建てるためなら、喜んで持てるすべてをささげました。過去と未来の世代が神殿の永遠の祝福にあずかることができるよう、彼らはすべてを犠牲にしたのです。

ノーブーに来る前、聖徒たちはオハイオ州カートランドにこの神権時代最初の

神殿を建設するために、多大な犠牲を払いました。主御自身がジョセフ・スミスとオリバー・カウドリーに御姿<sup>みすがた</sup>を現されたのは、まさしくこの神殿においてでした。3人の天の使者もその場に現れました。そのうちの一人である預言者エリヤは、神権の回復にかかる鍵、すなわち、「主の神殿で……大いなる業が行われる」<sup>1</sup> ための鍵を預言者ジョセフ・スミスに授けました。こうして、教義と聖約に記されている、主の次の約束が成就したのです。

「見よ、……わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう。」

彼は先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう。

そうでなければ、主の来臨の時に、全地はことごとく荒廃するであろう。」<sup>2</sup>

初期の聖徒たちはこの聖文を理解していました。そしてノーブーの墓地で過ごしたあの麗しい朝、わたしもこの聖文を理解したのです。

一体どうすれば先祖に与えられた約束を子孫の心に植えることができるのでしょうか。また、子孫の心をその先祖に向かわせるにはどうすればよいのでしょうか。そのためにはまず、自分が何者であるかを知り、この業で自らが果たすべき役割を理解する必要があります。そして、神殿参入に備えてふさわしさを保ち、亡くなった先祖の代理として儀式を行うときに初めて、これらは成就するのです。

ブリガム・ヤングはこう言いました。「わたしたちは、この地上における救い主の業と同じくらい重要な業があります。……今、わたしたちはその業に召されました。それは地上でかつて人が行った中で最も偉大な業となるでしょう。」<sup>3</sup>

ジョセフ・F・スミス大管長は、自らに与えられた死者の贖いの示現の中で、救い主が来られる前にこの世に生を受けた数多くの高潔で偉大な預言者を見ました。また、預言者ジョセフ・スミスや自分の父親であるハイラム・スミスにも会いました。そこには、「そのほか〔の〕選ばれた靈たち」もいました。「彼らは、大いなる末日の業の基を据える務めに携わるために、時



満ちる時代に来るようになると止められて」いました。<sup>4</sup> そのほかの選ばれた靈とはだれのことだったのでしょうか。わたしたちの世代は、「高潔で偉大な」指導者とともにいて、現代の地上に生を受けるべき靈たちの世界で準備を整えていたのです。聖文には次のように書かれています。「まさに、彼らは生まれる前に、ほかの多くの者とともに、靈の世界において最初の教えを受け、主の定められたときに出で行って人々の靈の救いのために主のぶどう園で働く準備をしたのである。」<sup>5</sup> わたしたちが備え、取っておかけられた理由の一つは、「神殿を建て、そこで死者の贖いのために儀式を執行する」<sup>6</sup> ことでした。

ブリガム・ヤングはわたしたちが生を受けた今の時代を予見してこう言いました。「この業を成し遂げるには、たった一つの神殿だけではなく、何千という神殿が必要になります。そして何千、何万という人々が、主から示されたところまでさかのぼり、かつて生きていた人々のために神殿に参入し、儀式を受けるようになります。」<sup>7</sup>

幼いころ、祖父のマーティンに、末日に神殿が文字どおり世界各地に点在するようになるだろうと教えられました。祖父からこの考えを聞いたときは、そのような

状況はとても想像できませんでした。しかし、わたしは心の奥底にそのような知識と思いを抱いて成長しました。先日、教会のホームページの「神殿」の項を見ていると、神殿が世界地図上に赤い点で示され、世界中の多くの地域に広がりつつある様子が一目で確認できました。<sup>8</sup>

わたしたちの愛する預言者、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう述べました。「わたしたちは神殿を皆さんのもとに近づけ、神殿での礼拝から得られる貴重な祝福をぜひ皆さんに味わっていただけるよう全力を尽くす覚悟です。」<sup>9</sup> わたしたちの預言者は、近くに神殿がなければ神殿の業を行うのが困難であることを承知しています。現代はわたしたちの時代です。神殿の業を行うために、わたしたちは備えてきたのです。またこの業は、あらゆる世代、特に教会の若人のためのものです。

この偉大な業を遂行するためには、ふさわしさが必要です。世の中は、わたしたちを失望や混乱に追い込み、ふさわしさを奪ってしまう物事であふれています。だからこそ目的を見失わず、教会で行う事柄はすべて神殿の業に行き着くことを心に留める必要があります。

「成長するわたし」や「神への務めを果

たす」は、神殿に参入するふさわしさを身に付けるよう青少年を励ますプログラムです。これらのプログラムは、若人の献身を促し、彼らが聖約を交わし、それを守れるよう備えさせるものです。また、日記、家族歴史、先祖のための身代わりのバプテスマに取り組むよう呼びかけています。パンフレット『若人の強さのために』には教義と原則が説かれており、そこに書かれていることを理解し守るならば、神殿参入へのふさわしさを身に付ける助けとなります。これらのプログラムは、青少年、両親、そして指導者にとって力強い道具となり、青少年が神殿参入に必要なふさわしさを身に付けるのにとても役立ちます。青少年は、伝道や結婚まで待たなくても神殿に参入することができます。12歳になったら、バプテスマと確認の儀式のために神殿に入ることができますし、成人するまで、そして成人してからもずっとこの奉仕を続けることができるのです。神殿でエンダウメントを受ける人々には、文字どおり偉大な祝福が「頭に注がれ」ますが、この祝福の一部は、主の宮への参入に備えてふさわしく生活する青少年にも及びます。<sup>10</sup>

ソルトレーク神殿のバプテスマ室は、土曜日の朝を過ごすにはすばらしい場所で

す。ある朝早く、わたしはソルトレーケ神殿で数人の先祖の身代わりのバプテスマを受けました。バプテスマ室の長いすに腰かけて待っていると、左隣の若い女性が祝福師の祝福文を読んでいるのに気づきました。右隣の女の子は聖典を読んでいました。その女の子に、団体での参入ですか、と尋ねたところ、彼女の答えはこうでした。「いいえ。毎週土曜日には友達と神殿に来ています。そうすれば次の1週間がすばらしいものになるんです。」ここで出会った若い女性たちは、ほかの多くの若人と同様に、神殿の祝福は、家族や先祖だけでなく、自分たち自身にも及ぶというすばらしい極意を知っているのです。わたしたちはエンダウメントを受け、この聖なる宮を後にすると、「あなたの力を帯びて出て行く」という約束、そして「あなたの御名が彼らのうえにあり、あなたの栄光が彼らの周りにあり、あなたの天使たちが彼らに対する務めを果たす」という約束を受けています。これらの約束は偉大な祝福です。不穏さを増す今日の社会にあって、人生の航路を示すこれらの祝福を受けるための備えをすることを望まない若者がいるでしょうか。

ファウスト副管長は昨年10月の神権部会で若い男性に向けて、神殿と家族歴史の業に携わるよう呼びかけました。「皆さんに、自分のほんとうの姿を知るきっかけとして、先祖に関する知識をさらに深めるようお勧めします。……インターネットや最寄りの家族歴史センターを利用すれば、計り知れない数の家族歴史記録を簡単に入手することができます。……神殿の業は……欠くことのできないものです。『彼らなしにはわたしたちが完全な者とされることはなく、またわたしたちなしには彼らが完全な者とされることはない』からです。」<sup>12</sup>

「このような時のために」<sup>13</sup> に若人は備えられたのです。彼らは知的で、聰明です。またコンピューターやインターネットを使いこなします。世界中で善を行ふための未開拓のすばらしい人材です。彼らは末日のために取っておかれ、偉大な業を託されています。神殿は偉大な業を行ふ場

であるだけではなく、この世的な圧力や影響から若人を守る避け所でもあります。

ファウスト副管長の言葉に思いをはせていると、神殿参入のためにふさわしく備えた義にかなった若人の軍勢が目に浮かびます。また、永遠に結び固められた家族を見ることができます。「救う者はシオンの山に上」<sup>14</sup> るという意味をよく理解している若人が見えます。心を先祖に向いている若人が見えます。<sup>15</sup> このように成長した若人が、世の重圧に立ち向かうための強さを得て神殿を後にする光景を思い浮かべることができます。<sup>16</sup> 「聖なる場所に立ち、動かされない」若人の世代が見えます。<sup>17</sup>

ザイナ・ベーカー・ハンティントンは、ほかの大勢の忠実な聖徒と同様に、わたしたちが回復された福音の祝福を享受できるようにと、すべてを犠牲にしました。わたしたちがこの偉大な業における自分の役割を理解し、主の聖なる神殿に参入するふさわしさを保つことができますよう祈ります。このように行うなら、再び先祖と会い、「わたしたちはあなたたちのために行ったのです」と先祖に告げることのできる、喜びの日が訪れる 것을知っていきます。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

## 注

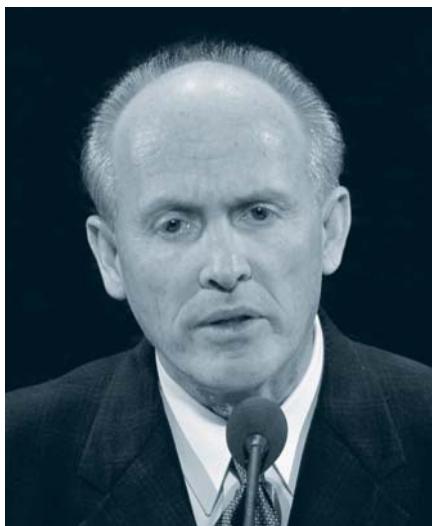
1. 教義と聖約138:48。教義と聖約27:9; 110:14-16; 128:17; 138:47も参照
2. 教義と聖約2:1-3
3. *Discourses of Brigham Young*, ジヨン・A・ウイツツォー選(1954年), 406
4. 教義と聖約138:53。強調付加
5. 教義と聖約138:56参照。強調付加
6. 教義と聖約138:54
7. *Discourses of Brigham Young*, 394
8. www.lds.org参照。“Temples throughout the World” *Friend*, 2002年7月号, 36-37も参照
9. 「神殿、改宗者の定着、伝道活動について」『聖徒の道』1998年1月号, 58
10. 教義と聖約110:9-10参照
11. 教義と聖約109:22
12. 「自分という驚くべき存在」『リアホナ』2003年11月号, 53-54。教義と聖約128:18も参照
13. エステル4:14
14. オバデヤ1:21
15. 教義と聖約2:1-3参照
16. 教義と聖約109:22参照
17. 教義と聖約87:8



# 聖約を守る

七十人  
リチャード・J・メインズ

この人生でわたしたちにできる最も大切なことは、主と交わした約束、すなわち聖約を守ることです。



古 代から現代に至るまで、イエス・キリストの真の弟子は主と聖約を交わし、それを守ることがどれほど大切か理解してきました。

紀元前64年ころ、ニーファイの民は、きわめて危機的な時代を生きていました。罪悪、不和、陰謀のために、最も危険な状況に陥っていたのです（アルマ53:9参照）。政府はぐらつき、まさに崩壊寸前でした。レーマン人との戦いは、もう何年にもわたって続いていました。内部の反対派は、ニーファイ人と決別し、敵の軍隊と手を組むようになっていました。ニーファイ人の多くの都市が、攻撃を受け、占領されました。

この危険で混沌とした状況のただ中にあって、モロナイやヒラマンのような義にかなった人々にニーファイ人の軍隊を導く責任がゆだねられました。これらのニーファイ人指導者は、自分たちの国を

守れるかどうかは、文字どおり主に対する従順に懸かっていることを理解していました。そして民が主を覚え、主の戒めを守るように絶えず奮闘しました。

都市の多くが滅ぼされ、力の均衡がレーマン人優勢に傾いているかのように見えた危機的状況の中、奇跡的なことが起こりました。かつてはレーマン人でしたが、アンモンの伝道によってイエス・キリストの福音に改宗し、アンモンの民という名で知られるようになっていた一団が、新しく受け継いだ土地、国、そして生き方を擁護するために武器を取りたいと願い出たのです（アルマ53:13参照）。

アンモンの民の父親たちは、以前に二度と武器は取らないという誓いを主に対して立てていました。ニーファイ人の預言者ヒラマンは、彼らに主との約束を守るよう勧告しました（アルマ53:15参照）。ヒラマンはそのような勧告を与えた後に起こった出来事を次のように語っています。

「しかし見よ、彼らには多くの息子たちがおり、その息子たちは武器を取って敵を防ぐことはしないという誓いをまだ立てていなかった。そこで、彼らの中で武器を取ることのできる者は皆このときに集まり、自分たちをニーファイ人と呼んだ。

そして彼らは、ニーファイ人の自由のために戦うという、つまり自分たちの命を捨てても国を守るという誓いを立てた。また、自分たちの自由を決して放棄しない……と誓った。

さて見よ、この誓いを立てて、国を守るために武器を取った青年たちは、2,000人

であった。……

彼らは皆、青年であって、非常に勇敢であり、体力と活力がみなぎっていた。しかも見よ、それだけではなく、彼らは託されたことは何であろうと、いつでも誠実に果たす者たちであった。

まことに彼らは神の戒めを守り、神の前をまっすぐに歩むように教えられていたので、誠実でまじめな者たちであった。

そしてヒラマンは……人々を支援するために、この2,000人の若い兵士を率いて行った。」（アルマ53:16-18, 20-22）

ヒラマンは2,000人の若い兵士とともに、自分たちの家族と自由を守るため勇敢に戦いました。彼らが加わったことで、戦争の流れそのものが変わりました。戦況がニーファイ人優勢に変わったのです。

ヒラマンはモロナイにあてた手紙の中で、これらの若い兵士が示した信仰と勇気についてこう書き記しています。

「愛する兄弟、モロナイ殿。わたしは申し上げます。わたしはこれまでこのような大いなる勇気を一度も見たことがありません。ニーファイ人の中にはないことです。……

彼らはまだ一度も戦ったことがありませんでしたが、死を恐れませんでした。そして彼らは、自分の命よりも父親たちの自由のことを考えていました。彼らは母親から、疑わなければ神が救ってくださると教わっていたのです。」（アルマ56:45, 47）

兄弟姉妹の皆さん、「彼らは……疑わなかったので」……神〔は確かに〕救ってくださいました。初めての戦いであったにもかかわらず、2,000人の兵士のうちだれ一人として殺された者はいませんでした。この戦いの後、さらに60人の若いアンモン人がヒラマンの小さな軍隊に加わりました。ヒラマンはこう語っています。「彼らはすべての号令に従ってそのとおりに行うように努めたのです。そして、実に彼らの信仰に応じて、そのようになりました。」（アルマ57:21）

この小さな軍隊が参戦した2回目の戦いは、1回目の戦いよりもさらに激しいものとなりました。戦いが終わった後で、ヒラ

マンはこう記しました。

「さて、わたしの2,060人の兵のうち、200人が失血のために意識を失っていました。にもかかわらず、神の慈しみによってだれ一人死なずに済んだ〔のです。〕

……

彼らが守られたのは、わたしたち全軍にとって驚きでした。……それは神の奇跡を起こす力によったものと考えざるを得ません。……深く信じていたので、それが起こったのです。」(アルマ57:25-26)

ヒラマンとその若い兵士は、主と聖約を交わすことがどれほど大切か理解していました。そして忠実に聖約を守る人々に与えられる祝福も受けました。

わたしたちも末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、神聖な義務を受けています。バプテスマの水の中、主の神殿の中でそれを受けたのです。このような義務をわたしたちは聖約と呼んでいます。聖約とは人が主と交わす約束のことです。聖約はきわめて神聖なものです。この人生でわたしたちにできる最も大切なことは、主と交わした約束、すなわち聖約を守ることです。主は御自分との約束を守る人を靈的に成長させてくださいます。

これまで2年にわたり、妻とわたしは責任を受けてフィリピンで奉仕してきました。そして主と交わした聖約を理解し、それを守るフィリピンの家族や会員の模範を何度も見てきました。そのような家族に関する経験を一つ話しましょう。

数か月前のこと、フィリピン・タリセイステーク大会を管理するよう割り当てられました。その日曜の一般部会で、わたしは話の前に、まず出席した兄弟姉妹の敬虔な態度に感謝を伝えました。話の最中、わたしから見て左の方に、非常に大きな家族が礼拝堂の前から数列後ろに座っているのが見えました。感銘を受けたわたしは、敬虔の原則を理解し実践している家族の例として彼らを挙げました。その両親は実に多くの敬虔な子供たちに囲まれて座っていました。

集会が終わると、このアバサンタ家族と話をするすばらしい機会に恵まれました。この家族について知れば知るほど、わた



上——フィリピン・タリセイステークのラニ・アバサンタと妻のイレネア。17人の子供のうち14人とともに。左——アバサンタ家の伝道中の子供たち、アンモン、オムナイ、オムナー

しは感心させられました。聖約を守り、イエス・キリストの福音に従って生きることの意味を真に理解していたのです。

ラニ・アバサンタ兄弟とイレネア・アバサンタ姉妹は22年前に教会に入りました。子供は全部で17人います。そして17人のうち、一組の三つ子がいます。世界中のどこであれ、家族を養うのが容易ではないことは承知のとおりです。フィリピンも例外ではありません。しかし、アバサンタ家族は、それが実行できること、しかも正しい方法で実行できることを模範で示しています。

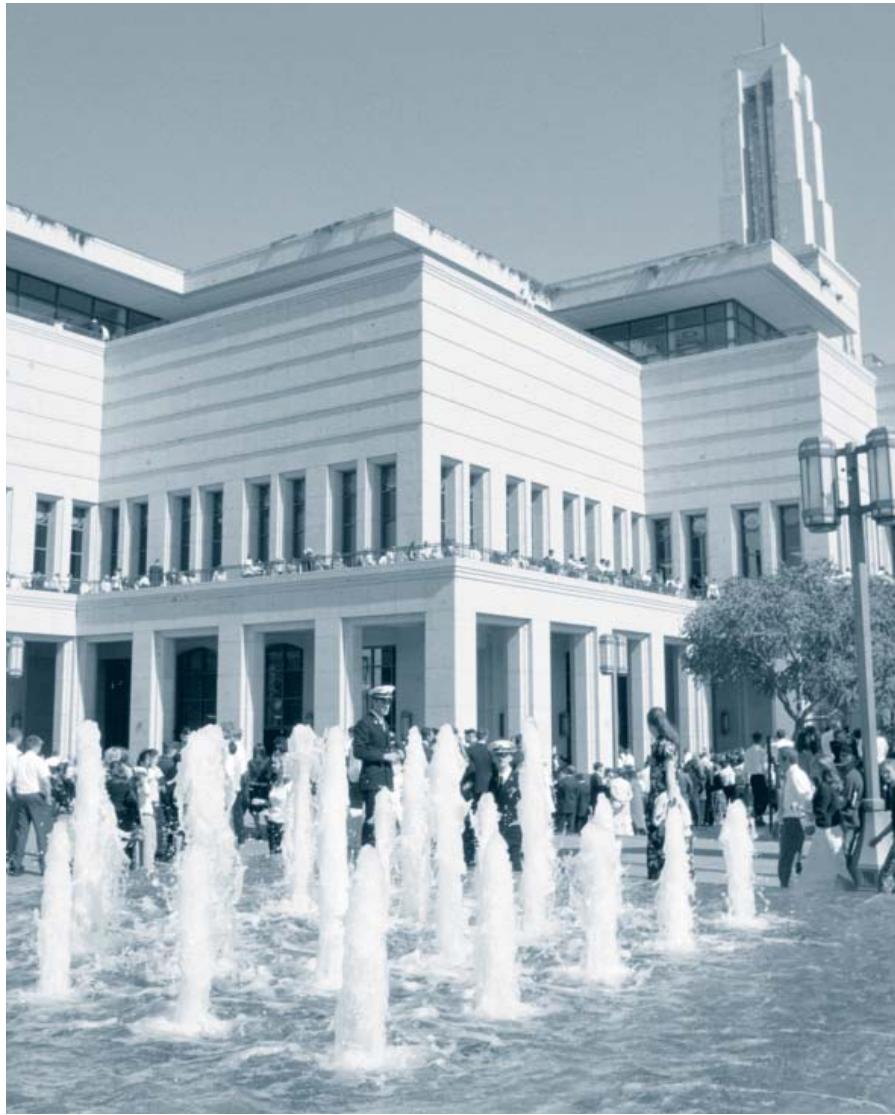
教会で子供を育てるうえでこの両親が味わっている成功は、様々な面で現れています。19人から成る家族が教会の集会で敬虔に座っていることはその一つにすぎません。

もう一つの例は、この家族が日々の経済的な必要を満たすために全員で懸命に、一丸となって働く姿に現れています。アバサンタ兄弟は電気技師として働き、アバサンタ姉妹は娘たちに助けてもらしながら、家で装飾品を作り売っています。

す。この二つの仕事から得られる収入で、家族が生活するための必需品がうまく供給されているのです。

大家族を経済的に養うという模範よりも大切なのは、両親が子供たちにイエス・キリストの福音に従うことをどのように教えているかです。アバサンタ家では、定期的に行う家庭の夕べが、家族を教えるうえできわめて重要な役割を担っています。家庭の夕べについて、アバサンタ兄弟はこう説明します。「我が家では、まず家族が直面しているあらゆる問題について、またもっと一致するための方法について話し合います。その後で靈的な話やレッスンを行い、最後にゲームをします。」

最近の家庭の夕べで、アバサンタ兄弟は『リアホナ』を教材として用いました。そしてテレビを見るのにあまりにも多くの時間を使いすぎないように、また同じ時間を宿題や聖文学習のような、より価値ある活動に使うよう教えました。子供たちは過去何年にもわたって、家庭の夕べで敬虔な態度を執ることについて教え



られました。家庭の中で敬虔について学んできた子供たちにとって、日曜日に教会で敬虔な態度を執るのはそれほど難しいことではありません。

福音に従った生活をし、聖約を守っているもう一つの例は、ほかの何にも増して正直に完全な什分の一を納めることの大切さを子供たちに教えてきたことです。アバサンタ兄弟はこう言います。「子供たちに、日々の食物が与えられるのは什分の一を納めた直接的な結果であると教えています。子供たちが仕事をするときは、什分の一を納める必要があると必ず言るようにしています。これほど大勢の子供たちを養うのは大変ですが、忠実に、また正直に什分の一を納めているかぎり、問題はまったくありません。わたしたちはただ主を100パーセント信

頼しているだけです。正直に什分の一を納めていれば、日々の食物に困ることはないのです。」

アバサンタ夫妻には17人の子供がいると言ったことを思い出してください。では、三つ子の話をしましょう。たまたま3人とも男の子でした。年齢も19歳です。名前は、アンモン、オムナイ、そしてオムナーです。そう、皆さんの推測どおりです。3人とも、現在、忠実で熱心な専任宣教師として主に仕えています。アンモンはフィリピン・バギオ伝道部で、オムナイはフィリピン・ダバオ伝道部で、オムナーはフィリピン・マニラ伝道部で奉仕しています。

アバサンタ家族が完全だと言っているわけではありません。完全な人は一人もいません。ただ、戒めに従って生活し、

聖約を守ろうとできる限りの努力を払うことによって、アバサンタ家族は主の祝福を享受して生活しているのです。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは皆天の御父のもとに戻れる日を心待ちにしています。日の栄えの王国に昇栄する資格を得るには、この現世にあって主の信頼を得なければなりません。わたしたちは努力の賜物として主の信頼を得ます。それは主の福音に従って生活し、聖約を守るという実際の行いを通して可能となります。別の言葉で言えば、わたしたちは御心を行うことで主の信頼を得るのです。

主がヨセフ・スミスに「唇をもってわたしに近づくが、その心はわたしから遠く離れている」と警告された人々のことを思い出してください（ヨセフ・スミス－歴史1：19）。

ヤコブの勧告を思い出してください。「そして、<sup>みことば</sup>御言を行ふ人になりなさい。……ただ聞くだけの者となってはいけない。」（ヤコブの手紙1：22）

行動は確かに言葉よりも多くを語ります。実際、主にとって行動は言葉より大きな意味があります。主は教義と聖約の中ではっきりとおっしゃっています。「あなたはわたしを愛するならば、わたしに仕え、わたしのすべての戒めを守るべきである。」（教義と聖約42：29）

ヒラマンとその若い兵士は、主と交わした約束を忠実に守る者に祝福がもたらされることを説明する古代の例です。アバサンタ家族は、聖約を守り、イエス・キリストの福音の原則に従って生活しようと全力を尽くしている現代の家族の例です。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員はすべて主と約束を交わしています。イエス・キリストの御名を受け、イエス・キリストをいつも覚え、その戒めを守ると約束しているのです（教義と聖約20：77参照）。教会の忠実な会員はそれらの約束を守ります。

わたしたちが主の御心を行い、福音に従って生活し、聖約を守ることで、主の信頼を勝ち得るために最善を尽くすことを再度決意できますように。イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

# 父の教えを忘れず

七十人  
H・ブライアン・リチャーズ

モルモン書には確かに人の生活を変える力があります。



19 45年1月10日、わたしは父の伝道部長であったジョン・M・ナイト兄弟から祝福師の祝福を受けました。彼に会ったのはそのときだけです。血統の宣言に続いて述べられた、祝福の中の最初の勧告はこうでした。「父親の教えを忘れてはなりません。」この勧告はこれまでの人生で、また今でも、すばらしい祝福となっています。

祝福を受けてしばらくして、日曜学校から帰って来たときのことでした。わたしは日曜学校でジョセフ・スミスの最初の示現について学び、それがほんとうだという確信が持てませんでした。教会の集会に出て行こうとした父を引き止めて、尋ねました。「父さん、ジョセフ・スミスが示現を受けたことをほんとうに知るには、どうしたらいいの。」父はわたしの肩に手を回しました。わたしたちは居間へ行き、ソファに腰を下ろしました。そして父は預言者ジョセフの話を、それが真実であるとい

う自分自身の証を述べてくれました。そのときの父との経験は、今でもわたしの胸の中で燃え続けています。それ以来、預言者ジョセフの最初の示現の話を一度も疑ったことはありません。

わたしが10代のとき、父が定期的に、特に日曜の午後に、モルモン書を勉強していたのを思い出します。モルモン書を愛する父が、モルモン書を研究して深く考えるよう勧めてくれたおかげで、わたしはこの聖なる記録とともに歩む旅を始めました。この記録は現在のわたしの個人的な証の土台となっています。それはすべての人がたどらなければならぬ旅です。

モルモン書と歩む旅の途中で、ほかの人々からも助けを受けました。初めてセミナリーを教えてくれた姉妹は宣教師時代の経験を話してくれました。宣教師として、彼女はモルモン書が真実かどうか知りたいと思いました。ベニヤミン王の説教を読んだとき、彼女の心の目には、やぐらの上に立つベニヤミン王と、彼の偉大な説教を聞いている自分の姿が映ったそうです。その御靈に満ちた証を聞いたときの印象が、心に深く残りました。

大学生になる前の夏、モニュメントバレーに行き、ナバホ族の人々のための最初の高等学校を建設する仕事をしました。家を出るとき、父からモルモン書を持って行かないのかと聞かれました。そのつもりはなかったのですが、父の助言に従うことにしました。夜遅く、建設現場の簡易ベッドに横になり、モルモン書の力と御靈を感じたことを覚えています。

グレートレークス伝道部での宣教師時代に、モルモン書はイエスがキリストであられるという、もう一つの民による、もう一つの証であること、またこの教会が真実の教会であることに対して、偉大な知識と搖るぎない証を得ました。これらの体験を通して、今、わたしの胸の中に、モルモン書のメッセージについて、キリストが救い主、<sup>あがな</sup>頼い主であられることについて、また末日に主の教会が回復されたことについて、神聖な証が燃えているのです。

モルモン書が与えてくれる偉大な祝福を幾つか紹介しましょう。モルモン書には確かに人の生活を変える力があります。我が家の息子のジョンは日本への伝道の召しを受けた後で、こう言いました。「父さん、ぼくは宣教師訓練センターに入る前に、モルモン書を2回読むよ。」「それは厳しい目標だね。」わたしは息子の決心が固いのを感じて、その模範に倣おうと決め、毎日、早朝に読み始めました。2,3日してわたしが仕事から帰ると、ジョンが言いました。「今日、追いついたよ。」「どういう意味だい。」「父さんと同じところまでモルモン書を読んだってことさ。机の上に、開いたままの父さんのモルモン書があったよ。」翌朝わたしは読んだ後、実際より150ページ先を開けておくことにしました。そして、開いたモルモン書を息子の目につく場所に置いて、仕事に出かけました。朝の会議を終えてボイスメールをチェックすると、最初に飛び込んできたメッセージがこうでした。「ほんとに読んだの、父さん？」

なぜこの話をしたかというと、宣教師訓練センターに入る準備をしている息子がモルモン書を読む様子を見るうちに、息子の生活の中に特別な変化が現れてきたのに気づいたからです。この体験によってイエス・キリストの福音が息子の心に深く根を下ろしました。

イギリスのあるゾーン大会で、昼食のときに一人の巡回宣教師がわたしのところに来て、こう言いました。「わたしたちは、盲目で耳もほとんど聞こえない女性を教えています。彼女はモルモン書が真実かどうか知りたがっていますが、どうしたら



いいでしょう。」そのときは答えが思い浮かばなかったのですが「大会が終わったら教えましょう」と答えました。午後の集会の途中、この求道者を助ける方法がはっきりしたイメージで浮かんできました。集会後、巡回宣教師にこう言いました。「その姉妹にモルモン書を手に持たせ、ゆっくりとページをめくってもらい、それから、それが真実かどうか自分で自分に問い合わせてもらってください。」彼女はモルモン書の言葉を読むことも聞くことができませんでしたが、その力と御靈を感じ取り、生活を変えたのです。

わたしはモルモン書のメッセージを愛するようになりました。皆さんにモルモン書の持つ力と御靈を感じていただくため、そして皆さんの旅の助けとなることを願って、3つの提案をしましょう。

最初に、ヒラマンと2,060人の兵士の物語を引用します。

「わたしたちの軍隊のほかの兵たちがレーマン人の前から退却しようとしていたときに、まことにその2,060人の兵は確固としており、ひるみませんでした。

まことに、彼らはすべての号令に従ってそのとおりに行うように努めたのです。そして、実に彼らの信仰に応じて、そのようになりました。そのことでわたしは、彼らが母親たちから教わったと言ってわたしに話してくれた言葉を思い出しました。……

彼らが守られたのは、わたしたち全軍にとって驚きでした。……それは神の奇跡を起こす力によったものと考えざるを得ません。彼らは信じるように教えられたことを深く信じていたので……それが

起ったのです。」(アルマ57:20-21,26)

この偉大な若い兵士を教えたのはだれかと尋ねられたら、皆さんには答えが分かるでしょう。母親たちです。最初の提案は、この母親たちが何を教えたのか知るということです。

第2に、わたしたちがよく知っている、信仰に関するアルマの教えです。彼はこう勧めています。

「見よ、もしあなたがたが目を覚まし、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。……その望みを育ててゆけ。

さて、御言葉を一つの種にたとえてみよう。さて、もしあなたがたが心の中に場所を設けて、種をそこに植えるようにするならば、見よ、それがほんとうの種、す

なわち良い種であり、またあなたがたが主の御靈に逆らおうとする不信仰によつてそれを捨てるようなことがなければ、見よ、その種はあなたがたの心の中でふくらみ始めるであろう。そして、あなたがたは種がふくらみつつあるのを感じると、心の中で次のように思うであろう。『これは良い種……に違いない。……』

したがつて、もし種が芽を出して生長するならば、それは良い種である。しかし、芽を出さなければ、見よ、それは良い種ではないので捨てられる。」(アルマ32:27-28, 32)

第2の提案は、その言葉すなわち種が具体的に何であるかを見つける、自分の心に植え付けることです。それを見つけるには、アルマ書第33章を読む必要があります。そうするなら、皆さんの信仰はまったく新たな展開を見せるでしょう。

第3に、自分の子供に覚えておいてほしい偉大な真理を3つ教えるとしたら、何を教えますか。ヒラマンは息子のリーハイとニーファイに、3つの偉大な真理を覚えておくように言いました。それはその3つを行うことによって「宝を自分自身のために天に蓄え……あの貴い永遠の命の賜物を……持てるように」するためでした(ヒラマン5:8)。第3の提案は、ヒラマンが息子たちに覚えておくように言ったことを見つけて、それを自分の子供たちに教えることです。これ以上は言いませんので、ヒラマン書第5章を読んで、深く考えてみてください。

翻訳が始まる前から現在に至るまで、これほど多くの妨害がモルモン書に向かられるのはなぜでしょうか。この点に関して、ブルース・R・マッコンキー長老は次のように書いています。「どの言葉をとっても清く、人を高め、歴史や教義を記しているのに、なぜそのような暴力的な敵対心を引き起こすのでしょうか。……なぜ人はモルモン書に反対するのでしょうか。反対する人は、まったく同じ理由で、ジョセフ・スミスにも反対しています。」(A New Witness for the Articles of Faith [1985年], 459, 461)

サタンがモルモン書に執拗に戦いを挑



総大会衛星放送を見にフィンランド・ヘルシンキのステークセンターに到着した父と娘

む理由は、モルモン書の序文の、最後の二つの段落にあります。

「わたしたちはあらゆる地に住むすべての人に、『モルモン書』を読み、この書物に含まれている教えを心の中で深く考え、そして、この書物が真実かどうか、キリストの名によって永遠の父なる神に問うようにお勧めする。この手順を踏んで、信仰をもって問う人々は、『モルモン書』が神から与えられた真実の書物であるという証を、聖霊の力によって得るであろう。」(モロナイ書第10章3-5節)

次の言葉に注意してください。

「聖なる御靈を通じて神からこの証を得る人々は、その同じ力によって、イエス・キリストが世の救い主であられ、ジョセフ・スミスがこの終わりの時代の主の啓示者であり、主の預言者であることを、そして末日聖徒イエス・キリスト教会が、メシヤの再臨に先立つて地上に再び設立された主の王国であることを知るであろう。」

サタンがモルモン書に対して戦いを挑み、現在もなおしているのは、この3つの神聖な真理のためなのです。サタンはこの3つの聖なる知識からわたしたちを遠ざけようとしているのです。

「父親の教えを忘れてはなりません。」わたしはいつまでも父に感謝することでしょう。父が亡くなつて30年近くになりますが、父の教えはわたしの心の中に生きています。わたしは生涯のうちに、キリストの特別な証人となる特権にあづかったことを感謝します。モルモン書とそのメッセージと、わたしが受けた聖なる証のゆえに、わたしは皆さんに自分の証を残すことができます。イエスはキリストであり、父なる神の肉における独り子であられます。主は無限にして永遠の贖罪を成し遂げられました。キリストは再びこの地上に来られ、主の主、王の王として統治されます。主とこの業について、これらの厳肅な証をイエス・キリストの聖なる御名により申し上げます。アーメン。

# さらに聖くなお努めん

管理監督  
H・デビッド・バートン

家族や個人は、現世の生涯を超えて永遠に続く様々な徳をさらに熱心に求めることが大切です。



バートン姉妹とわたしは、結婚する前にリチャーズ長老のお父さんから面接を受けました。ですから、リチャーズ長老が先ほど話したことの意味がよく分かります。

最近、あるステーク大会に出席したとき、一人の若い女性が大会後にわたしのところにやって来ました。握手を交わし、あいさつすると、姉妹はこう言いました。「監督の総大会のお話は、ほほえみ一つでもっとすばらしいものになると思いますわ。」不安に襲われ身のすぐむときには、ほほえむことがどれほど難しいか説明しようと思いましたが、その時間はありませんでした。けれども、最善を尽くせるよう願っています。

総大会の最後の部会が終了する度に、大会を通じてわたしの魂を明るくし、祝福をもたらしてくれた、安らぎ、御靈の交わり、養いをさらに求めるようになります。

現在の一般的な考えでは、さらに多いのはより良く、少ないのは望ましくありません。人によっては、この世のものやサービスをさらに多く得ようとすることが普通の生き方になっています。また、この世の富をさらに多く得ることが、命を支え、最低限の生活水準を保つのに必要であると言う人もいます。さらに多くのものを絶えず求めることは、しばしば悲劇を招きます。例えば、ボイド・K・パッカー長老はこう述べています。「わたしたちは、家族のためなら何でも提供しようとしたある父親のようになってしまいます。その父親は全力を尽くし、いろいろな成果を収めました。ところが、そのときになってやっと、最も必要とされていたのが家族とともに過ごすことであり、それをおろそかにしていたことに気づくのです。そして喜びの代わりに悲しみを刈り取ります。」(『シオンにおける親』『リアホナ』1999年1月号、23-24)

さらに多くのものを得るのに成功した親は、欲しがるものは何でも与えられてきた子供の要求を拒めないことがしばしばあります。そのため子供は、懸命に働くことや、目標を達成して満足を味わうには長きにわたる努力が求められること、正直、思いやりなどの大切な価値あることを学ばないという危険に陥るのです。裕福な親でも、情緒の安定した、愛にあふれる、価値観のしっかりした子供を育てることが可能であり、そうしています。しかし、制限を設け、少ないもので満足し、「もっと、もっと、もっと多く」という落とし穴を避けようと努めることが、今日ほ

ど難しい時代はありません。「いいよ」と言える余裕があるときに「だめ」と言うのは容易ではありません。

親は当然将来を心配します。競争の激化する社会で、さらに多く与えることが子供たちの成功に役立つと信じられている中、さらに多くのスポーツ用品や電子機器を買い、レッスンに通い、服を購入し、クラブに所属することなどに対して「だめ」と言うのは難しいものです。若者はさらに多くのものを欲しているように思われます。その理由の一つは、目を引くものが際限なく増しているためです。米国小児科学会によれば、アメリカの平均的な子供は1年間に4万を超えるコマーシャルを見ています。

子供たちに家の手伝いを頼む親はますます少なくなっています。社会や学校のプレッシャーでもう精いっぱいだと考えているためです。しかし、責任を与えられない子供は危機的状況にあります。あらゆる人が奉仕でき、人生には自分の幸せを追求する以上の意味があることを決して学ばないからです。

レーチェル・リーメン博士は、その著書『わたしの祖父の祝福』(My Grandfather's Blessings)の中で、ある夫婦とその幼い息子ケニーの友達になったことを述べています。レーチェルは家を訪れるときケニーとともに床に座り、ケニーの2台のミニカーで遊びました。レーチェルが泥よけの付いていない方を取れば、ケニーはドアが取れている方のミニカーで遊びます。反対の場合もありました。ケニーはそのおもちゃが大好きでした。

あるとき、ガソリンスタンドのチェーン店が、ガソリンを満タンにするとミニカーをくれるようになりました。レーチェルは経営する病院のスタッフの中でその給油所に行ってくれる人を募り、ミニカーを集めました。間もなく全種類を集めると、大きな箱に入れて包装し、ケニーのところに持てて行きました。ケニーの家はごくつましい生活をしていたので、両親を傷つけないことを願いました。ケニーは大喜びでその大きな箱を開け、車を一つずつ取り出しました。窓台に並べ、さらに床に

も並べました。何というコレクションでしょう。しばらくして、レーチェルはケニーの家を訪れたとき、ケニーが窓の外をじっと見ているのに気づきました。「どうしたの。新しいミニカーが好きじゃないの」と尋ねると、ケニーはひどく困った様子で目を伏せました。「ごめんね、レーチェル。こんなにたくさんのミニカーをどうすれば大好きになれるのか分からぬの。」(“Owning”[2000年], 60-61参照)

わたしたちは皆、子供たちがクリスマスや誕生日のたくさんの贈り物を開けた後、「これだけ？」と言うのを聞いたことがあります。「さらに多くを求める時代」のあらゆるチャレンジに際し、神は子供た

ちに次のことを教えるよう勧告しておられます。すなわち「悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと按手による聖靈の賜物の教義を理解するように彼らに教え……祈ることと、主の前をまっすぐに歩むこと……安息日を守ってこれを聖なる日として保たなければならない」ことを教えるのです(教義と聖約68:25, 28-29)。

さらに多くとさらに少なくの意味が完全に明確でない場合があります。すなわち、さらに少ないことが実際にはさらに多くをもたらす場合と、さらに多いことでさらに少なくなる場合があるのです。例えば、物欲を追求する時間が減ると、家族

の時間が増します。子供たちがさらに多くを与えられるようになると、人生の価値あるものに対する理解が減少します。

しかし人生には、さらに多いのはより良いと考えることで、著しく高められる事柄があります。「さらに聖くなお努めん」(『贊美歌』74番)という神聖な贊美歌は、わたしたちがさらに注意を払うべき価値のある徳を思い出させてくれます。イエスは、さらに「主のごとく」なるには何が必要かおっしゃいました。「わたしや天におられるあなたがたの父が完全であるように、あなたがたも完全になることを、わたしは望んでいる。」(3ニーファイ12:48)

柔和であることは、さらにキリストのようにになるのに不可欠です。柔和でなければ、そのほかの大切な徳を伸ばせないからです。モルモンは述べています。「柔和で心のへりくだった人でなければ、神の御前に受け入れられないからである。」(モロナイ7:44)柔和さを身に付けるには段階を踏む必要があります。わたしたちは「日々自分の十字架を負う」ことを求められています(ルカ9:23)。時々背負うではありません。また、柔和になるとは、弱くなることではありません。「それは思いやりと優しさを行いに表すことです。それは確信と強さ、落ち着きを反映し、健全な自尊心と真の自制心を映し出します。」(ニール・A・マックスウェル, “Meekly Drenched in Destiny” Brigham Young University 1982-83 Fireside and Devotional Speeches[1983年], 2)さらに柔和になるなら、御靈により教えを受けられるようになります。

「さらに聖くなお努めん」の中で挙げられている徳は、幾つかに分類できます。まず個人の目標になる徳があります。例えば、さらに聖く、さらに努め、信仰と感謝の念を増し、汚れをなくし、さらに王国にふさわしくなり、さらに目的をもって祈り、さらに主に頼ることです。そのほかの徳は、逆境に関連しています。苦しみに耐え、試練に柔和で、救いの御手をたたえ、克服する強さを得、世の汚れから離れ、天を望むことがこれに当たります。残りは、わたしたちを確実に救い主に近づけ



る徳です。さらに主の心遣いを感じ、さらに主の栄光を誇りに思い、さらに主の御言葉を望み、さらに主の奉仕を喜び、さらに主の悲しみに涙し、さらに主の悲嘆を悲しみ、さらに祝福を受けて聖められ、さらに救い主のようになるための徳です。これらの徳を多く求めることは好ましく、少ししか求めないことは望ましくありません。

多くの人が、イエス・キリストの福音と回復について教え、救い主とその生涯、教え導く業、贖罪について証するときに喜びを得ます。

監督長老を務めていたある宣教師は不思議に思っていました。伝道終了間際のパーカー長老は、教える内容を暗記できていないにもかかわらず成功していたのです。監督長老は、その理由を知ろうとして一緒に教えるためにパーカー長老と組みました。パーカー長老のレッスンはまったくまとまりがなく、監督長老はレッスンの最後にはまごつき、教えた家族も同じように感じたのではないかと思いました。

「パーカー長老が身を乗り出し、父親の腕に手を置いたのはそのときでした。それから、目をまっすぐに見て、どれほど彼と家族を愛しているかを告げ、監督長老がかつて聞いた中で最も謙遜で力強い証を述べたのです。証を述べ終えたころには、父親を含む家族の全員と二人の長老は涙を流していました。次いで、パーカー長老は父親に祈る方法を教え、全員がひざまずきました。父親は証を得られるように祈り、また深い愛を感じたことを天の御父に感謝しました。そして2週間後、家族全員がバプテスマを受けたのです。」

後になって、パーカー長老は教える内容をよく覚えていないことを監督長老に謝りました。毎日何時間かけても暗記できなかったのです。長老は家族に教える前にいつもひざまずいて祈り、証を述べるときに人々が自分の愛と御靈を感じ、真理が教えられていることを理解できるよう、いつも御父に祝福を願いました。(アラン・K・バーゲスとマックス・H・モルガード, "That Is the Worst Lesson I've Ever Heard", *Sunshine for the Latter-*

*day Saint Soul*[1998年], 181-183参照)

この短い話から何を学べるでしょうか。パーカー長老は教える内容を学ぶためにさらに努力する必要があると感じたでしょうか。パーカー長老は目的をもって祈ることの必要性を理解するようになったと言えるでしょうか。長老の祈りは、問題を克服するさらなる強さを嘆願するものであったでしょうか。暗記できなかったために、苦しみに耐え、試練に対して柔軟になったでしょうか。長老は救い主への深い信仰と主への信頼を示したでしょうか。確かに、そのとおりでした。

この7週間に、4つの大きなハリケーンがフロリダ州とメキシコ湾沿いの地域を襲いました。カリブ海上諸国のはほとんどが深刻な被害を受けました。食料、衣料、そして避難所が不足しています。道路や庭先はがれきの山で、電気、水道、交通などの公共機関は破壊され、多大な修理を必要とするところもあります。

先週わたしはフロリダ州タラハシーにいました。そこで多くの人から、教会がこの緊急時に行った支援に対する数多くの感謝の言葉を頂きました。フロリダ州のブッシュ知事とトニ・ジェニングズ副知事、赤十字社や救世軍などの協力団体、連邦および州の緊急対策課職員から感謝の声が届いています。労働力を提供することで清掃作業の重荷を軽くしてくれた皆さんや、教会の人道支援基金に献金してくれた方に感謝します。皆さんのが主の奉仕の業にさらなる喜びを感じ、さらに主に使われる者となっていると信じています。

これまでの週末に何度か様々な場所で行ってきたように、先週末は合衆国南東部の2,000人を超えるボランティアがフロリダ州ベンサコーラに集まり、ハリケーン・アイバンの被害に対処しました。ボランティアたちは集会所や別の教会、会員宅に寝袋を広げ、助けを必要としている人を支援するために無数の割り当てをこなしました。宣教師は地元のメソジスト教会の屋根にブルーシートをかける手伝いをしました。ブルーシートはまだ様々な場所に見られます。救急、消防の各隊員と警察官は、自分たちが不在のときに末日聖徒が自分たちの家族を助けていたことを感謝してくれました。

これらはすべて、ハリケーン・ジーンがハイチやそのほかのカリブ海上諸国に多大な被害を及ぼし、合衆国に上陸しようとしていたときに行われました。自分の財産をささげてくれた皆さんと多くの人の重荷をその手で軽くしてくれた皆さんにもう一度感謝します。さらに祝福を受け、さらに聖くなり、さらに救い主のようになろうと望んでいる皆さんに敬意を表します。今週末には、ハリケーン・ジーンの被害に対処するために2,500人が協力してくれるこことになっています。

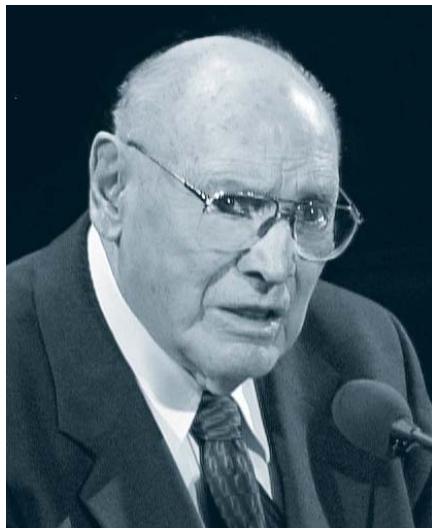
さらに多くを求めるについて話しましたが、『クリスマス・キャロル』のスクリーチのようにならひ切ちすることが、善良な親の模範だとは言いません。家族や個人は、現世の生涯を超えて永遠に続く様々な徳をさらに熱心に求めることが大切です。祈りを伴った慎重な行為こそが、豊かな社会によく対応し、待つこと、分け合うこと、僕約すること、懸命に働くこと、今あるもので満足することで人格を磨くための鍵となります。多く求めることが実際には何かを減らすとき、また多く求めることがより好ましいとき、それを理解する望みと能力が与えられますように。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。



# 進み続ける

十二使徒定員会  
ジョセフ・B・ワースリン

**困難や悲しみの度合いにかかわらず、主がわたしたちに期待しておられることがあります。それは進み続けることです。**



だいぶ長く生きてきたので、人生の様々な困難を経験してきました。また厳しい試練を堪え忍んできた非常に優れた人や、少なくとも表面的には平穀な人生を送ってきたように思える人を見てきました。

逆境に苦しむ人はしばしば尋ねます。「なぜこのようなことが起きたのだろう。」そしてこれほどの孤独、憂うつ、落胆、圧迫、あるいは失意を感じるのはなぜだろうかと思いながら、疲れぬ夜を過ごします。

「なぜ自分に」という問いは答えるのが難しく、挫折感や絶望につながることが多くあります。自問するのにもっと良いのは、「この経験から何を学べるだろうか」という質問です。

その質問にどう答えるかで、地上だけでなく、来るべき永遠における人生の質も決まつくる可能性があります。人が

受ける試練は様々ですが、困難や悲しみの度合いにかかわらず、主がわたしたちに期待しておられることがあります。それは進み続けることです。

## 最後まで堪え忍ぶという教義

イエス・キリストの福音には、基礎的な教義の一つとして最後まで堪え忍ぶことがあります。イエスは教えられました。「最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」<sup>1</sup>「もしわたしの言葉のうちにとどまつておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。」<sup>2</sup> 最後まで堪え忍ぶことを、単に問題を何とか切り抜けることだと考えている人がいます。しかし実際は、はるかにそれ以上のことです。それはキリストのみもとに来て、キリストによって完全になる過程なのです。

モルモン書の預言者ニーファイはこう教えていました。「したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければなりません。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。」<sup>3</sup>

最後まで堪え忍ぶとは、信仰、悔い改め、バプテスマ、および聖靈を受けることによって永遠の命に至る道に入った人が、その道を歩み続けるという教義です。最後まで堪え忍ぶには心を尽くすことが求められます。あるいはモルモン書の預言者アマレカイが教えてているように、「キリストのもとに来て、自分自身をキ

リストへのささげ物としてささげ、断食と祈りを続け、最後まで堪え忍ぶ」ばなければなりません。「そうすれば、主が生きておられるように確かに、〔わたしたち〕は救われる」でしょう。<sup>4</sup>

最後まで堪え忍ぶとは、人生を福音の土壤にしっかりと植え付け、承認された教会の教義を守り、謙遜に同胞に仕え、キリストのような生活を送り、聖約を守ることを意味します。堪え忍ぶ人はバランスが取れていて、堅実で、謙遜であり、絶えず改善していく、偽りがありません。彼らの証はこの世的な根拠に基づくものではなく、真理、知識、経験、御靈に基づいています。

## 種まきのたとえ

主イエス・キリストは最後まで堪え忍ぶという教義を分かりやすく教えるために、種まきのたとえを用いておられます。

「種まきは御言をまくのである。

道ばたに御言がまかれたとは、こういう人たちのことである。すなわち、御言を聞くと、すぐにサタンがきて、彼らの中にまかれた御言を、奪って行くのである。

同じように、石地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞くと、すぐに喜んで受けるが、

自分の中に根がないので、しばらく続くだけである。そののち、御言のために困難や迫害が起こつくると、すぐつまずいてしまう。

また、いばらの中にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞くが、

世の心づかいと、富の惑わしと、その他いろいろな欲とがはいってきて、御言をふさぐので、実を結ばなくなる。

また、良い地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞いて受けいれ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶのである。」<sup>5</sup>

このたとえでは、真理の種がまかれて養われる、幾つかの土壤が描かれています。土壤の種類は、それぞれわたしたちの堪え忍ぶ決意と能力の程度を表しています。

最初の土壤、すなわち「道ばた」は、福音を聞いても決して真理が根付かない

人を表しています。

第2の土壤である「石地」は、犠牲や試練の兆候が見えた時点で気分を害して逃げ出し、進んで代価を払おうとしない教員を表しています。

第3の土壤である「いばらの中にまかれたもの」は、世の関心事、富や欲に気を取られて成長しない一部の教員を表しています。

最後に、「良い地」にまかれたものは、主の弟子であることが生活に表れていて、福音の土壤に深く根ざし、その結果豊かな実を結ぶ教員を意味します。

種まきのたとえの中で、救い主は堪え忍ぶのを妨げる3つの障害を明らかにしておられます。人の心を腐敗させて永遠の進歩を止めるものです。

堪え忍ぶのを妨げる第1の障害は「世の心づかい」であり、基本的には高慢です。<sup>6</sup> 高慢は、実に様々な形でその姿を現し、どれも有害です。例えば、知性を誇る高慢は今日非常に蔓延しています。あるたちは知識や学問的な業績を理由に、自分を神や神の油注がれた僕よりも

高くしています。決して知性を靈よりも優先してはいけません。知性は靈を養い、靈は知性を養いますが、もし知性を靈よりも優先するならば、つまずき、人を非難し、<sup>あかし</sup>証さえ失うでしょう。

知識は非常に重要であり、次の世に携えて行くことになる数少ないものの一つです。<sup>7</sup> わたしたちは常に学ぶべきです。しかし、その過程で信仰をなおざりにすることのないようにしなければなりません。信仰は実際に学ぶ能力を高めてくれるからです。

堪え忍ぶのを妨げる第2の障害は「富の惑わし」です。わたしたちは富への執着をやめなければなりません。富は目的を果たすための手段にすぎず、その目的は最終的には神の王国を確立することであるべきです。あまりに多くの人が、運転する車の種類や、身に着ける高価な衣服、あるいは他人と比較した自分の家の大きさに関心を寄せていて、より大切な事柄を見失っているように感じます。<sup>8</sup> 日々の生活の中で、この世の事柄を靈的な事柄よりも優先することのないように

注意しなければなりません。

堪え忍ぶのを妨げる第3の障害は「その他のいろいろな欲」です。ポルノグラフィーの疫病はかつてないほど周囲で渦巻いています。ポルノグラフィーは不道徳、家庭や人生の崩壊というひどい結果を招きます。また堪え忍ぶための靈的な強さを衰えさせます。ポルノグラフィーは流砂によく似ています。足を踏み入れた途端にあまりに容易に捕らえられ力を奪われてしまうので、恐ろしい危険に気づかないのです。ポルノグラフィーの流砂から逃れるにはほとんど例外なく援助が必要となります。しかし足を踏み入れない方がどれほどよいでしょうか。注意深く、慎重であってください。

## 最後まで堪え忍ぶことはすべての人の原則である

ヒーバー・J・グラント大管長が亡くなる数週間前、中央幹部の一人が大管長の家に見舞いに行きました。帰る前に、グラント大管長は祈りました。「神よ、わたしが証を失うことなく最後まで忠実でいられるように祝福してください!」<sup>9</sup> 回復の偉大な預言者の一人であり、約27年にわたって教会の大管長を務めたグラント大管長が、最後まで忠実でいられるように祈っているところを想像できるでしょうか。

サタンの勢力と誘惑に無縁な人などだれもいません。自分には敵の勢力は届かないなどという高慢な思いを抱かないでください。サタンの惑わしのえじきにならないように注意してください。毎日の聖文研究と祈りによって、主に近くあってください。救われるのが当然であるかのようにゆったりくつろぐ余裕はありません。生涯にわたって熱心に取り組まなければならぬのです。<sup>10</sup> 次のブリガム・ヤング大管長の言葉は、堪え忍ぶための戦いを決してやめてはいけないことを思い起こさせ、奮い立たせてくれます。「日の榮えの王国で座する場所を確保したいと願う男女は、[この神聖な目標のために]毎日を戦い抜かなければならぬことに気づくでしょう。」<sup>11</sup>





## 堪え忍ぶ力

心痛、孤独、痛み、挫折に苦しんでいる人が大勢いることを知っています。人間にとて必要な経験です。しかし救い主に対して、そして主の皆さんへの愛に対して、希望を失わないでください。主の愛は不变であり、主はわたしたちを捨てて孤児とはしないと約束しておられます。<sup>12</sup>

人生の中で問題に直面するとき、わたしたちは教義と聖約第58章にある主の御言葉から慰めを得ます。

「あなたがたは、この後に起こることに関するあなたがたの神の計画と、多くの難難の後に来る栄光を、今は肉体の目で見ることができない。

多くの難難の後に祝福は来る。それゆえ、あなたがたが大いなる栄光を冠として与えられる日が来る。その時はまだ来ていないが、もう近い。」<sup>13</sup>

ですから兄弟姉妹、何があろうとも進み続け、最終的にはその過程でさらに主に似た者とならなければなりません。わたしたちは皆、人生の中で大きな試練に直面し、忠実に堪え忍んできた人々のことを知っています。そのすばらしい例として、19世紀の初期の聖徒であったウォーレン・M・ジョンソンがいます。アリゾナ州北部の砂漠で、コロラド川を渡る重要な地点だったリーの船着き場を運営するよう教会指導者から割り当てを受けた人です。ジョンソン兄弟は大きな試練を堪え忍び、生涯忠実であり続けました。

ウィルフォード・ウッドラフ大管長にあてた手紙の中で、ジョンソン兄弟が家族に襲いかかった悲劇を説明しているのを聞いてください。

「1891年5月、ある家族が……ユタ州リッチフィールドからここ[リーの船着き場]に、……友人たちのもとで冬を過ごしに来ました。彼らはパンギッチで子供を一人埋葬しましたが、……荷車や自分たちを[消毒]せずにやって来ました。そしてわたしたちの家に来ると一晩滞在し、幼い子供たちと接したのです。

……わたしたちはその病気[ジフテリア]の性質については何も知りませんでしたが、神を信じる信仰がありました。非常に困難な使命のためにここに来ていたからです。そして自分たちなりに最善を尽くして熱心に[戒めを]守ろうと努力し、……子供たちの命が助かるよう願いました。しかし4日半の後、……わたしの腕の中で[長男が死にました]。さらに二人が病気に感染し、賢明だと思う範囲でできるかぎり断食をして祈りました。この地で行うべき義務がたくさんあったからです。24時間皆で断食をして、わたしは1度40時間断食をしましたが、無駄に終わりました。二人の幼い娘も死んでしまったのです。その死から約1週間後、15歳の娘メリンド[もまた]病気に襲われ、できることをすべて行いましたが、[間もなく]ほかの子供たちの後を追いました。……3人の愛する娘と1人の息子が取り去られた

わけですが、まだ終わりではありませんでした。19歳の長女が現在病の床に伏しております、今日は彼女のために断食をして祈っています。……わたしたちのために信仰と祈りをお願いします。わたしたちが何をしたので主はお離れになり、どうすればもう一度主の好意を得ることができるのでしょうか。」

しばらくして、ジョンソン兄弟は地元の指導者である友人に手紙を書き、進み続ける信仰を表しました。

「これは人生で最もつらい試練ですが、わたしは救いに向かって歩み始めしており、……天の御父の助けによって、どのような苦難が[やって来よう]ともしっかり鉄の棒につかまって[いよう]……と決意しています。わたしは怠惰になることなく義務を遂行しており、兄弟たちの信仰と祈りを得られるように、そして生きて祝福を受けられるように願い、また信じています。」<sup>14</sup>

ジョンソン兄弟が受けた厳しい試練は、わたしたちが自分の問題に立ち向かううえで助けとなります、現代において堪え忍ぶ力を増し加えるための3つの特質を提案しましょう。

第1に、証です。証はだれもが必ず直面する試練または困難の先にあるものを見るのに必要な永遠の観点を与えてくれます。ヒーバー・C・キンボールの次の預言を思い出しましょう。

「借りものの光ではだれも耐えられない時がやがて来ます。すべての人が内なる光によって導きを得なければならなくなります。……

……その光がなければ耐えることはできないのです。ですから、イエスの証を求め、しっかりとつながっていなさい。試練が来たときに、つまずき、倒れないようになります。」<sup>15</sup>

第2に、謙遜さです。謙遜さとは、人生を最後までしっかりと歩むには主の助けに頼る必要があることを認めることです。人は自分の力だけで最後まで堪え忍ぶことはできません。主なしには何もできないのです。<sup>16</sup>

第3に、悔い改めです。栄えある悔い改めの賜物は、新たな心で道に戻ることを

可能にし、永遠の命に至る道で堪え忍ぶ力を与えてくれます。ですから聖餐は生涯を堪え忍ぶための重要な要素となります。聖餐は週に1度バプテスマの聖約を新たにし、悔い改め、昇栄に向かう進歩を評価する貴重な機会を与えてくれます。

わたしたちは永遠の神の息子や娘であり、キリストと共同の相続人となる可能性を持っています。<sup>17</sup>自分が何者であるかを知っているのですから、永遠の目的に到達するという目標を決して放棄してはいけません。

わたしは証します。永遠において、この地上で生活したわずかな期間を振り返るとき、わたしたちは困難に直面したにもかかわらず、堪え忍んで進み続けるための知恵と、信仰と、勇気を持っていたことを、声を上げて喜ぶことでしょう。

今日そして永遠にそうでありますように、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

#### 注

1. マタイ24:13
2. ヨハネ8:31
3. 2ニーファイ31:20
4. オムナイ1:26
5. マルコ4:14-20
6. エズラ・タフト・ベンソン『聖徒の道』1989年7月号、4-7参照
7. 教義と聖約130:18-19参照
8. マタイ23:23参照
9. ジョン・ロングデン、*Conference Report*、1958年10月、70で引用
10. 教義と聖約58:27参照
11. *Discourses of Brigham Young*、ジョン・A・ウイツォー選(1954年)、392
12. ヨハネ14:18参照
13. 教義と聖約58:3-4
14. ジェイ・A・パリー他共編、*Best-Loved Stories of the LDS People*、全3巻(1997-2000年)、第3巻、107-108で引用
15. オーソン・F・ホイットニー、*Life of Heber C. Kimball* (1945年)、450で引用
16. ヨハネ15:5参照
17. ローマ8:17参照

# 結びの言葉

## 大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

わたしは皆さんがもう少し頻繁に主の宮に参入できるよう願っています。



わたしたちはこの度も偉大な大会を経験してきました。実際にすばらしい集会でした。これらの集会は何と大いなる目的を果たしていることでしょう。わたしたちは礼拝の精神のうちに、学びたいという望みをもって集まります。様々な国に住み、様々な言語を話し、異なる文化を持ち、外見さえ異なるわたしたちは、末日聖徒というこの大きな家族として結びつきを新たにします。そして皆一つであり、それぞれが天の御父の息子や娘であることを知るのです。

数分もすればこのソルトレーク・シティにある大きなカンファレンスセンターは空になるでしょう。照明は落とされ、扉には鍵がかけられるでしょう。この広い世界の各地にある何千もの集会所もそうでしょう。家路に就くわたしたちが、大いに高められていますように。信仰が強められていますように。決意が強められていますように。

ますように。挫折感や敗北感を抱いていた人は、人生に新しい勇気を得ていますように。道をそれ、無関心になっていた人は、悔い改めの精神を感じていますように。不親切だったり、あるいは人につらく当たったり、利己的であったりした人は、変わる決意をしていますように。信仰によって歩むすべての人が、その信仰を強められていますように。

東アジア地域では、今日は月曜日です。西半球やヨーロッパ地域では、明日が月曜日です。家庭の夕べに定められている日です。その機会に両親が子供を集めて、この大会で聞いた事柄を幾つか話してくれたらと思います。さらに一部を書き留めて、思い巡らし、覚えておいてくれたならと願っています。

さて結びに当たって、もう一つ思い起こしてほしいことがあります。わたしは皆さんがもう少し頻繁に主の宮に参入できるよう願っています。最初の部会で話したように、わたしたちは神殿をこの民にとってより近いものとするために、知識の及ぶ限りのことを行ってきました。依然として長距離を旅しなければならない人が多くいますが、自分たちの地域に神殿の建つふさわしい時期が来るまでその努力を続けてくださるようお願いします。

ほとんどの神殿は今よりずっと多くの参入者があってもおかしくありません。この騒がしく、忙しく、競争の激しい世界にあって、主の御壇による聖めの力を経験できる聖なる宮があるのは何という特権でしょう。わたしたちの心には絶えず利己的な思いが押し寄せてきます。わたしたちはそれに打ち勝たなければならず、その



ためには、主の宮に行って、そこで死の幕の向こう側にいる人のために身代わりを務めて仕えること以上に良い方法はありません。何とすばらしいことでしょう。ほとんどの場合、わたしたちは自分が身代わりをしている相手のことを知りません。感謝を期待していません。自分が提供するものを相手が受け入れるという保証はまったくありません。それでも行くのであり、その過程によってほかのいかなる努力を通じても得られないような状態に達するのです。文字どおりシオンの山の救う者となるのです。これはどういう意味でしょうか。贖い主がすべての人のために御自身の命を身代わりの犠牲として与え、それによって救い主になられたように、わたしたちも神殿で代理の働きを行うとき、わざかながら、幕の向こう側にいる人々を救う者となるのです。彼らは、地上にいる人々によって自分たちのために何かがなされないかぎり、前進できないからです。

ですから、兄弟姉妹、わたしは皆さん

にこの祝福された特権をもっと十分に生かすようお勧めします。それによって皆さんの性質は精錬されるでしょう。わたしたちを覆っている利己心の殻がはがれ落ちるでしょう。生活に文字どおりに聖めの力がもたらされ、より善い男性やより善い女性になるでしょう。

大小を問わずすべての神殿には美しい日の栄えの部屋があります。この部屋は日の栄えの王国を表すために造られています。数年前にアリゾナ州メサ神殿が大規模に改裝されて一般に公開されたとき、ある訪問者は日の栄えの部屋のことを神のリビングルームと表現しました。確かにそうかもしれません。白い衣服に身を包み、儀式の終わりに美しい日の栄えの部屋に座って深く考え、思いにふけり、黙って祈ることは、わたしたちに限られた比類ない特権です。

日の栄えの部屋では主の大いなる慈しみについて考えることができます。御父がその子供たちに教えてくださっている

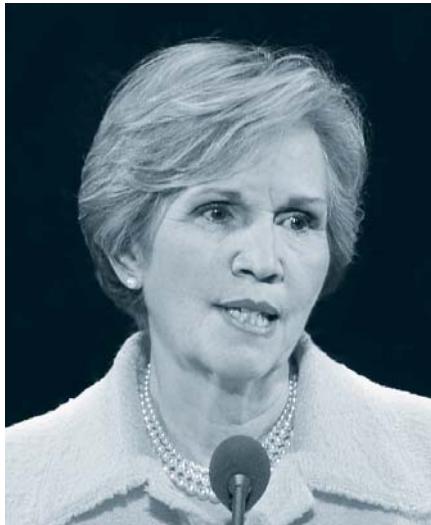
偉大な「幸福の計画」について考えることができます。兄弟姉妹、皆さんに切にお願いします。それを行う力のあるうちにに行ってください。年を取ると、体を動かすのがほんとうに難しくなるものです。いずれにせよ、神殿は実に大きな祝福なのです。

さて、兄弟姉妹、もう一度皆さんに愛をお伝えします。天が皆さんにほほえんでくださいますように。この業は真実です。決してそれを疑ってはなりません。永遠の父なる神は生きておられます。イエスはわたしたちの贖い主、主、生ける神の御子であられます。ヨセフは預言者でした。モルモン書は神から与えられたものです。そして、この業は、地上における神の神聖な御業です。これからそれぞれの家路に向かうに当たり、わたしの証と愛と祝福を皆さんに残します。「神よ、また逢うまで、汝れを守りませ」とへりくだり祈ります。イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。

# 帰属意識は 神聖な生得権です

中央扶助協会会长  
ボニー・D・パーキン

皆さん、良い羊飼いが女性のために組織された扶助協会に確かにふさわしい存在であり、確かにその組織の一員なのです。



**姉**妹たち、今晚皆さんと集えることをうれしく思います。皆さん の数え切れないほどの思いやり深い行い、絶えず強められている皆さんの証、いつも準備してくれる食事に感謝します。皆さんの影響力は大きく、人の心を明るく照らしています。

この危険な現代にあって、教義と聖約の「備えていれば恐れることはない」<sup>1</sup>という約束にほっとします。扶助協会はわたしたちを物心両面で備えさせてくれます。しかしその祝福を得るには、扶助協会に参加しなければなりません。わたしは、扶助協会になじめないと感じている姉妹、帰属意識を持っていない姉妹たちのことを心配しています。年齢、財産、知性、教養に差を感じることがあっても、わたし

たちは皆、扶助協会の一員です。わたしが熱望するのは、皆さん一人一人に、扶助協会になじんで、帰属意識を持てもらうことです。皆さん、良い羊飼いが女性のために組織された扶助協会に、確かにふさわしい存在であり、確かにその組織の一員なのです。

1907年にジョセフ・F・スミス大管長が語った次の言葉に共感しています。このような宣言でした。「今日、元気で聰明な若い姉妹の多くが、扶助協会は年配の姉妹だけのものだと考えていますが、それは間違っています。」<sup>2</sup>

最近エチオピアを訪問し、ジェニファー・スミス姉妹に会いました。彼女にとつて扶助協会に溶け込めないと感じる理由は、山ほどありました。こう言っています。「わたしは支部のどの〔姉妹〕ともまったく違いました。言葉、服装、文化、あらゆる面で〔わたしたちの間には〕壁を感じました。〔でも、〕救い主のことを話し始めると、……壁は薄くなり、愛に満ちた天の御父の話になると……壁は消えました。」<sup>3</sup>スミス姉妹はこう続けています。「だれも人の重荷を変えたり、取り除いてあげたりすることはできませんが、愛をもって互いを受け入れ、一つとなることはできます。」<sup>4</sup>

この姉妹たちは「心を一つにし、思いを一つにし」て、シオンの一端をかいま見ました。<sup>4</sup>なぜなら「もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない」と主は言っておられるから

です。ヒンクレーダ管長は、わたしたちが「一つとなり、声を一つにして語るとき、その力は測り知れません」<sup>6</sup>と言っています。シオンの姉妹として一つとなるにはどうすればよいでしょうか。それは伴侶や家族としているように、感情、思い、心、を互いにありのまま受け入れるのです。

あるワードでは、母親が18歳になった娘を扶助協会の日曜の集会で紹介することにしています。ある母親は、新婚当初から扶助協会の姉妹たちに助けられたことを穏やかに語ってくれました。「悲しいときには食事を届けて肩を抱き、お祝い事があれば笑顔で助けてくれたわ。訪問したりされたりして、福音を教わったの。失敗して迷惑をかけても、温かく包んでくれたわ。家の庭にあるヒナギクはキャララインが、ユリはペニスが、キンポウゲはポーリーンが、それぞれ持つて来てくれたのよ。」目を見張る娘に、母親は続けました。「みんな文字どおりお母さんの姉妹なのよ。これからあなたのことにも心にかけてもらえるなんて、うれしいわ。」

様々な花は、庭をいっそう美しくしてくれます。ヒナギクもユリもキンポウゲも必要です。水をやり、育て、手入れをする人も必要です。残念なことに、サタンは、わたしたちが助け合うことで、この世から永遠にわたって、わたしたちの姉妹としてのきずなが強められることを知っています。サタンは利己心が不和を招き、一致を妨げ、シオンを破壊することも知っています。姉妹の皆さん、サタンに引き裂かれてはなりません。「完全な一致は人を救う」とブリガム・ヤングが言っているのを皆さんは御存じでしょう。わたしも一言付け加えます。完全な一致は社会を救うのです。

ボイド・K・パッカー会長代理はこう言っています。「実に多くの姉妹たち〔が〕扶助協会は出席すべき一つのクラスにすぎないと考えています。単に出席すべきと考えるだけでなく、扶助協会への帰属〔意識〕が一人一人の姉妹の心に養わなければなりません。」<sup>8</sup>帰属意識は、日曜に互いの意見を聞き合うことから生まれます。ですから教師は講義調のレッスンをするべ

きではありません。レッスンはわたしたちのためにあるのですから。

帰属するとは、必要とされ、愛され、いつもいてほしいと思われ、また必要とし、愛し、いつもいてほしいと思うことです。それが、出席することと帰属することの違いです。扶助協会は単なる日曜日のレッスンではなく、神からわたしたち女性への贈り物なのです。

わたしが扶助協会の一員だと感じる理由は二つあります。今、中央扶助協会の会長をしているからということではありません。先月、気がめいっていたときに訪問教師が来てくれました。離婚したスー姉妹と、ローレル時代にわたしが教えたケート姉妹です。二人はメッセージを伝え、祈り、心から心配してくれました。わたしは二人の励ましと愛を感じました。

ワードの扶助協会のある姉妹が最近、天の御父への祈りの中で、わたしが責任を果たせるように、名前を挙げて、祝福を求めてくれました。わたしの必要を具体的に知っていたわけではありません。ただわたしの気持ちを察してくれていたのです。

最近訪問を受けていない姉妹、名前を挙げて祈ってもらったことのない姉妹が

いるとすれば同情します。でも、訪問を受けていないから良い訪問教師になれないと、祈ってもらっていないから祈れないということはありません。お互いの間に違いがあろうとも、惜しみなく正直に与えるなら、周りの姉妹たちも与えるようになります。気心が知れ、帰属意識が花開きます。スミス姉妹とエチオピアの姉妹たちが学んだように、お互いの違いは問題ではありません。帰属意識を持つとは慈愛、すなわちキリストの純粋な愛を行動で示すことなのです。そして、慈愛はいつまでも絶えることがないのです。

初等協会や若い女性の責任を受けているかどうか、活発かどうか、結婚しているかどうか、若いか年配かに関係なく、わたしたちは皆扶助協会の一員です。わたしは年配者ですが、気持ちはまだ若いつもりです。扶助協会は皆さんの声、気持ち、心を必要としています。扶助協会はほんとうに皆さんを必要としています。それに、実は皆さんにとっても扶助協会は必要なのです。皆さんに参加しなければ、皆さんも扶助協会も双方が大切なものを失うこととなります。

姉妹の皆さん、扶助協会の中には何の分け隔てもありません。「それぞれの肢体

が互にいたわり合」<sup>9</sup>わなければなりません。「もし一つの肢体が悩みば、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜」<sup>10</sup>びます。「体は……あらゆる部分を必要としていて、すべてがともに教化され、全体が完全に保たれる」<sup>11</sup>からです。

そうです、扶助協会はさらに楽しい、一致したものとなるはずです。重荷や負担は減っていきます。完全な姉妹がいないように、完全な扶助協会も存在しません。でも完全な組織になるように努力はできます。一緒に前進すれば、完全な組織にすることができるのです。では、どのようにすればできるのでしょうか。少しだけ態度を変えてみましょう。扶助協会についてわたしたちがどう語るかが、姉妹たち、特に若い姉妹たちの態度に影響します。会長会や教師を支持してください。彼女たちの欠点に寛大になります。(わたしたちもいざれ、寛大に接してもらうことになるのですから。)裁くより赦すのです。思いやりのある誠実な訪問教師になってください。家庭・家族・個人を豊かにする集会に熱意をもって参加してください。扶助協会の良さに目を向け、さらに良い組織にしましょう。



ジョセフ・F・スミス大管長は「シオンを建設するために、この〔扶助協会の〕業に、精力的に、知恵をもって、力を合わせて取り組んでください」<sup>12</sup>と勧告しました。主の教会が回復されたと信じているのなら、扶助協会は主の群れにとって不可欠な組織だと信じる必要があります。自分が扶助協会に合っているかどうかの議論はやめましょう。実際、わたしたちは扶助協会に合っているのですから。シオンの建設が一緒にできないほど異質な人など、わたしたちの中にはいないのです。

1年近く前、カリフォルニア州パサディナのジャニス・バーゴイン姉妹は、癌で、余命いくばくもありませんでした。献身的だった彼女は、皆から非常に愛されていました。扶助協会の姉妹は食事を運び、家を掃除し、幼い二人の息子の世話をし、葬儀の計画をする夫を助けました。このような奉仕は、ジャニスにはかえって苦痛でした。ソファの裏に転がっているあの

干からびたパンがみんなに見られてしまう。ジャニスは手伝ってくれる姉妹たちがそんな自分の気持ちを察してくれるかどうか心配でした。ところが、姉妹たちはその辺りを心得ていて、何も問題はありませんでした。息子たちを送り迎えし、宿題を見てやり、ピアノを弾き、シーツを交換しました。愚痴一つこぼさず、あふれるばかりの慈愛をもって、来る日も来る日も奉仕したのです。このことを通じて、姉妹たちの性質は変わり、確固としたものになりました。ジャニスは亡くなる前に、心からの感謝と畏敬の念を込めて扶助協会のある姉妹に言いました。「扶助協会がなかったら、だれも安心して死ねないでしょうね。」

わたしのほんとうの姉妹である、愛する姉妹の皆さん、皆さんは扶助協会なしで生きていいですか？

帰属意識を持つことはわたしたちの神聖な生得権です。できることなら、皆さん

を腕に抱えて扶助協会に連れて行きたいほどです。皆さんと腹を割って語り合えたらどんなによいでしょう。慈愛で心を満たして扶助協会に来てください。皆さんの才能と賜物と個性を扶助協会のために役立ててください。そうすれば、わたしたちは一つになります。

わたしは証します。「良い羊飼いは〔わたしたちを〕呼んでおられ……御自分の羊の群れに導き入れ」<sup>13</sup>てくださるのです。すべての疑問に答えられないかもしれません、扶助協会が主の業に不可欠な組織であることは、固く信じる必要があります。なぜなら

その道が曲がりくねった山道でも、  
どこに牧草があるかを主は御存じ〔だ  
から〕です。……  
主は野の花を着飾らせ、  
御自身の群れの羊を養われます。  
そして主を信頼する者を癒し、  
〔わたしたちの〕心を黄金のようにして  
くださるのです。<sup>14</sup>

イエス・キリストの御名によって、アーメン。

## 注

1. 教義と聖約38:30
2. Conference Report, 1907年4月, 6, 強調付加
3. 個人あての手紙
4. モーセ7:18
5. 教義と聖約38:27
6. 「確固として立つ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日, 20
7. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』(1997年), 386
8. 「扶助協会」「聖徒の道」1998年7月号, 78参照
9. 1コリント12:25
10. 1コリント 12:26
11. 教義と聖約 84:110, 強調付加
12. Conference Report, 1907年4月, 6
13. アルマ 5:60
14. ロジャー・ホフマン, "Consider the Lilies"

# 小さなことから

中央扶助協会第一副会長  
キャスリーン・H・ヒューズ

**善を行うことに疲れ果ててはなりません。せっかちになつてもいけません。  
わたしたちが求めている変化は、「時節にかなつて」起こります。**



**最**初にテーマを選んだときから、回復をたたえるすばらしい歌詞がずっと心から離れませんでした。開会で歌った賛美歌です。「美しいシオンよ、立ち上がり。その光を輝かせ。……主にまみえる備えをする民。」(“Let Zion in Her Beauty Rise.”『賛美歌』〔英文〕41番)主が戻られるという約束された時のことを思うのは、喜ばしいことです。しかし同時に、わたしたち一人一人が備えるために遂げなければならない変化について深く考えると、身が引き締まる思いです。愛する姉妹の皆さん、それでも、皆さんと会い、皆さんの忠実さを見ていると、わたしたちは一つの民として、自分たちが感じているほど準備不足というわけではない、という確信を得ることができます。備えをしているわたしたちは、自信と希望を持ってよい理由があるのです。

初期の聖徒にとって、1832年9月は準備に忙しい時期でした。預言者はオハイオ州カートランドの南東にあるジョン・ジョンソン邸に移る準備をしていて、ほかの兄弟たちはミズーリ州に向けて出発する準備をしていました。そのようなときにジョセフ・スミスは、教義と聖約第64章として知られている啓示を受けました。主は兄弟たちにミズーリ州へ向かうよう指示を出してから、次のようにおっしゃり、あることを思い起こさせられました。「しかし、すべてのことは時節にかなつて起こる。それゆえ、善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大いなる業の基を据えつつあるからである。そして、小さなことから大いなることが生じるのである。」(教義と聖約64:32-33。強調付加)

この聖句は、自分自身や家族を「苦難の時代」(2テモテ3:1参照)に生きるために備えるうえで、わたしたち女性にとって大切な導きとなります。善を行うことに疲れ果ててはなりません。せっかちになつてもいけません。わたしたちが求めている変化は、「時節にかなつて」起こります。そしていちばん大切なことです、わたしたちが求める大いなる業は、「小さなこと」から生じるのです。

わたしが学んだことですが、その小さなことの一つは、毎日靈性を高める時間を見つけなくてはならないということです。自分の弱点を延々と挙げて、それを克服しようとするのは、友人の言葉を借りれば、「蛇を殺す」くらい大変なことです。自己改善とは、ちょっとした事業計画のよ

うに思えますが、実のところ、心の変化のことなのです。とはいえ、子育て、生活必需品の調達、通学、年齢や健康上の問題への対処など、日々の生活に追われているわたしたち女性にとって、自分自身の靈性向上は、すべきことを挙げた長いリストの最後の項目になつてしまう場合がよくあります。

聖文の勉強と祈りは変化をもたらします。しかし自動的に変化するわけではありません。うわのそらで読んだり祈ったりするのは、ただ儀式的に行っているだけのことです。その時間が無駄なわけではありませんが、十分に有意義とは言えません。家族の協力を得て、ただ読むだけではなく研究し、よく考え、感じ、答えを待つ時間を十分に取る必要があります。主は、もし毎日主のために時間を割くならば、わたしたちを強め、鼓舞し、元気づける、と約束してくださっています(教義と聖約88:63参照)。

姉妹の皆さん、奉仕したいと望むのであれば、備えなくてはなりません。そして備えたいと望むのであれば、奉仕しなくてはなりません。わたしは16歳のとき、当時子供日曜学校と呼ばれていた組織で、3歳児を教えるよう召されました。(昔はそういうものがあったのです。)わたしが教えたのは、落ち着きのない子供たちでした。いすやテーブルによじ登ったり下をくぐったりして、じっとしていることなどまったくないように見えました。恐ろしいほど経験不足だったわたしは、最初の数週間、召しを引き受けたのは正しかったのだろうかと悩みました。

しかしわたしはあきらめませんでした。そして間もなく、助けを祈り求めるだけではダメだ、ということに気づきました。準備をする必要があったのです。つまり活動や話やレッスンを計画し、それがうまくいかない場合の代案も数多く考えておく必要がありました。それから何年もたって、ワードの子供日曜学校全体を指導するよう召されたとき、わたしには新任の教師をどう助けたらよいかが分かっていました。子供たちとどうやって楽しむかを、そして召しに忠実であることの大切さを



知っていました。

わたしは皆さんと同じように、教会で数々の召しを受けてきました。自分にとって楽に果たせる責任もありましたが、どの召しも尊んで大いなるものとする努力をしてきました。ところで皆さんは、「召しを尊んで大いなるものとする」という言葉に神経質になってしまふことはありませんか。わたしはそうでした。最近、このことについてトマス・S・モンソン副管長がある説教の中で語った言葉を読みました。「では、どのようにして召しを尊んで大いなるものとすることができるのでしょうか。簡単に言えば、召しに伴う奉仕を行うことです。」(「神権の力」『リアホナ』2000年1月号, 60) 姉妹の皆さん、それならわたしたちにもできるのではないでしょうか。中には、教会の召しに疲れ果ててしまっ

たとか、奉仕する時間がないとか言う姉妹たちがいます。しかし、召しを尊んで大いなるものとするということは、配付資料や、テーブルに置く手の込んだ飾り物を準備するために徹夜をするという意味ではありません。また家庭訪問をする度に、姉妹たちに何かプレゼントを持って行かなければならないということでもありません。時々自分にとっての最強の敵は自分自身だったりすることがあります。もっと簡潔に行いましょう。良いレッスンのメッセージは、靈的な準備を通して生徒に伝わるものです。福音の諸原則や学習ガイドの資料を中心に準備をしましょう。話し合いで興味深い意見交換ができるよう準備しましょう。特別な教材を創作するために手間暇かけるのではありません。そのようなことをしていると、疲れ果

ててしまい、召しを果たすことに嫌けがさしてしまうでしょう。

奉仕するよう召されるときに、解任の日が知らされるわけではありません。わたしたちの人生は奉仕の人生です。わたしのステークにいる92歳のロイス・ボナー姉妹は、65年以上前に結婚したときに、訪問教師として働き始めました。そして今でも忠実に奉仕しています。カナダ出身のネルソン夫妻とユタ出身のエルスワース夫妻は、宣教師として、ミズーリ州の小さいけれども発展しているワードに集っていたわたしたちを教え、指導し、愛を示してくれました。彼らからわたしたちは奉仕の喜びを学び、経験豊かな知恵から恩恵を受けることができました。主から頂いているものすべてに対して御父に感謝する方法として、自分が何歳であろうと主の子供たちに仕えることに勝る方法があるでしょうか。

わたしは、ささげ物の意義と重要性がようやく分かるようになってきました。具体的に言うと、じゅうぶん什分の一と断食献金のことです。主は教義と聖約全体を通して、互いにいたわり合い、神の王国を築くために喜んでこの世の財産をささげるようになると教えておられます。実際、わたしたちが喜んでそうすることは、主の再臨に先立って必要なことなのです(ダニエル・H・ラドロー, *A Companion to Your Study of the Doctrine and Covenants*, 全2巻[1978年], 第2巻, 46参照)。一人一人の状況は異なっているかもしれません、できる限りのものをささげることが大切です。主は決して持てるものすべてをささげるようには要求されません。しかし主にとって、わたしたちがもし求められればそうすると、そしてそうできるとお知りになるのは重要なことなのです(ブルース・R・マッコンキー, "Obedience, Consecration, and Sacrifice," *Ensign*, 1975年5月号, 50参照)。わたしたち夫婦が住んでいたあるステークで、ステーク会長は会員たちに、断食献金をそれまでの2倍ささげ、注がれる祝福に備えるようというチャレンジをしました。今わたしは、惜しみなくささげることに忠実で信仰

深くあるならば、主は想像もつかないような方法で祝福してくださるという個人的な証を述べることができます。

祈りと研究を通して得られる靈性。人への奉仕。惜しみなくささげる什分の一と断食献金。これらは今初めて聞く原則ではありません。大きなことに先立って必要な「小さなこと」の一部です。しかしその聖句から、主が何を求めておられるかが分かります。主は「心と進んで行う精神」を求めておられます(教義と聖約64:34。強調付加)。改めなくてはならないのは、わたしたちの心であり、精神です。皆、欠点や弱点があり、物事に対する姿勢も完全とは言えません。主はあらゆる点で主に心を開くように求めておられます。そして「自分の命」を得ようとせず、「わたしの思いを求め、わたしの戒めを守ろう」と努力するように、とおっしゃっています(ヒラマン10:4)。新たな心は、できる限りのことを行い、心と精神をささげるときに得られるものです。このようにすれば、御父は現在も、また永遠にわたっても、わたしたちの生活を豊かなものにすると約束してくださいっています。わたしたちは恐れる必要はないのです。

姉妹の皆さん、善を行うことに疲れ果てないでください。もし忍耐強くあれば、わたしたちが求める心の変化を経験することができます。ほとんどの人は、少しの修正で本来の正しい方向へ戻ることができるはずです。行わなくてはならない修正は「小さなこと」ですが、「簡単なこと」というわけではありません。多くの力が働いて、わたしたちの方位磁針を狂わせています。しかしおたしたちは、正しい方向に戻してくれる促しを認識することができます。それは天の家に戻る方角なのです。

御父が愛する娘であるわたしたちに与えてくださった約束が真実であると証します。救い主の示された生き方に倣うよう自らを吟味し軌道修正していくならば、シオンの光が照り渡り、主の再臨に備える民となっている自分たちに気づくことでしょう。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

# 主の愛の光に向かって歩む

中央扶助協会第二副会長  
アン・C・ビングリー

**扶助協会に属する聖約の女性たちが築くきずなは、……わたしたちの人生の旅路を明るくし、活気づけ、豊かにしてくれます。**



**早** 春の朝、太陽が山あいに顔をのぞかせるころ、ジャンとわたしは朝の散歩を始めました。新たに訪問教師の同僚に召されたわたしたちは、若い母親として幼い子供たちを抱え、多忙な日々を過ごしていました。

ジャンと家族は、わたしたちのワードに転入したばかりで、わたしは彼女と何を話したらいいのか、まだよく分かりませんでした。わたしたちは来る日も来る日も、起伏の大きい山道を、息を切らしながら歩き、語り合いました。

最初は、夫や子供たち、家族の関心事や地域の学校など、当たり障りのないことを話していましたが、やがて少しずつお互いに心を開いて、靈的な思いや経験を分かち合い、真理の本質を探し求める

ようになりました。体に良いことをしながら、靈にも良いことをし始めたわけです。わたしはこのすばらしい散歩の時間が大好きでした。

ジャンと散歩する中で、わたしは忘れられない教訓を二つ学びました。それらは今でもわたしの思いを照らし、心を喜びで満たしてくれます。一つ目は、人生でどのような状況にあっても、靈的に備えていれば恐れることはないということです(教義と聖約38:30参照)。

散歩を始めて随分たったとき、その数年前、ジャンが様々な選びによって少しづつ教会から離れてしまったこと、そしてそれを後悔していることを知りました。ちょうどわたしたちが出会ったころ、彼女は再び人生をやり直そうと決心していたのです。彼女の心からの願いは、自らを備えて、神殿で夫や子供たちと結び固めを受けることでした。彼女の抱いていた一途な願いは、ニーファイが記した「キリストとの和解を得、狭い門を入って命に至る細い道を歩み、試しの生涯の最後までその道を歩み続け」るという望みと同じものでした(ニーファイ33:9)。

皆さんは、ジャンがモルモン書に出てくるラモナの父のように、「〔主〕を知るためには、自分の罪をすべて捨てて」という心からの決心をしたと聞いて(アルマ22:18)、彼女の人生は楽になったと思われるかもしれません。しかし、そうではありませんでした。彼女は人生で最も過酷



な試練の数々を受けたのです。ジャンは、脳腫瘍に冒されているという診断を受け、ご主人は仕事を失いました。やがて、家族は家と車を手放すことになりました。

状況が困難になるにつれ、イエス・キリストに対するジャンの信仰はさらに強くなりました。ともに朝の散歩を続ける中で、わたしは彼女が、主への信仰と日々の靈的な備えによってどのように恐れを克服したかを聞き、多くのことを学びました。彼女は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が教えた次のことを、完全に理解しているようでした。「わたしたちが賢くあって、神の前にひざまづき祈りをささげられますように。そうするとき、主はわたしたちを助け、祝福し、慰め、支えてくださるでしょう。」(Standing for Something [2000年], 178)

大変な試練のただ中にあっても、預言者の言葉が真実であることを、ジャンは知っていました。それはわたしから見ても明らかでした。彼女は靈的な備えを決してやめず、恐れることなく一歩ずつ前進し続けました。彼女の生きる姿からは落ち着きがひしひしと伝わってきました。早朝の散歩を共にしながら、わたしは文字

どおり、「夜明けだ、朝明けだ…… 明るい夜明けだ」(「夜明けだ、朝明けだ」『贊美歌』1番)と贊美歌に歌われる光景を目にしました。ジャンが悔い改めによって罪から解放され、靈的に非常に高められ、大きな光を受けていく姿を目の当たりにしたのです。

わたしはジャンに、それほどの苦しみを受け、周りのすべてが崩れ去っていく中で、どうやって平安を感じるようになったのかを尋ねました。彼女が生活中で貰いの力について感じ、わたしに話してくれたことは、次の贊美歌の歌詞そのものだったように思います。

「主は光、主は力  
頼るわれ、勝つを知る  
常に弱きわれ助け  
信仰の道、歩ます」  
(「主は光」『贊美歌』47番)

その変わらぬ信仰のゆえに、ジャンは主の貰いによって日々新たにされました。ジャンは祈り、聖文を読み、奉仕をする度に、自らの意志を主の御心に従わせたのです。

ジャンが30代で亡くなる少し前、わたしは、彼女とご主人と子供たちが聖壇にひざまずき、永遠にわたって結び固められるのを目的にする機会にあづかり、静かに喜びを共にしました。

ジャンから学んだ、忘れられない教訓がもう一つあります。それは、扶助協会の姉妹たちが「神の栄光にひたすら目を向け」るとき(教義と聖約4:5)、靈的な悟りを豊かに得て、奥深い靈的な力をともに分かち合えるということでした。

散歩を始めたとき、わたしたち二人の歩調は合っていませんでした。しかし、「互いに和合し、愛し合って結ばれた心を持つ」つようになるにつれて(モーサヤ18:21)、徐々に、肉体的にも靈的にも同じ歩調で歩むようになりました。これまで扶助協会の姉妹たちがいつもそうしてきたように、わたしたちは互いの証によって励まし合い、互いの重荷を負い合い、互いに強め、慰め合いました。

わたしはジャンとの友情を通して、扶助協会の姉妹たちを結ぶきずながいかに神聖なものかを学びました。皆さん多くと同じように、ジャンとわたしは訪問教師の同僚という責任上のつきあいから、

# 備えていれば 恐れることはない

第一副管長  
トマス・S・モンソン

わたしたちは騒然とした時代を生きています。未来に何が待ち受けているか分からぬこともしばしばです。だからこそ不確かさに備えておく必要があるのです。



この中央扶助協会大会で皆さん  
の前に立てることは特権です。  
このカンファレンスセンターに集  
まっている皆さんに加えて、非常に大勢  
の人々がこの大会の模様を衛星中継で視  
聴しています。

今晚話すに当たって、男性であるわたしは少数派ですから、発言に注意しなければならないことを承知しています。わたしは巨大な国際都市に住む親類を訪ねて来た、はにかみ屋の田舎者と同じような気持ちです。もう何年も親類に会っていないかった彼は、玄関の呼び鈴を聞いて出て来た若者に驚きました。若者は彼に中へ入るように言いました。二人がゆったりと腰を下ろした後、若者は尋ねました。「ところで、どちら様ですか。」

訪問者は答えました。「わたしはあなたの父親側のいとこです。」すると若者は言いました。「それじゃあなたは、この家では、立場の弱い少数派なんですね。」

今晚わたしは、この建物の中で、自分が、立場の良い側、すなわち主の側にいるものと信じています。

何年も前のことですが、ソルトレーキ・シティーにあるバイオニアステーク第6ワードの、ある日曜学校のクラス写真を見ました。1905年に撮られたものです。最前列に髪をおさげにした一人のかわいらしい少女が写っていました。ベル・スミスという名前の少女です。後に彼女は、中央扶助協会会長のベル・スミス・スパッフォードとして、次のように書いています。「今ほど、女性が世の中に大きな影響力を及ぼしている時代はかつてありませんでした。今日ほど女性に多くの機会が開かれている時代もありません。現代は女性にとって、魅力的で、刺激的な時代であり、また大変な、厳しい時代です。バランスの取れた生活をし、人生の真の価値を知り、賢明に優先順位を決めるならば、豊かな報いを得られる時代です。」<sup>1</sup>

扶助協会は、組織として、すべての人が読み書きの能力を身に付けられるように助けるという目標を掲げてきました。読み書きのできる人は、できない人の苦しみを十分に理解することはできません。読み書きのできない人々は、進歩を妨げ、

姉妹、そして大切な友人という存在になったのです。扶助協会に属する聖約の女性たちが築くきずなは、確かにわたしたちの人生の旅路を明るくし、活気づけ、豊かにしてくれます。なぜなら、わたしたちの心や生活の中で主を第一にする方法を学べるように助け合うことができるからです。わたしはこのことを知っています。20数年前、ジャンの生き方を目にしてわたし自身が主に近づくことができたからです。彼女はわたしに、自分の問題のはるかかなたに目を向け、自分の罪を主が贖つてくださったという偉大な業に心から感謝して喜ぶように勧めてくれました。また、今日という日にどんなすばらしいことが待っているか信仰をもって待ち望むように、そして扶助協会を通してしか得られない、奥深く靈的な関係をよく味わうように励ましてくれたのです。

わたしは今も、機会を見つけては朝の散歩を楽しんでいます。今でも、足を止めてこの地球の美しさをじっくりと眺めたり、救い主イエス・キリストを遣わしてくださったことを天の御父に感謝したりします。また、ジャンのおかげで散歩が靈的なものになったことを、深い感謝の念をもってよく思い出します。彼女は救い主の贖いの愛を感じたいという強い望みを持っていました。毎朝昇る太陽の光が地をあまねく照らすように、彼女の主への愛は、わたしの心を満たしてくれました。

救い主について証いたします。主は言われました。「わたしは世の命であり光である。」(教義と聖約11:28)姉妹の皆さん、日々自分自身を少しずつ備えるならば、わたしたちもジャンのように恐れることなく前進することができます。主の限りない贖いの祝福をそれぞれが感じながら、主へと続く道を見いだすことができるのです。扶助協会から得られるすばらしい祝福の一つは、主への証を持つ者同士のきずなだと、わたしは確信しています。わたしたちが主の贖いの愛が発する光に向かっていつまでも並んで歩めるように祈っています。イエス・キリストの御名によつて、アーメン。

知力を鈍らせ、希望の光をかすませる暗い雲に覆われています。扶助協会の姉妹の皆さん、皆さんはこの絶望の雲を払いのけ、そのような人々も天からの神の光に照らされるように働きかけることができるのです。

数年前、ルイジアナ州モンローで地区大会に出席しました。すばらしい大会でした。帰路の途中、空港で一人の美しいアフリカ系アメリカ人の女性が近づいてきました。彼女は教会員で、満面に笑みを浮かべながら次のように言いました。「モンソン副管長、わたしは教会に入って

扶助協会の会員になるまでは、読むことも書くこともできませんでした。家族の中で読み書きができる者はだれもいませんでした。全員が貧しい小作人でした。副管長、扶助協会の白人の姉妹たちがわたしに読み書きを教えてくれたのです。今ではわたしが、白人の姉妹たちに読み書きを教えるのをお手伝いしています。」わたしはその姉妹が聖書を開いて主の御言葉を初めて読んだときに、どれほど大きな喜びを感じたかを想像してみました。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがた

を休ませてあげよう。

わたしは柔軟で心のへりくだつた者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」<sup>2</sup>

わたしはその日、ルイジアナ州モンローで、すべての人が読み書きの能力を身に付けられるように助けるという扶助協会の崇高な目標について御靈の確認を受けました。

ある詩人はこう書いています。

あなたは形ある富は手に入れるかもしれない。

宝石や金でいっぱいの箱を手に入れるかもしれない。

でも、あなたはわたしより豊かにはなれない。

本を読んでくれる母親を持ったわたしよりは。<sup>3</sup>

別の詩人は次の心に強く訴える一節を加えています。

でもほかの子の行く末を考えてごらんなさい。

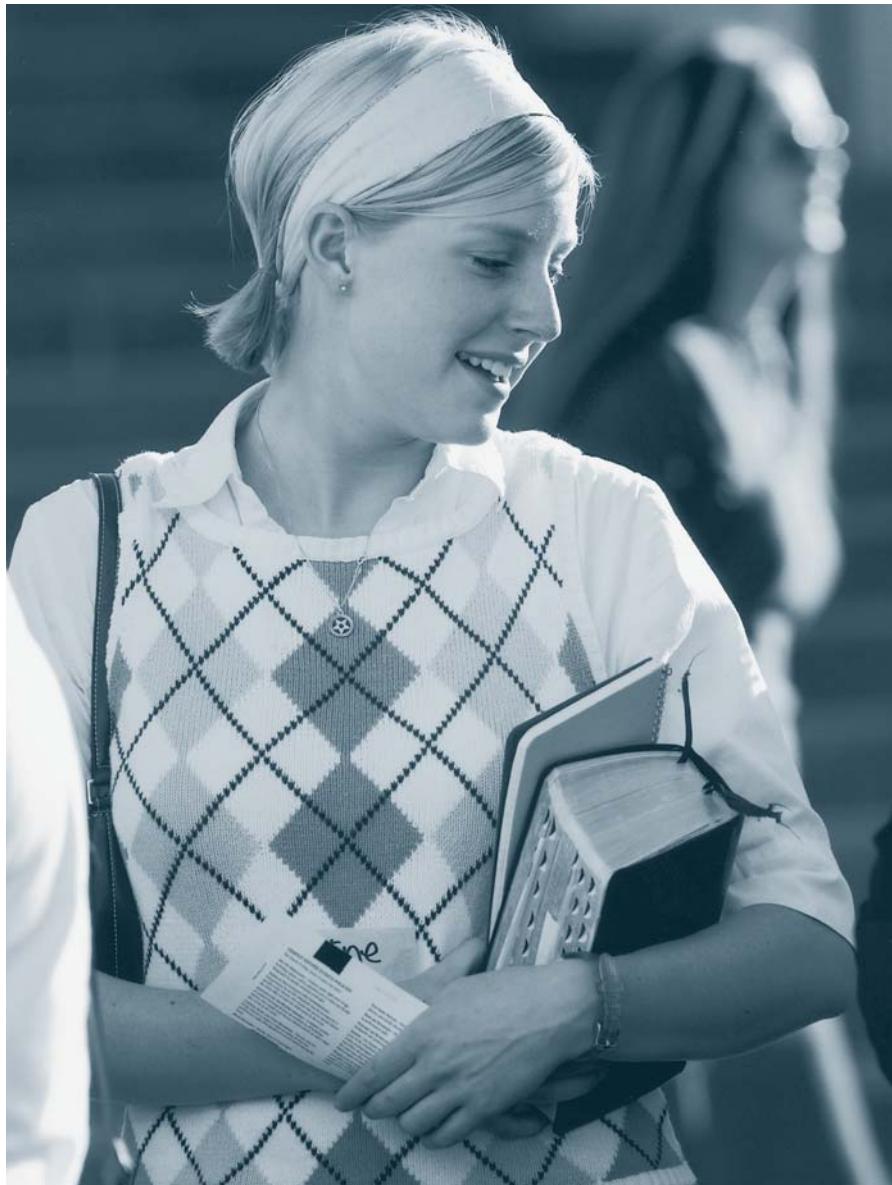
その態度は柔軟で、気性は穏やかだけれど、

やはり同じことを必要としている子、本を読めない母親のもとに生まれた子のことを。<sup>4</sup>

どこの親でも、自分の子供たちのことを心配し、その永遠の幸福を願っています。それを描いているのが、舞台史上最も長期にわたって公演されたミュージカルの一つ、「屋根の上のバイオリン弾き」です。

人々は、ロシアに住んでいたユダヤ人家族の昔かたぎの父親が、自分の美しい10代の娘たちによって家庭にいやおうなしに持ち込まれる時代の変化に対処しようとする姿を見て笑います。

年老いたテビエがわたしにとってこのミュージカルのメッセージとなる言葉を語



るとき、陽気なダンスや音楽のリズム、演技のうまさ、すべてがメッセージの意義を際立たせます。彼はかわいらしい娘たちを傍らに集め、貧しい農夫が置かれた質素な環境の中で、未来を思う娘たちに勧告を与えます。「忘れないでおくれ。」テレビは忠告します。「アナテカ家の……すべての者は自分が何者であって、神が自分にどんな人になってほしいと思っておられるかを知っていることを。」<sup>5</sup>

愛する姉妹の皆さん、皆さんには自分が何者であり、神が皆さんにどんな人になってほしいと思っておられるかを知っています。皆さんの課題は、自分が責任を負っているすべての人をこの真理の知識に導くことです。この、主の教会の扶助協会は、そのような目標を達成する手段となり得ます。

「教会において、教えることの最も重要な第一の場は家庭です。」デビッド・O・マッケイ大管長はそう述べています。<sup>6</sup>「真のモルモンの家庭とは、もしキリストが入って来られたとしたら、喜んでそこにとどまり、休んでいただけるような場所です。」<sup>7</sup>

この言葉どおりの家庭にするために、わたしたちは何を行っているでしょうか。親が強い証<sup>あかげ</sup>を持っていいるだけでは十分ではありません。子供たちはいつまでも両親の証に頼っていられるわけではないのです。

ヒーバー・J・グラント大管長は次のように宣言しています。「子供に幼いうちから教えるのはわたしたちの義務です。……わたしも妻も福音が真実であると知っているかもしれません。しかし子供たちは自分で福音を学び、証を得なければ、それが真実であることは分からないと、わたしは申し上げたいのです。」<sup>8</sup>

救い主に対する愛、主の御名に対する敬意、互いに対する心からの尊敬の念、これらは証を養い育てるための肥沃な土壤となるでしょう。

福音を学び、証を述べ、家族を導いていくことは決して容易なことではありません。人生の旅路はでこぼこだらけの道であり、うねりの激しい航海なのです。現代はまさに嵐の時代です。



何年も前、オーストラリアの教会員や宣教師を訪問した際、証の蓄えがいかに家族を聖め、祝福するかというこの上ない模範を見ることができました。ホレス・D・エンサン伝道部長とわたしはシドニーからダーウィンまで長い空の旅をしていました。ダーウィン初の礼拝堂の鍵入れ式を行うことになっていたのです。飛行機は、その途中のイサ山という鉱山の田舎町で燃料補給を行う予定になっていました。小さな飛行場に着いたとき、二人の子供を連れた女性が近づいてきました。彼女はこう言いました。「わたしはジュデイス・ローデンという教会員です。この二人はわたしの子供です。この飛行機であなたがたが来られると思ったので、短い時間でもお会いしたくて参りました。」そして彼女は、夫は教会員ではなく、その地域の教会員は彼女と二人の子供だけであることを説明してくれました。わたしたちは経験を分かち合い、証を述べました。

時が過ぎました。また飛行機に乗ろうとしたとき、ローデン姉妹はたいそう心細く、寂しそうな顔をしていました。そしてすがるようにこう言いました。「まだ行かないでください。教会員が懐かしくてたまらないのです。」すると突然、場内アナウンスがあり、機械調整のために飛行機が30分遅れることが告げられました。ローデン姉妹はささやきました。「たった今、祈りがかなえられました。」それから彼女はどのようにすれば夫が福音に関心を示してくれるか尋ねました。わたしたちは毎週家庭で開く初等協会にご主人にも出席してもらうように、また彼のために福音の

生きた証となるようにと勧めました。わたしは教会の機関誌『チルドレンズ・フレンド』(Children's Friend)や家庭で教える際に役立つ資料を送ることを約束しました。そしてご主人への希望を決して捨てないように勧めました。

そしてイサ山を後にしました。それから一度もその町を訪れたことはありません。しかし、あの立派な母親と愛らしい子供たちが感謝の涙を目にいっぱい浮かべながら、愛を込めて手を振り見送ってくれた光景は決して忘れないでしょう。

数年後、オーストラリアのブリスベンの神権指導者会で話をした際、わたしは家庭で福音を学ぶこと、また福音を忠実に実践し、真理の模範となることがいかに大切であるかを話しました。そしてローデン姉妹の話と、彼女の信仰と決意がわたしに与えた影響について話しました。そして最後にこう言いました。「恐らく、わたしはローデン姉妹のご主人が教会に入られたかどうか知ることはないでしょう。しかし、そのご主人は彼女ほどすばらしい模範をほかに見いだすことはできなかったでしょう。」

すると指導者の一人が手を挙げ、立ち上がってこう言いました。「モンソン兄弟、わたしはリチャード・ローデンと申します。あなたが話された女性はわたしの妻です。その子供たちは〔彼の声は震えていました〕わたしたちの子供です。愛する妻の忍耐と不屈の努力によって、わたしたちの家族は永遠に結ばれました。みんな妻のおかげです。」会場は静けさに包まれました。ただすすり泣く声が聞こえ、

人々は涙を流していました。

わたしたちは騒然とした時代を生きています。未来に何が待ち受けているか分からぬこともしばしばです。だからこそ不確かさに備えておく必要があるのです。統計によれば、皆さんにはいつか、様々な理由から家計を支える役割を担うことになる可能性が出てきます。もしそのような状況になったときに家族を養えるように、教育を受け、収入を得るのに役立つ技術を身に付けておくように強くお勧めします。

女性の役割はたぐいまれなものであります。有名なアメリカの随筆家であり、小説家、歴史家であるワシントン・アービングは次のように述べています。「この世界には悲しむ人に同情してその人以上に深い悲しみを感じる人がいる。ほかの人の喜びを自らの喜び以上に喜ぶ人がいる。ほかの人の名譽を自らの名譽以上に喜ぶ人がいる。ほかの人の卓越した行いを自らの誉れとせずに喜びとする人がいる。ほかの人の弱さを自らの弱さ以上に誠実に隠す人がいる。ほかの人への優しさと愛情と献身の中で自らのことを完全に忘れ去る人がいる。それは女性である。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように語っています。「神は女性の心に神聖なものを植え付けておられ、それは静かな強さ、氣品、平安、慈しみ、徳、真理、愛として表れます。そしてこれらの際立った特質のすべてが最も純粋な形で十分に表れるのが、母親としての務めにおいてなのです。」<sup>9</sup>

母親であることが容易な役割であったことは一度もありません。世界最古の書物はわたしたちに母親の教えを捨てないように勧告し、愚かな子供は母親の悲しみとなると教え、年老いた母親を軽んじてはならないと警告しています。<sup>10</sup>

また聖文は、母親から学ぶ事柄はわたしたちの価値観の中核を成すことを思い起こさせてくれます。その一例がヒラマンの2,000人の若い息子たちであり勇士たちです。「彼らは母親から、疑わなければ神が救ってくださると教わってい」ました。<sup>11</sup>そして神は、ほんとうに救ってくださいま

した。

扶助協会には夫のいない姉妹が大勢います。死、離婚、または結婚の機会がなかったために、これまで多くの女性が独りで歩むように求められてきました。さらに、若い女性のプログラムからやって来たばかりの人々もいます。しかし実際には、独りで歩む必要のある人はだれもいません。愛にあふれた天の御父がそばにいて人生の進むべき道を示し、孤独を感じるときや哀れみが必要なときに平安と確信を与えてくださるからです。また大切なこととして、扶助協会の女性たちが姉妹としてともに歩んでくれます。皆さん、互いにいつもそばにいて相手を気にかけ、互いの必要に気づくことができますように。一人一人の状況を敏感に察して、問題に直面している姉妹たちがいることと、それでもすべての女性は天の御父の大切な娘であることを理解できますように。

話を結ぶに当たって、扶助協会の愛する姉妹たちの強さを物語っている、数年前のある経験を紹介しましょう。

教会設立150周年を祝った1980年、扶助協会中央管理会の各会員は、50年後に当たる2030年の教会の姉妹たちにあてて個人的な手紙を書くように依頼を受けました。以下はヘレン・リー・ゴーツ姉妹が書いた手紙からの抜粋です。

「1980年のわたしたちの世界は将来への不安に満ちていますが、わたしは恐れではなく信仰をもって毎日を生き、主を信頼し、今日の預言者の勧告に従おうと決意しています。わたしは神が生きておられるることを知っており、心から神を愛しています。150年前に福音が地上に回復されたこと、そして自分がこのすばらしい教会の会員としての祝福を享受できることに、とても感謝しています。神の神権に感謝しています。わたしは生涯を通じてその力を感じてきました。

わたしは自分の生きている時代にあって安らかであり、あなたも自らの時代にあって、イエス・キリストの福音への確固とした証と搖るぎない確信によって力を得られるように祈っています。」<sup>12</sup>

ヘレン・リー・ゴーツ姉妹は2000年4月

にこの世を去りました。彼女が癌で亡くなる直前、モンソン姉妹とわたしは、彼女と彼女の夫、そして家族を訪れました。彼女は穏やかで安らかに見えました。死を迎える準備はできており、両親や自分より先に逝った愛する人々との再会を楽しみにしていると話してくれました。その人生において、ゴーツ姉妹は末日聖徒の女性が持つ高潔さの模範を示してくれました。死に際して、彼女は「備えていれば恐れることはない」<sup>13</sup>という皆さんのテーマを身をもって体現したのです。

愛する姉妹の皆さん、わたしは皆さんに証します。天の御父は生きておられ、イエスはキリストであられ、わたしたちは今日この時代のための預言者、すなわちゴードン・B・ヒンクレー大管長によって導かれています。皆さんのが人生の旅路を安全に進むことができますように、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

## 注

1. *A Woman's Reach* (1974年), 21
2. マタイ11:28-30
3. ストリックランド・ギリラン, "The Reading Mother, " *The Best Loved Poems of the American People*, ヘーゼル・フェルマン選(1936年), 376
4. 1992年4月, エリザベス・ウェア・ピアースにより追加
5. *Great Musicals of the American Theatre*, 全2巻, スタンレー・リチャーズ編(1973-1976年), 第1巻, 393で引用
6. *Priesthood Home Teaching Handbook*, 改訂版 (1967年), ii
7. *Gospel Ideals* (1953年), 169
8. *Gospel Standards*, G・ホーマー・ダラム編(1941年), 155
9. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 387
10. 箴言1:8; 10:1:23:22参照
11. アルマ56:47
12. 扶助協会事務局所有の手紙
13. 教義と聖約38:30

## 扶助協会の「家庭・家族・個人を豊かにする集会」のテーマ\*

家庭・家族・個人を豊かにする集会を計画する際、指導者は姉妹たちの必要を慎重に検討し神権指導者と話し合ってください。適切であれば、育児や家族関係に関する技術を向上させるのに役立つレッスンを、これらの集会に含めるようにしてください。『家庭ガイドブック』(31180 300)および『結婚と家族関係コース教師用ガイド』(35865 300)が資料として活用できるでしょう。これらの資料は教会管理本部配送センターを通じて入手できます。

テーマ	ミニクラスでの研究課題のためのアイデア**
靈的成長 (教義と聖約88:63)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●神殿における礼拝</li> <li>●個人の祈りと聖文の研究</li> <li>●安息日を守る(教義と聖約59章参照)</li> </ul>
ホームメーリングの技術 (箴言31:27)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食物の栽培、料理、保存</li> <li>●家庭内の整頓と清掃</li> <li>●労働の持つ価値</li> </ul>
結婚と家族の関係 (マラキ4:6;モーサヤ4:15)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「家族——世界への宣言」(『リアホナ』2004年10月号, 49)</li> <li>●家庭のタベ、家族の祈り、聖文の研究</li> <li>●育児の技術</li> </ul>
関係を強める (マタイ5:38-44;25:40)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●意思の疎通と争いの解決</li> <li>●悔い改めと赦し</li> <li>●効果的な指導</li> </ul>
自立 (教義と聖約88:119)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭貯蔵と緊急時の備え</li> <li>●教育と資源の管理</li> <li>●健康と衛生</li> </ul>
奉仕 (箴言31:20;モーサヤ4:26)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家族と隣人への奉仕</li> <li>●教会における奉仕</li> <li>●地域社会での奉仕プロジェクト</li> </ul>
肉体と精神の健康 (モーサヤ4:27;教義と聖約10:4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運動と栄養</li> <li>●ストレスのコントロールとレクリエーション</li> <li>●感謝の念を持ち、主の祝福を認める</li> </ul>
個人の成長と教育 (教義と聖約88:118;130:18-19)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●祝福師の祝福</li> <li>●才能と創造力を伸ばす</li> <li>●生涯学習</li> </ul>
読み書きの能力 (ダニエル1:17;モーセ6:5-6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●福音の知識</li> <li>●個人や家族の歴史と証の記録<sup>あかし</sup></li> <li>●幼児期の教育と児童文学</li> </ul>
文化芸術 (教義と聖約25:12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭における音楽の大切さ</li> <li>●文学と芸術</li> <li>●異文化を理解する</li> </ul>

\*『家庭・家族・個人を豊かにする集会のガイド』が、1999年9月20日付けの大管長会の手紙とともに配付されています。このガイドの英語版がインターネットで利用できます。www.lds.org にアクセスし、"Serving in the Church", "Relief Society", "Home, Family, and Personal Enrichment", "Guidelines for Home, Family, and Personal Enrichment Meeting"の順にクリックしてください。

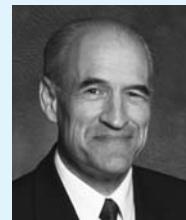
\*\*各テーマとミニクラスでの研究課題のための参考資料として『福音の原則』(31110 300),『末日聖徒の女性A』(31113 300),『末日聖徒の女性B』(31114 300)を活用することができます。

## 中央補助組織会長会

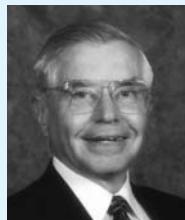
### 日曜学校



第一副会長  
ダニエル・K・ジャッド



会長  
A・ロジャー・メリル



第二副会長  
ウィリアム・D・オズウェル

### 若い男性



第一副会長  
ディーン・リード・バージェス



会長  
チャールズ・W・ダールクワイスト



第二副会長  
マイケル・アントン・ナイダー

### 扶助協会



第一副会長  
キャスリーン・H・ヒューズ



会長  
ボニー・D・パーキン



第二副会長  
アン・C・ビングリー

### 若い女性



第一副会長  
ジュリー・B・ベック



会長  
スザン・W・タナー



第二副会長  
イレイン・S・ダルトン

### 初等協会



第一副会長  
シドニー・S・レイノルズ



会長  
コリーン・K・メンラブ



第二副会長  
ゲール・M・クレッグ

# 指導者の言葉

## 大会の教えを生活に取り入れるために

20 04年10月の総大会で聞いた教えを、自分自身または家族の生活に取り入れるために、以下のアイデアを個人での研究や家庭のタベで用いるといいでしょう。質問や活動、話し合いのアイデアを自分で考えてもよいでしょう。(ページの番号は、お話の最初のページを表しています。)

### 子供たちのために

1. 子供たちはカンファレンスセンターで大会に参加したでしょうか。参加したのであれば、子供たちは何をしたのでしょうか(ヒント—29ページの写真を見ましょう)。

2. 二つの新しい神殿はどこに建てられるのでしょうか。これまでに発表された神殿がすべて建つと、神殿は合計で幾つになるでしょう(ヒント—ゴードン・B・ヒンクレー大管長のお話を調べましょう。4ページ)。

3. 十二使徒定員会の二人の新しい会員の名前は何でしょう。この二人についての興味深い事柄をそれぞれ一つずつ見つけてください(ヒント—機関誌の中央のページに載っている中央幹部の表を見ましょう。125, 126ページにある二人についての記事を見ましょう)。

4. ジョン・H・グローバーグ長老が若い宣教師だったとき、長老やほかの大勢の人々は、ハリケーンのために数週間食べ物がなくて苦しました。そのときグローバーグ長老は、天の御父が自分を愛しておられることを、何を通して気づいたでしょうか(ヒント—9ページを見ましょう)。神様があなたを愛しておられる事を示す祝福を幾つか書き出してください。

5. ネッド・B・ローシェイ長老はこう言いました。「わたしたちは皆兄弟姉妹であり、

天の御父の子供です。ですから、何らかの理由で道を見失った人に助けの手を差し伸べなければなりません。」(30ページを見ましょう)。最近教会に来ていない友達がいますか。その友達があなたと一緒に教会に来られるよう、友達を励ます方法を考えください。

### 青少年のために

6. ポルノグラフィーを見るのはなぜそんなに悪いことなのでしょう。ヒンクレー大管長がこの危険な中毒について述べている言葉を読み、この「邪悪な怪物」から解放されるためにどのようなことができるか見つけてください(59ページ参照)。

7. あなたが受け



問13を参照してください。

る誘惑はどこから来ますか。そうする必要もないのに、誘惑と惑わしの小道に身を置いていませんか。ダリン・H・オーケス長老は、サタンの偽りから逃れる方法について話しています(43ページ参照)。

8. あなたは今、逆境と闘っていますか。「なぜ自分に」と自問したことがありますか。ジョセフ・B・ワースリン長老は自分へのより良い問いかけについて話しています(101ページ参照)。

9. 「悔い改めたけれど、赦されたのかどうか知るにはどうすればよいのだろう。」このように自問したことがあるなら、良心の安らぎを見つけることに関するリチャード・G・スコット長老のお話を読んでください(15ページ参照)。

10. 自分の証が強いかどうか疑問に思ったことはありますか。ドナルド・L・ステーリー長老は「〔自分〕の証をさらに確固としたものにしたい」人に、幾つかの提案をしています(37ページ参照)。

問11を参照してください。



## 読んで分かちえるお話

お話やレッスンの準備をする必要がありますか。次に挙げる大会のお話には、レッスンなどで活用できる物語が含まれています。

末日の使徒たちに感謝を表す女性。6ページ。

南太平洋で餓死しそうになったグローバーグ長老。9ページ。

船が転覆して海に投げ出されたグローバーグ長老。9ページ。

大平原を横断したウェーラー出身の盲目的改宗者。18ページ。

伝道のためイギリスに向けて出発するブリガム・ヤングとヒーバー・C・キンボール。23ページ。

アイダホのダムの決壊後、復旧作業を行う神権指導者たち。26ページ。

宣教師に感謝する再び教会に戻ってきた会員。30ページ。

教会に来ていない夫を持つ姉妹を支える扶助協会の姉妹たち。34ページ。

扶助協会で多くのことを学ぶペルー人の姉妹。34ページ。

ブラジルのバスの中で証を述べる男性。40ページ。

片腕を切断する手術を受ける若き日のディクソン長老。52ページ。

男性に福音を教える通学路の安全指導員。56ページ。

祖母の世話をする青年。67ページ。

あまりにも多くのミニカーをもらった男の子。98ページ。

少年だったワークドルフ長老の家族を教会に招いた年配の姉妹。

74ページ。

世界中で奉仕する夫婦宣教師。79ページ。

敬虔度で、什分の一を納め、福音を伝えるフィリピンの大家族。92ページ。

モルモン書を読むリチャーズ長老と息子。95ページ。

暗記するのが困難な宣教師。98ページ。

ハリケーンの被害者を助ける教会。98ページ。

4人の子供の死に耐える父親。101ページ。

歩き、話し、友情を築く女性たち。111ページ。

夫の改宗を助けたオーストラリアの姉妹。113ページ。

読み書きを学ぶ扶助協会の姉妹。113ページ。

2030年の姉妹たちに手紙を書いた女性。113ページ。

ハトを育てた若き

日のモンソン長老。

56ページ。



## 家庭のタペまたは個人の研究のために

11. ヒンクレー大管長は女性に対する態度について話しています(82ページ参照)。母親、妻、姉、妹、おば、祖母に対して感謝していることと、彼女たちにさらに愛を示す方法を、家族に書き出させてください。

12. トマス・S・モンソン副管長は「自分の選択が自分の行く末を決定するのです」と言いました(67ページ参照)。ささいなことのように思える毎日の選択は、どのようにあなたの人生に影響を与えてきましたか。自分の靈性を高めるためにはどのような選択ができますか。

13. ジェームズ・E・ファウスト副管長は「進んで

主にすべてをささげれば、喜びが得られるのです」と言いました(18ページ参照)。あなたは主のために何を犠牲にできますか。どのような悪い習慣を捨てることができますか。どのような奉仕ができますか。困っている人のために、何をささげることができますか。家族、ワードや支部、近所

の人々を強めるために、どのように時間と才能をささげられますか。

14. オリバー・グレインジャーとはだれでしょう。「彼の名前は代々とこしえにいつまでも、神聖に覚えられるであろう」という主の約束は、あなたとあなたの家族にどのように当てはまるでしょう(ボイド・K・パッカー会長代理のお話を参照してください。86ページ)。

15. ダリン・H・オーツ長老はこう言いました。「ゴードン・B・ヒンクレー大管長が預言者だということを知っているだけでは不十分です。その教えを生活に生かさなければなりません。」(43ページ参照)。本誌のヒンクレー大管長の話を研究してください(4, 59, 82, 104参照)。生活に生かすことのできるどのような助言が述べられていましたか。リストを作り、今日から実行してください。



建設中の5つの神殿の一つ、ナイジェリア・アバ神殿。

## わたしたちの時代のための教え

メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンに関する以下の指示は、『教科課程に関する神権指導者と補助組織指導者への情報—2005年—2008年』、『リアホナ』2004年5月号にある指示に取って代わるものです。

毎月の第4日曜日のメルキゼデク神権と扶助協会の集会は、これまでどおり「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。

2004年11月から、「わたしたちの時代のための教え」のレッスンは、すべて最新の『リアホナ』総大会特集号の説教から教えることになります。総大会特集号は毎年5月と11月に出版されています。大会の説教はまた、[www\\_lds.org](http://www_ldsorg)にアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で見ることもできます。(訳注——現在、日本語版は掲載されていませんが、[www\\_ldschurch.jp](http://www_ldschurchjp)に掲載される予定です。)

各レッスンは一つまたは複数の説教を基に準備します。ステーク会長または地方部長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。ステーク会長または地方部長は、この責任を監督または支部長に委任することもできます。これらの神権指導者はメルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日に同じ説教を学ぶことの意義を強調してください。教師はレッスンの力点をどこに置くかについて指導者に助言を求めてください。

第4日曜日の集会の出席者は、最新の教会機関誌の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。ワードまたは支部の指導者は、すべての会員が教会機関誌を読めるよう手配してください。

### 説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

- 説教を研究し教えるに当たり、聖靈がともにあるよう祈ってください。時には、大会説教を用いずに、ほかの資料を使ってレッスンを準備したくなることがあるかもしれません。しかし、大会説教は承認された教科課程用資料です。あなたの務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるよう助けることです。
- クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、原則と教義を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。
- 原則と教義を教えるための大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。  
——教えている説教に含まれる原則と教義を探す。  
——その原則と教義の意味について考える。  
——その原則と教義に関する理解や考え、経験、証を分かち

### 月 第4日曜日のレッスン教材

2004年11月—  
2005年4月 『リアホナ』2004年11月号掲載の説教\*

2005年5月—10月 『リアホナ』2005年5月号掲載の説教\*

\*これらの説教は、[www\\_lds.org](http://www_ldsorg)にアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で見ることができます。(訳注——現在、日本語版は掲載されていませんが、[www\\_ldschurch.jp](http://www_ldschurchjp)に掲載される予定です。)



ヘルシンキ第2ワードで大会の放送を見る、フィンランド・ヘルシンキステークの会員たち

合う。

——その原則と教義を実生活に応用する。

- 『教師、その大いなる召し』の31—32章を復習する。

「何よりも大切なことは、生徒が御靈の影響を受け、福音をいっそくよく理解し、福音の原則を生活の中で応用することを学び、福音に従って生活しようとする決意を

強めることです。」(『教師ガイドブック』12)

「わたしたちの時代のための教え」に関するご意見をお寄せください。

あて先——Curriculum Planning, 50 East North Temple Street, Room 2420, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA;

電子メール——[cur-development@ldschurch.org](mailto:cur-development@ldschurch.org) ■

## アロン神権者および若い女性用リソースガイド

以下は『アロン神権3』および『若い女性3』のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。参考資料の中にある『神への務め』は、小冊子『アロン神権——神への務めを果たす』を表しています。また、『成長するわたし』は、小冊子『若い女性の成長するわたし』を表しています。

『神への務め』および『成長するわたし』の各該当箇所は、レッスン中に使用することもできますし、家庭で行うよう定員会の会員またはクラスの生徒を励ますこともできます。教えるためのそのほかのアイデアは『『リアホナ』の活用法』および『教師、その大いなる召し』を参照してください。

レッスンはテキストに掲載されてい

る順番に教えてください。教師用手引きには、復活祭のための特別なレッスンは掲載されていません。復活祭のための特別なレッスンを教えた場合は、救い主の生涯と使命に焦点を絞った聖句や大会説教、教会機関誌の記事、絵、賛美歌を活用することを検討してください。

インターネットを使用して、英語以外の幾つかの言語でこのリソースガイドを探す場合は、[www.lds.org](http://www.lds.org)を開き、世界地図をクリックした後、言語を選択してください。次に『リアホナ』をクリックし、2004年11月号を選択してください。リソースガイドが“Instructional Resources”（『指導用資料』）の文字の下に表示されます（訳注——日本語版はサイト上に掲載されていませんが、今後日本語版ホームページに掲載される予定です）。

リソースガイドの英語版を閲覧する場合は、[www.lds.org](http://www.lds.org)を開き、“Gospel Library”（『福音図書館』）をクリックしてください。

今後のリソースガイドは『リアホナ』5月号と11月号に掲載されます。幾つかの言語では、[www.lds.org](http://www.lds.org)にアクセスすれば、教会機関誌をインターネット上で閲覧することができます。

## 『アロン神権3』

以下は『アロン神権3』第1課から第25課のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。

### 第1課——神会

ゴードン・B・ヒンクレー「御父と御子と聖霊」『聖徒の道』1998年3月、2。神会に対するヒンクレー大管長の証を使つてレッスンを締めくくります。

ダリン・H・オーケス「背教と回復」『聖徒の道』1995年7月、90。レッスンの導入部を補足するために、現在世の人々が神会に対して抱いていた誤った考えを紹介します。

『麗しき朝よ』『賛美歌』18番

『神への務め——執事』「靈的な面での成長」の1

### 第2課——救いの計画

デュエイン・B・ジェラード「救いの

計画——人生のフライプラン」『聖徒の道』1998年1月号、89。青写真のたとえの代わりにフライプランのたとえを使うことも考慮に入れます。

### 第3課——生ける神の息子たち

ジェフリー・R・ホランド「偉大な神の性質」『リアホナ』2003年11月号、70。最初の2段落を読んで、レッスンの導入とします。

S・マイケル・ウィルコックス「わたしのほかに、なにものも神としてはならない」『聖徒の道』1998年2月、26。筆者の母親の話をして、「わたしたちと天父との関係」の項への導入とします。

### 第4課——選択する能力と自由

リチャード・G・スコット「正しかれ」『リアホナ』2001年3月号、10。選択の自由を使って神権を尊ぶようにとの勧めを紹介することを検討します。

『質疑応答』『リアホナ』2003年8月号、22。ここで採り上げられている質問を使って話し合いに入ります。

### 第5課——天より落ちたルシフェル

ジェームズ・E・ファウスト「悪魔のど」『リアホナ』2003年5月号、51。「悪魔のど」のたとえを使うことも考慮に入れます。サタンの「しきりに訴えるメッセージ」には例えばどんなものがあるか、若い男性たちに質問します。

『神への務め——教師』「靈的な面での成長」の5

### 第6課——アダムの堕落

「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49。前半にある「生殖の……力」に関する宣言を使います。

ジェス・L・クリスティンセン「死すべき状態を生じた選択」『リアホナ』2002年8月号、38。アダムの堕落について話す際に3幕劇のたとえを使うことも考慮に入れます。

### 第7課——死と地獄に勝利を収めた贖罪

ジェームズ・E・ファウスト「贖い——最も大いなる希望」『リアホナ』2002年1月号、19。この説教の中の話を「わたしたちのために苦しめたキリスト」とともに使います。

M・ラッセル・バラード「贖罪と一人の価値」『リアホナ』2004年5月号、84。孫の話をレッスンの導入に使

います。

「主イエスの愛に」『賛美歌』109番

### 第8課——復活と裁き

「生けるキリスト——使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号、2。レッスンの最後に使います。

ダリン・H・オーケス「主の望まれる者となるというチャレンジ」『リアホナ』2001年1月、40。裁きの項のまとめとして、成長の度合いを計るには二つの尺度があるという話をすることも考慮に入れます。

「主はよみがえりぬ」『賛美歌』114番

### 第9課——正義と憐れみ

ラッセル・M・ネルソン「わたしたちの主——キリストなるイエス」『リアホナ』2000年4月号、4。仲保者キリストについて話し合う際、「御父に対する弁護者」の項を参考資料として使います。

### 第10課——「大きな変化」

エズラ・タフト・ベンソン「大いなる改心」『聖徒の道』1990年3月、2。神の御心に添った悲しみについて話し合う際、この記事に出てくる説明や聖文からの例を使います。

ジェームズ・E・ファウスト「新しく生まれる」『リアホナ』2001年7月号、68。ジェーンの話の代わりにアチアチの話をするかどうか検討します。

### 第11課——永遠の命を得る信仰

トーマス・S・モンソン「主の灯台——教会の青少年へのメッセージ」『リアホナ』2001年5月号、2。「信仰をもって人生を築き上げる」の項を使ってマシュー・カウリーの話を補足します。

デニス・E・シモンズ「たとえそうでなくとも……」『リアホナ』2004年5月号、73。黒板を使った話し合いの後で、バスケットボールの話と信仰の定義を述べた部分を使います。

### 第12課——悔い改め

ジェームズ・E・ファウスト「栄光の冠を受けるために」『リアホナ』2004年4月号、2。この記事にあるたとえを使い、悔い改めによって癒されていく過程を説明します。

ジェイ・E・ジェンセン「どのように悔い改めたらよいか知っていますか?」『リアホナ』2002年4月号、14。この

記事を使って悔い改めのプロセスを復習します。

「汚れを落としなさい」『リアホナ』2004年8月号、37。レッスンの始めにこのポスターを見せて話し合います。

### 第13課——赦すものが赦される

ジェームズ・E・ファウスト「栄光の冠を受けるために」『リアホナ』2004年4月号、2。いばらととげのたとえや犬のベンの話を紹介して、赦しと悔い改めについての話し合いが活発になるよう助けてます。

セシル・O・サミュエルソン・ジュニア「赦し」『リアホナ』2003年2月号、26。この記事にあるたとえを「赦し、弟子のしるし」の項の一部として紹介します。

### 第14課——聖餐

ラッセル・M・ネルソン「聖餐会での礼拝」『リアホナ』2004年8月号、10。「個人としての参加」の項を使うかどうか検討します。

ダリン・H・オーケス「アロン神権と聖餐」『リアホナ』1999年1月号、41。聖餐の儀式の執行に携わるときのアロン神権者の服装について話し合います。

『神への務め——祭司』「定員会活動」の1

### 第15課——終わりまで堪え忍ぶ

ニール・A・マックスウェル「よく堪え忍ぶ」『リアホナ』1999年4月号、10。この記事を使って「救い主は終わりまで堪え忍ぶ方法を示しておられる」の項を補足します。

ヘンリー・D・アイリング「主の力を受けて」『リアホナ』2004年5月号、16。ベンソン大管長が挙げた終わりまで堪え忍ぶ方法に、アイリング長老が掲げる4つの方法を加えるかどうか検討します。

第16課——世の命であり、光であられるイエス・キリスト

ロバート・D・ヘイルズ「闇を出て、驚くべき光の中へ」『リアホナ』2002年7月号、77。レッスンの終わりに、自転車の話を実践するよう若い男性たちに勧めます。

『神への務め——執事』「靈的な面での成長」の1

### 第17課——聖靈

『質疑応答』『リアホナ』2003年4月号、44。最初の5人の読者のからの

提案を織り交ぜながら、聖霊の影響力について教えます。

「聖霊の促しに従う」『リアホナ』2002年4月号、25。テキストにある正誤問題の代わりにこの記事にある質問とそれに対する教義や勧めを使うかどうか検討します。

『神への務め——教師』『家族の活動』の5

#### 第18課——祈り

ジョセフ・B・ワースリン「祈りを改善する」『リアホナ』2004年8月号、16。話し合いのテーマの一つに祈りの法則を探り上げます。

マージド・A・カーカバトリック「死にたくなかったのです」『リアホナ』2004年8月号、24。祈りの答えを知る方法について話すときにこの話を使います。

『神への務め——執事、教師、祭司』『神権の義務と標準』の3

#### 第19課——断食

ジョセフ・B・ワースリン「断食の律法」『リアホナ』2001年7月号、88。レッスンの最後の項目を教える際にこの説教の中の話を使うことも考慮に入れます。

ダネル・W・バックマン「垂訓中の垂訓」『聖徒の道』1995年2月号、26。断食の話をマシュー・カウリーの話の後に使うかどうか検討します。

『神への務め——執事』『定員会活動』の2

#### 第20課——じゅうぶん「什分の一——靈的な試し

ロバート・D・ヘイルズ「什分の一——永遠の祝福を伴う信仰の試し」『リアホナ』2002年11月号、26。レッスンで行うクイズの答えをこの説教の中から探させます。

ジェフリー・R・ホーランド「潤った園のように」『リアホナ』2002年1月号、37。什分の一を納める5つの理由を、黒板を使った話し合いで使います。

『神への務め——執事』『神権の義務と標準』の7、『神への務め——教師、祭司』『神権の義務と標準』の8

#### 第21課——定員会の役割

ゴードン・B・ヒンクレー「どの改宗者も貴い人々です」『リアホナ』1999年2月号8。「定員会の大切さ」について話し合う際、この記事の話を使います。

マービン・B・アーノルド「兄弟たち

を強めなさい」『リアホナ』2004年5月号、46。フェルナンド・アラウホの話を紹介するかどうか検討します。

『神への務め——執事』『定員会活動』の4、『神への務め——教師』『定員会活動』の5

#### 第22課——祭司の義務

『神権の奇跡』『リアホナ』2004年4月号、26。祭司の役割についての話し合いで出てくる疑問の答えとして、この記事も使います。

『回復された神権』『リアホナ』2004年4月号、30。クラスの生徒たちが神権者として経験したことを発表する際、この記事に出てくる祭司の経験も紹介します。

『神への務め——祭司』『定員会活動』の1

#### 第23課——メルキゼデク神権に備える

デビッド・B・ヘイト「神権者として一歩ずつ成長する」『リアホナ』2003年5月号、43。神権の誓詞と聖約についてクラスで話し合うときに、ヘイト長老の経験も話します。

ラッセル・M・ネルソン「個人の神権の責任」『リアホナ』2003年11月号、44。ネルソン長老は、神権の召しを尊んで大いなるものにするための5つの個人の目標を掲げています。ネルソン長老が教える方法を使って、若い男性たちがこの5つを心に留めておくことができるよう助けています。

『神への務め——祭司』『定員会活動』の4

#### 第24課——預言者に従う

M・ラッセル・バラード「彼の言葉を受け入れなければならない」『リアホナ』2001年7月号、79。預言者の言葉に耳を傾けるときにもたらされる祝福を、この説教から探して書き出します。

M・ラッセル・バラード「偽預言者と偽教師を警戒しなさい」『リアホナ』2000年1月号、73。偽預言者に対するバラード長老の警告の言葉を読みます。

第25課——すべての若人は伝道に出るべきである

M・ラッセル・バラード「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」『リアホナ』2002年11月号、46。標準を高くしようとしていることに関するバラード長老の言葉を話します。

「心から教える」『リアホナ』2004年6月号、8。御靈みたまによって教えられるようになるためには何をしたらよいか、書き出します。

『神への務め——教師』『定員会活動』の4、『神への務め——祭司』『定員会活動』の3

『神への務め——執事』『靈的な面での成長』の9、10、『神への務め——祭司』『靈的な面での成長』の11

## 『若い女性3』

以下は『若い女性3』第1課から第25課のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。

#### 第1課——父なる神

ゴードン・B・ヒンクレー「御父と御子と聖靈」『聖徒の道』1998年3月、2。父なる神に対する証をする際、最初にこの記事の一部を使います。

ジェフリー・R・ホーランド「偉大な神の性質」『リアホナ』2003年11月号、70。最初の2段落を読んで、レッスンの導入とします。

『成長するわたし』『徳質の体験——個人の価値』の1

#### 第2課——救い主を知る

ジェームズ・E・ファウスト「唯一の、まことの神でいますあなたと、イエス・キリストを知る」『リアホナ』1999年2月号、2。救い主に近づく方法として、レッスンのまとめに挙げられているリストに付け加えるものがあるかどうか検討します。

#### 第3課——日々福音に従う

ゴードン・B・ヒンクレー「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、30。「主を身近に感じる」の項で、6つのBを使います。

『成長するわたし』『徳質の体験——信仰』の3

#### 第4課——永遠の伴侶となる準備

デビッド・E・ソレンセン「神殿の業に関する教義」『リアホナ』2002年8月号、30。「靈的な準備」の項の資料としてこの記事も使います。

「ミューチャルを最大限に活用する」『リアホナ』2003年9月号、24。アイデアの幾つかをレッスンや次のミューチャルの活動で使います。

『成長するわたし』『徳質の体験

——『個人の価値』の2

第5課——家庭に靈的な雰囲気を作る  
ジェームズ・E・ファウスト「義にかなった神の娘の持つ徳」『リアホナ』2003年5月号、108。10の徳の実践が、靈的な家庭環境を作り出すうえでどのように役立つか話し合います。

M・ラッセル・バラード「消せない炎のよう」『リアホナ』1999年7月号、102。信仰のとりで築くための4つの方法について、レッスンの最後に話し合います。

#### 第6課——女性としての教える責任

ダリン・H・オーケス「福音を教える」『リアホナ』2000年1月号、93。福音の教授に関する6つの基本原則を話し合いのテーマの中に盛り込みます。

#### 第7課——人生の目的

ゴードン・B・ヒンクレー「理想の女性となるには」『リアホナ』2001年7月号、112。「与えられた指示に従うのはわたしたちの責任である」の項の補足としてこの説教の中の話を使います。

リチャード・G・スコット「第一のものを第一に」『リアホナ』2001年7月号、6。第1段落と「地上における生涯を通じて……」で始まる段落を、「人生には目的がある」の項で使うことも考慮に入れます。

『成長するわたし』『徳質の体験——神から受け継いだ特質』の1

#### 第8課——永遠の家族

N・エルドン・タナー「今日」という日に』『リアホナ』2003年3月号、26。この記事の最後にある言葉を引用してレッスンを効果的なものにします。

ラッセル・M・ネルソン「神殿の祝福を受けるための個人の備え」『リアホナ』2001年7月号、37。「永遠に家族として生活する祝福は、主の神殿でしか得ることができない」の項を教える際に、この説教の「神殿」と「神殿推薦状」の項について話し合うことも考慮に入れます。

#### 第9課——家族の一致をはぐくむ

トマス・S・モンソン「幸福な家庭のしるし」『リアホナ』2001年10月号、2。4つの「しるし」が家族の一致をはぐくむうえでどのように役立つか話し合います。

D・レイ・トマス「より堅固な家族

を築くための提案』『リアホナ』1999年12月号, 30。より良い家庭生活を送るための8つの提案を実践するよう生徒に勧めるかどうか検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『神から受け継いだ特質』』の3

#### 第10課——楽しい家族の活動

ジェームズ・E・ファウスト「家庭のタペによって生活を豊かにする」『リアホナ』2003年6月号, 2。レッスンのまとめの一部として、ファウスト副管長の提案を幾つか採り上げて話し合います。

#### 第11課——親族の輪を広げる

ジェームズ・E・ファウスト「自分という驚くべき存在」『リアホナ』2003年11月号, 53。レッスンの補足としてこの説教の中の話を使います。

ブルース・C・ヘーフェン「子孫の心に約束を植え付ける」『聖徒の道』1998年6月号, 16。記事に出てくる息子の話を若い女性の一人にさせます。

『成長するわたし』『徳質の体験——『個人の価値』』の5

#### 第12課——神権の祝福

『回復された神権』『リアホナ』2004年4月号, 30。神権の職について話し合う際、この記事を参考資料として使います。

ブレンダ・ウイリアムズ「最低、最悪の日」『リアホナ』2002年9月号, 22。神権の祝福について話し合うときに、この話を盛り込むことも考慮に入れます。

#### 第13課——神権は家族を祝福する

L・トム・ペリー「父親、永遠の召し」『リアホナ』2004年5月号, 69。若い女性が父親をどう助けることができるか話し合う際、この説教にある父親の役割に関する教えを使います。

メリル・J・ペイトマン「祝福をもたらす神権、鍵、力」『リアホナ』2003年11月号, 50。事例研究の代わりにペイトマン長老の話を紹介します。

#### 第14課——わたしたちにはすばらしい伝統がある

ゴードン・B・ヒンクリー「信仰の4つの隅石」『リアホナ』2004年2月号, 2。回復について話し合う際、4つの隅石の話を参考資料として使います。

ロバート・D・ヘイルズ「回復されたイエス・キリストの福音の証を受け

る」『リアホナ』2003年11月号, 28。背教と回復について教える際に、この説教の中の話を盛り込むことも考慮に入れます。

#### 第15課——イスラエルの家に与えられる祝福

『祝福師の祝福』『リアホナ』2004年3月号, 18。この記事を使って祝福師の祝福について教えます。

『成長するわたし』『徳質の体験——『個人の価値』』の6

#### 第16課——エンダウメント

ハワード・W・ハンター「神殿に心を向ける民」『リアホナ』2004年3月号, 40。神殿の祝福について話し合う際、この記事を使います。

#### 第17課——神殿参入の備え

ラッセル・M・ネルソン「神殿の祝福を受けるための個人の備え」『リアホナ』2001年7月号, 37。「神殿参入のための物質的な備え」と「神殿参入のための靈的な備え」の項のレッスンを、二人の若い女性に依頼することを考慮に入れます。

F・デビッド・スタンレー「最も大切な一歩」『リアホナ』2001年10月号, 34。神殿参入の備えについて話し合う際、「神殿参入に備える」の項を参考資料として使います。

『成長するわたし』『徳質のプロジェクト——『誠実』』の黒丸5

#### 第18課——神殿結婚

ゴードン・B・ヒンクリー「永遠に続く結婚」『リアホナ』2003年7月号, 2。イギリス人夫婦の話を使うことも考慮に入れます。

『神殿結婚の計画を立てる』『リアホナ』2004年10月号, 39。神殿結婚の祝福について話し合う際、この記事にある情報を幾つか使います。

タマラ・リーサム・ペイリー「神殿に定期的に参入するタイプの人」『リアホナ』1999年5月号, 46。レッスン冒頭の3つの質問をする際にこの話を使うかどうか検討します。

#### 第19課——伝統

ダリン・H・オーケス「悔い改め、変わる」『リアホナ』2003年11月号, 37。ヒラマン15:7-8とともにこの説教を使います。

ジェフリー・R・ホランド「子供たちのための祈り」『リアホナ』2003年5月号, 85。どのような先祖になることが

できるか話し合う際、子供たちがわたくしたちから学ぶべきことを述べた部分を参考資料として使います。

『成長するわたし』『徳質の体験——『信仰』』の6

#### 第20課——宣教師の責任を理解する

M・ラッセル・バラード「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」『リアホナ』2002年11月号, 46。この説教の中の話をレッスンの導入部に使うことも考慮に入れます。

『心から教える』『リアホナ』2004年6月号, 8。宣教師が用いる福音の教授法について話し合う際、この記事を使います。どの項目を使うかは、よく祈って決めます。

#### 第21課——福音を分かち合うことを学ぶ

M・ラッセル・バラード「会員が鍵である」『リアホナ』2000年9月号, 12。会員伝道について話し合う際、この記事にある勧めも使います。

リチャード・M・ロムニー「地の果てまで」『リアホナ』2003年1月号, 26。記事に出てくる青少年たちの経験について話します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『善い行い』』の7

#### 第22課——永遠を見通す目

ジェームズ・E・ファウスト「自分を何者であると考えていますか」『リアホナ』2001年6月号, 2。自分が何者であるか話し合う際、この記事に出てくる概念を使うことも考慮に入れます。

L・ライオネル・ケンドリック「苦闘の中から生まれる強さ」『リアホナ』2002年3月号, 28。試練に遭っても肯定的な態度を執れるかどうかについて話し合う際、「前向きな物の見

方」の項を使うことも考慮に入れます。

『成長するわたし』『徳質の体験——『信仰』』の6

#### 第23課——障害を乗り越える

ジョセフ・B・ワースリン「安全な港を見いだす」『リアホナ』2000年7月号, 71。実物を使ったレッスンとしてチョウの話を使います。

『質疑応答』『リアホナ』2001年2月号, 22。レッスンのテーマを紹介する際、この記事を使います。

#### 第24課——選択の自由

リン・G・ロビンズ「選択の自由と怒り」『聖徒の道』1998年7月号, 86。「選択の自由とは、選択をする力であり、自由である」の項を教える際に、この説教の最初の部分を使います。

シャロン・G・ラーセン「祝福であり重荷でもある選択の自由」『リアホナ』2000年1月号, 12。この説教を使って、戒めは自由を制限するものではないことを若い女性たちが理解できるよう助けています。

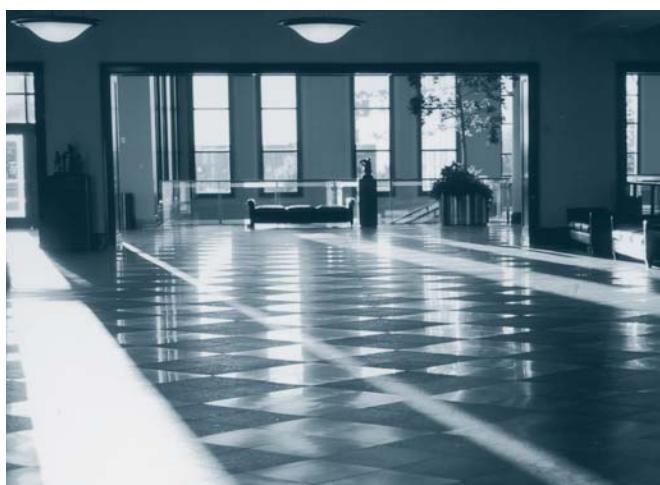
『成長するわたし』『徳質の体験——『選択と責任』』の1

#### 第25課——従順

ジェームズ・E・ファウスト「従順——自由への道」『リアホナ』1999年7月号, 53。戒めは、束縛から守ることによって、わたしたちを祝福してくれることを説明する際、この説教を使います。

ドナルド・L・ステーリー「従順——人生の大きなチャレンジ」『聖徒の道』1998年7月号, 88。レッスンの導入に犬の話を使います。

『成長するわたし』『徳質の体験——『神から受け継いだ特質』』の5





教会指導者を支持するトマス・S・モンソン副管長（説教壇）と大管長会ならびに十二使徒定員会の会員。

## 新しい使徒と神殿建設の発表

**空**を飛ぶこと、そして人に教えること。二人が従事していた職業は、靈性を高め、鼓舞するこの新しい召しにいささかかかわりを持つものである。デビッド・B・ヘイト長老、ならびにニール・A・マックスウェル長老の死去に伴って生じた欠員を補うため、ディーター・F・ウークトドルフ長老とデビッド・A・ベドナー長老が十二使徒定員会に召された（新しく召された使徒については、この後のページを参照）。

ウークトドルフ長老が十二使徒に召されたことで、七十人第二定員会会員のロバート・C・オーケス長老が欠員を補うために七十人会長会に召された。

2004年10月2、3両日に開かれた第174回半期総大会土曜午前の部会で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は開会に当たり二人の新しい使徒を発表した。しかし、これは教会員に

とって重要な発表の一つでしかなかった。

ヒンクレー大管長はまた、アイダホ州とソルトレーク盆地で着

実に増え続ける教会員の必要を満たすために、新しい二つの神殿の建設計画を発表した。

アイダホ州ツインフォールズ



2万人を超える聖徒がカンファレンスセンターを埋め尽くした

神殿は、ブリガム・ヤング大学アイダホ校に程近い、今年初めに建設が発表されたアイダホ州レックスバーグ神殿に次いで、アイダホ州で4番目の神殿となる。アイダホ州には36万6,000人以上の末日聖徒が住む。

ソルトレーク盆地に建設される神殿はまだ名称が決まっていないが、170万人を超えるユタ州在住の会員にとっては12番目の神殿であり、ソルトレーク盆地では3番目となる。

これまでに発表された建設中の神殿にこの二つの神殿を加えると、数年後には儀式執行可能な神殿の数は130となる。

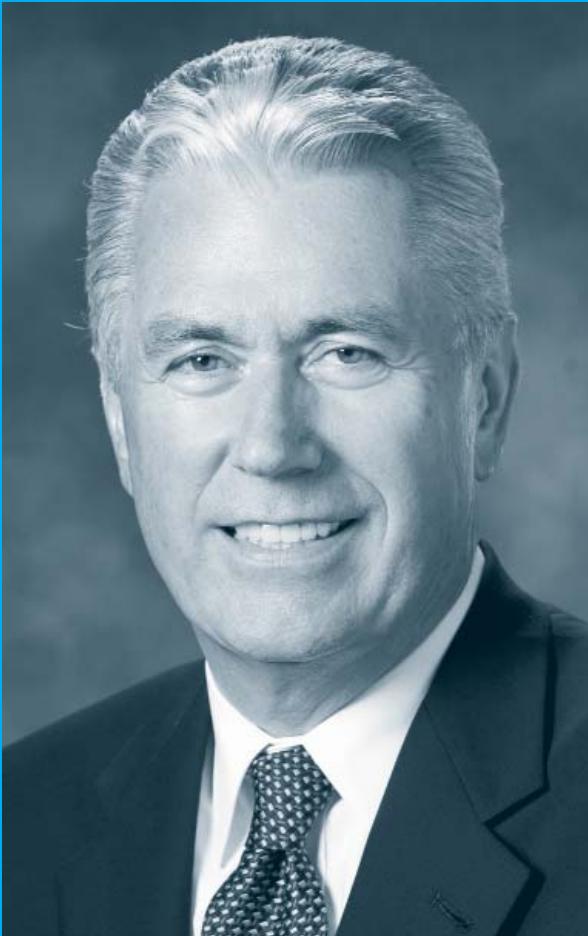
「教会が発展するにつれ、さらに新しい神殿が建設されるでしょう。」ヒンクレー大管長はそう約束した。

世界各地での会員の急激な増加に対応するために、教会には独自の建設プログラムがあり、神殿建設もその一環である。ヒンクレー大管長は、現在世界各地で451の集会所が建設中であると述べた。

「このような大規模な建設プログラムは、ほかに類のない、驚異的なものです。」

ヒンクレー大管長は、「世界的にも類を見ない最高傑作」の一つである歴史的建造物のソルトレークタバナクルが、一連の建設計画に含まれることを発表した。完成して137年を経たこの建物は来年1月から18か月間閉鎖され、44本の砂岩柱と土台の強化、世に名高い架橋技術で造られた屋根の強化など、耐震性に改善が加えられる。

本大会では七十人第二定員会から6人、地域幹部七十人から17人が解任された（「教会役員の支持」22参照）。■



## 十二使徒定員会 ディーター・F・ウークトドルフ長老

ディーター・F・ウークトドルフ長老は、数年前の『フレンド』(Friend)のインタビューで35年に及ぶ航空パイロットの体験を回想して「眼前に広がる雲や星、景色を眺めるのに飽きたことはありません」と語っています。世界中を旅することで、国と文化の違いに対するウークトドルフ長老の敬意は深まりましたが、教会員として、文化や民族性には関係なくすべての人々が福音を通して一つになれる

ということへの理解も深りました。「多くの国を訪問し、異なる地域の人々や教会を見てきました。そして、どの国に住んでいようと、どんな伝統を持っていようと、この福音はあらゆる人のためにある、ということが分かりました。」ウークトドルフ長老はそう語ります。「神の御言葉はあらゆる国の、あらゆる文化を持つ人々のためにあります。」(「ディーター・F・ウークトドルフ長老」『アーラホナ』1999年4月号、フレンド4参照)

十二使徒定員会会員として新たに召された二人のうちの一人として、ウークトドルフ長老は記者会見でその信念を再度強調し、文化や背景は違つても「受けるチャレンジは同じです」と述べました。そして、チャレンジに対する答えは、福音の原則を実践することによって見いだせると述べています。「この福音から得る恵みは計り知りません。」

ウークトドルフ長老は、カール・A・ウークトドルフ、ヒレデガルト・オペルト・ウークトドルフ夫妻のもとに、チェコスロバキアのオストラバ(別称——マリッシュ・オストラウ)で1940年11月6日に生まれ、ドイツで育ちました。合衆国以外で生まれた人が使徒として召されたのは50年ぶり以上のことです。しかし彼は、自分が特定のグループを代表しているわけではないことを強調します。使徒は「救い主、イエス・キリストを代表している」のだと言います。

ウークトドルフ長老は、あがな 贈いとその癒しの力にいや 対して堅固な証あかしを持っています。第二次世界大戦後の幼年時代、空襲によって爆破された廃屋でよく遊んでいたことを覚えています。また、「絶えず付きまとう敗戦のつめ跡みことばの中で、自分の国がほかの多くの国にひどい苦痛を与えたことを実感しながら」暮らしていたことも覚えています。「イエス・キリストが人類のために完全な贖罪しょくざいを果たされ、すべての人を墓から贖い、各自がその行いに応じて報いを受けるように

されたという『良い知らせ』は、わたしの人生に再び希望と平安を与えてくれる癒しの力でした。」(「預言者の声により祝福を受け、世界に広がる教会」『アーラホナ』2002年11月号、11)

ウークトドルフ長老は教会員に向けた説教の中で、人の永遠の行く末を知ることと、正しい道を歩めるよう絶えず探し求めることの重要性を強調してきました。長老は、機長を務めたあるフライトのことをよく思い出します。386人が搭乗したボーイング747で大西洋を横断したときのことです。ある地点で、前を飛行する2機のジェット旅客機が残した飛行機雲を発見しました。間もなく彼の旅客機はその2機の間を飛ぶことになりました。上の飛行機からは2,000フィート(約600メートル)低空、また、下の飛行機からは



E・レイ・ベイトマン長老にあいさつする  
ディーター・F・ウークトドルフ長老

2,000フィート上空です。「美しい2機の飛行機にゆっくりと追いついたときに、副操縦士がこう言いました。『フライトの準備段階で航行システムに情報が正確に入力されたおかげで、3機が高度だけを別にして完全に同一の航路を進んでいるというのは、驚くべきことですね。』同じ行き先に向けて同一の航路が設定されていれば、その状態は最後まで続いたことでしょう。

この言葉の奥に流れる真理を、自分たちの人生に当てはめて深く考えたとき、一つの疑問が浮かんできました。『わたしたちは皆、目的地を知っているだろうか。正しい道に立っているのだろうか。』……天の御父は、わたしたちがみもとに帰るための飛行計画を準備してくださっているのです。」(“Happy Landing,” New Era, 1995年3月号, 4)

ウークトドルフ長老は工学の教育を受け、後に経営管理学と国際経営学を学びました。退職までの最後の7年間、ルフトハンザ・ドイツ航空で航空管制部の第一副部長、機長など

の職を務めました。

ウークトドルフ長老は、1962年12月にハリエット・ライヒと結婚し、スイス・ベルン神殿で結び固めを受けました。夫妻には2人の子供と5人の孫がいます。ウークトドルフ長老はステーク会長、地域会長会、七十人定員会、七十人会長会などの職を歴任しました。

ウークトドルフ長老と姉妹は、新しい召しがまさに主から与えられたことを知っています。彼は言います。「このようなすばらしい責任を頂き、わたしたちの心は喜びに満ちています。もしも教会が真実であり現代に生ける預言者が与えられていると確信していなかつたら、この召しを受けることに疑念を抱いたでしょう。しかしながら、わたしたちは教会が真実であると知っていますし、ゴードン・B・ヒンクリー大管長が<sup>こんにち</sup>今日の真の預言者であると知っています。ですから、使徒としてのこの神聖な奉仕の召しを引き受けるのは正しいことだと確信しているのです。」■



十二使徒定員会とともに着席し、互いへの支持を表明する  
ディーター・F・ウークトドルフ長老(右)とデビッド・A・ベドナー長老



## 十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー長老

デビッド・アラン・ベドナー長老は、人生を  
変える召しを受ける

1か月前に、ブリガム・ヤング大学アイダホ校の学長として、大勢の学生たちに向けた演説しました。ベドナー長老は、ブリガム・ヤング大学アイダホ校を“DPC”(「弟子養成センター」)を意味する Disciple Preparation Center の略)と呼び、MTC (「宣教師訓練センター」)を意味する Missionary Training Center の略)との類似性を示

唆しました。

「特別で、神聖で、特異なこの地にいる皆さんもわたしも、主イエス・キリストの弟子としてさらに大きく、深く献身するために役立つ靈的な資源を、ほかのどの地にも増して豊富に与えられています」とベドナー長老は語りました(2004年8月31日、ブリガム・ヤング大学アイダホ校のディボーショナルでの説教)。

このときベドナー長老自身は気づいていませんでしたが、

7年間にわたるブリガム・ヤング大学アイダホ校(旧リックス・カレッジ)での任務を通して、弟子を養成していただけでなく、ベドナー長老自身も、主の使徒として仕えるよう召される12人の弟子の一人になる備えをしていたのです。

ベドナー長老は今、自分が神の王国を築く担い手となるよう備えられ、その能力を身に付けてきたことを認識しています。リックス・カレッジ(当時の学長に就任したとき、長老は謙遜にも、学長としてどうしたらよいのか分からぬが、21年間大学で教えてきたので、どう教えたたらよいのかなら分かっていると言いました。その年の最初のディボーショナルで、ベドナー新学長は、学生たちに聖典を開いてメモを取るように言い、学生でいっぱいの講堂を一つの大教室にしてしまいました。

ブリガム・ヤング大学アイダホ校に着任する前、ベドナー長老はフェイエットビルにあるアーカンソー大学で教鞭を執っていました。そこでは1992年から1997年まで経営意思決定研究室の室長を、1987年から1992年まで経営大学院の副学部長を、1980年から1984年まで経営学の助教授を務めました。また1984年から1986年までテキサス工科大学で助教授を務めました。

ベドナー長老は1994年、傑出した教師としてバーリントン・ノーザン財団賞を受賞し、非凡な能力を示しました。長老の研究分野である組織行動に関して多くの記事が学術雑誌に掲載され、共著者として2冊の書籍を著しています。ベドナー長老は1980年、バーデュ

ー大学で組織行動学博士号を取得しました。1976年にブリガム・ヤング大学でコミュニケーション学の学士号を取得し、1年後には組織コミュニケーション学で修士号を取得しました。

ベドナー長老はブリガム・ヤング大学を卒業してプロボを去るとき、学位以上のものを得ていました。在学中に、将来の妻となるスザン・K・ロビンソンと出会ったのです。当時スザンはブリガム・ヤング大学で教育学を学んでいて、同じ学生ワードの会員でした。ある月曜日の夜に、二人が所属していた家庭のタベのグループが集まって、フラッグフットボール(訳注——腰に下げた細長い旗のようなものを取られないようにしながら、相手陣地にボールを持ち込む、アメリカンフットボールに似たスポーツ)をしました。その日、高校時代クォーターバックだったベドナー長老のロングパスを、スザンが見事受け取ったのです。ベドナー

長老はそのことが深く印象に残りましたが、スザンにとってパスをうまくキャッチできたのは記憶しているかぎりそれが初めてだったということは知りません("I'm a Teacher Who Is Now a College President," *Summit*, 1997年, 10参照)。とはいっても、これがきっかけとなり、二人は1975年にソルトレーク神殿で結び固めを受けました。そして現在、3人の息子と3人の孫がいます。

結婚した後、1970年代後半に、ベドナー長老は待ち焦がれていた1本の電話を受けました。それは父親からの電話でした。カリフォルニアに戻り、自分のバプテスマを執行してほしいという依頼です。

ベドナー長老は1952年、カリフォルニア州サンリアンドロでアンソニー・ジョージ・ベドナーとラビナ・ホイットニー・ベドナー夫妻の間に生まれました。ベドナー長老は3人きょうだいの15歳離れた末っ子です。

「わたしが生まれてきたのは、

そのためであると心から信じています。[父]を教えるためではなく、父が回復された福音を学ぶ助けをするためにです」とベドナー長老は語っています。

ベドナー長老の父親は正直で、率直な人でした。息子のデビッドとずっと一緒に教会に出席し、ソフトボールのコーチを務めたり、ボイスカウトを旅行に連れて行ったりしました。ベドナー長老がドイツに伝道に出る決意をしたときにも支援しました。そして息子に言いました。「教会に入ることが正しいことだと分かったときには、バプテスマを受けるよ。」(Summit, 1997年, 9-10参照)

それから今に至るまで、忘れられない出来事を数多く経験しました。その多くが教会の責任を通して得た経験です。ベドナー長老は30歳のとき、アーカンソーステーク会長会の一員に召されました。その後、監督、ステーク会長を2回、それから地区代表、地域幹部、地域幹



L・トム・ベリー長老、ディーター・F・ワークトドルフ長老とともに演壇を去るデビッド・A・ベドナー長老(中央)

部七十人を歴任しました。

10月1日、ゴードン・B・ヒンクリー大管長はベドナー長老に使徒としての召しを伝え、その後24時間たたないうちに、ベドナー長老は世界中の教員から支持を受けました。

ベドナー長老はこのように述べています。「末日聖徒イエス・キリスト教会の中には、わ

たしよりふさわしく、もっと有能な人が文字どおり何万人もいることを、わたしはだれよりもよく知っています。しかしこの召しがどなたから与えられたものかも知っています。ですから、謹んで受け入れるのです。わたしは仕えることを楽しみにし、学ぶことのできる機会を熱望しています。」■

## 「わたしたちの時代のための教え」の変更が発表される

2004年10月1日付けで、神権指導者にあてた、十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長代理の手紙と指示に基づき、毎月第4日曜に行われる「わたしたちの時代のための教え」のレッスンでは、11月から『リアホナ』総大会特集号の最新版の内容を扱う。

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老によると、教会指導者は総大会説教を研

究することの重要性について度々勧告しており、今回の変更はそうした勧告に対応するものである(補足記事参照)。

「総大会の内容を定期的に学習することで、大会を通して得た御靈を保ち、中央幹部の教えが会員の生活の中に生きされることを望んでいます」とホランド長老は言う。

ステーク会長会ならびに地方部長会は、毎月のレッスンでの説教を用いるか監督して

もよい。

「毎月第4日曜には、最新の『リアホナ』総大会特集号をメルキゼデク神権や扶助協会のクラスに持参するよう、教員の皆さんにお願いします。」ホランド長老はこう続けた。「ワードや支部の指導者は、すべての会員が確実に教会機関誌を入手できるようにしてください。」

ホランド長老は、2004年7月18日付けの大管長会からの手紙を引用した。「すべての末日聖徒の家庭が教会機関誌を購読することを、わたしたち大管長会は心から願っています。」

「世の中には、読むに値しないような印刷物や視覚資料が大量に出回っています。靈を鼓舞し、魅力に富み、わたしたちを高めてくれる教会の機関誌が手もとにあることに、どれだけ感謝していることでしょう」とホランド長老は言う。「教会機関誌には、子供からお年

寄りまで、すべての人に役立つ記事があります。また、教会の十分な支援のおかげで、ほかのどんな定期刊行物や資料よりもはるかに低価格です。わたしたちの時代には、すべての家族が教会機関誌を読み、その教えを日々の生活の中で実践する必要があります。」

合衆国とカナダの会員は、[ldscatalog.com](http://ldscatalog.com)または電話：

1-800-537-5971で教会機関誌の定期購読を申し込むことができる。合衆国とカナダ以外の国の会員は、地元の配達センターまたはワード／支部の指導者に申し込む。

また総大会の説教は、11月中旬から [www.lds.org](http://www.lds.org) の「Gospel Library」のページで19か国語で閲覧できる。

「わたしたちの時代のための教え」を担当する教師は、総大会説教を使った教え方について本誌120ページの提案を参考するとよい。■

## 総大会通訳、70の言語で行われる

2004年10月の総大会の衛星放送では、話者の言葉を約600人が70の言語に通訳した。2004年4月の大会と比べ、3言語の増加である。新しく追加された言語は、パピアメント語、スロバキア語、ウルドゥー語である。

通訳室では放送を見ながら通訳を行う。最新技術のおかげで、会員は英語との時間のずれがほとんどない状態で、自国語による放送を世界のあらゆる国で聞くことができる。

先月は、カンファレンスセンターから数千キロ離れた場所で、大会の模様を見ながら15言語への通訳が行われた。こ



通訳者は、今までを上回る言語数で会員が総大会を視聴できるよう支援した

## 現代の預言者が総大会について語った言葉

「総大会を】生活の支えとし、生きる道しるべとすることができますように。」(ゴードン・B・ヒンクリー「新しい始まりの時」『リアホナ』2000年7月号、106)

「現代の預言者は、教会機関誌の総大会特集号を定期的に読み、個人の学習に重要な役割を担うものとして活用するよう勧めてきました。こうすることで、総大会はある意味、教義

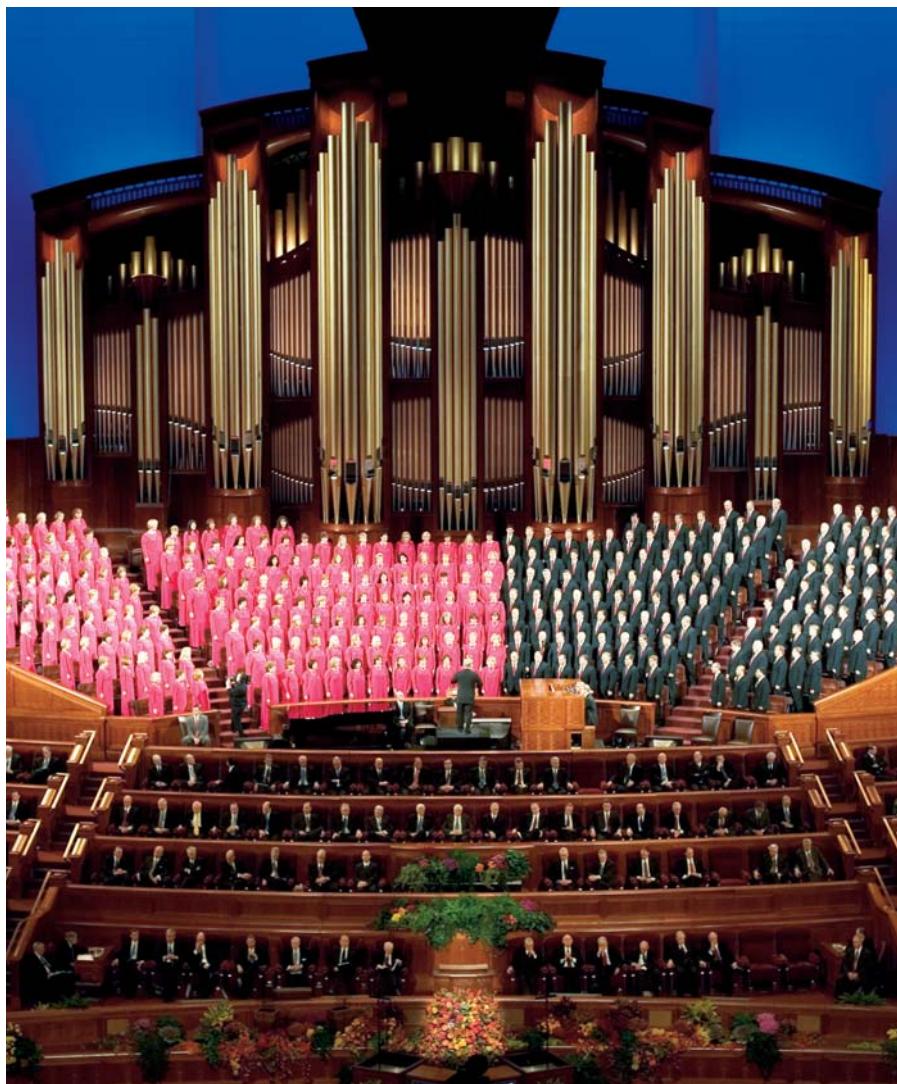
と聖約の補遺あるいは増補版となるのです。(ハワード・W・ハンター, "The Heavens Are Open," *Come unto Me*, 教会ビデオ, 1988年)

「これから約6か月間、『聖徒の道』[または『リアホナ』]の今回の大会の特集号は標準聖典とともに頻繁に参考してほしいと思います。」(エズラ・タフト・ベンソン「キリストの御許に来てキリストによって全くなれ」『聖徒の道』1988年6月号、89参照)■



### 七十人会長会

前列左から、アール・C・ティンギー長老, D・トッド・クリストファーソン長老, デビッド・E・ソレンセン長老, チャールズ・ディディエ長老。  
後列左から、メリル・J・ベイトマン長老, ジョン・H・グローバーグ長老, ロバート・C・オーネス長老。



表紙——十二使徒定員会に新しく召された二人の使徒、ディーター・F・ウークドルフ長老(中央)およびデビッド・A・ベドナー長老(左)とあいさつを交わすゴードン・B・ヒンクレー大管長。10月2, 3日の両日に開かれた第174回半期総大会の冒頭の説教で、ヒンクレー大管長は教会の状態について次のように述べた。「教会は発展し続けています。毎年ますます多くの人の生活に影響を与えています。教会は全地にあまねく広がっています。……<sup>みわざ</sup>御業のあらゆる分野において、これまで以上の活力が見られます。」